尊〜紙）、うたをかゝふた

たんしけそう（名）　段正藤（弓の名）

たんしる（名）　胆汁、膽液、きもの に が じる

たんしゝしやう　平食蕎麦、わりこに あしをいれ つはにかうをいれる（遊路等を行〜爲に）

たんしつう（名）　丹雄鳥、あかとりあとり（動物）

たんしき　單式（簡記法に云ふ）

たんじき（名）　断食、〜ひものたち、禁食

たんしゆ（名）　端首はじめ、いとをそ、端端、端倪

たんしゆ（形）　丹朱、あかき、〜れなあなる（丹朱の顏色など云ふ）

たんしゆ　斷首、〜びをきる、斷頭、斬首

たんしゆく（する）（自他）　短縮、ちうある、ちうまる、つまる

たんじゆん（形）　單純、ひとくなる、シリ〜まぬ、＝ものまぬ

たんしん（名）　誕辰、うまれび、誕生日

たんしん　單身、ひとりみ

たんしん（名）　丹心、まごころ、まこをこころ

たんじん（名）　丹參、赤馬草、大羊乳、〜はがたを、ゝ、なつなかそう（植物）

たんじん（名）　短人、ちひさな、せびと、侏儒

たんえふ　丹蕪、あかきこのは、紅葉、もみち（植物）

たんえふしよう（名）　丹蕪松（蕪の如くして赤み たる小松）、あかまつ（植物）

たんえん（名）　淡鹽、まつ（松の異名）

たんえん　淡炎、うすきけむり、＝かすみ

たんえん　淡鹽、あはとば、しほのからく あらはこ ど、あまこは

たんか（名）　炭皮、石斯、〜すのきのやとりぎ（植物）

たんか（する）（他）　歎美、ほめる、讃歎

たんか（俗）　年度、たびこと

たんかう（名）　大刀、たはたち

たんかう（名）　頭巾（頭九の儀型）、たまのいかた

たんかの（名）　反物、疋布、貫段（布帛を云ふ）

たんかの（名）　段物（淨瑠璃の類にて一段一段に分かれをる故に名〜）

たんせい（名）　丹青、いろどり、彩色、＝ゑ

たんせい（名）　丹精、丹誠、まこころ、赤心、＝又かせ〜こと、物調

たんせい（形）　淡清、あはき、さつぱりしたる

［たんせい］　丹生、はにふ（植生の借字として用ふ）

たんせい（形）　淡靜、のどかなる、たたやかにはれたる（天氣にいふ）

たんせい（形）　端正、ただしき、端嚴方正

たんせい（名）　男性、をとこのしつ、陽

たんせい（名）　談話、をきてすの（自分の話を謙を進むる事）

たんせつ（する）（自）　短折、わかとにする、夭死

たんせつ（名）　淡雪、あはゆき

たんせつ（する）（自他）　斷絶、たえる、たやす

たんせつ（形）　短少、ちひさき、すくなか

たんせつ（名）　談笑、はなしわらひ

たんせつ或たんせつそう（名）　自頭翁（阿波の方言）、おきなたんぽ（植物）

たんせる（名）　男妾、をとこめかけ

たんせん（する）（自）　狙詐、はたぬ、かたぬ

たんせん（名）　淡酸（病名）、たんのかうまるせき

たんせん　旦夕、あさゆふ、朝夕、＝また眼前

たんせん（名）　暖廛、たたみ、をこ

たんせん（名）　蟬鮮、はしなれ、はしけなれ

たんせん（副）　赧然（顔と赤面する貌）

たんせん（名）　腹鳴、せんう〜（病名）

たんせん（副形）　湛然、たつぷり（水が十分たたはたる貌）

たんせん（形副）　端然、たたしけ、たたし〜、ちやんと（端然と坐すなど云ふ）

たんせん（名）　圓扇、うちわ

たんせん（副）　斷然、はつきり、かたし

たんす（名）　箱簞、櫃子、箱子、鏡臺、衣櫃、衣箱、かたかはこ、きものはこ

たんす（名）　圓子、たんこ

たんする（名）　淡水、まかう、しほからからはかつ（海水鹽水に對す）、＝地名（筑紫の港の名）

たんする（名）　膽水、にがみず、膽汁

たんする（他）　謂、ひ〜、かなする（學などを）

たんすう　單數、ひとつかず（一二三つならべるを謂ふ）

たんすまち　炭町、（東京市麻布區麻布また牛込區牛込四谷區四谷、下谷區下谷等の町の名）

れ

レ　禮、貫、樂、是は「る」の父音と「え」の母音を合して生ずる音にして五十音中に在りては特別行四段に位す、是も「ら、り、る、れ」と同じく雜樂の日本語の首に在る事無し、此音もつる字は正に表形より取れる者なりと知れ

れい（名）　禮、おや、れいを（人人相交るの儀式作法）、＝また感謝之語、謝禮、謝詞、謝謝、＝また謝金、つかひもの、禮金、謝儀

れい（名）　令、をきり（衣の）

れい（名）　錄、金錄（俸貫、今錄字を用ふ）

れい（名）　零（算數の語にて空位を謂ふ、卽ち一位の下の位是なり）

れい（名形）　靈、たま、たましひ、かたなどもの、＝あまにみえぬ、かたなども（肉なきものを謂ふ卽ち虛靈の義）

れい（名）　例、たぐひ、つね、＝ものなる、まり、た

れい（形）　冷、ひややか、ひやつこい

れい（形）　今、ものたま（位置などに用ふ）、＝あつらこを（人の美女などに譬らへて美稱となす 今姬今閨などの如し）

れい（名）　一する（他）　令、たまて、＝いひつけ、＝いつけ、ものとする

れいあるきやう　靈感印（天乙五帝の一にして若帝と言ふ）

れいう（名）　黎蔗（「りう」をみよ）（植物）

れいうう（名）　鈴蘭、きそ、れんとまそ

れいうう（形副）　玲瓏、てりかがやく、ちえる、すきとほる、あきらか、＝なりひびく（玉石等が）

れいえい（名）　經牌、經錄、おはい（位牌）

れいえい（名）　一する（他）　禮拜、をがみ、崇拜、をがむ

れいえん（名）　一する（他）　零餘、こつり、こつりする

れいえんだう（名）　禮拜堂、會堂、教會堂（佛佛を拜する堂、殊に基督教の會堂を言ふ）、かみをがみだう、〜ちやみ

れいえん（名）　靈園、たからもの、かんたから、みたから（寺社の寶物を謂ふ）

れいきう（名）　靈柳、たまたま、招魂柳（死者の魂を安置する柳）

れいこう（名）　電信（電氣の能にかかる術）、今時人名は、今副、今名

れいこう（名）　電報、でんきつうしんをかたち（電信を うちよ（たる發止を謂ふ）

れいこん（名）　玲珉、あらたまの、鐵

れいさう（名）　禮裝、ぶしきをはふ、禮儀

れいさん　冷酸、ひやめ、こうあたしめ

れいさん　今朝、きのふ、はん、きのふ

れいさう（名）　冷燈、ひやかも（植物）

れいさく（名）　雜木、かやき（前木）、あやしきを、あらたかなるを（前醫を示す語）

れいさく（名）　隸木、かしをこれ、ねやき（植物）

れいさく（名）　讀僕、しもべ、あしつかひ、奴僕

れいさん（名）　零本、はは、はは、缺本

れいし（する）（自）　令嚴、令嬢、ものすらひあるく、ものもちふ、＝ひとりかたし、しあるく

れいし（名）　例幣、ものみたまのみたまし（常禮の奉 納物）

れいし　例幣使（伊勢等への常例の官幣使を謂ふ）

れいし（名）　靈廟、みたまつ、しかまたひ（海水 鹽鮫の鹽漬を見る坑）

れいぞう（名）　靈廟、たまや、靈屋、ものはしきこう

れいぞう（名）　鈴鐘、鈴鐘、かをりはこ、鈴笛鐘（動物）

れいく言けんさん（名）靈鷲研山（支那の盈石の類）

れいぐん（する）（自）勵獲（はげかつ）ぐる

れいど零度（寒暖計の一度以下の度を謂ふ）

れいど（名）隷奴（やつこ）、こもの、しもべ

れいど（名）靈奴、靈眼（植物）

れいとう（名）黎豆（くろまめ）、はつしようまめ、たしようしまめ（植物）

れいとん（名）令德（よきたこなひ）、美德

れいち（名）靈地、靈區、聖地（よきところ）（有名の神佛等の在る地）

れいぢやう（名）令嬢（他人の女子を稱する詞）

れいぢやう（名）鍾馗（おにやらひ）

れいぢやう（名）鍾馗（鍾地に同じ）

れいり（形）伶俐（はしこい）、かしこい、利口、智

れいりようかう（名）零陵香（芸香）、蘭草、蘭草、香草（植物）

れいりん（名）伶倫、伶官、樂人、伶人（たんがくし）

れいをいふ　拜謝、禮謝、鳴謝、厚謝、深謝、感謝、致謝（おれをのまる）

れいをく（名）靈屋（たまや）、たたまや

れいかい（する）（他）説明（ねちひらく）、はらあける

れいかう（名）令行（いとりまはる）、規行

れいかく（名）例格（きまり）、さだめ、格式

れいかく　嗅覺（なをわたる）、嗅覺

れいがく　禮樂（禮法と音樂）

れいがく（名）伶樂（音樂に同じ）

れいかん（形）勵精（はげしい）、つよい

れいかん（名）靈感（あらたかのきざし）（神佛の感應を謂ふ）

れいかん（名）囹圄（ひとや）、牢獄

れいかん（形名）冷樂（つめたい）＝つめたさ

れいがん　厲岸（けはしききし）、斷崖

れいがんじま　鍾岸島（東京京橋區内の地名、元一の沙洲なりしが保雄發之を修築して鍾馗等を建立せしに因て此名あり）

れいき（名）零餘（あまり）、はした、殘餘

れいきう（名）禮容（禮儀）、きやうそたたしきかたち

れいきん（名）零餘子（ぬかご）、むかご（山芋の實）

れいたい（名）靈蔡（靈龜蔡の類）、うつてん、ものかたい

れいたい　樂體（音樂にして肉體なきこと若卽ち神の體の如き是也）

れいたいしう（名）靈祭所（天文博士の所名）

れいたん（形）冷淡（つめたい）＝はつしんなこと）＝おだやか

れいだん（名）禮壇（佛前に設けある壇を謂ふ）

れいだん（形）隋隋（ものうらが、ものうらさ）

れいれい（形副）冷冷（つめたい）＝きんちやくな

れいそ（名）令息（ことしう）（他人の子を稱する詞）

れいそく（名）一（する）（自）雖屠、隋屠者（つきしたがふ）

れいそん（名）令尊（ちちう）（他人の父を稱する詞）

れいつう（名）靈通、甘草（かんぞう）（植物）

れいねつ　冷熱（ひやかを及あつさ）

れいねん　例年（いつものとし）＝年歲

れいねんさく（名）鍾南竹（植物）

れいねんざか　鍾南坂（東京赤坂區と芝區の間に横はる一長丘の登り口の坂の名）

れいらく（名）靈蠟（かまきりのたまご）（動物）

れいらく（名）一（する）（自）零落（おちぶれ）、落魄（ものうつれる）

れいり（名）靈利（あやしきゆめ）、ふしぎのゆめ

れいう　冷雨、秋雨（ひやこきあめ）

れいう　靈雨（よきしるしあり）、きもあめ、甘雨

れいうとう（名）零陵豆（かんしやひまめ）（植物）

れいうんかしゆう　鍾雲回天（鍾雲迴、鍾雲之曲迴、回天奪命）

れいのさんぼん　聖三本（天地は生の本、先聖は類の本、君子は治の本）

れいく（名）鍾馗（鍾地に同じ）

れいく（名）鍾法（ものくの（神佛）の）

れいくつ（名）靈祝（なびかり）

れいくつ（形）靈怪（あやしき）

れいぐつ（形）例外（きまりのはかきうしはつれ）、格外

れいぐん（名）伶官、樂人、音樂師

れいぐう（名）鍾道（きたるはや（神佛鎮坐の）

れいぐう（名）一（する）（他）禮遇（あつきあひしらひ）、ねんごろにあしらふ

れいやう（名）羚羊、靈羊（かもしか）（動物）

れいやう（名）例樣（しきたり）、つねのさま

れいやうかく（名）羚羊角（かもしかのつの）

れいやく（名）靈藥（ものうるしきもの）

れいまつり（名）報謝（ものんはきて）、ものんはた）、還願之禮拜

れいけい　令閨（他人の妻女を稱する詞）

れいけい（名）禮敬（あつきうやまひ）

れいけい　令兄（他人の兄を稱する詞）

れいけいでん（名）鍾慶殿（禁中の御殿の名）

れいげつ（名）令月（大寶曆二月の異名）

れいげつ　例月（れいのつき）＝毎月（つきなか）

れいげつ（名）冷月（大寶曆七月の異名）

れいけん（する）（他）冷嫌（しりぞける）

れいけん（形）伶俐（かしこい）

れいけん（名）囹圄（ひとや）、牢獄

れいけん（名）靈感（しるしるしるし）（神佛の感應）

れいげん（名）黎元（たはかたから）、百姓、黎民

れいげん（名）例言（事物の初に掲る凡例の言）

れいけんのじやう　鍾愛之情（兄弟の間の情を謂ふ）

れいげんてんてう　鍾元天皇（人皇第百十二代の帝紀元三千三百二十四年（西洋紀元一千六百六十四年）より二千三百四十八年に至る在位三十五年御年七十九にして崩ず）

れいこう（名）經行（きまりふだ）、こうてん、たまり

れいこく（名）禮部（唐の官名、我朝の治部卿に當る卽ち禮部卿は治部卿に、禮部侍郎は治部大輔或は少輔に、禮部郎中は治部丞に、禮部主事は治部錄に相同じ）

れいさい　鍾馗（しやにさけ）、あらたかのはさけ

れいさう（名）勵風（はやかぜ）（西北のはげしき風）

れいさう（名）冷風（あきかぜ）、すずかぜ

れいさう（名）禮服（はれき）（儀式の時に着る正服）

れいさん（名）令閨（ものうらが、ものうらさ）、はれき、令

れいさん（名）例交（わけがき）、まくた

れいさん（する）（自）零散（たちかれる）（木葉の落ちる）

れいし（名）鍾馗（天那の樂器の名）

れいじ（名）囹圄（れいしゃ）、ひとや、獄舍

れいじ（名）冷語（つめたきことば）（冷淡無禮者の言語）

れいしう（名）錦口（すずくち）

れいしん（名）靈魂（たましひ）、魂魄、魂魄

れいしん　令弟（他人の弟を稱する詞）

れいしん（する）（自）零落（ものうつれる）

れいせん（名）零錢（秤量計等に於て一度の下を謂ふ）、零度

れいせん（名）禮賢、禮法（ものしき）

れいせん（名）令典（法則）（たまつ）のり

れいあい（名）令愛（ことしうすめ）（他人の女子を稱する詞）

れいそう（名）鍾陵（ものかしこ）、かしこ、ものうる、類の質

れいそう（名）例祭（ものたまのまつり）（定例祭）

れいそう（名）零祥（たちこぼれ）、はした、一くだけ

れいそう（形）零細（こまか）、こまこまとした

れいそう（名）零細、はは、鉄本
れいそう（名）鈴草、よはひそう（猫の異名）（植物）
れいそう（名）屋草、ちかうしば（植物）
れいそう（名）鑢、かかはきけのかたち（木俗石俗等）
れいそん（する）（他）霊験、うやまひはもる
れいそん（名）霊山、きよきやま（有名の神仏を安置せる山）
れいそう（名）冷泉、ひややかな、すみし
れいそう（名）霊験、かつのか
れいそう（名）例規、さだめ、のり、法則
れいそう（名）凶兆、凶風、えやみ、ぶか、疫病神
れいそう（名）禁足、亡刑、たまし、ひ（死者の）
れいそう（名）禁頭、ちやしもかあ（蝶毛虫などの如き者）
れいき　霊亀（日本自一千三百七十五年至一千三百七十六年、西洋自七百十五年至七百十六年）（年號）
れいき（名）零崎、はしたはう（蝋燭）
れいき（名）霊位（人人家庭間の祭祀の法）
れいきよく（名）囹圄、ちう、ひとや、獄舎
れいきやく（する）（自）冷却、さめる、ひえる
れいきん（名）霊金、謝金（人の功勞に報ゆる金をいふ）

れいゆ（名）零細、にれ（植物）
れいめい（名）令名、よきな、はまれ、名聞
れいめい（名）黎明、あかつき、ほのぼのあけ
れいめう（形）霊妙、ゑうしく、ふしぎなる、神妙
れいめん（名）冷麺、ひやむぎ
れいみん（名）黎民、黄民、たか、百姓
れいし　霊芝、こうそうしもはげます
れいし　令子、こしう、令息、貴息（他人の子を尊稱する詞）
れいし（名）令旨（尊宮太子親王のたはせぶみ）
れいし（名）霊祀、たまもつり
れいし（名）冒子、れんじ、まがつし
れいし（名）冷枝、平枝、離枝、りちうあん、りちう、柘榴枝（榴を縮理榴といふ）、苦瓜、にがうり、つるれいし、ゝそれいし（植物）
れいし（名）霊芝、禁芝、ひとりたけ、きのはひたけ、まんねんたけ（菌の如くにして五色を呈し醫を著にて仙家の他とする所）（植物）
れいしよく（名）黎庶、群生、たか、百姓、黎民
れいしよく（名）霊芝（芝草の一体にして又佞草をいふ）
れいしよく（名）飾材（銅鉛三鉛五鉛の類にして伊佐の祈禱に用ふる者）
れいしつ（名）一する（他）制禁、たもし、あかし（例を引て禁を立てる）

れいこん（名）令色、かはいらしきよ～すること（詔ふ等の爲に）
れいこん（名）麗色、美色、うつくしかたるけしき、＝又美色、かはよきこと
れいこう　令室、令閨（他人の妻を尊稱する詞）
れいこう　麗質、よきうまれつき、うるはしきたち
れいこう（名）例日、さだめび、きまりび
れいこう（名）霊香、えうきう、すぐあたか（動物）
れいこん（名）霊魂、たまや（死人の魂魄を記る過）
れいこや（名）禮謝（れいをいふこと）、謝禮
れいこやう（名）禮譲、ゆつり、謙退（り）したり
れいこやう（名）禮法、謝恭、れいこがみ
れいこやう（名）令狀、たふせがき、いひつけがき（官府よりの）、命令書
れいこやう　冷情、不親切心、無頓着心、かきはこころ、薄情
れいこう（名）鈴草、沙參、しやしん（植物）
れいこう（名）禮式、禮儀、禮法、れいこのさだめ
れいこう（名）玉梭魚、まつかさうを（動物）
れいこう（名）黎首、たか、百姓、黎民
れいこう（名）閭閻、ひとよせけ、あまはけ
れいこう（名）閭閻、黎閻、ちまはけ
れいこう（名）冷酒、ひやさけ
れいこうさん（名）霊芝木、ほのき（植物）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

（五九一）　れいこ　れたま　れいそ

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れいこう（名）列、つれ、ちゝに同じ）
れいこう　列位、ならべるかたがた、諸君、各位、きかた
れいこく（形）劣酷、おそれる
れいこん　列婦、諸婦、もろもろのはん
れいこん（名）列班、ならび、しみ、～らね
れいこう（する）（他）列座、ならべおく
れいこう（名）烈女、かきをたしきをんな、烈婦、こころをしうよきをんな
れいこう（する）（自他）列立、ならびたつ、＝ならべたてる
れいこう　列王、よつのきみ（代代の王）
れいこう　列王記（代代の王の紀にして正に語約等の中にある者を指す）
れいかん（名）烈風、はけし、あれ、嵐
れいたう（名）列番、はまうつぼ（植物）
れいれつ（副形）烈烈（火の盛んにゆる貌）
れいそ（名）列祖、累祖（代代の先祖）
れいそう（名）列宗、せこ、みこ、＝つはものこ
れいそう（名）列宗（先祖代代）、列祖
れいこう　烈火、はけしきひ、ほかんにゆるひ（烈火の如くに怒る、性烈火の如しなどをいふ）
れいこう　列皇、列聖（代代の天皇）

れつ〜ごん　列官・諸官人・もろもろのつかさびと
れつけつ（名）　列剣・いなづま・いなびかり・電
れつけき（名）　裂隙・さけめ・われめ
れつけん（する）　列見・ならびまみゆる（古く二月十一日六位以上の人を排出するに云くり）
れつ〜ぶ（名）　烈夫・こころざしつよきをとこ・烈士・義士
れつ〜ぶ（名）　烈婦・かちをかたきをんな・貞女
れつ〜ぶ（名）　劣夫・性夫・惰夫・つたなきもの
れつ〜ぷう　烈風・はたてをこんぞ〜（暴風）
れつ〜ぷう　烈風・はげしきかぜ・つよきかぜ・猛風
れつ〜こう　列侯・諸侯・もろもろのきみ
れつ〜ごく　列国・〜に〜に・諸国
れつ〜ぞく（する）（自）　列坐・おなじくなみゐる
れつ〜し　列肆・ならべるみせ
れつ〜し（名）　裂紙・たちうを・刀乗（動物）
れつ〜し　列子（郷の人名は禦寇・道術を学び能〜風に御す）
れつ〜や（名）　列車・つらなりくるま（蒸機車等の）
れつ〜とや〜（形）　劣弱・たをりてよわき
れつ〜ゆ　列湖・なみを・ならべるを
れつ〜ゆく　列宿（天の諸星宿即ち二十八宿の如きを謂ふ）
れつ〜ちゅう（名）　裂裳風・あをのあらしのわき
れつ〜ぴん　列品・ならべたるしなもの

れつぴん　劣品・たをりしな
れつ〜せい　列聖・代代の天皇を称稱する詞・列皇・列王
れつ〜ぜき（する）　列席・ならびすわる・列坐
れつ〜（名）　裂・つかれ・局官・職・また同庄
れつ〜（する）（他）　了・をはる・をはる
れつ〜（名）　料・材料・しなもの・また代料・あたひ
れつ〜ぬ（する）（他）　結・ゆ・とりまく・あつりかこむ
れつ〜ぬ〜（名）　結友・悪友・つかれをもたち・あひやく・同役・同僚
れつ〜ぬ〜（する）（他）　除・非・をとりあつる
れつ〜ぬい（名）　結・結友に同じ
れつ〜ぬ〜のおのこ　遊蕩・しれをつたこと（新説等に非るを謂ふ）
れつ〜ぬ〜（する）（他）　了・をはる・のみこむ
れつ〜ぬ（名）・一する（他）　察・治・ものかこむ（病を）・いやす・なほす・醫療
れつ〜り（名）・一する（他）　料理・とりあつかひ・調辨・〜にやを（又俗に刺繍の義に用ふ）・れうする
れつ〜りにん（名）　料理人・庖人・庖宰・膳夫・庖厨人・〜りやびと（昔し京都・園町・庭厨に下級元をする男を然か云ふ）
れつ〜りや（名）　料理屋・割烹店・飲食店・ちゃや・酒肴店・料亭店

れつ〜りや（形）　簡・かすか・ちびしき
れつ〜りょうり（名）　料理・調理・庖丁・治膳・〜ひものこしらへ・〜こんだて
れつ〜りゆり（名）　天帝百合・えんゆり（植物）
れつ〜りか（する）（他）　了解・をとる・わかる
れつ〜りか　了戒（花園帝の朝諸闕の刀工光忠）
れつ〜りか〜（する）（他）　了・をとり・しる・をとる・了知
れつ〜れつ（副）　了了・をとるかたち・はっきり（合得する貌）
れつ〜れつ（副）　遂遂・はるばる・をはをは
れつ〜れつ（形）　窒窒・わりかれ・〜れ・〜ちびしき
れつ〜ぞく（名）　僕屬（長官の下に立てを輔佐する人をいふ）
れつ〜ら（名）　蜜蜂・あをにし（動物）
れつ〜ら〜（形）　簡略・ものちびしき・あれはてたる
れつ〜ら〜（する）（自）　簡略・たちおれる・簡略
れつ〜のおんこま（名）　蜜御馬（天子の馬）
れつ〜ぐ〜（名）　烈火・にはび（庭火）
れつ〜ぜん（形）　窒然・ひろびろ・かぎりなし（天の如し）
れつ〜ぞん（名）　供官・つかひびと・ものにん
れつ〜や（名）・一する（他）　察・探・察・ものみる・なほす・察治

れつけん（俗）（名）　料見・了解・かんがく・所存・〜

又かんにん
れつけんする（自）　料見・かんにんする・ゆるす
れつ〜（する）（他）　了悟・をとる
れつ〜（名）　僕佐・家佐・すけや〜（助役）・補助・したやく
れつ〜（する）（他）　略・家・あらかにみぬ〜・しりあきまくる
れつ〜（名）　醴・たで・ものを（植物）
れつ〜（名）　祭祀金・まつりてあしがね・遊治代・きりたい
れつ〜（名）　料紙・ものかゝかみ
れつ〜（名）　察試（書し行なひし大學・家の試驗を然かいふ）
れつ〜（副）　即時・年月・かるがるし
れつ〜や（名）　楽舎・いはり・〜僧房・あん
れつ〜ぜん（形）　遂遂・はるかにとをを
れつ〜ぜん（する）（自）　線線・ものをひきをる
れつ〜ぜん（副）　歴然・あきらか
れつ〜ぜん（副形）　了然・すつかり・そつはり
れつ〜（名）・一する（自）　猟・かり・かりする
れつ〜ば（名）　猟場・かりば
れつ〜ぶ（名）　猟頭（名字）・猟頭・すなどりをこつ
れつ〜（名）　猟狗（猟を有する猛獣にして甲非利加に多く産す）（動物）（六段の図を参照せよ）

れつ〜ん（名）　猟田・かりのもの
れつ〜ぬ（名）　猟猫・すなどりねこ
れつ〜ぞう（名）　猟犬・かりいぬ
れつ〜（名）　猟師・かりびと・〜又猟夫・すなどり
れつ〜（名）　鑢子・からすき（鑢の子）
れつ〜ぢつ（名）　猟銃・かりごつ（猟に用る鐵他）
れつ〜や（名）　猟者・かりうど・猟者・かりするひと
れつ〜ぞう（名）　猟子鳥・ものとり（動物）
れつ〜ん（名）　猟船・すなどりふね・漁舟
れつ〜ぶ〜ぶ　禮文瓦郡（北見國の郡の名）
れつ〜ぐ（名）　錬鉄・りんたい・（鉄を正す小さ釘子）
れつ〜い　廉頗・趙の廉頗の功臣
れつ〜ぞ（名）　蝶・ちょう・ふりうぞ・ちょう・いと
れつ〜が〜（名）　暦学・こよみのかた
れつ〜だい（名）　歴代・代代・累世・よよ
れつ〜れき（名形）　歴歴・明瞭・貴顯・貴族・家族・名門・名族・ものがたりたふとき
れつ〜れき（副）　歴歴・あきらかに・ものがたり

（國の猟犬）

れつ〜りょう（名）　歴歴・はっきり（歴歴可觀なるさま）
れつ〜れん　歴年・年年・ものしるがし〜
れつ〜ら〜（形）　歴乱（花瓶の吸かたれたる貌）
れつ〜ら〜（する）（他）　歴試・歴覧・みあるく・みあるく
れつ〜ぐ〜（名）　歴明・こよみのかたより・つたへ
れつ〜や（名）　瀝病・はれもの（病名）
れつ〜ぞう（名）　歴朝・歴代（天子の）・みよみよ
れつ〜ぞく（する）（他）　歴・ものをつたへる・つたへ
れつ〜し（名）　歴史・（人世進歩の記録即ち代代の記事）
れつ〜しがく　歴史學派（理論を主に歴史上の事跡を先にする學派）
れつ〜ぢつ（名）　暦・こよみ
れつ〜ぢつ（名）　暦日・こよみ
れつ〜や（名）　暦・こよみ・はかせ・こよみつくり
れつ〜ふ（名）　歴業・歴代・累世・よよ
れつ〜せい（名）　歴世・よよ・代代
れつ〜せい（名）　瀝青・ちゃん（土中より出る油の如き者にて物を塗るに用ふ）
れつ〜ぜん（形副）　歴然・あきらか・〜はっきり
れつ〜ぞう（名）　歴数・天数・てんのすだあ・数（天命の如き事）

（皇族の稱）

れんかん（形）廉直、いさぎよき～たゞしき。潔白、きよらか（心術）

れんかう（名）蓮中（公卿の妻を云ふ）、かうつぼね

れんかう（俗）（名）連中、なかま～、なかま

れんかやく（する）（自）戀慕、戀羨、こひしたふ、はれこがれつゝする、なまめきかける（男が女に或は女が男に）

れんかやくちやう 遊廓町（東京市神田區の町の名）

れんり 廉吏、いさぎよきつかさびと（潔白の官人）

れんり 連理、ひとつ（二本の樹にして其木理相合して一となれるを謂ふ）

れんりぼく（名）連理木、ひとつのき（連理を見よ）

れんりつ（する）（自）連立、つれたつ、ならびたつ（合併して立つ）

れんりのちぎり 連理之契、ひとつのかたらひ（夫妻同穴の契約を謂ふ）

れんりまめ（名）山椒豆、山椒豆（植物）

れんりん（する）（他）憐憫、あはれむ

れんるい（名）連累、かかりあひ、同類（罪惡の）

れんか（名）聯下、かゝこ、たひらぎ（天子の）

れんか（名）連駕、まひらぎ、かうらぎ（貴人）

（國の檬柳）

れもん（名）檸檬、利檸、梨檬、檬（此國は米國より傳くし小笠原島産の者也）

れもんすい（名）檸檬水、枸櫞水（酸き飲物の名）

れず（名）清鉛板、うすなまりいた

れん（名）蓮、蓮菊、こいしられ

れん（名）連、はちす（植物）

れん（名）鍊、とりのこまりぎ

れん（形）廉、やすき（價の）＝又清淨潔白

れん（形）練、ねりたる（手等にて）＝煉（火にて）＝錬（打鍛ひて）

れん（名）聯（詩句の一對を謂ふ）

れんあい（名）連涯、なみうち、小波（河湖等にたつ）

れんいん 連隱、つゝけかくし＝つゝけかくり

れんいん（名）連印、連署、連列（相並んで印を捺す事）

れんかう（名）輦路、みゆきみち（天子の通路）

れんかうき（名）蓮漏（支那の昔日の水時計）

れんかつ（名）廉價、やすたれ、のきにたるやすたれ

れんかん（名）聯盟、ちからはう

れんきう（名）一する（他）連繫、つるべうち、つゝけうち（鐵砲を）

れんぐう（名）聯邦（亞米利加瑞士などの如く數國または數州の聯合して一國を成したる者）

れんぐう（名）蓮宮、はちのみやの略、蓮院（蓮の莖を包みたる殼）

れんぐん（名）聯軍、すたれ＝みす

れんこん（名）連袒、同類、共袒（罪惡の）＝なかま、ともる

れんだん（名）連判（連印に同じ）

れんにう（名）練乳、ねりちち

れんにく（名）鍊肉、しゝむら、きりたるにく

れんにく（名）蓮肉、はちのみ、石蓮子、水芡苗

れんにや（名）練若（蓮若に同じ、佛寺を云ふ梵語）

れんぱく（する）（自）連歩、ねりあるく

れんぱく（名）一する（自）戀慕、こひしたふこと、はれる、戀慕、眷戀

れんぱう（名）連峰、つゞきみね、みねつゞき（山脈の）

れんぺい（名）練兵、調練、演習、ゝ～ものいこ

れんぺいじよ（名）練兵所、ちうれんば

れんぼう（名）戀慕、わかしゆ、かげまに、かまこ、かう

れんり（名）廉吏、はすいは、＝又たけのうのこ

れんり（名）蓮池、はちいけ、＝又たけのうのこ

れんが 廉價、安直、下直、やすきあたひ、やすね

れんが（名）連歌（二人にて上下の句を作る三十一文字の歌）

〔れんかう〕（名）錬絞、ねりぎり（絹布の名）

れんがう（名）一する（自）連合、聯合、つらなりあふこと、合併＝一致

れんがし（名）連歌師、れんがをするひと、れんがにたけたるひと

れんぎよ（名）詔勅、みこと（天子の）

れんぐん（名）聯隊（兵隊の區分の名）

れんぐん（名形）連帶、ともゝにすること、＝ゝつこと（他の人と共に一事にかかはること、亦に連帶責任など借金の事に用ふ）、ともうとも

れんぐん（名）殺盛、肩製、かたにかつぐもの

れんぐん（名）蓮盛、はちのうてな、蓮花座（佛などの坐する）

れんぐん或れんぐん（名）簾內（簾中に同じ）

れんぐんの 連歌師（山城國愛宕郡に住る有名の地）

れんぐつ（名）一する（自）練達、ねれあがり、ねれる、熟練

れんぐう（名）鑾道、みゆきみち（天子の）＝また是の名

れんぐん（する）（他）振聯、ぶらつき、ぶらりぬ～

れんぐん（名）連隊、ぐんたい

（國の檬柳）

れんぐん（名）連袒、同類、共袒（罪惡の）

れんぐん（名）連判（連印に同じ）

れんぐん（名）練乳、ねりちち

れんぐん（名）鍊肉、しゝむら、きりたるにく

れんぐん（名）蓮肉、はちのみ、石蓮子、水芡苗

れんぐん（名）練若（蓮若に同じ、佛寺を云ふ梵語）

れんぱく（する）（自）連歩、ねりあるく

れんぱく（名）一する（自）戀慕、こひしたふこと、はれる、戀慕、眷戀

れんぱう（名）連峰、つゞきみね、みねつゞき（山脈の）

れんぺい（名）練兵、調練、演習、ゝ～ものいこ

れんぺいじよ（名）練兵所、ちうれんば

れんぼう（名）戀慕、わかしゆ、かげまに、かまこ、かう

れんり（名）廉吏、はすいは、＝又たけのうのこ

れんり（名）蓮池、はちいけ、＝又たけのうのこ

れんれん（名）連連、連連（連の連なる狀）、ちやあそも

れんれん（形）戀戀、はれほれ、はれこがれ、なまめきかける（女または男に戀慕する狀、また利慾迷俗等に迷ふ狀）

れんれんのこゝろ 戀慕之情、こひしたふこゝろ（男女相思ふ情を謂ふ、戀慕の情いと切なりなど用ふ）

れんぞく（名）一する（自）連續、つゞけつゞく

れんねん 連年、しきりに、比較多年、ながきこと

れんらく（名）一する（自）聯絡、連絡、つゞけつゞき、つゞきなる

れんらく（名）煉酪、バタ、牛酪

れんらくのりくんし 蓮洛六君子（周茂叔、邵康節、司馬温公、程明道、程伊川、張橫渠）

れんりん（名）蔡鱗、かがみ、白蔡、鶴泡鯉（植物）

れんりう（名）連簡、ながあぶ、あまつつぶれんらん

れんりう（名）蓮華、はちのみ（植物）

れんりの（形）廉能、いさぎよく～してちからある（品行潔白にして廉能なるを謂ふ）、廉潔

れんく（名）聯句、連句（一對の詩句）

れんげ（名）蓮花（れんげ）、はちのはな

れんごく（名）煉瓦、ねりがはら（土を煉て燒たる者）

れんごくさい（名）煉瓦石、ねりがはらいし（植物）

れんごくせき（名）煉瓦石（土を燒て作れる者）

れんぞん（名）連續、～ゝり、つゞきあ

れんや 連夜、よるよる、毎夜

れんやく（名）煉藥、ねりやく

れんやく（する）（他）煉藥、鍊藥、ねりかく（能力等を）

れんやく（名）練藥、ねりぐすり

れんぱく（名）連璧（璧のゝ～つゞきなれる者）

れんげ（名）蓮花、はちのはな、蓮華、荷、玉蓮、＝又はちす（植物）

れんげい（する）（他）憐憫、あはれみ

れんげい（名）蓮華衣（袈裟を謂ふ）

れんげけいこん（名）蓮華花、ゝ～ちゝ（植物）

れんげぞう（名）蓮華花、洋米蔵、～ものゝ（植物）

れんげがさ（名）皿蓮笠、ゑんがさ（植物）

れんげけつ（名）連歌、連、あひむこ

れんげけつ（形）廉潔、いさぎよく清淨潔白

れんげけつこ（名）連月、毎月、つゞきつき

れんげ（名）羊蹄、羊蹄花、黄杜鵑、羊花、ゝれんげつこ、ものつこ（毒ある草）、羊不食草、玉茯、鬼羊花（植物）

れんげう（名）連翹、あはれ～ゝ、ゝたちもの、連喬、蓮翹（植物）

れんげん（名）蓮華園（西方淨土の一名）

れんかい（名）蓮華盛、れんたい

れんかいそう（名）蓮花草、〜ぐさ（植物）

れんかいそう（名）蓮花草、紫菫菜（植物）

れんかえ（名）蓮華衣、れんげい、けさ

れんかけん（名）繼絹、ねりぎぬ

れんご（名）連語、つづけことば（単語に反す）

れんこう（する）（自）蹇均、ひきつる、ちぢまる（筋等が）

れんこう（名）鑾駕、かゝるま（天子の）＝又かや（天子の）

れんこん（名）煉謹（死人の魂が天國に往く前に先づ往て煉り淨めらるる處卽ち所謂ポルガトリにして此世と天國の間に在りと云ふ）（天主教の說）

れんこんのゆび　鑾駕之下、かやこ、ゆびもの（天子の）

れんこん（名）蓮根、はすのね、蓮藕、蓮根、荷根

れんさいせん（名）蹇眞（北斗の第五星王衡をいふ）

れんじつ　連月、毎月、あつたあつた

れんぜん（名）蹇候、かねの〜ぢり

れんぞく（する）（自）連坐、おもがゝになる（罪囚の）

れんぞくい（する）（他）繼續、〜たふ、〜ぞかける

れんぞく　連續、毎度、〜しる

れんぞく（する）連學、連名（願書等に連ねて名を記す）

れんぞく　連日、毎日、ひび

れんぞく（する）鍊磨、ねりぎたる、〜ことあまた ぶ、修行

れんぞくや（名）窪車、〜ぐるま

れんぞくや（名）繼續、繼續心、こゝ、あはれこゝろ

れんぞくやうぢう　蓮生坊（熊谷直實の出家して名のりたる名號）

れんぞく　連續、あひぶり、〜ぶり（二三人合併連名にて金を借る事）

れんぞく（名）蹇度、連尺、連帶（物を背負ふに用ふる紐）

れんぞく（名）繼袋、繼國、連袋、かるたの國、繼袋は尾長、連袋は尾短、十二黃（きれんぞく）、十二紅（ひれんぞく）（國の鳥類の品類あり）、尾長三種（動物）

（國の鳥類）

れんぞくぢ（名）蹇子袋、繼袋、かうしまき、かうしあるきもの（「れんぞく」を見よ）

れんぞくゆ（名）蹇角、はりまわ

れんぞくゆ（する）（他）蹇角、あはれお、蹇國

れんぞく（名）鑾、〜ぢり（金の）

れんぞく（名）蹇使（「れんぞく」に同じ）

れんぞく（名）連山、つづきやま、つづけるやま

れんぞく（名）棍木、すりこぎ

れんぞくす（する）（他）環擊、えらみあるこる

れんぞくす（名）鑾鈴、ちりみあし、かがみあし、ひきつりあし

れんぞく（する）（自）連及、かかりあふ、おもがゝになる

れんぞく（名）鑾帶、ひきつり、かがまり

れんぞくそう（名）連及草、白及、しらん（植物）

れんぞく　煉金、ねりこがね、きたひこがね

れんぞくい　連名、なまくさならべしる、連學＝又ゆるさものにすること

れんぞく（する）連聞、同聞、ちかひきた

れんぞく（同形）連續（長〜つづく）鎖、鑾鎖、たえまるかたち

れんぞく（する）（他）蹇惑、あはれる

れんぞく（名）繼師、ねれけもの、ものなれたるひと

れんぞく（名）連枝、連子（兄弟姉妹をいふ）、はらから

れんぞく（名）驢子、ふたご

れんぞく（副形）連續（涙ながらる）、ちるなる

れんぞく（名）蓮子、蓮子、蓮子、まるがうこ、かうこ、きまる（副）、れんぞく

れんぞく（する）（自）繼續、なれこゝ、たゝ〜ふに なる

れんぞく（名）鑾鈴、（林檎をいふ）（植物）

れんぞく　蓮鞭、はすのは（又「はすは」を參觀せよ）

れんぞく（形）蹇貧、清貧、ちからなき〜しつまづし き

れんだい（名）一する（他）蹇闕、あはれ、あはれる

れんぞく（名）連年、知年、ちゝ、蹇年（植物）

れんぞく（する）（他）繼續、ねりあげる、かがまる

れんぞく（名）蹇筋、いたづらもの、こゝろがけ

れんぞくせんだん　鑾切千斷、ずたずたにきりきざむ、きりかなる

れんぞく　連續、毎時、よびよび

れんぞく（する）（他）採選、えりはゝ、とらふ

れんぞく　連聞、〜ちゝ、毎聞

れんぞく（形）連綴、せにきつらなたる（周の毛色にいふ）、きつけたる、ぼつぼつある

れんぞく（副）連綴（涙の流るる狀）ちるまる

れんぞく（名）蓮蔓芋、たはらゝ、はすいも、白芋（植物）

れんぞく（名）連錢、（鉛鑄を謂ふ）（動物）

れんぞくあしけ（名）連錢毛、れんぜんがたのうまの毛

れんぞく（名）連錢草、うはべ、＝蓮ひしは かきもはし（植物）

ソ　音「ソ」、十＝ソ、銀、存足は「子」の父音と「ル」の母音と合して生ずる音にして五十音の中にては第三行第五段に位す

そ（名）祖、ものゝはじめ、せんぞ、＝はじめのもの

そ（名）十、とを、とふ（古語）

そ（名）蘇、ちゝ〜ゆん（大蘇あり小蘇あり）、庶名 鈴等をいふ（古官名）＝たてまつりなる

そ（する）（自）酥、よみがへる、〜かゝる、酥生、酥意

そ（名形）素、もと、したた、したたしらく＝しろ き、かゝらは＝もとより

そ（形）粗、あらき、うまつ、虎（粗品なども云ふ）

そ（形）疎、うとき、したしからは（疎遠、疎闊なども 用ふ）＝又あらき、まばらなる、しげからは（疎林疎樹などと云ひて密なるはを謂ふ）

そ（名）芋、ものあり＝あやくさ

そ（名）衣、こゝろ、きもの（古語）

そ（名）祚、〜ちゝ、あまつひつぎ（天子の位）

そ（名）楚、蘇、荊、なまえのき（植物）

そ（名）酥（牛乳より製したる食物）＝あまそけ

そ（名）鳳、ねずみ（小なれど身を取るにも取らは如 何樣なるはすに之を用ふ、例へば鳳候、鳳

蘇、蘇、蘇、

そうそう（名）（副）　繰返、ひきつゞけて、接続、比肩

そうそうあり　小流水、こながれ、ちいさびらよびながれ

そうつ（形）　粗面、あらき、ざらつき

そうつ（形）　疎略、たゝうかり、ゆきつ

そうひ（名）　具、具備（そなびうなはるを云ふ）

そうひ言（名）　畏後、長裾曳地（衣装の裾の長く地に曳ける者をたゝえを曳く事）

そえ（名）　崖、崖、峰曲、凹凸、嶮岨（山の高くして且けはしきところ）、がけ

そえ（副）　孫、うれは、しかにさなれば、何

そえ（名）　袁波、ちなみか、一しらなみ

そえ（名）　端、もののはし、もののすゑ

そえ（名）　併、併、かたく、かたはら

そえ（名）　蕎麦、烏麦、花麦、甜麦（此粉を煉て切りて食物を製す）（植物）

そえ（名）　稜角（物のかどたちたる所を云ふ）

そえい　同前、かすにまぢらはものをまぜ、しかしまつはら同（そ）を参照せよ）

そえいうひつ（名）　侍臣、たゝしらひつ、秘事

そえそえし（形）　美麗、めかけはら（姿の美しきる）

そえくる（自）　押、様、なれなれしくなる、一あまくる（くる「こはえる」と参照）

そえさうふ（名）　蕎麦豆腐、そうふのたゝり

そえつかく（名）　侍臣、侍臣、侍者（うはちかく、ものしつかはるるもの）、一たゝもびと、侍女、こしもと

そえつく（自）　必立、うびえたつ、たかくうびゆる

そえつく（自）　如渡、うはくる、うはえる、なれなれしくする、一ふれける

そえつく（名）　傍枕（傍に居て人をまもるに打たる耳）、うるのしゅうはん

そえむ（自）　傍視、かたはらよりみる

そえつ（名）　素懐、かねてののぞみ、宿願

そえつ（形）　粗雑、荒雑、あらあらしく、ざつあらく、疎雑、疎密

そえつぼく（名）　蘇方木、すわう（植物）

そえつり（名）　棲瓜、胡瓜、黄瓜、きうり（植物）

そえの言（名）　狐襖、きのな（植物）

そえく（形）　疎薄、まばら、しげからぬ（茎葉疎薄なる事〜）

そえく（形）　素白、しらき、一かもりせぬ

そえく（ちる）（自）　飯白、しらひらきる、うつた（まうす）

そえや（名）　蕎麦屋、蕎麦店、蕎麦所、うはるい（く）

そえやり（名）　角條、すはやり

そえし（名）　蕎麦粉、そばのこな

そえきり（名）　蕎麦切、河漏、粗麦、うはのたゝり

そえられる（自）　漏泄、ぬれる、うるはふ

そえ足（名）、侍夫、秘夫、密夫、まもるこ、かうかを

そえし言（名）　鎧鳳、ものびと（物物）、一きた稜折敷（衣紋の名）

そえか　蕎麦詞（危篤の呪文の夫に云ふ詞）、また蕎麦詞、狐離詞等と書く、喊に際りて詞ふが如（こ）、スウアカ、スワカ

そえがいもり（名）　蕎麦餅（「うはがき」を見よ）

そえがほ　牛面（はんめん）

そえがら（名）　蕎麦殻、うはのから（麺にひきたる後の）

そえが言（名）　蕎麦粉、黒児、河漏、粗麦（蕎麦粉をねりたる食物）、うはがいもり

そえかす（名）　雀斑、面面、野皰、雀子斑（面に生ずるふすべ）

そえかすがほ　雀斑面、ふすべたらけのかほ

そえたつ（自）　峙、うびえたつ、たかくうびゆる（山等が）

そえたゞり（名）　蕎麦麺、たにうは、あかうり（植物）

そえたゞる（他）　欹、側、かたむける（耳、枕等を）

そえそえし（形）　微弱、微薄、微細、たゞうかたらは、たかひくがある、ちうこく

そえそえし言（形）　疎疎敗、うとうとしく、したしからぬ

そえつ（ちる）（自）　但殺、はらにはをつ（結腹）

そえられる（自）　蕎麦、ぬれたる

そはる（自）　絞、たはる

そばう（名）　素山子、かがしをりたる

そばう（自）　添寄、こたたる、一ぬれかくる

そばう（名）　蹴鞠、あらはひ、しつけはひ

そばう（名）　素封（田畑なけれども富たりて王侯にも比す可き者をしか謂ふ）

そばく（形）　素朴、素樸、そのまゝ、かれらは、一しつぼく

そばふる（自）　縦降、しよぼしよぼふる、たはすふる、しつぼりふる（雨が）

そばふね（名）　赤船、あかはりのふね

そくいし（名）　副石（庭石の中にて面なる石に副くる石をいふ）

そくぼし（名）　輔星、うひぼし、うつゝうはし（月の地球に於るが如し）

そくぶく（名）　添乳（共に臥して乳をのまする事）

そくる（他）　添、副、つけうくる、〜はくる

そくが言（名）　添書、つけたしがき、うくふや、ゝはなはがき、一又推薦状（人を紹介する時等風くる書状）、裏書、うくはか、一また信用書（銀行にて渡す）

そくがみ（名）　添紙、假紙、殺、つけがみ、かもし

そくかん（名）　添簡、うくはか、うくてがみ、相書

そくかく（名）　副使（ふゝし）、たすけのつかひ

そくゝ（名）　副隊（先陣の後を配れる隊）、たたまも

そくつる（名）　鐙（車の轅の外につける馬をいふ）、一又のりかくる

そくぐるま（名）　駕籠、屬車、副車、のりかくるまつ、つそひとるま

そくふるぐり或そくふるぐり（名）　類疽、せんきのたもひ（病名）

そくふる（名）　獣疽、うくがき、かきうく

そくふみ（名）　副書、添書、うくがき、うくかん

そくき　組織、あらかく

そくじやう（名）　添状、うくてがき、うくはか

そくあの（名）　副器、つけうくもの、こもの、附属物

そと（名）　外、はか、たもとがは

そと（副）　稀、しつかに、一ひつかに

そど（名）　風穴、ねずみたゝし

そとば（名）　袋塔婆、卒塔婆（経文を書て墓場に立る木片また方頃なをいふ）

そとぢ（名）　郊（郊の）

そとぼり（名）　外濠、外郭（城の外の濠）

そとほりひめ　衣通姫（和歌三神の1人）

そとく（名）　外天、うきのかた

そとく（名）　外様、外使、うきおこひ、うきのくい

そりからゐ　外浦庭村（佐渡國加茂郡の村）
そりがた（名）外側、うとのかた
そりがく（名）外樂、うとのつゝり
そりつ（名）粗豆、うとのつゝ（紫微）
そりつぼ　雜豆坡（頃十三代の御林學士にして文雅世に卓絶し詩も亦巧なり）（圖の豆、粗）
そりつのがた　外浦港（伊豆國また日向國に在り）
そりつ者も（名）眼前無、しらうず、あるもの（動物）
そりつみ（名）外洋、外海（大海をいふ、入海に對す）
そりのしまゐ　祭郡島（薩摩の津郡郡の海邊にて和歌に見えたる者）
そりのり（名）外法、外規、外面寸尺、うとのすんしやく
そりべ（名）祭調、すとかたとみ（調設せずに只調ふ事）
そりべに（名）外國、とつくに、こくに、ほかの國
そりべに　異國

そりべ（名）外廂、うとのまち（城の）、郭廓
そりべつまゐ（名）外車（薩摩船の車の艙外に附せる者）
そりべつぶし（名）外眼、ゆしべのうとがは
そりべまゐ　外手町（東京市本所區南本所の町）
そりべのたまゐ　外櫻田町（東京市麹町區の町）
そりべ衣（名）外衣、外衣、うはぎ、はたもの
そりべ（名）背面、うしろもて、せもて、うしろのかた、また山陰（山陰道の如く山を南に日光を北に受くる國の稱に用ふ、「かげ」と共に對す）
そりべ（名）外面、うとがは
そりべせん（名）外鐵（銀箔の具）
そり　守雄（氏）
そり（代名詞）彼、うこ、かしこ、かなた、あちこ
そり（代名詞）爾、汝、なんぢ、おまく、こまく、うなた（二人稱の代名詞にして目下の人に對して用ふ）
そり（うる）（他）措置、處置、たゝ、ほからふ、ものりあつかふこと、あつかひ
そり（名）疎略、おもをものはたけ
そりたゝく（形）粗面、ちなは、しやうあら
そりたち（代名詞）爾等、汝等、爾曹、なんぢら、なまくたち、うのはうもの（「そち」の複數）

そりて　産業、粗業、そまつなはうぎ、ものしやうぎ
そりつ（名）祖帳（遠祖を祭り正行及は門田の名を記す時に用ふる帳を云ふ、祖帳を張るを云ふ、祖遠及び祖安を參觀せよ）
そりん（うる）（他）疎隣、うつたくる、いひらく
そり（名）反、うりかくこと、反張
そり（名）風雪、ふうつはら、たくかうと、にはく、ふうもあるもの（植物）
そり（形）疎離、まはる
そり（名）橇、雪車、拖床、秋馬、ゆきそり（雪上を曳く車）
そり（名）制刀、かみりり
そりそな（名）反然、乱、あらるまはな（印鑑）
そりまし（名）反機、編機、たらこはし
そりかく（る）（自）反却、うりまがる
そりやす（形）疎略、荒略、たらう、うまつ、なけ、ちり、かまはは
そりまつ　反町（氏）
そりん　疎林、まはらのはやし（疎を見よ密林に反）（ん）
そる（自）反、撓、反撓、彎曲、うりまがる
そるう（名）泥鰌、どろうかひ、どろうひ、どろまは、し
そるおこはり　鯛島郡（大阪國の郡の名）
そり（名）殘刺、殘殺、ちはやり、＝殺刺、せも

（図）

そりが（名）疎我、宗我、宗我（氏）
そりが（うる）（他）疎解、まうしひらく、ひひらく、＝とをあかす
そりが（うる）（他）疎明、かりこと、疎明（樣を）、すかす
そりが（名）疎樣、とやう、疎樣、ものたけ、ものはり
そりがべ（名）宗我部（氏）
そりがべむら　宗我部村（丹波國南桑田郡の村名）
そりがは　宗我川（遠江國に在る有名の川）
そりがむら　宗我村（相模國足柄上郡の村名）
そりが　疎答、うまつたかな（酒の）
そりが（名）疎飾、だ者、ものなしやうが（植物）
そりが（うる）（自）疎滅（貴人の死するを云ふ）
そりが（名）祭行、つはのたこなひ（丹氣の行をいふ）
そりが（形）疎遠、あらあらしく、はしらまなる、うつしよは
そりが　十河（氏）
そりがの　疎我野（薩摩國八部郡の地名）
そりがのむら　宗我野村（下總國千葉郡の村名）
そりが（うる）（他）疎隔、うとむ、うとんずる、疎

（図）

そりか　疎隔副詞（「うはか」を見よ）
そりう（名）祭王（薩隊なけれども德ありて自然に帝王に比す可き者孔子の如き是なり）
そりが　疎我、宗我、宗我（氏）
そりが（うる）（他）疎解、まうしひらく、ひひらく、＝とをあかす
そりが（うる）（他）疎明、かりこと、疎明（樣を）、すかす
そりが（名）疎樣、とやう、疎樣、ものたけ、ものはり
そりがべ（名）宗我部（氏）
そりがべむら　宗我部村（丹波國南桑田郡の村名）
そりがはら　宗我川（遠江國に在る有名の川）
そりがむら　宗我村（相模國足柄上郡の村名）
そりが　疎答、うまつたかな（酒の）
そりが（名）疎飾、だ者、ものなしやうが（植物）
そりが（うる）（自）疎滅（貴人の死するを云ふ）
そりが（名）祭行、つはのたこなひ（丹氣の行をいふ）
そりが（形）疎遠、あらあらしく、はしらまなる、うつしよは
そりが　十河（氏）
そりがの　疎我野（薩摩國八部郡の地名）
そりがのむら　宗我野村（下總國千葉郡の村名）
そりが（うる）（他）疎隔、うとむ、うとんずる、疎

そりか　疎隔副詞（「うはか」を見よ）
そりう（名）祭王（薩隊なけれども德ありて自然に帝王に比す可き者孔子の如き是なり）
そりが　疎我、宗我、宗我（氏）
そりが（うる）（他）疎解、まうしひらく、ひひらく、＝とをあかす
そりが（うる）（他）疎明、かりこと、疎明（樣を）、すかす
そりが（名）疎樣、とやう、疎樣、ものたけ、ものはり
そりがべ（名）宗我部（氏）
そりがべむら　宗我部村（丹波國南桑田郡の村名）
そりがはら　宗我川（遠江國に在る有名の川）
そりがむら　宗我村（相模國足柄上郡の村名）
そりが　疎答、うまつたかな（酒の）
そりが（名）疎飾、だ者、ものなしやうが（植物）
そりが（うる）（自）疎滅（貴人の死するを云ふ）
そりが（名）祭行、つはのたこなひ（丹氣の行をいふ）
そりが（形）疎遠、あらあらしく、はしらまなる、うつしよは
そりが　十河（氏）
そりがの　疎我野（薩摩國八部郡の地名）
そりがのむら　宗我野村（下總國千葉郡の村名）
そりが（うる）（他）疎隔、うとむ、うとんずる、疎

そりた　疎隔副詞（「うはか」を見よ）
そりう（名）祭王（薩隊なけれども德ありて自然に帝王に比す可き者孔子の如き是なり）
そりが　疎我、宗我、宗我（氏）
そりが（うる）（他）疎解、まうしひらく、ひひらく、＝とをあかす
そりが（うる）（他）疎明、かりこと、疎明（樣を）、すかす
そりが（名）疎樣、とやう、疎樣、ものたけ、ものはり
そりがべ（名）宗我部（氏）
そりがべむら　宗我部村（丹波國南桑田郡の村名）
そりがはら　宗我川（遠江國に在る有名の川）
そりがむら　宗我村（相模國足柄上郡の村名）
そりが　疎答、うまつたかな（酒の）
そりが（名）疎飾、だ者、ものなしやうが（植物）
そりが（うる）（自）疎滅（貴人の死するを云ふ）
そりが（名）祭行、つはのたこなひ（丹氣の行をいふ）
そりが（形）疎遠、あらあらしく、はしらまなる、うつしよは
そりが　十河（氏）
そりがの　疎我野（薩摩國八部郡の地名）
そりがのむら　宗我野村（下總國千葉郡の村名）
そりが（うる）（他）疎隔、うとむ、うとんずる、疎

（図）

そりが（うる）（自）疎解、かけくだる
そりが（うる）（他）疎拆、ものはは、ものはは、くる
そりが（名）疎貫、疎貫、ものはは、ものはは、ものはは
そりがらぶん（名）疎合木（植物）
そりがらかう（名）疎合香（藥品）
そりがらゆ（名）疎合油（疎合木の油）
そりがぎく（名）水和泉（植物）、きぎく（植物）
そりがひ（名）背向、うしろもて
そりがん　疎顔、ものは、たしらはらはは、＝疎面（ものん）
そりつ（副）疎疎、そりつよ
そりかぜ（名）微風、疎風、うすりかぜ、すこしのかぜ
そりそり（副）疎疎、疎疎、うすりかぜ、すこしのかぜ
そりそりかぜ（名）疎疎、微風、うすりかぜ、＝ちひさかぜ
そりつ（形）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（名）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（名）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（自）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（名）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（名）疎疎、ものはは、ものはは
そりつ（名

それい（形）粗厚、あらく、あらあらしく
それい（名）粗糲、うすくなるあし、あしをしひゑの、粗食
それに（接續詞）然、しかるに、しかるを
それる（自）外、はづれる、逸遁
それがし（代名詞）某（己の名を言はずして自ら指す詞）われ、＝又なにがし
それだか（名）焉歟、疑歟、にはたるかはなれたか
それぞれ（副）各、おのおの
それや（名）過失、つれたるや、＝ながれや
それん（名）蘇鐵、しうはり（植にいふ）
それん（形）蘇脆、しやきよく、＝わたくしなく、率直
そそ（形）粗糙、ぞんざい、そつけなし
そそうに（副）坐、徒、無謂、はしなく、不意、無故、なにとなく、わけもなく、たのりから
そそうし（名）囚子、しゅのこ（「ちうりこ」に同じ）
そそうし（名）讒語、うはこと、＝讒語、ことばがたり
そそうある（名）遊行、遊逸、あちこちある、散歩、散遊、虫様（用事の無しに遊びがてら歩く事）
そそうそうたる（形）風塵、みにまとふ〜ちりの

そそり（名）活行、そんなとるひのわれ、たわけわれ、うろうろ、＝うろうろと
そそりし（名）側子、しゅのこ、蘖根、霊芝（芝の根の側に生ずる子芝をいふ）
そそりこ（名）易子（來孫の子、玄孫の孫なり、子孫の下を見よ）
そそる（自）爲徒行、逸遁、そんなとるひする（遊女貴などにふけるを言ふ）
そそかしい（俗）（形）粗粗敬、そそつけぬ、うつかりな
そそう（する）（自）風走、こうこうにげる
そそう（名）紐宗（天邦の天子の紐か糸を以て宗に繋く具）
そそう（名）祖宗（祖先を謂ふ）せんか
そそのかす（他）教唆、唆、誘、そたてる、すすめこむ、煽動、あふりたてる、いそなす
そそく（する）（自）蘇息、よみがへる、いきかへる、いきふきかへす（一旦死にたる者が再び活へるを謂ふ）
そそぐ（他自）灑、酒、濺、注、遡、澍、泛、注、射、灑、灌、淫、流、注、そそぐ、水を、＝ながれこむ、＝うちかかる
そそく（名）風敬、こはすひと（小敬を謂ふ、風〔う〕を參觀せよ）
そそく（形）粗俗、なまはよく、そつけ

そつたく（名）備、準備、預備、設備、したく、＝豫防、ふせぎ、＝行伍、くみたて（兵の）
そつたくする（他）備、具、具備、具有、そなへのくたく、したく、したてる、＝ものとする、＝供、ものとする
そつたくうま（名）備馬、のりかくうま、ひきうま
そつたくのつるぎ　備之大具（大具の下を見よ）
そつたる（自）調、なれる、なるる
そつた　其方、其許、そこもと
そつたけ（名）掃巻菰（植物）
そつたんまい（名）煙草、たばこ、ひはのたばこ（植物）
そら（名）空天、蒼、蒼空、蒼穹、そらぞら、＝また（俗）（形）まことならず、うつの、偽、虚、偽、詐
そらいろ（名）空色、天色、あをみどりいろ
そらとぼし　空漠（「やまと」の枕詞）
そらなぶり（名）虚稱（いつはりて賞讃するを言ふ）
そらとぼける（自）詐癡、佯爲不知、しらぬかほする
そらぶけ（名）綴解、しやうぶけ（紐の帶などが獨りにて自らとくるを謂ふ）
そらみつ　空知郡（石狩國の郡の名）
そらおそろし（形）空怖（そこはかなくおそろしきを謂ふ）

そらは　唱、嗟、嘆、嘲、叮嚀、强て笑ふ事、うつうわらひ、つくりわらひ
そらかたる　空數（「おほつ」の枕詞）
そらよみ（名）時謂（あんじまうす）、ほめそやか（文字を見すてよみある事）、雷謂
そらだきけ（名）佯狂、にせきちがひ、つくりきちがひ
そらだき（名）空燒、時燒（香を焚く事）、かうゝゆらし
そらだきもの（名）燒香、かうばしきたきもの
そらうから（俗）（自）佯爲、うつうつとはかる、うつうつくしくはかる、しらぬかほをする、しらをきる
そらうかん（俗）（名）欺惑者、うつうつとはかるもの、うつうつこき
そらうそぶき　佯唾、いつはりつばき
そらぬば（名）洋棉、あがりは（種の）
そらぬば（名）腰壁、うつのこやらう
そらぬば（名）雜壁、まぜこぜ
そらぬば（名）佯睡、うつらねむり、うつらねむり、偽睡、豬睡、たぬきねいり、賭睡
そらぬばいり（名）偽睡、ねもれるまね、たぬきね、うつらね
そらぬばいり貪そらぬばいり（名）賭睡、うつらね、ねむりたるまね、たぬきねいり、いつはりねむること

そつたへ（する）（自）準備、したはる
そつそつ（副）卒卒、しがはしく、あはてて
そつて（名）趨術、うつくしさ、したみ
そつて（する）（他）疏通、ひらきとをす（潮水等を他に）
そつげう（名）卒業、學業を終る事）
そつげうしよう（名）卒業證書（學業を終りし證として與える證明書）
そつげうせい（名）卒業生（卒業をなせる學生）
そつぶ（名）商賈、販賣、つゆうの
そつこ（名）卒伍、くみ（兵士の）
そつ言（する）（自）卒去、しぬる、みまかる（貴人の）
そつこ（名）卒死、にはかに、とんし
そつこ（副）卒時、すぐに、即刻
そつこ（形副）卒爾、にはか、うつつけ、ゆくりなく、かるがるし
そつせん（する）（自）卒先、さきだつ、さきにする、先驅
そつせん（副）卒然、にはかに、突然
そつする（自）卒、しぬる、死（貴人にいふ）
そね　中稻、中熟（氏）
そねむ（他）嫉、妬、ねたむ、妬忌
そねんぞう（名）風粘草、はすかねやし（植物）
そなへる（自）具、具備、ととのへる、＝ものとする

そなへ（名）備、準備、預備、設備、したく、＝豫防、ふせぎ、＝行伍、くみたて（兵の）
そなへる（他）備、具、具備、具有、ととのへたく、したく、したてる、＝ものとする、＝供、ものとする
そなへくうま（名）備馬、のりかくうま、ひきうま
そなへのつるぎ　備之大具（大具の下を見よ）
そなる（自）調、なれる、なるる
そなた　其方、其許、そこもと
そなたけ（名）掃巻菰（植物）
そなんまい（名）煙草、たばこ、ひはのたばこ（植物）
そら（名）空天、蒼、蒼空、蒼穹、そらぞら、＝また（俗）（形）まことならず、うつの、偽、虚、偽、詐
そらいろ（名）空色、天色、あをみどりいろ
そらとぼし　空漠（「やまと」の枕詞）
そらなぶり（名）虚稱（いつはりて賞讃するを言ふ）
そらとぼける（自）詐癡、佯爲不知、しらぬかほする
そらぶけ（名）綴解、しやうぶけ（紐の帶などが獨りにて自らとくるを謂ふ）
そらみつ　空知郡（石狩國の郡の名）
そらおそろし（形）空怖（そこはかなくおそろしきを謂ふ）

そらは　唱、嗟、嘆、嘲、叮嚀、强て笑ふ事、うつうわらひ、つくりわらひ
そらかたる　空數（「おほつ」の枕詞）
そらよみ（名）時謂（あんじまうす）、ほめそやか（文字を見すてよみある事）、雷謂
そらだきけ（名）佯狂、にせきちがひ、つくりきちがひ
そらだき（名）空燒、時燒（香を焚く事）、かうゝゆらし
そらだきもの（名）燒香、かうばしきたきもの
そらうから（俗）（自）佯爲、うつうつとはかる、うつうつくしくはかる、しらぬかほをする、しらをきる
そらうかん（俗）（名）欺惑者、うつうつとはかるもの、うつうつこき
そらうそぶき　佯唾、いつはりつばき
そらぬば（名）洋棉、あがりは（種の）
そらぬば（名）腰壁、うつのこやらう
そらぬば（名）雜壁、まぜこぜ
そらぬば（名）佯睡、うつらねむり、うつらねむり、偽睡、豬睡、たぬきねいり、賭睡
そらぬばいり（名）偽睡、ねもれるまね、たぬきね、うつらね
そらぬばいり貪そらぬばいり（名）賭睡、うつらね、ねむりたるまね、たぬきねいり、いつはりねむること

そうい（名）　総領、はしらをがう（動物）
そうい（他形）　臨、たゝる、たゝれる（除位などの臨）
そういん（名）　僧衣、ばうずのころも、僧服
そういん（他）　臨幸、おゝる、やる
そうぎ（する）（他）　臨御、たゝり、やる
そうぐ（名）　臨位、〜うゐをたゝる、＝又たゝれる、〜う（未に死後に用ふ）
そうこう（名）　走路、にげみち
そうこう（名）　叢蔵（蔵の名）（動物）
そうこう（名）　層楼、にかい、かさなれる、ま（屋の）
そうこう（名）　僧綱（僧の官位）
そうこう（名）　総議（座頭盲人の事）
そうこう（名）　総論（事柄の最初に掲ぐる全體の概論）
そうこう（名）　蒼鷹、蒼鷹、はうか（動物）
そうこう（俗）（自）　惣袋（月代、かみそりを剃らぬ頭）
そうこう（名）　霜髪、つゆが、しれば、かみと
そうこう（俗）　惣花、総綿頭（家屋、遊女屋抱にて客が家の内の人一同に贈らず買ふる金銭を謂ふ）
そうこう（名）　僧帽（僧侶の帽）
そうこう（形）　怒忙、怒忙、いそがはしく、ひまなき
そうこう（名）　僧坊、こう、庵（あん）
そうこん（する）（他）　奏白、まうしあげる（天子に）
そうこん（名）　造魂、はしらをがう（動物）
そうこん（名）　蒼魂、蒼魂、はうか（動物）
そうこん（俗）（自）　惣袋（月代、かみそりを剃らぬ頭）
そうこん（名）　霜髪、つゆが、しれば、かみと
そうこん（俗）　惣花、総綿頭（家屋、遊女屋抱にて客が家の内の人一同に贈らず買ふる金銭を謂ふ）
そうこん（名）　僧帽（僧侶の帽）
そうこん（形）　怒忙、怒忙、いそがはしく、ひまなき
そうこん（名）　僧坊、こう、庵（あん）
そうこん（する）（他）　奏白、まうしあげる（天子に）

そうさ（名）　造作、つくりなす、こしらへ、ぬりなす、ぬりなす、ぬりなす

そうかん（する）（他）　奏聞、しらせもうしまゐらする（天子に）
そうき（する）（他）　給賜、たまりあたふる
そうきん（名）　総巾、ふくさ
そうきん（名）　総巾、うつりもちのふくさ（皇子の表）
そうこ（名）　曹司（親宮）
そうたい（名副）　総體、全体、すべて
そうたい（する）（自）　層雲、たかくうゐる、うつたかくある
そうたい（名）　総代、うつがはり、＝ゆかん
そうたいしやう（名）　総大将、うつがしら、元帥（惣帥の略、一の将帥を謂ふ）
そうたう（する）（他）　奏達、まうしあげる（天子に）
そうたう（する）（他）　送達、たくりやる
そうたう（名）　層峯、かさなりたつ、かさなれるたふ
そうたう　昌盛、やうさり、さりやり
そうだん（名）　雑談、くさぐさのはなし、あつまはなし
そうれう（名）　鬢髮、たてがみ
そうそ（名）　曾祖（祖父母の親を言ふ）、ひたや
そうそ（名）　奏疏、のぼしぶみ、上表（天子への）
そうそう（形）　忽々、にはかに、いそがし
そうそん（名）　宗孫、やからのうちうつ

そうそう　倍伶（倍臣と伶人）
そうそう（名）　曾祖父、たはおほ、ひたや
そうそん（名）　曾孫、ひまご（孫の孫なり、子孫を云ふ語の下を見よ）、ひこ、ひこまご
そうそん、曾孫（曾孫に同じ）
そうつ（名）　僧都（僧の位階にして四位殿上人に准ず師ち僧正の下に位す）
そうつ（名）　僧都、鬼殿（鳥を殺すの具また米を搗く臼なり）
そうつかさ（名）　総追捕使（源の頼朝此職に補して諸國の守護地頭を管領せり）
そうつん（名）　層巒、かさなりたる山、層岩
そうつん（名）　蒼蒼、あをあを、あをがるあを（空に）
そうのうつ　僧六具（三衣、一鉢、唐具、漉水囊）
そうのそうこゆ　宋八主（武帝、少帝、文帝、孝武帝、廢帝、明帝、後廢帝、順帝）
そうのごとそん　僧五職（寺務、綱位、別當、座主、長者）
そうのそんや　宋三論（般若、百論、十二門論、文殊を云ふ）
そうのそんえ　僧三衣（大衣、五條、七條）
そうのしつ　宋四職（穀、布、金銀、物産の貢献を云ふ）
そうのこと（名）　造花、つくりはな（紙物）
そうのこと（名）　走火（天部の火中を走る手品）

そうはく（名）　國會、ひとあつまり
そうはつ（する）（他）　總括、すべて一つにかねる
そうはつ（する）（自）　蒼茫、あをうつすらとあらはる
そうはん（名）　總番、かしらゝ
そうはん　逆叛、よこしまをたくる（敵に）
そうはん（名）　陪膳（死後に陪れる膳）
そうはやぶり　宗谷郡（北見國の郡の名）
そうけ（名）　宗家、本家（先祖代代相續の家）
そうけ（名）　僧家（僧侶の居處）
そうけい（名）　蒼穹、蒼空、こはるぞら（面物）
そうけい（名）　宗系（本家の血統）
そうけい（名形）　嘯嘯、ひそひそ、かしこそ
そうけい（する）（他）　崇敬、たふとみあがめる
そうけい（名）　總計、うつしあつ、しあつ、しあつかんりやう
そうけう（名）　総繰、くりやか
そうけう（形）　忽劇、にはか、＝くるがはしさ
そうけん（名）　宗源、やからもと
そうけん　僧綱、かけん、おしくらし
そうこう（する）（他）　送付、たくりつける
そうこう（名）　層閣、かさなりたる、たくりもの（死者の家くの）
そうご（名）　聰悟、かしこそ

そうこう（名）　総社（一地方の総鎮社の略、上古の社）
そうこやむら　総社村（上野國群馬郡また備中國賀陽郡の村）
そうこやう（名）　宗匠（和歌連俳茶の湯等の達人を云ふ）
そうこやう（する）（他）　奏上、まうしあげる（天子に）
そうこやう（名）　僧正（僧侶の位階の最高き者）
そうこやうこん（名）　條綿、しゆうのはは
そうこやうまん（名）　增上慢、たかぶりがうまん
そうこやうじ　增上寺（東京芝區の巨刹にして德川氏世世の廟所を有す本堂は四治六年燒亡し其後十餘年を經て廿三年に至りて復に再建成る）
そうこん（名）　陪魂（死後に位を陪る尊きた是の如き位）
そうこん（する）（他）　綜緝、あつめ、つづる
そうこんちやう　宗十郎町（東京市京橋區の町）
そうこんりやう　總禁、うつあつまり、みなのよりあつ
そうこん（名副）　總而、すべて、全體
そうこん（名）　宗主、はんけのあるじ（宗家の主）、＝ゆかしら

そうこう（名）　蒼花、ひとへ（紙物）
そうこう　奏功、なしとげる、なしをくる
そうこう（名）　滄浪（水の涼りて深き處）、みつあひ
そうこう（名）　雙調、はるのしらべ（音曲の名）
そうこう　惶惶、にゝらゝ、しゝ
そうさい（名）　總裁、をさが、かしら、すべてかねるひと
そうさい（位）（名）　惣菜（一家一回に食ふ通例の菜）、＝ありあひ
そうさいりう（名）　惣菜料理、てがるれうり
そうさう（名）　造酒、のそんゝり、もうらい、はうり
そうさく（名）　帳簿、こしぶみ
そうさく（する）（他）　捜索（しつらへ）、さがしもとめる、たづねる
そうさくしや（名）　走索者、つなわたりがるまし
そうさう（名）　學所、たかどころ、をが、こたかどころ
そうさう（名）　層巒、かさなりたん
そうさう　增給（給料を增し加ふる）
そうさん　造金、かねをたゝる
そうさん（形名）　聰明、かしこそ、がしこそ、かしこ

そうし（名）　總紙（一地方の總鎮社の略、上古の社）
そうしやむら　總社村（上野國群馬郡また備中國賀陽郡の村）
そうしやう（名）　宗匠（和歌連俳茶の湯等の達人を云ふ）
そうしやう（する）（他）　奏上、まうしあげる（天子に）
そうしやう（名）　僧正（僧侶の位階の最高き者）
そうしやうこん（名）　條綿、しゆうのはは
そうしやうまん（名）　增上慢、たかぶりがうまん
そうしやうじ　增上寺（東京芝區の巨刹にして德川氏世世の廟所を有す本堂は四治六年燒亡し其後十餘年を經て廿三年に至りて復に再建成る）
そうしん（名）　陪魂（死後に位を陪る尊きた是の如き位）
そうしん（する）（他）　綜緝、あつめ、つづる
そうしんちやう　宗十郎町（東京市京橋區の町）
そうしんりやう　總禁、うつあつまり、みなのよりあつ
そうしん（名副）　總而、すべて、全體
そうしゆ（名）　宗主、はんけのあるじ（宗家の主）、＝ゆかしら

そうこゆ（名）　添役（天子に添して位階を授くる事務を見あはせよ）
そうこめ（俗）（名）　總締、總計、うかんちやう、しめ〜り
そうこん（名）　宗親、いちぞく、やから
そうこん　惣身、全身、渾身、からだぜん
そうこん（名）　記帳、かきものかみ
そうこん（する）（他）　除進、たゝりまをうする（穢物等を）
そうこん（する）（他自）　增進、ましすすめる、ましすすむ
そうさく（する）（他自）　增益、ますます、ふやす、ふえる
そうさい　葬祭、ふやをはしらす、
そうさい（名）　除物、たゝりもの
そうさん（名）　頌門、ひとまを
そうさん（する）（他）　奏聞、まうしあをす（天子國王に）
そうせい（する）（自）　發生、むらがりはえる
そうせい（する）（他）　奏請、まうしあげこふ（天子に）
そうせん（名）　篤実、ものしたき、かうしんあたん
そうせき（名）　除滓、すまかた、あまを
そうせき（名）　送籍（人の人別帳を他に送る事）
そうせん（名）　總番（天部の高貴人がそしかけて日を選ぶ者）
そうせん（名）　走銭、つなわたり、かるわざ
そうせん（名）　送餞、路餞、はなむけ
そうせんすい（名）　宗參宣（茶道子の名）
そうすい（形）　蒼翠、あをあをとしたる草木の、みどりなる
そうすい（名）　漾水（水の落ち合ふ所）、かうあひ
そう　國（氏）
そう（名）　國、面、兆、には、はなかの、はなやしを、＝はた
そう（形）　其、厥（物事を指す詞）、これの、それな
そうけ　國池（氏）
そうた　其方、かのかた、＝又（俗）そなた、たお
そうべ　國部（氏）、
そうべむら　國部村（常陸國新治郡また丹波國船井郡の村名）、
そうべまち　國部町（丹波國船井郡の町）
そうき　其時、爾時、當下、當時
そうかんかん　國縣神（大和國添上郡に在り）
そうかん（副）　昔日、昔年、往時、往代、隱時、上世、往者、當初、當年、當時、むかし
そうた　國田、宗田（氏）
そうかんし　昔日、往昔、往者、往年、曩昔、曩日、にしくのかみ
そうこう（副）　且、また
そうのち　其後、厥后、爾後、自後、うのちより
そうのまま　其儘、そのまゝ＝依然
そうふ（名）　國生、はやし（竹などの叢生する處）
そうご　其後、爾后、爾來、うのちより
そうけん　蒼三厥（能登、大阿、工市）
そうきむら　彼杵村（肥前國彼杵郡の村名）
そうきのいりえ　彼杵入江（大村灣とも云ふ、肥前國彼杵郡の海の名）
そうきはり　彼杵郡（肥前國の郡の名）
そうきまり　其刻、其刻、うのきり、うのとき
そうひ　其日、當日、これのひ
そうびと（名）　國人、にはうし
そうあり　其儘、うこまを、たお
そうすい　其粉（煙草なり常陸産を云ふ）
そく（名）　束、たば、たばね、＝また手寸、てはば（尺に云ふ也十五束三伏などの如し）
そく（名）　殺、うすし、そりまる、＝減殺
そく（名）　疏殺、疎殺、ゆたん（疎殺解意は不注意怠惰なりも國と武人の詞）
そく（名）　族、やから、親族
そく（名）　一ナる（自）　國、たゝび、やから、つゝ、＝かかる、つゝしたはふ
そくい（名）　俗樂、俗樂、西樂、いやしきをとは
そくいん（名）　國印、はかりの、銅印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　即筒、ものつゝ、ものつゝ
そくいん（名）　愛人、あいきやう、あいきやう（他人の）
そくいん（名）　即註、かたはらかき、傍註
そくいん（名）　束註、つかねこゝろ
そくいん（名）　側臣、たちかべ
そくいん（名）　親友（実同の意）
そくいん（名）　嗜食、ふ〜のかしら、嗜意
そくいん（名）　俗醫、ものしり、ものわかり、世事（世俗の事務）
そくい（名）　屬吏、したやくにん、
そくい（名）　俗吏（俗事の小吏）、ものしやくにん
そくいん（名）　素力、はやち、はやかぜ（強き風を謂ふ）
そくのかい（名）＝一ナる（他）　測量、はかること（地面建築等を）はかる
そくのかい（名）　測量鍵、はかりなは
そくのかいかい（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくい（名）　俗樂、俗樂、西樂、いやしきをとは
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　即筒、ものつゝ、ものつゝ
そくいん（名）　愛人、あいきやう、あいきやう（他人の）
そくいん（名）　即註、かたはらかき、傍註
そくいん（名）　束註、つかねこゝろ
そくいん（名）　側臣、たちかべ
そくいん（名）　親友（実同の意）
そくいん（名）　嗜食、ふ〜のかしら、嗜意
そくいん（名）　俗醫、ものしり、ものわかり、世事（世俗の事務）
そくい（名）　屬吏、したやくにん、
そくい（名）　俗吏（俗事の小吏）、ものしやくにん
そくいん（名）　素力、はやち、はやかぜ（強き風を謂ふ）
そくのかい（名）＝一ナる（他）　測量、はかること（地面建築等を）はかる
そくのかい（名）　測量鍵、はかりなは
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくい（名）　俗樂、俗樂、西樂、いやしきをとは
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　即筒、ものつゝ、ものつゝ
そくいん（名）　愛人、あいきやう、あいきやう（他人の）
そくいん（名）　即註、かたはらかき、傍註
そくいん（名）　束註、つかねこゝろ
そくいん（名）　側臣、たちかべ
そくいん（名）　親友（実同の意）
そくいん（名）　嗜食、ふ〜のかしら、嗜意
そくいん（名）　俗醫、ものしり、ものわかり、世事（世俗の事務）
そくい（名）　屬吏、したやくにん、
そくい（名）　俗吏（俗事の小吏）、ものしやくにん
そくいん（名）　素力、はやち、はやかぜ（強き風を謂ふ）
そくのかい（名）＝一ナる（他）　測量、はかること（地面建築等を）はかる
そくのかい（名）　測量鍵、はかりなは
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくい（名）　俗樂、俗樂、西樂、いやしきをとは
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　即筒、ものつゝ、ものつゝ
そくいん（名）　愛人、あいきやう、あいきやう（他人の）
そくいん（名）　即註、かたはらかき、傍註
そくいん（名）　束註、つかねこゝろ
そくいん（名）　側臣、たちかべ
そくいん（名）　親友（実同の意）
そくいん（名）　嗜食、ふ〜のかしら、嗜意
そくいん（名）　俗醫、ものしり、ものわかり、世事（世俗の事務）
そくい（名）　屬吏、したやくにん、
そくい（名）　俗吏（俗事の小吏）、ものしやくにん
そくいん（名）　素力、はやち、はやかぜ（強き風を謂ふ）
そくのかい（名）＝一ナる（他）　測量、はかること（地面建築等を）はかる
そくのかい（名）　測量鍵、はかりなは
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくい（名）　俗樂、俗樂、西樂、いやしきをとは
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　國縣、つゝのあがた、郡印
そくいん（名）　即筒、ものつゝ、ものつゝ
そくいん（名）　愛人、あいきやう、あいきやう（他人の）
そくいん（名）　即註、かたはらかき、傍註
そくいん（名）　束註、つかねこゝろ
そくいん（名）　側臣、たちかべ
そくいん（名）　親友（実同の意）
そくいん（名）　嗜食、ふ〜のかしら、嗜意
そくいん（名）　俗醫、ものしり、ものわかり、世事（世俗の事務）
そくい（名）　屬吏、したやくにん、
そくい（名）　俗吏（俗事の小吏）、ものしやくにん
そくいん（名）　素力、はやち、はやかぜ（強き風を謂ふ）
そくのかい（名）＝一ナる（他）　測量、はかること（地面建築等を）はかる
そくのかい（名）　測量鍵、はかりなは
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの
そくのかいかん（名）　測量鍵、はかりなはの

そこがたな（名）東刀（肥前又は薩州より出る下等の刀剣）

そこがり（名）意稚、そこうれ、たより、しらせ、音信

そこかん　罪数、あはがら

そこかん（する）（自）國語、なまめる、みやる

そこかん　俗間（世俗の間）

そこかん　賊艦（賊徒の船また盜賊船）

そこたい（名）足鉄、あしがせ

そこたい（名）東帯、じやうへ、ようはひ

そこたい（名）俗體、たちのなり（俗體なる品を調ふ）

そこだい（形）側狙、かなしむ、かなしむ、あはれ

そこだい（する）（自）關管、あたる、ふれる

そこだい　即時、すぐに、すぐ

そこだい（名）俗事、もののなりはひ

そこだい（名）族籍、やから、ものがら

そこだく（する）（他）測度、はかる（量る度る等又は人の意を）

そこだく（する）（他）國語、暇托、たのむ、ゆだぬる

そこだち（名）即名、すぐ名のごとく

そこだん（名）意見、ものこと、やがれ

そこだん（名）俗談、ものがたりのはなし、＝また俗語

そこだん（名）堤防、敷地、並、所主、家、ものこと

そこつ（植物）（名）

そこれ（名）、（する）（自）國綱、ひもとく、＝つる

そこれ（する）（他）遷子、はやのかこみする、はやまをかくる

そこそこ（名）蝴蝶、うと（動物）

そこそこ（名副）蝴蝶（虫の鳴く聲を言ふ）

そこそこ（形副）側側、したまし

そこそこ（形副）側側、ものをいふ、＝又ものを

そこそこ（形副）鈴鈴、すはすは、ものがものは（竹木などの葉が物にふれて鳴る音をいふ、水滸傳に云く、山邊竹樹頂感鈴地爭、鈴二條節相大小書花也似鈴笑）＝又はなのちるかたち（鈴花紅鈴笑と言ふ）

そこそこ（副）國綱、ひきつりて

そこそこ（副）蔑稱、おちぶれて

そこそこ（形副）國語、冷冷、ひやひや（寒氣を感ずる銘、冷氣ひやひやと國を度すなど言ひ）

そこそこする（自）、惡業、惡業、ものはけ、ものはけをはえる

そこだち（名）新稚、並草、接待草、花を國ふる（植物）

そこなん（名）意見、やがれ、ものこと

そこらしい（形）俗談、國語、ものびやらは、ものの

そこれ（名）蝴蝶、ちやうと（動物）

そこそこ（名副）蝴蝶（虫の鳴く聲を言ふ）

そこそこ（形副）側側、したまし

そこそこ（形副）側側、ものをいふ、＝又ものを

そこそこ（形副）鈴鈴、すはすは、ものがものは（竹木などの葉が物にふれて鳴る音をいふ、水滸傳に云く、山邊竹樹頂感鈴地爭、鈴二條節相大小書花也似鈴笑）＝又はなのちるかたち（鈴花紅鈴笑と言ふ）

そこそこ（副）國綱、ひきつりて

そこそこ（副）蔑稱、おちぶれて

そこそこ（形副）國語、冷冷、ひやひや（寒氣を感ずる銘、冷氣ひやひやと國を度すなど言ひ）

そこそこする（自）、惡業、惡業、ものはけ、ものはけをはえる

そこだち（名）新稚、並草、接待草、花を國ふる（植物）

そこなん（名）意見、やがれ、ものこと

そこらしい（形）俗談、國語、ものびやらは、ものの

そこれ（名）、（する）（自）國綱、ひもとく、＝つる

そこれ（する）（他）遷子、はやのかこみする、はやまをかくる

そこそこ

人）

そうやん（名）屋敷、やしきの

そうやく（する）（自）屋敷、やしきがある

そうやく（する）（自）制限、かぎりたる

そうやく（名）区劃（四隣の中土若人の三隣を区劃する）

そうやく（名）僧侶（僧人たるの姓氏にして釋氏に類す）

そうやく（名）俗語（世俗の語）

そうやくこんこん（名）族繁花、ゝりんかう（植物）

そうやくしき（形）即席、たゞちのはたらきこと

そうやくしき（名）屋敷（人別の屋敷する所をいう）＝族繁

そうやくきんこう　即席料理、たゞちにすぐれうり、はやれうり

そうやくん（名）屋敷、しんきり

そうやくん　屋敷、おやのなれば、はすびとなる

そうやくんきつ（名）即鱗蟲、ましきぶひ（動物）

そうやくんし（名）屋敷子、はやのなるこのはしきつ（植物）

そうや（名）宗谷（氏）

そうや（名）征矢、征矢、利矢、ゝ〜ちこ〜ちにあ

そうや（形）粗野、あらく、あらつぽしく、ひらけば

そうゆう（名）屋敷、やしきの

そうゆう（する）（自）屋敷、やしきがある

そうゆう（する）（自）制限、かぎりたる

そうゆう　区劃（四隣の中土若人の三隣を区劃する）

そうゆう　僧侶（僧人たるの姓氏にして釋氏に類す）

そうゆう（名）俗語（世俗の語）

そうゆうこんこん（名）族繁花、ゝりんかう（植物）

そうゆう（形）即席、たゞちのはたらきこと

そうゆう（名）屋敷（人別の屋敷する所をいう）＝族繁

そうゆうきんこう　即席料理、たゞちにすぐれうり、はやれうり

そうゆうん（名）屋敷、しんきり

そうゆうん　屋敷、おやのなれば、はすびとなる

そうゆうんきつ（名）即鱗蟲、ましきぶひ（動物）

そうゆう

そなもの（名）桃園（桃の園）
そなもの（名）園丁（園を管理する男をいふ）
そなもの（名）染木（うるしの）
そなもの（名）染帷子（「うるし」の枕詞）
そなもの（名）染物（うるしの）
そなものや（名）染物屋（紺屋、染工、染匠、染師）
そなん（名）素面（すがほ）
そなかがた（名）素民部丸（山伏或は行脚の修験者を云ふ）
そなう（形）疎密（まばらこまか）
そなし（名）風樣（ねすがた）（植物）
そなし（名）素志（かねてのこころざし）素志、素望（宿志、宿願）
そなし（名）祖師（宗教の創立者或は相傳者）
そなしとめる（他）阻止（ゆきとどまる）
そなしとめる（他）沮止（はばむ）
そなし（名）訴訟（うったへ）
そなし（名）疎食（疎食）
そなこだ（名）十代田（王）
そなる（他）謗、誹、訕、譏、毀、讒、譖、誚、誹、謗、
そなる（名）訴訟（訴）
そなもの（名）

そなる（名）庶兄（妾腹の兄子を云ふ）
そなる（名）風説（ねすがた）
そなる（名）染色（うるしいろ）
そなるの（名）蘇迷盧山（須彌山（しゅみせん）に同じ）
そなるの（名）染殿、染匠（うるしのもの）（禁中に住りし者）
そなるの（名）染殿后（清和天皇の母君）
そなる（他）染（物に色を付ける）
そなる（自）始（はじまる）
そなかた（名）染草（うるしの）
そなかす（他）染返（うるしなほす）、調色
そなかた（名）染注（うるしかた）
そなかたがみ（名）染形紙（種種の形有紙にして好き形を布帛に印するに用ふ）（伊勢の名產なり）
そなかた（名）染紙（そめたるかみ）（神祇式の忌詞に佛經をしが云ふ）
そなつけ（形）染付（うるしやきつけたる）（陶器に）
そなつけもの　花器（そめつけたるもの）
そなく（名）染草（染料に用ふる物品）
そなやう（名）染樣（うるしのもの）
そなぎ（名）染木（染料の材料の木）

そなもの（名）副業（のりかくもの）
そなかる（他）染（うるしにそめる）
そなかる（名）添飯（うるしのもの）（同）
そなかる（名）層雲（かさなる雲）（植物）
そなかる（自）陡立（屹立）
そなかる（名）添物（そへもの）腐敗物
そなえ（名）祖品（ものした）
そなえた（名）蘇頻陀（十六羅漢の1）
そなたた（名）蘇門答臘（南洋の1島）
そなえる（他）抑（おさへ）（錠前の）
そなし（名）袈裟詞（うばかに同じ）
そなえ（名）什器生（かが）（物同じ）多く諸家にて用ふ）
そなこ（名）其方（そなた）（物に同じ）
そなる（名）素門（私門に同じ）
そなる（名）組織（ものしらく）
そなる（自）蘇生（蘇醒）
そなる（名）
そなる（名）

そしもせん　蘇子南（宋朝の學士にして蘇東坡と齊名す）
そしん（名）素心（こころざし）（かねてのねがひ）
そしん（名）素人（しろうと）
そしる（形）疎遠（そをとほ）（音樂など）
そう（名）祖父（はうとし）、祖母（ばばあ）
そえん（名）祖道（はなむけ）
そえん（名）訴訟（うったへ）
そえん（形）疎遠（そをとほ）
そう（名）粗樹（くぬぎ）（植物）
そかる（名）陸奥（せんそのたとひの）（のやまひ）（馬の）
そが（名）翠鳥（かわせみ）（動物）
そが（名）鳳尾（雉の異名）
そがぼし　添星（南星）（ものなれば）（月が地球に添ふ如きを謂ふ）（また星、天體（二十八宿の1））
そがう（名）素襖（ものこうの）、略服
そがる（名）添寢（同寢）、相伴（同衾）（ひとつね）
そがる（名）無垢（甲州の方言）（動物）
そがる（名）
そがる（他）傍線（かたはらにひく）（また）（引）（また）（誘引）（ものこう）

そしもせん　粗鬆（はうはう）（かたからず）（ゆるく）
そしょう（名）風雅（ねすがた）（植物）
そしょうの　訴訟用（うったへ）
そしょう　疎食（素食）（疎食）（ものこう）
そしらぬかほ　故知顔（知らぬ面）（うそぶく）
そしる（他）指弾（かたる）
そしゅう（名）素商（秋の異名）
そしゅう（名）訴狀（うったへ）（訴訟）
そしゅう（他）阻遮（ものこう）
そしき（名）組織（ものこう）
そしき（名）組合（ものこう）
そしきがく（名）組織學（身體の組織を研究する學）
そしきむら　祖式村（石見國邑智郡の村）
そしゅう（名）鳳翅（雉の異名）
そしゅ（名）素手（すで）（ものこう）
そしゅ（名）（酒）（ものこう）
そしゅく（名）祖宿（祖父の姉妹）
そしゅう（名）風雅（ねすがた）
そしゅ（名）阿（ばば）（ものこう）
そしゅ（名）「ものこう」の枕詞
そしゅ（名）疎食（ものこう）

そしもせん　蘇子南（宋朝の學士にして蘇東坡と齊名す）
そしん（名）素心（こころざし）（かねてのねがひ）
そしん（名）素人（しろうと）
そしる（形）疎遠（そをとほ）（音樂など）
そう（名）祖父（はうとし）、祖母（ばばあ）
そえん（名）祖道（はなむけ）
そえん（名）訴訟（うったへ）
そえん（形）疎遠（そをとほ）
そう（名）粗樹（くぬぎ）（植物）
そかる（名）陸奥（せんそのたとひの）（のやまひ）（馬の）
そが（名）翠鳥（かわせみ）（動物）
そが（名）鳳尾（雉の異名）
そがぼし　添星（南星）（ものなれば）（月が地球に添ふ如きを謂ふ）（また星、天體（二十八宿の1））
そがう（名）素襖（ものこうの）、略服
そがる（名）添寢（同寢）、相伴（同衾）（ひとつね）
そがる（名）無垢（甲州の方言）（動物）
そがる（名）
そがる（他）傍線（かたはらにひく）（また）（引）（また）（誘引）（ものこう）

そんがえ　尊顔（他人の顔を敬ひて言ふ詞）
そんがん　尊願（他人の願を敬ひて言ふ詞）
そんきょう　尊顔（人の顔を敬ひて言ふ詞）
そんだい　尊大（形）尊大にはふり、だかりなり
そんだいじん　尊大人（人の父を敬ひて言ふ詞）
そんたく（する）（他）忖度（はかるかんがくはかる）
そんたち　尊答（他人の返答を敬ふ）
そんぞく　損賊（かしこべうかがれう）
そんぞくがい（名）損賊害（損賊をなりて物を害ふ）
そんぞくや（名）損賊屋（かしこべうを（天然器具等の）
そんぞう（名）尊像（ほとけの）
そんぞう（する）（他）尊崇（ものがものをうやまふ）
そんぞく（名）存続（ながくかんがく）
そんぞく（名）（他）（名）尊族（うやまふべきかんがく）
そんぞく（名）村酋（むらかしら）
そんぞく（名）村落（むらうち）
そんぞく（名）村間（屋手）（むらうちのむらうち）
そんぞく（する）（他）損傷（こはしこわす）
そんぞく（する）（他）（自）損傷（こはしこわす）
そんぞく（名）（他）（名）損傷（こはしこわす）
そんぞく（名）（他）（名）損傷（こはしこわす）
そんぞく（名）（他）（名

ついたち(名)　月初、初旬（月の初め十日間を言ふ）

ついたち(名)　朔日、吉日（一月の最初の日）

ついたちやうこ(名)　御立庫子、庫風、歩庫子（ついたちに同じ）

ついたちう(他)　追付、たちまち

ついたちう(自)　追付、たちまち（死人を）

ついたて(名)　衝立、歩障、掩障（宮門等に立て陪臣等に用ふる具）

ついたん(他)　追談、たびかさる追説

ついたん(他)　追談、たびしまうつる、まさまりまたうつたく

ついとう(他)　追陪（死後に官位等を贈ること）

ついとう(自)　追徒、たびたまふ、まさまり

ついとく(名)　追徳、追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(他)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(自)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(名)　追徳、たびたまふ、まさまり（位階に

ついとく(名)　追徳、たびたまふ、まさまり（豆もきなどを

ついとく(名)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(名)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(他)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(他)　追徳、たびたまふ、まさまり

ついとく(他

つぼかは（名）鉦（戸の掛金を受ける金具）

つぼかは（名）局、丙舎（文官の殿舎を聞ふ）又僧川（畔花淵原の河岸の文部を局と言へり）一つ

つぼかはのつぼね（名）局文部（京都島原の遊女の一級にして端女郎（はしりのつぼね）を兼ねる者）

つぼかは（名）撥鼓（ばちつぼ（鼓の内に玉を投げ込む鼓））

つぼかは（名）笛（つぼまる（花をつぼむ））

つぼかはり（名）中将棋（中将の駒を裏返かしたる者）（雅物）

つぼかり　坪内（氏）

つぼかり（名）投壺（遊戯の名、此國に見ゆる者は此遊びに用ふる具なり）

（図の投壺）

つぼのいしぶみ　壺碑、坪碑（古昔の多賀城の門碑なり之を云ふ今の磐前仙台の宮城郡市川村は其城の跡にして今碑尚存す、其碑に曰く、去京一千五百里、去鎮守府國界一百十里、多賀城、去常陸國界四百十二里、去下野國界三百七十四里、去鎮守府國界三百三十里

つぼが（名）蕾（小く咲き蕾）

つぼ（名）壺（屋敷中の通路を云ふ）一に

つぼ（名）局（つぼね（宮殿の）

つぼ（名）目的（めあてのところ）

つぼ（名）田螺（たにし（動物））

つぼいり（名）壺焼、壺炙（つぼやき）

つぼかり　薬三（陸奥國十和田山より發す）

つぼ（名）蕾、つぼまる、玄蘇、乙点、遊波、鬱蔵（動物）

つぼ（名）黄蜀葵、鬼（實は蕾に似て身は魚なる者、又た曰く黄身にして角あり能く飛び躍る魚）（動物）

つぼのぐち（名）蕾口（器具の名）（つぼ口）

つぼのぐち（名）蛇含草（植物）

つぼのまち　蕾町（越後國西蒲原郡の町）

つぼのつき（名）蕾去月（太陰暦八月の異名）

つぼ（名）鬱元（つぼのうは）

つぼの（名）戎兵、軍人、軍士、甲士、戍士、兵士

つぼのたち（自）兵立（劇所の間をようはらを）

つぼ（名）勉（筆の一部）

つぼ（名）坪（六尺四方を一坪といふ）一また場所は（鑑鞠の坪即ち「けりのつぼ」なり云ふ）

つぼ（名）蕾（つぼまる）

つぼ（名）局（つぼね（宮殿の）

つぼ（名）目的（めあてのところ）

つぼ（名）田螺（たにし（動物））

つぼいり（名）蕾焼、蕾炙（つぼやき）

つぼかは　蕾川（陸奥國十和田山より發す）

つぼ（名）蕾、つぼまる、玄蘇、乙点、遊波、鬱蔵（動物）

つぼ（名）黄蜀葵、鬼（實は蕾に似て身は魚なる者、又た曰く黄身にして角あり能く飛び躍る魚）（動物）

つぼのぐち（名）蕾口（器具の名）（つぼ口）

つぼのぐち（名）蛇含草（植物）

つぼのまち　蕾町（越後國西蒲原郡の町）

つぼのつき（名）蕾去月（太陰暦八月の異名）

つぼ（名）鬱元（つぼのうは）

つぼの（名）戎兵、軍人、軍士、甲士、戍士、兵士

つぼのたち（自）兵立（劇所の間をようはらを）

つぼ（名）勉（筆の一部）

つぼ（名）坪（六尺四方を一坪といふ）一また場所は（鑑鞠の坪即ち「けりのつぼ」なり云ふ）

つぼ（名）蕾（小く咲き蕾）

つぼ（名）蕾（屋敷中の通路を云ふ）一には

つぼ（名）局（つぼね（宮殿の）

つぼ（名）目的（めあてのところ）

つぼ（名）田螺（たにし（動物））

つぼいり（名）蕾焼、蕾炙（つぼやき）

つぼかは　蕾川（陸奥國十和田山より發す）

つぼた（名）壺碑（多賀城の碑）

つぼた（名）蕾、花蕾、蕾花、蕾芽、白蕾、かやのは（植物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）蕾、蕾乱（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）文蘇（阜州の方言）（動物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）鑿、たなかの、白頭翁（植物）

つぼたつ　椿子村（武後國生蕾郡の村名）

つぼた（名）鑿（はば）、廻、鞠

つぼたつ（名）蹶、蹶（わたり）（動物）

つぼたつ　如意（つぼりかまり）の枕詞

つぼた（名）山茶、椿、海石榴（植物）

つぼた（名）唾、口津、口液、口沫

つぼた（名）鑿（つぼまる）（刀鑿の）

つぼた（名）木蓋（つぼの蓋）（植物）

つぼた　椿油、山茶子油（山茶の實を搾りて取れる油）

つぼた（名）椿餅（つぼまる）（椿の葉に包む）

つぼた（名）椿鍋、椿鍋、油鍋（つぼまる）（植物）

つぼた　津幡町（武蔵國河北郡の町）

つぼた（名）蕾、花蕾、蕾花、蕾芽、白蕾、かやのは（植物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）蕾、蕾乱（つぼまる）（動物）

つぼたつ（名）文蘇（阜州の方言）（動物）

つぼたつ（名）蕾（つぼまる）（動物）

つぼた（名）鑿、たなかの、白頭翁（植物）

つぼた　椿子村（武後國生蕾郡の村名）

つぼた（名）鑿（はば）、廻、鞠

つぼたつ（名）蹶、蹶（わたり）（動物）

つぼた　如意（つぼりかまり）の枕詞

つぼた（名）山茶、椿、海石榴（植物）

つぼた（名）唾、口津、口液、口沫

つぼた（名）鑿（つぼまる）（刀鑿の）

つぼた（名）木蓋（つぼの蓋）（植物）

つぼた　椿油、山茶子油（山茶の實を搾りて取れる油）

つぼた（名）椿餅（つぼまる）（椿の葉に包む）

つぼた（名）椿鍋、椿鍋、油鍋（つぼまる）（植物）

つぼた（名）茶、茶筒（花の未だ開かざる者）

つぼた（名）國是、つぼまる、はらひ

つぼたすみれ（名）筒頭菫、菫菜の一種（植物）

つぼん（名）腹帯、腹衣、つぼまる、たんぞう

つぼんつり（名）十字帷、帷幕、つぼまる、つるす

つぐた（名）光蝶、かひのたつ（動物）

つぐ（名）蹲、蹲び、つぐんだ、ぼ

つぐ（名）昆、風且、早朝、早旦、始且、はやそのあ

つぐ（名）冠、つぐまる、冠首、つぐみの

つぐ（名）都度、たびたび、毎年

つぐ（名）泥闘、泥、たはら

つぐ（副）夙、早朝、つぐまる、つぐはる、つぐ

つぐる（他）集、あつまる、よびあつめる、召集、ひとつにする

つぐり（名）図版、図形、図面、えつ

つぐつぐ（副）都度、都度、たびたび、ことごと

つぐ（自）会、集、聚、湊、輻湊、輻集、蝟集、集合、輻集、あつまる、まりあつまる

つぐ（他）、積、吻、物、力、勉、勉強、勉力、勉勉、努力、勉務、孜孜、孜、孜孜、孜孜、孜

ちゃうあ　土神(氏)

ちゃうあう(名)　腋(馬の腹下の肥たる所を言ふ)

ちゃうすがり(名)　土蜘(南部の方言)こがはち(動物)

ちゃう(名)　拘攣ひきつり痙攣(手足の)

ちゃう(名)　釣鐘　鐘鐘かくりきに

ちゃう(名)　釣うきこと　うきこと

ちゃうし(名)　釣糸　繩　うきつりと　繩繩つり

ちゃうし(名)　釣針　うきつりはり　魚鉤　曲鉤

ちゃうし(名)　所機　うきこしはしこ　はしはしこ　二鐵

ちゃうし(名)　所機　うきこしはしこ　はしはしこ

ちゃうしつ(名)　紐帽子　うきこしはしこ　はしはしこ

ちゃうしつ(名)　釣棚　つりだなうへ　に魔手

ちゃうしつ(名)　所機　うきこしうへ

ちゃうの(名)　釣殿(池上に建かたる殿)

ちゃうし(名)　所生(食ふ)

ちゃうちゃう(名)　所機　(國の床)

ちゃうあ　土神(氏)

ちゃうあう(名)　腋(馬の腹下の肥たる所を言ふ)

ちゃうすがり(名)　土蜘(南部の方言)こがはち(動物)

ちゃう(名)　拘攣ひきつり痙攣(手足の)

ちゃう(名)　釣鐘　鐘鐘かくりきに

ちゃう(名)　釣うきこと　うきこと

ちゃうし(名)　釣糸　繩　うきつりと　繩繩つり

ちゃうし(名)　釣針　うきつりはり　魚鉤　曲鉤

ちゃうし(名)　所機　うきこしはしこ　はしはしこ　二鐵

ちゃうし(名)　所機　うきこしはしこ　はしはしこ

ちゃうしつ(名)　紐帽子　うきこしはしこ　はしはしこ

ちゃうしつ(名)　釣棚　つりだなうへ　に魔手

ちゃうしつ(名)　所機　うきこしうへ

ちゃうの(名)　釣殿(池上に建かたる殿)

ちゃうし(名)　所生(食ふ)

ちゃうちゃう(名)　所機　(國の床)

ちゃうあう

つかい

つかい（名）遊物（うしはりの方言）

つかいこ（名）蛹（蛹の方言）ゆりは（植物）

つかいこ（名）蛹（蛹の方言）ゆりは（植物）

つかいこ（名）蛹（蛹の方言）ゆりは（植物

ぶ、支住、授住

つかく（名）支、さしつかく＝また痙攣、ちぢは り（胸の病）

つかくる（自）支、貫、閂、ちはる、若＝、ちはら（胸膈等が）

つかくまつる（自）事、つかくたてまつる、つかく る（両父母等主などに）、奉事、仕

つかりぐさ（名）蓼、たかりぐさ（植物）

つかる（自）浸、漬（水に）、ひたる

つがる　津軽（氏また地名）

つがるふじ　津軽富士（陸奥國津軽郡に在る名山、岩城山とも云ふ）

つがるごほり　津軽郡（陸奥國の郡にして東西南北中に分る）

つかた　塚田（氏）

つかれる（自）疲、倦、疲、疲、疲、倦、倦、倦、疲、よわる

つかは　津金（氏）

つかはる（他）束、たばねる、細

つかはぎ（名）倍、杖（つくのたぐひ）

つかはみ（名）酒肴、おうとしきもの、ねこぞ、あり たたみ（鍋の表を出べて放き物きしたる者）

つかむ（他）摑、摑、掴、掴、摑、摑抓（指にて掴る）

つかまつる（自）奉仕（「つかくまつる」を見よ）

つかのま（名）束間、旅時、間間、しばらくのあひだ

つかのあした（名）少時、瞬（「つかのま」を參照せよ）

つかのつの　樫木、樫木（「いやつきつき」の枕詞）

つかやま（名）墓封、土封、はかやま（土を高くせる墳墓等）

つかまる（他）抱、抱、抱、つかむ＝まとらふる

つかまごほり　筑摩郡（「ちくまごほり」に同じ、信濃に在り）

つかふ（他）使、使用、もちふる

つかふ（他）遣、費、費、つひやす（金などを）＝やる、おこなふ

つかふ（他）除、おふる（塵埃などを）

つかふ（他）放、はなつ、とばす（鷹を）

つかふ（他）刺、あてがふ、はふる（矢を弓に）

つかふ（自）番、双、ひとならぶ、つれになる＝つ るも

つかふ（名副）那合、あはせたが、しあたか＝かつて、とりあはし＝しあて、あはせて

つかふた（名）束鮒、たばねた（大きなる鮒）、ひさつかのふな

つかまつり（名）柄袋（刀の柄にかぶせる袋）

つかまつる（自）奉仕、事、奉つかくまつる、奉公

つかごほり　都賀郡（下野國の郡の名）

つかは（名）壁天、荒孔、穿、穿、壁穿、はかあな

つかさ（名）司、官、つかさどるところ＝又つかさどるもの、官、宰、長

つかさ（名）綱、かたなのつか（「つか」を參照せよ）

つかさどる（他）主、掌、司、宰、職、典、主宰、主掌、主宰、司宰、主管、管理、宰知、擔任、ひきうける、をさめる

つかさくらゐ　官位（官職と位階）

つかさやくこと（名）官役（官職の役務）、つかはれ ごと

つかさめし（名）司官、除任、除目、任官（古語）

つかさびと（名）官人、官吏、やくにん、有司

つかみとり（名）摑取、掴取、つかみとること

つかみどり（名）雲鳥、あらきとり（鷹鷂の類）

つかみだす（名）摑出、摑出、つまみいだす

つかみころす（他）摑殺、扼殺、摑殺、つまみころす

つかみとる（他）掴殺、つまみとる

つかみあふ　掴合、相搏、あひつかむ

つかひ（名）使、使者、使役、使丁＝行官、行人、使節、つかはさるるひと

つがひ（名）番、匹、對、ならび、つれ

つがひ（名）雙雀、つれ、ふたつとり（鳥の）

つがひ（名）交尾、番尾、まじはり（鳥獸の）

つがひ（名）節、骨節、節節、ふし

つかひがた（名）使鶏、使番

鶏（近來歐洲にて耳慣を報ずるの用に供し又我邦にても泉州堺の相場師が物價の高低を報ずるに用ひ一事あり但此の鶏は鷄形杯の谷り附かせる爲めに小なる竹の笛を附けたるものなり）

（鶏の鳴聲）

つかひびと（名）使官、官人、つかひ官、官吏、官人、官吏、官人、官吏、官人

つれる(自) 携、伴、ともなふ、たづさはる、提ひ、ひきつれる、率ひ、率ひもある

つれだつ(自) 連立、同伴、同道、ともなひゆく、同行

つれそふ(自) 連添、配偶(夫婦となる)、めをとになる

つれづれ(名形) 徒然、無為、無事、無聊、たいくつ、ものさびしさ

つれなし(形) 冷淡、無情、なさけなし、あはれかなし、むごし

つれぶし(名) 謡唱、謡節(一同に詞を合せて歌ふ節)、合唱

つれこ(名) 連尼、優子、娼子(妻がつれもたれる尼夫の子)

つゝがはり 筒井郡(備中國の郡の名)

つれあひ(名) 配偶、匹偶、つま或はつれ、つれうふひと

つれゆく(他) 伴行、同伴、同道、ともなひゆく、＝引数、並行、ひきつれゆく(官語に)

つれびき(名) 連引(一同に三絃等を調べ合ひ)

つゝ(名) 筒、くだ、管

つゝ(接続詞) 乍、ながら

つゝ(名) 十九、＝または十、とを

つゝ(名) 無窮(連歌の左官)、つゝけ

つゝ(名) 筒、だ、ひて、ひてがひ、ひたり

つゝる(名) 筒井(円形に堀りたる井戸)

つゝる 筒井(氏)

つゝらか(名) 鎖管、くさりから

つゝるむら 筒井村(大和國添下郡の村名)

つゝとをる(名) 砲筒、つゝはらひ、はらひ(大砲の)

つゝより(名) 支柱、支撐、撐柱、ちやちく、ちやちく、つゝかひぼう

つゝとる(他)(自) 突張、つゝはる、＝はりつる

つゝどり(名) 鶴、敢乎鳥、吐敢鳥(黒色黄斑大嘴の水鳥にして此鳥の居る處には敵多し故に俗此鳥をもて敵を吐く者と爲す因て此名あり)(動物)

つゝり(名) 雹霰、やなれこうり、つゝれ

つゝり(名) 綴、綴、とぢあはせ、＝又つゝみ(文字の)

つゝりあはせる(他) 綴合、とぢあはせる

つゝる(他) 綴、つゝる、つゝる、＝あや、綴

つゝが(名) 恙、つゝみ、ものはり、おそれはひ、＝やまひ、＝又つゝがのむし

つゝがなく(副) 無恙、ものはりなく

つゝがのむし(名) 恙蟲(腐後ものに多くして人の足を刺すと云ふ)

つゝかひぼう(俗)(名) 支柱、ちやちく、ちやちく、撐柱

つゝたい(名) 筒袋、筒形、(鉄砲を蔵る袋)

つゝたち(自) 筒立、たちあがる、

つゝだれ(名) 川霧、霧雨、＝また霧雨(仁「ふ、ら」の下を見よ)(植物及其實)

つゝだけ(名) 筒竹、たけのこ、つゝにしたる竹

つゝれ(名) 襤褸、ぼろ、やなれぼろ、補衣、襤褸衣、はりあるぼろ

つゝれにしき或つゝれのにしき(名) 破錦、ぼろにしき、＝又金襴、錦の1種)

つゝれころも(名) 襤衣、破衣、やれごろも

つゝこそで(名) 管袖、ほうそうで

つゝなまをとり(名) 雁、かり(動物)

つゝら(名) 葛籠、柳籠、籐籠、やなぎとり、＝竹籠

つゝら(名) 葛藤、つるくさ

つゝらいし(名) 鍾乳石、つらいし(赤柱の如く垂れ下れる石)

つゝらをり(名) 互折、羊腸、九折、曲折、たがひ、ながながり(山路の幾重にも折曲れる者を謂ふ)

つゝらかづら(名) 木防己、つゝらふじ、あをかづら(植物)

つゝらかず(名) 葛籠数(江州水口より出づる所の者にして婦人の帯を染るに用ゐる品)

つゝらをんな(名) 葛籠婦人(昔し江戸芳原遊廓に抱屋のありし時分女郎の夜具布団を持ちゆく男にて葛屋(行李やうのもの)の面白を曲持をせしと云ふ)

つゝらぶし(名) 木防己、あをかづら、防己(植物)

つゝらぶし(名) 葛籠(尾州の方言)、かうすのき

つゝしんぞう(植物)

つゝみ(名) 鼓鍵、つゝみはこ

つゝむ(他) 裹、包、繕、包住、括、包含、包裹、～る、ひるがへる、ものを、國、＝また懐、胸、か～す、ひめる

つゝう(名) 頭痛、頭疾、頭病、あたまいたみ、＝酸漿(葉の日にする頭痛)

つゝく(他) 啄、つゝく(鳥が啄にて)、＝こつはる

つゝく(自) 續、連續、連綴、連繋、つゝきある、たえず

つゝぐち(名) 筒口、ちやく(鉄砲の)、＝又つゝぐち

つゝのもの(名) 黄昏、ゆふ～れ、ゆふ～れ、たそがれ

つゝやそだち 十九三十

つゝやく(自) 呟、ものをも～ひ、ひそひそ、耳語

つゝみ(名) 鼓、鼓、つゝみ、つゝみ

つゝまり(名) 約、縮、少、ちゞまり、つゝまり、＝また縮、肩、ちゞまり、ちゞはり、ちゞめ

つゝまる(自) 被裹、つゝまれる、つゝまれてある

つゝまる(自) 約、つゝまる、＝縮、ちゞまる

つゝまやか(形) 約、倹約、節倹、節用、減殺、節減、つゝましやかなる、ちゞまる、ちゞまる

つゝましからぬ(形) 不謹、はしたない、しからぬ、はしたない、はしたない

つゝましい(形) 包慎、慎、沈謹、謹慎、ものいはず、ものいはず、＝合羨、はづかしい、はづかしい

つゝまり(名) 面帽、かけまり(身に掛る守護札)

つゝけ(名) 續、連接、つゝはる、つゝかれる

つゝけうち(名) 連撃、つゝけうち(鉄砲を引つゝけて放ちたる事)

つゝじる(他)(自) 突入、つゝこむ、＝躍入、ものはせる

つゝじ(名) 筒鍔(鍔の「こ、ま」の間の名)

つゝき 都筑、綴(氏)

つゝき(他) 續、連續、つゝきあり、たえまなくこと、＝又繼續、つゝきのまま

つゝき(名) 綴喜(繼體天皇の都したまひし地にて山城國に在り)

つゝきり(名) 面切、(飯を面の如くに切る事また切りたる者、料理に云ふ所)

つゝきのやま 都筑山(丹波國の山)

つゝきをり 綴喜郡(山城國の郡の名)

つゝきをり 都筑郡(武蔵國の郡の名)

つゝきもの(名) 綴物、長話、ながーつゝきもの(書物小説等に謂ふ)

つゝぬる(他) 繕、ぬりかへる、ぬかしかへる

つゝめく(自) 囁、つゝやく、ものをいふ、ひそひそ、ひそひそ、耳語

つゝみ(名) 堤、堤、防、堤防、堤防、どて、みづつゝみ

つゝみ(名) 包、つゝみもの、つゝまるもの

つゝみ(名) 慈、慈、疾病、つゝがなし

つゝみ 堤(氏)

つゝみ(名) 鼓、鼓、鼓、切鼓(樂器の名)

つゝみゐど(名) 堀井、ちやうひゐど、はたるゐど(四方を堀にて囲める井戸)

つゝみいれ(名) 包入(料理の1法)

つゝみかし(名) 弁当、(木の葉などに包みて下々の人に與ふる食物)、つゝみかし

つゝみがたら(名) 鼓乳、巴瓦(かはらの「か、は、ら」の下に図あり見るべし)

つゝみがたけ 鼓岳(丹後の與謝郡に在る山、又隱岐國知夫郡に在る山の名)

つゝみがたき 鼓ヶ滝(紀伊國有馬郡に在る有名の滝、又豊後國大分郡に在る滝の名)

つくまがみ（名）包紙（物を包む紙）
つくまたまご（名）包玉子（料理の名、桔口の内く厚き紙を押入れ折目つきて鯉々の形をなす此中へ玉子を割入て桔口を共に湯煎する也）
つくみのかわ（名）鼓皮（大鼓などに張る皮）
つくみのやま　鼓山（丹波國の山の名）
つくみぐさ（名）痛草（植物）
つくみぐさ（名）牛子草（佐渡の方言）、ははこぐさ（植物）
つくみくり（名）瓦釜、つくみくり
つくみや（名）袋（煙草等の包紙）、＝まるやき
つくみゆ（名）鼓糸（鼓に張る糸）
つくし（名）、筑紫、山桔梗、あきつくし、山郭公、やまつくし、＝映山紅、きりしま、＝杜鵑花、さつき（植物）
つくしる（他）啜、つくしる
つくしたち　筑紫花（にはくさ等の枕詞）
つくしりつた（名）口吟歌、くちずさみうた
つくしる（自）啜、すする（口にて）、＝又、くちずさむ、口吟
つくしがおか　筑紫岡（陸奥國の有名の地）
つくしむ（自）怖、怖、慄、慄、震、慄、唸、慄、慄、慄

つむり（名）頭、首、かしら、あたま

つむりのたち（名）脳漿、あたまのはち

つむがりのたち（名）尖鋒劍（一ちなみの鋒劍をいふ）

つむがた（名）紡錘形、つむのかたち、三角錐形

つむれ（名）畦畔、つゝね、附畦（田の中の小高き所）、畔

つむぐ（他）紡、紡績、いとをとる

つむぎ（名）紬、紬織、平紬（絹の名）

つむぎて（名）紡工、いとをとりて

つむじ（名）畦畔、畔、つゝね（田の中の高き所をいふ）

つむじ（名）毬毛（毛髪のまろ〳〵あつまりてはえるをいふ）

つむじ（名）旋毛蟲（動物に寄生する毛髪の如き蟲）（動物）

つむじ（名）旋風、つじかぜ、つむじかぜ（下を見よ）、＝又つむじまき

つむじかぜ（名）旋風、回風、回飈、ふきおはしかぜ、つじかぜ

つて（名形）通、とほり、＝ほき（蔡狄＝二通の）、＝粹（通人なる）

つていせい（名）通有性（諸物に通じて共に具たる性質）

つていん（する）（他）補飲、餞飲、たはなけのむ、

つて（名）面、顔、かしら、あたま

つてのうち（名）腦漿、あたまのはち

つてがりのたち（名）尖鋒劍（一ちなみの鋒劍をいふ）

つてがた（名）紡錘形、つむのかたち、三角錐形

つてれ（名）畦畔、つゝね、附畦（田の中の小高き所）、畔

つてぐ（他）紡、紡績、いとをとる

つてぎ（名）紬、紬織、平紬（絹の名）

つてぎて（名）紡工、いとをとりて

つてじ（名）畦畔、畔、つゝね（田の中の高き所をいふ）

つてじ（名）毬毛（毛髪のまろ〳〵あつまりてはえるをいふ）

つてじ（名）旋毛蟲（動物に寄生する毛髪の如き蟲）（動物）

つてじ（名）旋風、つじかぜ、つむじかぜ（下を見よ）、＝又つてまき

つてじかぜ（名）旋風、回風、回飈、ふきおはしかぜ、つじかぜ

つて（名形）通、とほり、＝ほき（蔡狄＝二通の）、＝粹（通人なる）

つていせい（名）通有性（諸物に通じて共に具たる性質）

つていん（する）（他）補飲、餞飲、たはなけのむ、

つたへ（名）通、とほり、＝ほき（蔡狄＝二通の）、＝粹（通人なる）

つていせい（名）通有性（諸物に通じて共に具たる性質）

つていん（する）（他）補飲、餞飲、たはなけのむ、

つたへ（名）通路、かよひぢ、とほりみち

つたへ（名）通信、公信、電信、たしかなるらせ、たより、＝眞理

つたへる（名）一する（他）通報、しらせ、報知、たより、しらせる

つたへる（名）通法、通道、ものはくとほるみち（一般の大道）

つたへる　通試、はかりこゝろみ、はかる、ためす、ためはする（敵と）

つたへん（名）通譯、通事、舌士、舌官、舌人、象胥（外國語を翻譯して通ずる人、また其譯）

つたへる（する）（他）通知、しらせる、つたへる

つたへやう（名）通帳、通牒、かよひちやう

つたへやう（名）通渠（下水に同じ）、どぶ

つたへ言（名）通方、前通方、ふしぎのうわさ

つたへ（名）通行、通衢、とほりみち、ゆき

つたへ（名）一する（自）通行、とほりゆく、ある

つたへる（名）一する（自）通用、とほること（金銀等が）、とほる、たこなはる

つたへる（する）（他）通達、しらせこえる、通知

つたへ（名）通道、大道、とほりみち

つたへ（する）（自）補飲、ふたゝびのむ

つたへ（形副）通例、なみの、ありふれたる、よのつねの、＝なべて、よなかに

つたへ言（名）通鄰、隣、忍、すくかつら（通物）

つたへ（名）補遺、ふたゝび、ゝるしみ

つたへて（形）通俗、わかりやすき

つたつたし（俗）（形）圓圓敦、ちうちやくなれ、ものしんなしまつかまし、彼、不知所

つたつぼ（名）通底管（小便を通せしむる管）

つたつた（名）通道、ものはこび（陸上の）、運搬

つたて（名）通衢、街道、とほりすぢ、たはぎはり、通街、大道、ちまた

つたて（名）補苦、ふたゝび、ゝるしむこと、補遺

つたてに（俗）圓圓、ちう〳〵に、ちまと〳〵に

つたて言（する）（自）通過、とほりすぎる

つたて言（名）通貨（通用金銀貨幣を言ふ）

つたてない（形）補快、こゝろよく、こゝろよき

つたてない　通敏、よしみをかよはす（敵に）

つたてない　通恩、ものしたくてのうれ（一般の敵者）

つたや　通夜、よもすがら、ひとよ、＝又つや

つたや或つたてや　補弊、ふたたびかゆる（利害の關係などを言ふ）

つたやく（する）（他）通譯（外國語を翻譯する）、訳（する）

つたけい（名副）通計、合計、しるだか、＝はせ

つたれ言（名）通鄰、隣、忍、すくかつら（通物）

つたえ（名）補遺、ふたゝび、ゝるしみ

つたえて（形）通俗、わかりやすき

つたつたし（俗）（形）圓圓敦、ちうちやくなれ、ものしんなしまつかまし、彼、不知所

つたつぼ（名）通底管（小便を通せしむる管）

つたつた（名）通道、ものはこび（陸上の）、運搬

つたて（名）通衢、街道、とほりすぢ、たはぎはり、通街、大道、ちまた

つたて（名）補苦、ふたゝび、ゝるしむこと、補遺

つたてに（俗）圓圓、ちう〳〵に、ちまと〳〵に

つたて言（する）（自）通過、とほりすぎる

つたて言（名）通貨（通用金銀貨幣を言ふ）

つたてない（形）補快、こゝろよく、こゝろよき

つたてない　通敏、よしみをかよはす（敵に）

つたてない　通恩、ものしたくてのうれ（一般の敵者）

つたや　通夜、よもすがら、ひとよ、＝又つや

つたや或つたてや　補弊、ふたたびかゆる（利害の關係などを言ふ）

つたやく（する）（他）通譯（外國語を翻譯する）、訳（する）

つたけい（名副）通計、合計、しるだか、＝はせ

つたけん（する）（自）通過、とほりすぎる

つたけん（名）通券、とほりてふだ、通行免狀

つたけん（名）通玄（眞実なる神ナ眞の中より明を出ス術を得たる仙人なり）

つたけん（名）通首、とほりこゝは（或部分に行はるゝ言葉、花街通言などを言ふ）、＝術語

つたふる（名）補風、はるかゝぜのうたもやまひ、ルカチス（病名）

つたつて　通國、國中、全國、〳〵にて

つたつて（する）（自）補哭、ふたゝびなけ〳〵

つたつて（する）（自）通徹、とほる、しみわたる

つたつてんけい　通天橋（西京の寒霞亭に在る橋）

つたつた言（名）道草、通草、あけびかつら、あけび（植物）

つたつた言（名）通徹、かよひぢ、とをかぜ

つたて言（名）通義（一般に行はれて人の信ずる道理）

つたて言（名）通字（女郎貫の事に稱ふ名）

つたて（名）通說（性子明にして正しかりしを言ふ）

つたて（名）通譯、通辯（つうべん）、譯語者、象胥、狄鞮

つたて言（名）通稱、とほりな（人の）、あだな

つたけん（する）（自）通過、とほりすぎる（外國語）

つたてやう（名）通情（天下一般の情理を謂ふ）

つたてやう（形副）通常、ありきたり、なみ、よのつね

つたてしやうにん（名）通事舍人（唐の官名、我朝の內舍人（うどねり）に當る）

つたてん（名）通貫（錢の異名）、たゝ、かね

つたてん（する）（自）補心、こゝろをいたす

つたてん（名）通眉、たより、報知

つたて（形）補切、いとせちなる、適切、よ〳〵あたる

つたて　通宵、よもすがら、通夜

つたて言（する）（自）補償、いたみをしむ

つたてんぼく（名）通仙木、不地木、からたちばな（植物）

つたてんそう（名）通泉草、はせをこけ（植物）

つの（名）角（獸の頭に在る堅き者）、＝鬼角、きた

つのまつけ　角管村池（武藏國豐島郡角管村の池、上溜井下溜井の二あり俗之を十二社所の池と稱す）

つのえ（名）角鏡（角にて作れる鏡）

つのくら（名）角鎧（角にて作れる鎧）

つのる（他自）募、募集、百募、醵集、もとめつゝ

つたけん（する）（自）通過、とほりすぎる（外國語）

つたてやう（名）通情（天下一般の情理を謂ふ）

つたてやう（形副）通常、ありきたり、なみ、よのつね

つたてしやうにん（名）通事舍人（唐の官名、我朝の內舍人（うどねり）に當る）

つたてん（名）通貫（錢の異名）、たゝ、かね

つたてん（する）（自）補心、こゝろをいたす

つたてん（名）通眉、たより、報知

つたて（形）補切、いとせちなる、適切、よ〳〵あたる

つたて　通宵、よもすがら、通夜

つたて言（する）（自）補償、いたみをしむ

つたてんぼく（名）通仙木、不地木、からたちばな（植物）

つたてんそう（名）通泉草、はせをこけ（植物）

つの（名）角（獸の頭に在る堅き者）、＝鬼角、きた

つのまつけ　角管村池（武藏國豐島郡角管村の池、上溜井下溜井の二あり俗之を十二社所の池と稱す）

つのえ（名）角鏡（角にて作れる鏡）

つのくら（名）角鎧（角にて作れる鎧）

つのる（他自）募、募集、百募、醵集、もとめつゝ

る、あつまる、＝又稱呼はたこる

つのがのうら　角鹿浦（越前の海浦）

つのがやま　角鹿山（越前の敦賀郡に在る山）

つのがき（名）角書（雜書をいふ字の体なり）

つのがた（名）角錐、錐角、丁卯、ちがき（つのがきを上を見よ）

つのたつみ（名）角巽、角辰、巽巽、巽巽（四角にて口の付たる盥）

つのたしうし（名）牛角、牛、牛、牛

～ら）に和し用ふ）（植物）

つのあを（名）小、あげまき、びんづら、丫角、總角、つのがみ（童子が額上に二の角の如く結ねたる髪をいふ）

つのくにぶり　筑紫郡（周防國の郡の名）

つのぐし（名）角細工（角にて作れる物）

つのさ（名）角木、槌骨鏃（角の矢鏃）、つのやのね

つのきり（名）角切（奈良にて鹿の角を秋に至りて切り取るを然かいふ）

つのきりり（名）角木刺（弓の矢の根の一種）

つのゆみ（名）角弓、りまんきう、呵（弦の過に角をつけたる弓）

つのむし（名）刺鈴（「さめ」の一種）（動物）

つのもぶり（名）角紋（緋麻子の如くにして角だちたる紋綾にて女子の根掛などに用ふ）

つのもり（名）觿（角の心即ち角の真中の過）

つのやま（名）柄（甲の）

つの（名）弦、弦、たはゆみ、いしゆみ

つの（俗）（他）吐、もどす、はく（くどき）

つの（自）即（位等に）、＝就（座に）、＝附、隷、隨、したがふ、ゐ～する、＝附、寄、～つく、圍（草木が地に生きつ～）

つの（他）噴、いきをつく、吹

つの（他）進（つり鐘をつきなどすを言ふ）

つの（自）憑、とりつく（狐妖怪などが人に乗うつるをいふ）

つの（他）搗、搗、搗（米穀等を打つを謂ふ）、かて

つの（他）築、きづく

つの（他）突、衝、撞、ぶつ、たしつく

つぐ（名）佛桐子、～ろつく（椴桐科に屬して其枝は里程等に適す）（植物）

つぐ（名）呵（「つのゆみ」を見よ）

つぐ（他自）繼、續、繼續、繼續、つづく、つぎたす、かはらしもる、＝接、現、かさねる、＝調（後を受つ）、＝配（後につ～）

つぐ（他）斟、酒、うつぎたす（酒等を）

つく（名）木兎、みみづく、つのふくろ（動物）

つく（名）鐵塊、～ろがねのかたまり

つくおぶぶり　津久井郡（相模國の郡の名）

つくしあ（名）佛掌薯、佛頭薯、てんもん、天公薯、つ～ねいも、きうろうもの、たべび（植物）

つくしぐさ（名）艾、よもぎ、ちしゃもち（植物）

つくろふ（他）繕、雪、繕、修理、補理、なほす、＝刻、飾、修治、つ～りかざる、ちうはふ

つくば　筑波嶺（常州筑波郡に在る高山）

つくばうき（名）塹、茨花、こつ～ばな（忍冬科の木）（植物）

つくばねそう（名）砧草、きぬたぐさ（雷草の一種）（植物）

つくり（名）玉蜀（百合科の草）（植物）

つくりあ（自）蹈、ふみ～まる、したにすわる

つくばぶり　筑波郡（常陸國筑波郡に在る名山にして海面より十丁の高さに達す）、つ～ばね

つくば（名）突棒、鐵把、鐵棒、鐵杵、槍（捕守又は門番等が人を傷りすして捕ふる爲めに用ひし武器）

（圖の棒突）

つくまちまち　築土八幡町（東京市牛込區牛込の町）

つくり（名）蟲、ゐもの、みつ～（動物）

つくり（名）象（漢字の右旁を謂ふ）

つくり（名）作、製、造作、つ～りかた

つくり（名）蟬、のせ（動物）

つくりだな（名）造花、作花、絹花、假彩、羽飾、こしらへばな

つくりだし（名）小戴、ものがたり、戴、＝こしらへごと

つくりぼとけ（名）木佛、石像（木石を以て彫刻したる佛像）、佛像

つくりもの（名）作物、造物、こしらへもの

つくりものがたり（名）作物語、小說、稗史、つ～りはなし

つくる（他）造、作、造作、製造、爲、こしらふ、＝いとなむ、造、營、＝たてる、建、設、建築

つくる（他）作（田畑に物を植付するを謂ふ）

つぐ（名）圓、まる

つくよ（名）月夜、つきよ、つきあかよ

つくだ（名）佃、旬、稻田、つ～りだ、いねつ～るた

つくだ　佃（氏）

つくだに（名）佃煮、しほからにつけ（小魚肉片等を醤油にて鹽からく煮たる者）

つくだじま　佃島（東京市京橋區築地の海にある石川島の一部分にて監獄署の所在地）

つくつく（名）蟬、蜩、つくつくぼうし、ぢ～ぜ

つくつくぼうし（名）蜩、蜩（秋の蟬）（動物）

つくづくし（名）土筆、錐頭菜、筆菜、ふでつばな、ふでのかたちの～ち（植物）

つくばら（名）佛手薯、山芋（「つ～ら」を見よ）（植物）

つくねる（名）担、こねる、こねてこしらふ

つくねん（俗）（副）徒、空、むなし、～ぐんぐんと

つぐら（名）薦、あらむしろ、あらのこもの

つぐら（名）籠（小鳥を入れた～籠）、＝ゆりかご

つくらぬた　散田、間田、休田、やすみた

つくろひ（名）修繕、修理、つ～ろひ

つぐむ（他）黙、だまる、おとなし、ふさぐ（口等を）

つぐのふし　翌年、あ～るとし

つくのあ（自）客作、はたらく、やとはれてはたらく（「つ～のひびき」を見よ）

つぐのふ（他）賃、賃知、依頼、たのみ、かくす、うまる

つぐのあぶね（名）船、ふね、雇船、うみふね

つぐのあした　翌朝、翌朝、明朝、あ～るあさ、つ～あす

つぐの（名）賠償（物を損し又は害を及ぼした

つやう（名）圓樣、もやう、かた（陶器などの樣樣を謂ふ）

つやか（形）有光澤、艶美、ひかりがやく、莊麗

つやまち　津山町（美作國西北條郡の町名）

つやめく（自）有光澤色、つやかがやきうごめく（木葉などが）

つま（名）調味、炙、あひて（肉類等に合せ食ふ菜蔬等をいふ）

つま（名）常、常住、恒、ふつう、ふつう（衣の）〃端、〃

つま（名）妻、主婦、つれ、ふうふ、〃夫、をつ、〃つれあひ

つま（名）線、てがかり、ゆかり

つまいり（名）蹄、蹄、蹄、蹄（牛の蹄の樣の名）

つまだちみ（名）用意、ゆびはれもの、腫瘍

つまだつむ　棚、つまだつ、ものうきかかげる、差

つまとり　爪、爪、理指、（爪にてはじき弾む事）

つまびに（名）風仙、はうせんくわ（植物）

つまぶ（名）妻戸（厚き板戸にして帶ある者）〃

又のものとりくるもの

つまぶる（他）褄（つまはづむに同じ）

つまり（副名）結局、結句、畢竟、なりはて

つまる（自）詰、ふさがる、〃ふさがる、短、みじ

（呼ぶ意し古多く土産を生ずるを以てなり）

つくしがた　筑紫潟（肥前肥後と筑後に包まれた海灣の名、之を前灘又有明沖とも云ふ）

つくしのしま　筑紫小島（筑前國の島）

つくしぶし（名）筑紫節（西海道にて製造する物）

つくしもち（名）筑（十三絃の琴）

つくだ（名）案、卓、机、〃まだ机（祭品を載る）

つくもどころ（名）作物所（禁中工作所にて金銀等の器を作る場）

つくがみ（名）九十九髮、蓬髮、蓬頭、などうがみ、かたがみ、海藻髮、亂髮、前拳髮、

つくづく（名）江湖草、ささのな（植物）

つくしま　九十九島（肥前國の島の名）

つくす（他）費、盡、盡、ちからをこめてする、いたす、〃ことごとくいたす、〃のこりなくする

つくす（他）則減、珍滅、減、減、こうしたやす

つや（名）通夜、よもがら（神社佛寺に留りて終夜祈念する事）

つや（名）津屋、ふなどんや

つや（名）光澤、艶、てり、ひかり、愛（髮の）

つや（名）邸家、たびや、旅館屋、はたや

つやだに（名）光紅（山城國より産出する一種の染料）

つやつや（副）一切、一向、つゆ、すこし

つやう（名）圓樣、もやう、かた（陶器などの樣樣を謂ふ）

つやか（形）有光澤、艶美、ひかりがやく、莊麗

つやまち　津山町（美作國西北條郡の町名）

つやめく（自）有光澤色、つやかがやきうごめく（木葉などが）

つま（名）調味、炙、あひて（肉類等に合せ食ふ菜蔬等をいふ）

つま（名）常、常住、恒、ふつう、ふつう（衣の）〃端、〃

つま（名）妻、主婦、つれ、ふうふ、〃夫、をつ、〃つれあひ

つま（名）線、てがかり、ゆかり

つまいり（名）蹄、蹄、蹄、蹄（牛の蹄の樣の名）

つまだちみ（名）用意、ゆびはれもの、腫瘍

つまだつむ　棚、つまだつ、ものうきかかげる、差

つまとり　爪、爪、理指、（爪にてはじき弾む事）

つまびに（名）風仙、はうせんくわ（植物）

つまぶ（名）妻戸（厚き板戸にして帶ある者）〃

又のものとりくるもの

つまぶる（他）褄（つまはづむに同じ）

つまり（副名）結局、結句、畢竟、なりはて

つまる（自）詰、ふさがる、〃ふさがる、短、みじ

つまがき（名）爪牙（獸を鼠くを謂ふ）

つけ（俗）（名）物定、はかりつけ（容理屋の）

つけ（名）荷、貨、物、荷木、やどめ、しるつけ、その（植物）

つけ　柘（氏）

つけ（名）告、報、告知、つけしらせ、〃また計、訃音（死亡の報）

つけいる（自）附入、つけいる、〃まりこむ、〃つにのる

つけいし（名）試金石（金の等級を試むるに用ふる石）、かねつけいし

つけだち（名）偽、ふつりはな、贋品

つけすけ（名）附、扶助、たすけ、たすけなること

つけどころ（名）附、附、あはせところ

つけがく（名）教、教、教、そくがく、助智

つける（他）漬、浸、漬、ひたす、〃又關、關、しはつけにする

つける（他）點、はりつける（藥を）、〃塗、はぬこす

つける（他）付、附、着、つける、〃記、記錄、かきのする

つける（他）告、いひきかする、〃告白、告訴、申告

つけかた（名）過記、誤記、數目、過求（條分に物定を書き出す事）

つけがき（名）假裝、かもの、〃いれ

つけがた　筑紫潟（肥前肥後と筑後に包まれた海灣の名、之を前灘又有明沖とも云ふ）

つくしのしま　筑紫小島（筑前國の島）

つくしぶし（名）筑紫節（西海道にて製造する物）

つくしもち（名）筑（十三絃の琴）

つくだ（名）案、卓、机、〃まだ机（祭品を載る）

つくもどころ（名）作物所（禁中工作所にて金銀等の器を作る場）

つくがみ（名）九十九髮、蓬髮、蓬頭、などうがみ、かたがみ、海藻髮、亂髮、前拳髮、

つくづく（名）江湖草、ささのな（植物）

つくしま　九十九島（肥前國の島の名）

つくす（他）費、盡、盡、ちからをこめてする、いたす、〃ことごとくいたす、〃のこりなくする

つくす（他）則減、珍滅、減、減、こうしたやす

つや（名）通夜、よもがら（神社佛寺に留りて終夜祈念する事）

つや（名）津屋、ふなどんや

つや（名）光澤、艶、てり、ひかり、愛（髮の）

つや（名）邸家、たびや、旅館屋、はたや

つやだに（名）光紅（山城國より産出する一種の染料）

つやつや（副）一切、一向、つゆ、すこし

つまがき（名）爪牙（獸を鼠くを謂ふ）

つけ（俗）（名）物定、はかりつけ（容理屋の）

つけ（名）荷、貨、物、荷木、やどめ、しるつけ、その（植物）

つけ　柘（氏）

つけ（名）告、報、告知、つけしらせ、〃また計、訃音（死亡の報）

つけいる（自）附入、つけいる、〃まりこむ、〃つにのる

つけいし（名）試金石（金の等級を試むるに用ふる石）、かねつけいし

つけだち（名）偽、ふつりはな、贋品

つけすけ（名）附、扶助、たすけ、たすけなること

つけどころ（名）附、附、あはせところ

つけがく（名）教、教、教、そくがく、助智

つける（他）漬、浸、漬、ひたす、〃又關、關、しはつけにする

つける（他）點、はりつける（藥を）、〃塗、はぬこす

つける（他）付、附、着、つける、〃記、記錄、かきのする

つける（他）告、いひきかする、〃告白、告訴、申告

つけかた（名）過記、誤記、數目、過求（條分に物定を書き出す事）

つけがき（名）假裝、かもの、〃いれ

つまがき（名）爪牙（獸を鼠くを謂ふ）

つけ（俗）（名）物定、はかりつけ（容理屋の）

つけ（名）荷、貨、物、荷木、やどめ、しるつけ、その（植物）

つけ　柘（氏）

つけ（名）告、報、告知、つけしらせ、〃また計、訃音（死亡の報）

つけいる（自）附入、つけいる、〃まりこむ、〃つにのる

つけいし（名）試金石（金の等級を試むるに用ふる石）、かねつけいし

つけだち（名）偽、ふつりはな、贋品

つけすけ（名）附、扶助、たすけ、たすけなること

つけどころ（名）附、附、あはせところ

つけがく（名）教、教、教、そくがく、助智

つける（他）漬、浸、漬、ひたす、〃又關、關、しはつけにする

つける（他）點、はりつける（藥を）、〃塗、はぬこす

つける（他）付、附、着、つける、〃記、記錄、かきのする

つける（他）告、いひきかする、〃告白、告訴、申告

つけかた（名）過記、誤記、數目、過求（條分に物定を書き出す事）

つけがき（名）假裝、かもの、〃いれ

る意に命等を出して補ふ事）

つごもり　晦日、みそかのひ、みそかのひ、晦日、晦日

つごのひきん（名）借金、たてなひかくすかね（損害を）

つこのひびと（名）客作、雇人、ひとうかせぎびと、やとはれてはたらくひと

つこのはし　筑紫橋、つくしまつりのはし（衣の）（語を見よ）

つこのまつり（名）筑紫祭（祭の名にて近江の筑紫に於て四月朔日に執行す、此時は其土地の婦女子は鍋を被りて神輿の後に隨行するを例とし其鍋は各々隨意に男子に與ふる者なれば多くの男に與へんと思ふ者は幾枚も被り隨ふと云ふ）

つこのこ（名）鐵、鐵屑（鐵の未だ銀錆を經ざる者）

つこ（名）頭、髻、髻、まげ、まげはこう

つこゆみ（名）槻弓、つきゆみ

つこみ（名）鳥、鳥類（くうこみ、しうこみ、はちまやつこみ等の別あり）（動物）

つこのいぶし（名）白矢、おろのはうし、〃ひとまりとやうこ（植物）

つこし　筑紫（西海道の古名また氏）

つこし（名）土産、鍋頭、つこし（植物）

つこしたち　土産原（武藏國の産原産を一に然か

つまがき（名）爪牙（獸を鼠くを謂ふ）

つけ（俗）（名）物定、はかりつけ（容理屋の）

つけ（名）荷、貨、物、荷木、やどめ、しるつけ、その（植物）

つけ　柘（氏）

つけ（名）告、報、告知、つけしらせ、〃また計、訃音（死亡の報）

つけいる（自）附入、つけいる、〃まりこむ、〃つにのる

つけいし（名）試金石（金の等級を試むるに用ふる石）、かねつけいし

つけだち（名）偽、ふつりはな、贋品

つけすけ（名）附、扶助、たすけ、たすけなること

つけどころ（名）附、附、あはせところ

つけがく（名）教、教、教、そくがく、助智

つける（他）漬、浸、漬、ひたす、〃又關、關、しはつけにする

つける（他）點、はりつける（藥を）、〃塗、はぬこす

つける（他）付、附、着、つける、〃記、記錄、かきのする

つける（他）告、いひきかする、〃告白、告訴、申告

つけかた（名）過記、誤記、數目、過求（條分に物定を書き出す事）

つけがき（名）假裝、かもの、〃いれ

つまがき（名）爪牙（獸を鼠くを謂ふ）

つけ（俗）（名）物定、はかりつけ（容理屋の）

つけ（名）荷、貨、物、荷木、やどめ、しるつけ、その（植物）

つけ　柘（氏）

つけ（名）告、報、告知、つけしらせ、〃また計、訃音（死亡の報）

つけいる（自）附入、つけいる、〃まりこむ、〃つにのる

つけいし（名）試金石（金の等級を試むるに用ふる石）、かねつけいし

つけだち（名）偽、ふつりはな、贋品

つけすけ（名）附、扶助、たすけ、たすけなること

つけどころ（名）附、附、あはせところ

つけがく（名）教、教、教、そくがく、助智

つける（他）漬、浸、漬、ひたす、〃又關、關、しはつけにする

つける（他）點、はりつける（藥を）、〃塗、はぬこす

つける（他）付、附、着、つける、〃記、記錄、かきのする

つける（他）告、いひきかする、〃告白、告訴、申告

つけかた（名）過記、誤記、數目、過求（條分に物定を書き出す事）

つけがき（名）假裝、かもの、〃いれ

る小さき詩の宮、つじはこう

つまこ　妻子、めこ、にようぼうこども、妻子

つまご　妻籠（信州の地名）

つまごと（名）爪琴、琴、つめにてひくこと（樂器）

つまごいやう　妻籠町（東京本郷區湯島の町）

つまごいむら　嬬恋村（上野國吾妻郡の村名）

つまごのやま　妻籠山（丹波國の山）

つまこもる　爪隱、「つまごもは」「つまがくの山」「つまの」の詞山等の枕詞）

つまさき（名）爪先、足尖、甲尖、ゆびさき

つまき（名）櫻、包、柔、ちまき（植物）

つまき（名）爪木、薪の細き者を謂ふ）、こは、うだ

つまき　妻木（氏）

つまきり（名）爪切、つめきりもの、つめきりはさみ

つまくやま（名）妻女山（信濃國埴科郡に在る山）

つまぐし（名）鉗、ものはさみ、鉗、鉗（印等の）

つまぐれ（名）雜、雜、雜、ちまた（植物）

つまんだいこやく（名）摘物、料理の名）

つまじろ（名）爪白、爪白、爪白（指の白き處）

つまじるし（名）爪印、つめいん

つまびらか（形）詳、審、委曲、詳、委、委細、委詳、明細、詳、詳、〃はしる、逐一

つまね　社（山道または路傍などに在

つけがみ（名）附箋、紙片、はりがみ、すげがみ
つけたり（名副）附加、附錄、つけ〜はく、附添
つけたけ（名）火竹、鑑鋼、つけぎ
つけつまび（名）屬鋼、ものしれりてすまぬこと（周に云ふ）
つけね（名）附根、うらなるところ、側筋、つがひ
つけね（名）附直、後より言ひたす直段）
つけねだん　附直段、つけね（上を見よ）
つけな（名）漬菜（鹽に漬たる菜）、しばづけな
つけうり（名）漬瓜、しばづけうり
つけうめ（名）鹽藏梅實、うめづけ、うめぼし
つけの　附離肝（鎌倉國武藏郡の地名）
つけの言（名）黃楊木、つげ（植物）
つけぐち（名）告口、ひつつけぐち
つけぐさ（名）梅、うめ（植物）
つけぐし（名）黃楊櫛、つげの〜し、つけにて〜れる〜し
つけぐすり（名）附藥、はりぐすり
つけや言（形名）附燒（鐵等つけて燒く事また其物）
つけやきば（名）附燒刃、腰燒刃、みせかけは（刀等の）、＝又いれうち、をうはりうち
つけふだ（名）附札、附錄、をけふだ（定價など記せる）
つけこむ（自）付込、つけこむ、乘、乘傾、ゴにのる、＝つけこむ、配入
つけそむす（他）告訴、をそしあす
つけそね　筑紫山（伊賀の山にして近江に接す）
つけぎ（名）鑑鋼、引火、ゆわうぎ、火繩、燈芯、火す、引火奴、火奴、＝又まつち、洋販燈
つけぎや（名）鑑鋼工、つけぎつ〜り、＝つけぎうるしく
つけとう（名）附城、でまる、外城、うまのことろ
つけび（名）放火、ひをはなつこと、ひつけのわざ
つけびげ（名）假髭、つ〜りひげ、こしらへひげ
つけびん　假髮、つ〜りびん、かつら
つけもの（名）漬物、疋、漬菜（鹽等にて漬たる食物類）
つけんじま　津堅島（琉球中部諸島の一にて沖縄島の東岸にある小島）
つぶ（名）海螺、甲螺、くたなりのかひ、かひかうのかた（動物）
つぶ（名）田螺（越後の方言）、たにし（動物）
つぶ（名）團、たま（丸き物を數ふる詞）、＝また粒（米穀にいふ）
つぶ（名）無心子、桓、蔓、蔓提子、肥後子、木通子（植物）
つぶうう（名）牛夏（佐渡の方言）、かたはう（植物）
つぶつぶ（俗）（副）圓部六、まるで、十分（酒に醉ふに謂ふ）
つぶつぶし（形）圓大、まるまるし
つぶり（名）頭、つむり、かしら、首、かうべ〜び
つぶれ　潰滅、全潰、まるぬれ
つぶれゐ（名）留井、かうゐ、うまれるゐ
つぶれいし（名）回石、まるいし
つぶれる（自）潰、壞、敗、壞、頽、〜たける、＝刊、圓、壞、まる〜なる、ものがにな〜なる、＝眸、盲（目が）、＝留（井に云ふ）
つぶつぶ（形）回回、まるまる、まる〜ふまれる、つぶらか
つぶつぶと（副）詳、こまかに、つまびらかに
つぶね（名）奴僕、若頃、しもべ、めしつかひ、皂隸
つぶねぐさ（名）及己草、うまれもの（植物）
つぶや言（名）呟、〜るなし、つぶやし
つぶら（名）郭、罌、をりで
つぶらか（形）圓圓、まる〜ふまれる、ふつ〜りしたる、つぶつぶ
つぶり（名）頭、あたまかず、うかん
つぶのくた（名）甲香、かひかう、くたなり、香螺
つぶの言（名）木樓、ゆ〜げんじの（植物）
つぶのみ（名）木樓子、ゆ〜げんじ（植物）
つぶやく（自）呟、出聲言、囁（俗字）、こそこそ、〜ぶ〜ぶ、ぶつぶつ、ひそかにつ
つぶし（名）飛礫（瓦礫を擲て人を傷つる者）、礫、小石、こいし、飛石、飛礫

つぶつぶし（名）詳、つまびらかなる
つぶさに（副）具、備、悉、詳、〜はし〜
つぶし（名）瞑、〜るなし（足のつがひの突起したる骨）
つぶし（俗）（形名）潰（金銀などの器を壞ぶしたる者を云ふ）
つぶしあん（名）漬餡（小豆を煮て煮汁を共に捐鉢にあけ能く攪り混ぜつ〜りたる餡）
つぶし言え（名）漬金、つぶしたるこがね
つごもり（名）晦日、つごもり、みそか、提日、勿日（曆にて月の終の日）
つと（名）粽、ちまき、つとる、＝たより
つとんだう　頭頂倒（たふるる親もた者）
つとまち　津幡町（越中國礪波郡の町名）
つとい（名）頭領、かしらがき（頭名）
つとめ（名）社稷、みたりにつ〜ること、宇作、邏羅
つま言（名）妻、めかづま、たかつま
つま言（名）親、ひやま（植物）
つま言（名）月、天鏡、玉兎、水鏡、玉輪、素魄、蟾魄、玄兎、氷輪、金精、骨髓、金輪、桂輪、桂月、鏡輪、圓（欽武后の製字）、＝脇（月の東方に見ゆるを云ふ）、＝脇（月の西方に見ゆるを云ふ）、＝又一面月、ひとつま
つま言（名）蝶（動物）

つま言（名）月屋、つまのやけり
つま言（名）紅頭、朱鷺、とき、桃花鳥、たうのとり（動物）
つま言（名）交際、つまあひ、まじらひ
つま言（名）次、のちにまたるもの、後
つま言ふる（自）突入、つまとる、＝とりこむ
つまいれる（他）衝入、つまこむ
つまいでる（自）突出、つまいですすみいづ（城などより）、＝又やりもとすすむ
つまえ（名）機場、宿場、つまたてば（宿驛の）
つまえたす（他）突放、つまをはす
つまえらび（名）月卿、つまうまのはらひ、＝月賦
つまえむ（他）啄、つまはむ（鳥の物をつまへ〜らふを云ふ）
つまえる（自）雜果、たえはてる、た〜なる
つまえし（名）繼橋（幾つも繼ぎて架けたる橋）
つまえん（名）月番（其月の役に當る事また者）
つまえん（名）接頭、接續、つまえ、つまをはせたる
つまえる（他）衝通、つまとうぬ〜、突通
つまえる（他）衝留、つまとめる（餘等にて）
つまぶ（名）築地、つまたてち（海沼などを埋めたる國）
つまぶ　築地（東京市京橋區の地名、此に外國人の居留地あり）
つまが言（名）物、つまが、よ〜かてる（世等を）
つまが言（他）物、つまがとはす、つまがうる
つまが言る（自）雜、雜、悉、略、雜、空、空、空

つきがせやま　月瀬山（大和國添上郡に在る山）
つきがんな（名）　鉋、鑵、推刀、鉋刀、曲刀、つきけづるかんな
つきよ（名）　月夜、つきあかりのよる
つきよみのみや　月讀宮（伊勢國度會郡に在り）
つきよみのもり　月讀森（伊勢の地名）
つきたい（名）　接穂、ふかたい、ふかつぎ
つきたち（名）　月初、朔（「ついたち」を參看せよ）
つきたらず（形）　月不足、不熟胎（胎兒が十月かたらずして生るゝを謂ふ）
つきたふす（他）　突倒、つきこうはす
つきたて（名）　衝立（「ついたて」を見よ）
つきたてる（他）　突立、衝立、つきたてる
つきだし（名）　突出、つきでいたること（相撲の手などに云ふ）＝又はつゞ、はじめていうること、（遊女が始めて客を取る樣になるを然か云ふ、突出から、突出の時などいふなり）＝又しんがうのたんひ
つきだす（他）　突出、たしだす、つきでいだす
つきたす（他）　繼足、たさなひたす
つきそふ（自）　付添、侍坐、隨從、ともなうる、はべりつかふる
つきそひ（名）　付添、ともびと、從者＝又ともびと、侍女＝陵、よりかひ、よりものゝこと
つきづき　月月、まいつき（毎月）

つきの　夫夫、順夫、たんだん、ろのつきづきのつ
つきづき（副）　刺刺（ちくちく痛む心地に云ふ）
つきづきしく（副）　方便、たよりよく、相應、につかはしく、ふさはしく
つきぐさ（名）　及己草、樺耳細茸（植物）
つきくふ　月鏡（「山城」の枕詞）
つきけなし（形）　月欠、月缺、月蝕、つきごとの
つきけなしぐさ（名）　芒、すすき（植物）
つきけなし（形）　不唯、にあはぬ、につかはしからぬ
つきげむま（名）　駙馬（母飛脚の乘る馬）（動物）
つきこうし（名）　糊漿、ものをつくるこし
つきこうす（名）　若白、かうう
つきのおきな（名）　月老、月下氷人、つきひとをさこ（媒妁の神なりといふ）
つきのこ（名）　熊白（熊の咽喉の下の白毛ありて皮ゆすき所にて氣過を信ぜらる）
つきのこ（名）　月輪（侍家の袈裟の輪）
つきのこぐんか　月輪殿下（法性寺忠通公の男兼實を云ふ）
つきのかつら（名）　月桂（月中に在るといふ桂の樹にて文藝の表號）＝また陰嚢、かつらをさこ＝つきのひかり
つきのかさ　月傘（月の周圍に見ゆる非ある詞）

つきの　月山、月弓、月鏡、月夜見（素盞嗚尊を謂ふ）
つきのいぶく（名）　月鼠（月を鼠にたとへたる者）
つきのこしぼり　月氷（あをうけを月を云ふ）明月
つきのこしぼ　月之出潮（月ののぼらんとする時）
つきのそぼり（名）　月水、つきものゝ、月經、月事、月信、天癸、經水、紅潮（婦人が月毎に汚れる事）
つきの（名）　槻、けやき、樹（植物）
つきのみつ（名）　月水、つきのさはり
つきのしつく　月雫、つゆ＝英子（藥箱を砂糖にて包める者）
つきのしも（名）　月光、月影、つきのひかり、つきかげ（月箱の義）
つきのえん　月宴、つきみのうたかり
つきのひ　翌日、明日、明日、あくるひ、明日
つきのひかり　月光、素魄、つきのあかり、つきかげ
つきのもの（名）　月水、紅潮、つきのものはりの天癸
つきへたて（他）　拘理、かゝてこなにする
つきへつす（他）　突回、つきてやぶる（破る）
つきへる（名）　鴨脚樹、翌朝樹、鴨頭樹、はうしはなつゆ、ぎんなん、ぎんなんの木、竹節蓼、淡竹葉、竹葉花、かきつばた（此國は「つゆ」の下に在り）

（植物）
つきしまの　竹伺草（「うつし心」「かりなるいのち」「けぬ」を繼ぐ等の枕詞）
つきやま（名）　養蚕、こもつきやま
つきやぶ（名）　月瓜、つきさねやぶ
つきやる（他）　突放、つきさはす
つきゑん（俗）（名）　月役、ものゝ（「つきのものはり」を見よ）
つきやま（名）　築山、假山、こしらくやま
つきやま　月山（陸中國閉伊郡に在る山）
つきやぶる（他）　突破、衝破、つきてこはす
つきやり　月廻、つきのはん
つきやりふる（自）　斧鑿、眼尾、つきうふ
つきやり（名）　月待（月の上るを待つ事）＝又つきのまつり
つきやりに（形）　月隈、亥月（此月より彼月にわたる事）
つきげつ（名）　月毛、桃花馬、新白馬、陰馬、鞘毛、かはらけ（動物）
つきふ（俗）（名）　月賦（げつぷ）、つきがけ
つきぶね（名）　掘船（波艦を掘く船）＝水雷艇
つきふせる（他）　衝伏、つきこうはす
つきづきづき　月來日來、ひながく、ひひかしく
つきしぶす（他）　衝殺、撞殺、刺殺、ちしこうす
つきしむ（他）　突込、衝入、ちしこむ

つきこ　接穂、繼足、ぬひあ、ぬひあ
つきこだう（名）　突鐵砲（小兒の玩具）
つきこあし（名）　月俸、月給、つきまいふさん
つきあはせる（他）　繼合、接穂、つゝけあはせる
つきあかり（名）　月明、つきのひかり、月影、つきかげ
つきあたる（自）　衝撞、抵觸、撞着、ぶれあふ、ぶつかる
つきあげる（他）　突上、はけ〜たしあをる
つきあつる（他）　補綴、ぬひつゞ
つきあし（名）　談論、假脚、つけあし
つきあひ（名）　交際、まじはり、交通、往來
つきあはす（他）　衝刺、つきこはす
つきぎ（名）　接木、接穂、嗣穂、接枝、つぎは
つきぎり（名）　四維、まるぎり
つきぎりに（副）　無情、なさけなく、すげなく
つきぎね（名）　搗杵、かてぎね
つきゆみ（名）　槻弓、つきのゆみ（木弓）
つきめ（名）　落女、こぼつきをんな
つきめ（名）　節、關節、ふし（骨に云ふ）＝接嗣、接續、經目、ものはせめ
つきみ（名）　月見（月を眺むる事）
つきみのつき（名）　月不見月（大陰曆五月の異名）
つきみつき（名）　月見月（大陰曆八月の異名）
つきいつ（名）　月代、ちかやき

つきこたがふ（自）　隨從、ともすること、隨從
つきひ　月日、つきとひ、二國＝光陰
つきひめ（名）　羽衣、かうが、素衣（月中の姫）
つきびと（名）　罪人、きつねつきの類
つきびと（名）　侍者、傅（君公の側らに隨ふ者、又幼君を養育する人）
つきびとの　月人壯士（「かつらのえだ」の枕詞）
つきびがい（名）　月日貝（動物）
つきびたいのうま　月額馬、白額馬、ひたいとろ、殺星馬、國敵（動物）
つきあてる（他）　突貫、つきかくす
つきもの（名）　憑物、憑狐、邪鬼、邪祟、狐付、ものつき、たたりもの
つきもの（名）　補綴物、補縫物、ぬひつゞもの
つきやま（名）　月末、月末、月蝕、月秒、月尾、つきのさはり
つきえ（名）　頭巾、かしらつゝみ
つゆ（名）　梅雨（夏の永く雨ふる候）、にがはい
つゆ（名）　露、露液、露水（空氣の中の水分が夜中凍結して水の玉となる者にて賞時などの膳に用ふ）
つゆ（名）　少、すこし、すこしか
つゆ（名）　汁、液、ものゝ、たつけ
つゆ（副）　露、すこし、すこしか（解釋すべき云ふ）

つゆもち（名）露物（草葉の露を物に喩へ）＝かもたち、かもはしりびと

つゆもりぐさ（名）芋、家芋、うしくさ（植物）

つゆむすび（名）兎、つゆむすびみか、うさぎ（動物）

つゆおもし（名）露殿、汗流天、あせながしのあな（甲の類語）

つゆゆこぼし（位）（形）露漬（「つゆけき」を見よ）

つゆむし（名）草蟲、草蟲、〜むし（動物）

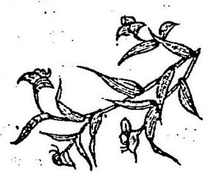
つゆむすびぐさ（名）兎、うさぎ、つゆむすみ

つゆのいり　入梅（梅雨の時候に入る日）、つゆり

つゆのいのち　露命、はかなきいのち

つゆのあも　蜻蛉之用、しはしのま

つゆくさ（名）鴨跖草、竹葉草、鴨頭草（「つきくさ」の下を見よ）（植物）



（圖の草所鴨）

つゆけき（形）露（圖）多、沼然、渡、渡、蹉跎、つゆつぼい、つゆのたぼい、湛湛、濃、浜、濱、濱潟、泥、泥、潟、潟、盈盈

つゆのけ（名）梅雨、田梅（梅雨の候の祭る日）

つゆあふひ（名）鬼葵、はたちあふひ（植物）

つゆにわ（名）露庭（庭にて狭き處に一種天然園部の風致を添る設を祭かこふ、又之を露路庭といふ）

つゆにわにしき（名）露路庭（庭園法にて山川林園湖沼瀑流などの景をまねびて小徑を設け、狭き處に一種幽閑の趣を添ふるを言ふ是に外露路内露路の二種あり、外露路は中門外にて客附待合會感の類の設あり、内露路は中門内にて茶室の前庭にして手水鉢などを設く）

つゆしま　露島（出羽國の島）

つゆしもの　露霜之（「かき」「たまくしげ」等の枕詞）

つゆしび（名）梅雨（動物）

つゆ（名）昔、裝人、つゆこみ

つゆ（名）端、はし、はて、はしのまこと

つゆ（名）橋子、つかか、まがりこ

つゆ（名）塞、栓（せん）

つゆ（名）裂、はちみ（鉞の）

つゆ（名）爪（手足の指の上の甲）、爪甲＝また橋甲、はしのまと、＝又鍵鉤、いかりかぎ

つゆ（名）紡爪（紡車のいとにより かゝる針）

つゆいん（名）爪印、つめはん、つまとるし（下を見よ）

つゆたん（名）爪判、つめいん、爪印、つまとるし

つゆたん（名）詰番、番付、番付、番番、つまめば、はんば（官吏の）

つゆきり（名）裝爪刀、つめきり

つゆこう（名）守護、守兵、護、つめこう（番兵などの出て勤むる處）

つゆる（他）打眞、衝主殺、こうず、まかす（鉞等にしん）

つゆる（他）捻、つねる、ひねる

つゆる（他）裝、填充、塡裝、つめこむ、みたす

つゆよせる（自）詰寄、せまる、ちかよる

つゆだがひ（名）蝸蝸、とくたがひ（動物）

つゆたき（形）冷酒、ひやや、かこはりのこと

つゆれんげ（名）唯蓮、河蓮（植物）

つゆらう（名）迫年、せまきひとや

つゆのからう（名）爪甲（指のつめ）

つゆしらう（自）爪金、はちらう、はちうとる、つめをかみてとる、ゆびをーはひてとる

つゆしろ（名）爪草、しろめ、たちんたけんげ（植物）

つゆしろ（名）漆姑草、爪蓮草、たかのつめ（植物）

つゆこむ（他）詰込、裝入、たしこむ

つゆこすり（名）爪磨、磨爪器（爪を磨く木版の器）

つゆあず　爪張、つめかきのあと、ひつかききず

つゆあひ（名）詰合（役所に出勤して居る事）

つゆきり（名）爪刃（指守）、裝刀、つめきり、つめきりはさみ（爪を切る具）

つゆしま（名）詰所、役所、つめどころ

つゆもの（名）裝人物、つめこみもの

つゆ（名）紡車（糸をよりかゝる器具）

つゆ（名）罪、犯罪、罪孽、罪戾、罪科、罪過、孽、をかせるもの

つゆ（名）雀、燕、雀、雀、すずめ（動物）

つゆ（名）裾（婦女子の胸前の褄）、しゅ〜

つゆ（名）鋼、鍔、つば（刀の）

つゆに（名）嚢貨、積荷（船の荷物）

つゆ（名）罪滅、滅罪、〜しあらため

つゆ（名）詰罪（刑罰を待つ）

つゆ（名）定罪、罪律、罪、つみをさだめた

つゆ（名）輪主、まけたるわ（鉞等の）

つゆかく（他）積返、積回、つみまわす（船にて）

つゆ（他）積重、累積、つみかさる

つゆ（名）船量、積高（積荷の量）、河數

つゆ（他）積立、つみた〜（金子など）

つゆ（名）積立金、つみた〜（金子等を）

つゆ（他）刑、つみする、こらす（罪人を）

つゆ（名）摘、〜さつみ（町原等にて）

つゆ（名）鴨跖草、〜きくさ（植物）

つゆ（他）積込、つみこまれる（船に）

つゆ（名）積船、つみこえ、こやしつみ

つゆ（他）積上、積起、たかーかさねる

つゆ（名）積（都の）、つみたるたきぎ

つゆ（他）摘切、摘截、爪斬、つまみきる

つゆ（名）積金、つみたてきん

つゆ（名）醋、つみあがなひ

つゆ（名）罪人、つみあるひと、＝とがにん

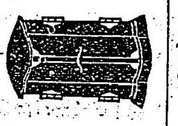
つゆ　津市（伊勢國安濃郡の市「しつやせんどう」を參看せよ）

つじ（名）辻、十字街、よつかど、よつつじ（路と路とが行きあふ處にて其形ち十の字に似たり）＝又ちまた、街、衢、岐路

つじ（名）旋毛（頭髮の中に旋回する者）つむじ

つじ（名）豆子、つゝ（祭祀の）

つじ（名）厨子、花瓶、祠堂（佛像を安置する小室）（圖の子厨）



つじえ（名）辻周、辻（往還の辻に客待して勤める乘合馬車をいふ）

つじえん（名）辻番（町の辻の見張人）

つじどころ（名）厨子所（天子の供御の物を調ひ處）、ずしどころ

つじかど（名）辻面（町の四辻の樣情）

つじかいしゃく（名）辻講釋、大道講釋、うしかい（「つじ〜」「たんぎ」を參觀せよ）

つじかぜ（名）辻、つむじかぜ

つじもち（名）閻魔、うかもの、＝また官名

つじもんじ（名）閻魔衆、ふんのつかさ（唐の閻魔官名之に同じ）

つじもんじのかみ（名）閻魔衆頭（唐の閻魔官、作部之に當る）

つじもんじん（名）閻魔廳（ゑんまーちょう）、閻魔廳

つじだう（名）辻堂（路傍の小堂）

つじたち（名）蕊、ゆすたち（「つゝ〜」の下を見よ）（植物）

つじたんぎ（名）辻講釋（路の四辻などに座を占めて前段あるひは講釋を爲す事を謂ふ、是まで金錢を乘ずる一手段として德川時代に行なはれし者なり）

つじつ　豆腐（伊豆國を謂ふ）

つじうり（名）辻賣、街道賣（大道にて物を賣る事）

つじうら（名）辻占（町の辻にて行ふ占又凡て歌の語等にて吉凶を見る事）

つじぐるま（名）辻車（辻に客待して居る人力車をいふ）

つじかつ　頭上、あたまのうへ

つじかつら（名）通髮子（大なる髮子に髮を掛けたる者を者しか曾くり）

つじやこう（名）辻灸（路傍のはこう）

る縁子にて寸用の羽織などに通す）

ねこいし（名）猫石、しらげ、投石器、礫、礫

ねこばば（名）猫、ふり、ふんだし

ねこぼた（名形）聖、かしこび、賢者、高僧、かしこ

ねこまたけ（名）馬勃、たにふすべ（植物）

ねこまたと言或ねこば（名）壁縁飯（圓燈の前面の方に鐵絲に向けて設けたる縁飯にて最も遠ければ役者の壁を間えば故に然か名く）

ねこと（俗）（副）甚、大、極、たいそう、たいへんに

ねこねこした（形）無愛相（ぶあいそう）、＝たれる、頑然

ねこばん（名）蝸牛（琉球の方言）、かたつむり（動物）

ねこまく（他）撃、殺、殺、ねこ、ある

ねこまり（名）節切、寸切、百切、短銃（短かく、きる、こと）

ね　子、鼠、根、是は「ぬ」の父音と「え」の母音とを合して生ずる音にして五十音の中に於て第五行第四段に位す

ね（名）值、あたひ、ねだん

ね（名）根（草木が土中に生ずる部）、＝又もと（本）

ね（名）音、ね、こえ

ね（名）鼠、やどり、やどね

ね（名）子（十二支の一にして鼠に當る）

ねあ（自）鼠、はること（鼠が足らぬなど云ふ）、ねる、ふす

ねいろ（名）音色、こえのやうす、こわね（聲音）、こわいろ

ねいぼ（名）蟄、はるのせみ、せみのたぐひ（動物）

ねいぼえ（形）佞臣、へつらかしこき、くつろひとり（佞臣の如く）

ねいりだな（名）床入、寢、ねもりはじめ、初睡時、

ねいる（俗）（自）寢入、就寢、睡、寢、ねもる、ねこむ

ねいかえ（形）佞臣、わるがしこき、佞臣

〔ねいらく〕　寧樂、なら（平安城の柵）、奈良

ねいく　佞、やすんじ、へつらひ、諂樂

ねいけつ（名）鼎、ねもり（動物）

ねいぞえ（名）佞臣、くつろひ、追從（つゐしよう）

ねいさい　寧歲、やすきとし（平和の年）

ねいさんかた　姉樣、姉、大姐（婦人仲間殊に輩後仲間の年上なる者を然か呼ぶ）

ねいさんかぶり（俗）（名）姉樣冠（婦人が頭上に兩角を作る樣に手拭を被りたる冠を俗に然か云ふ）

ねいき（名）寢息、息（俗）、鼾、ねもりたるいきづかひ、いびき

ねいきえする　寧見、やすんじる、安國

ねいりゆ（名）佞臣、くつろひ、たくつか、佞臣

ねいりょくする　寧國、やすんじる、安國

ねいにち　寧日、やすきひ、やすらかなるひ（五失無事の日）

ねいにゆ（名）佞者、ねもりけもの、わるがしこきもの、佞臣、佞者

ねいしん（名）寧親、やすがくり（天が樣して後に親の許を動ふ事）

ねいしん　佞臣（佞臣の臣）

ねいじん（名）佞人、ねもりびと、佞者

ねいひ（名形）佞媚、くつろひ、こび、くつろひ、たくつか

ねいも（名）根芋、いもの、わかね

ねいもい（形）寧靜、やすんじ、しずか（國家が）

ねえ（名）粘土、ねばつち

ねえり（名）縱根、ねのはりたるもの（山に云ふ）

ねえり（名）粘、ねばること、ねばり

ねえりや（名）粘地、ねばつち

ねえりつよい（形）粘膠、つよ、ねばる

ねえりつく（他）粘、膠、～つく

ねえりけ（名）粘氣、ねばるもの、ねばるもの（餅、もち等の）

ねえりつよい（形）粘膠、つよ、ねばらぬ、こしの、よわき

ねえる（自）粘、膠、ねばる、～（糸かき餅の如く分子の相引～力あるを謂ふ）、ねばつく

ねえた（名）粘、ねもりたるひとのはだ、

ねえつち（名）粘土、埴、はに、（なつち、埴、粘泥、やきものつち）

ねえつこ（名）山藍、藍（植物）

ねえつく（自）粘、ねばり～、ねばねばする（粘土などの如き質あるを謂ふ）

ねえねえする（自）粘、粘、ねばる、ねばつく

ねえつり（俗）（名）蜷坊、ま～ねもるもの

ねえつまう（名）白藍、ふなばうず（植物）

ねえ言（形）粘、ねばる、粘、ねばつく

ねえん（名）泥、泥、泥沼（地獄にして寢藏、寢藏等の惡を顯す、また閻魔等の死去にも轉用して人藏藏度の惡を表す）

ねえんえん　音立、こえたてて、ね（古語）

ねねばれる（自）蜷、ねばる

ねねばける（自）蜷、ねばれる、ねばける、ねば

ねべや（名）寢部屋、ねる、や、ね、蜷室

ねぶ（名）蜷床、ねどこ

ねべばける（自）蜷、ねばける、ねばれる

ねべり（名）馬所（植物）

ねべり（名）宿、寢、寢、宿、寢、（夜分或は水に眠れる鳥）、宿、寢、

ねらせる（他）　姦通（他の妻人の夫と通じて我が妻人にし或は夫にする事）

ねるいし（名）　寝床、ふしど、臥床、ふしど

ねるいしつ（名）　臥房、臥床、寝室、寝間、ねま、ふしど、ねや

ねるいしつ（名）　根本、ねもと

ねるがする（他）　再間、ねをはつてまた〜〜はしたつはる

ねるく（名）　熱、ほつき（火氣を感覺する事）

ねるぐ（名）　螺旋、螺釘、螺絲、ねじれたるかたちのもの

ねるぐりん（名）　馬運草（筑前の方言）、ばりん（植物）

ねるぐれん（名）　螺馬線（旗印の類にして其形螺の如し　愛媛は滑防夫の用ひし所と聞ふ）

（圖の様馬螺）

ねるぐれる（名）　綾菊、羅福菊、もちすり（植物）

ねるぐれる（他）　振解、捻放、扭開、ねじりてはなれしむる

ねるぐれんしつ（名）　螺柱、ねじれたるはしら

ねるぐれんしつ（名）　螺線、螺旋柱、ねじれたるはしら

ねるぐる（他）　螺釘、ねじれ〜ぎ（ねじりぎ）

ねるぐる（名）　捏抜（てつぱうの筒の螺留なる者）

ねるぐる（名）　捻螺子、ねじるぬ〜ぐつは、探抜、絲鞭、ねじまはし、ねじるぬ〜ぐつは

ねるる（名）　扭、捩、紡、扭結、ねじれそうる、ひねる、拉

ねるる（他）　捩折、ねじりをる

ねるがねるう（名）　綾草（植物）

ねるかけ（名）　螺旋鑿、ねじるぐつは、ねじまかくるぐつは

ねるたふす（他）　捩倒、捩刮、ひねりころはす

ねるれる（自）　捩、捻、よれる、ひねりまがる

ねるれぐき（名）　螺釘、ねじりたる〜ぎ

ねるむく（自）　横向（顔を轉じて他をむ〜を云ふ）

ねるの言（名）　捩樣、捩樣、しでのぎ、しでぎ〜ら（植物）

ねるぐろし（名）　捻頭、ねじりたる〜あし

ねるぐ言（名）　螺釘、ねじれたる〜ぎ

ねるぐび（名）　扭捩頭、捩頭、ねじりをりたる〜び

ねるまきし（名）　轉螺旋、螺旋を廻はす器

ねるまきす（他）　捩廻、ひねりまくらす（「ねじる」を見よ）

ねるまげる（他）　捩轉、捻曲、ひねりまげる

ねるけびと（名）　俟人、聽人、姦人、あしとひと、わるとひと

ねるらせる（他）　捩伏、ひねりたらす

ねるしろし（名）　黄精莢鉤吻（廻中の方言）、なくわり（植物）

ねるしむ（他）　捩込、ひねりいれる

ねるあや（名）　馬面、かをつはた（植物）

ねるあける（他）　捩開、扭開、ひねりひらく（戸等を）、こじあける

ねるあふ　捩合、ひねりあふ（相撲等が）

ねるぎ（名）　根木、かしをしま（植物）

ねるぎり（名）　螺旋錐、ねじるはすぎり

ねるぎる（他）　捩斷、ひねりまる、扭斷

ねるとかけ（名）　螺旋機、ねじるから〜り

ねるる（他）　扭捩、ねじりかくす

ねるり（名）　柳、牛蒡（廻前の方言）、にれ（植物）

ねるり（名）　聖鑿（賢貝の名）

ねるり（形）　疵毛、はけ（鳥の）、はねがはり「ねりひはり」とも云ふ）

ねるり（名）　緩步、遲、たねり、うろうろあるき（行列等の）

ねるり（名）　絲、ねること、＝又完絲、ねりぎぬ（貫目紹なぎの下に女の着る紐を俗にしかり云ふ）

ねるりぐ（名）　絲毛、つやあるらう、つやつやしきいろ

ねりぐい（名）　煙筒、塔、土蔵（瓦等を用ひて石灰にて堅めし塔）

ねりぐらまち　絲坂町（京兵庫下谷區下谷の町名）

ねりぐの（名）　絲若鍋、ねりたるもの

ねりがね（名）　絲金、きたひがね

ねりかむ（自）　反嘗、再嘗（牛飲飼等が胸内に嚥みたる草を口に出して再び嚙むをいふ）、にれかむ、嚙、嚙（牛の）、＝飼（羊の）

ねりかうじ（名）　絲麹（醸酒を兼ねりて麹に入れ蒸くたる者）

ねりかうじば（名）　絲麹酒（鳥肉を絲麹に浸たる者）

ねりがき言（名）　絲柿、しぶをぬきかれたるかき

ねりそ（名）　絲蔵、ねりたるあう

ねりぞり（名）　絲縅、絲綬（紐の名）

ねりやうかん（名）　煉羊羹（菓子の名）

ねりやん（名）　煉鍛、丹鍛、ねりてつ〜れる〜ナリ

ねりまぢら　練馬村（武藏國北豊島郡の村）

ねりこ（名）　捏粉、こねたること（麺麭等を作る）

ねりあるく（自）　練步、緩步、うろうろすすむ（行列等の）、ねる

ねりぞけ（名）　煉酒、白酒、白醪、しろぞけ、こをりぞけ（色白〜質濃〜して練布の如〜なるに因て然か名〜るなり、其製法は玉子の黄白質と白砂糖とを冷酒にて能く練り合せ之を湯に入れて練りあはす也但し酒1斗に玉子三つ白砂糖1斤）

ねりぎぬ（名）　絲天、絲絹、光素、練絹、ねりたるぬ

ねりぎたく（他）　鍛鍊、うちきたく（金鐵を）

ねりびたり（名）　匹毛雷霆、はけひはり、＝又綾鍋（動物）

ねりもの（名）　練物、ねりてつ〜れるもの（旋毛刷毛等の如き物）

ねりもの（名）　練物（祭禮の笠子など練りの飾り物を謂ふ是ねりあるきて引〜が故なり）

ねりものし（名）　練物師（練物の人形を造る者）

ねりすぶしやう（名）　練水晶、ねりてつ〜れるにせすぶしやう

ねるたんのうら　根蔵淵（丹後國の淵にて和歌に名を留めたる者）

ねる（自）　練、練步、緩步、徐行（行列等の如く）うろうろあるく

ねる（自）　寢、眠、臥、ふしまる、ふす（床に）

ねる（自）　稻、穀取して かびのやうを云ふ）

ねる（他）　練、ぬむ、＝つやをだす、＝又練、鍛練、たんれんする

ねる（他）　煉、こねあはする、捏こねる（藥或は粉等を）

ねる（他）　鍛、きたくる、やきをよわる（金屬を）

ねるしのあかがね（名）　黄銅、しんちう

ねる（名）　根、ねけひ、ひも

ねる（名）　根尾（氏）

ねるお言（名）　寢起、起、あさあ、ねおりのあさあること、たさること

ねるがえる（自）　寢返、寢返、うなされる、ねむりあてたうる（魔されなどして）

ねるたし（名）　連嶽（山が峰より峰に續くを云ふ）

ねるけ（名）　根分、分根（樹の根を他に分ち移す事）

ねるすれる（自）　寢違、寢過、ねすごす、ねをすごされる

ねるかた（名）　姓、かばね（朝臣、臣、連の知を云ふ）

ねがくり（名）　寢反、反側、寢轉、ねがくること、＝又ねがはり（男女の間に云ふ）

ねがくる（自）　寢反、反側（床に臥し居て向をかくる）

ねかた（名）　根繼、ねまはり（木の）、ねくはり

ねがね（名）　休銀、不用金、ものいはがね、ねかし、がね〜

ねがらみ（名）　根絡、ねのはびこること（木の）

ねがけ（名）　根掛（婦人の髮の根にかくる飾物即

ねがみ（名）宿紙、ふるびたるかみ、古紙

ねがみつき（名）滑貨、不印品（ふるくしとな）、うれぬしなもの、ねもの

ねがひ（名）願、願、願、

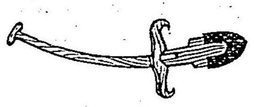
ねのこ（名）子子（祝十月初亥の天の日を謂ふ）

ねのこゝ　子刻（三更（中夜を謂ふ）、よなか、十二時、よは、夜半

ねのひ　子日（十二支の子に當る日）

ねのひ（名）臥柳（ねてからだをのばすこと

ねのひすき（名）子日鋤（此國なるは東大寺正倉院に藏し往古孝謙天皇の天平寶字三年正月三日の子日に用ひ給ひたまひし候式鋤なり）



ねぐるふ（自）邪淫なれたはむる（男女が）、姘（俗此字を用ふ）

ねぐるみ（名）鍬（宿鳥を射て取る事）、弋射、いぐるか

ねぐるめ（副）併根、ねもうとも、ねながら、ねこめ、ねこと（根と一緒に）

ねぐるし（形）寢苦敷、寢難、ねがてなる、ねがたき、ねにくき、ねづらし

ねぐるん（名）臥棺、寢棺（死人を寢て横に臥しむる西洋風の棺を謂ふ）

ねくれ（形名）寢亂、ねみだれ、いねてみだれたるさま（天の語も見よ）

ねくれる（自）寢亂、ねてみだれる（髮が）、しをれたる

ねくれかみ（名）寢亂髮（「ねみだれがみ」に同じ、蕊葉集に人丸が歌に吾妹子がねくれが髮よもあるかな）

ねぐら（名）一する（自）塒、棲、樓、ねやり、ねどころ（鳥の）、す、巢窠、やどる、ねぐらを、ねる、ねる（鳥が）

ねぐるる（自）寢惚、もれくるる、過眠、ねむりにふける

ねぐるき（形）怠、すえくるる、饑餓、疲惚、すえたる、疲弊、ねむりいきくるる（寢苦内が）

ねくび（名）寢首（夜眠れる人の首、寢首をかくなど用ふ、寢てゐる人の首を斬りたる也）

ねや（名）閨、臥具、寢室、ねま、ねどころ、寢殿（帝王等の）

ねや（名）瓦棧口（上は四くして下は方なる戸口を云ふ）

ねやこと（名）房事（はうと）、交會、夫婦の交、つるのみち

ねやす（他）粘、粘、粘、ねる、こねる、練、ねばらす、ねばるやうにする

ねやす（形）直安、安直、下直（げうね）、賤價、賤價やすき

ねやすき（形）寢安、よくねむらるる、ねこころよたる

ねぶか（名）根深、長生葱、青葱、蔥、ひとね、ねぶと（植物）

ねぶかえいん（名）根府川石（相模國足柄下郡根府川と云ふ所より出づる石）

ねぶかえむら　根府川村（相模國足柄下郡の村名）

ねぶた（名）合歡木（東京の方言）、ねぶ（植物）

ねぶたき（形）欲睡、ねむたい、眠、ねむい

ねぶつ（名）念佛、ねんぶつ

ねぶみ（名）・評價、ねづもり、估價

ねぶす（自）寢臥、いねよこたはる、ねこうる

ねこ（名）猫、貓（家に養ふ動物）、猫奴、屋猫、家貓、獺、獺貂、鳥面、如虎、似虎（動物）

ねこう　根來（氏また紀州伊都郡の地名）

ねこうぶ（自）寢臥、いねてよこたはる、ねふす

ねこうやん　根來山（紀伊國那賀郡に在る山）

ねこうじ　根來寺（紀伊國那賀郡に在る有名の古寺）

ねこたき（名）猫柳、ねこやなぎ、はなのたくひ（植物）

ねこと（名）寢言、讃言、寢語、寢語（寢たる中の詞）

ねこぢり（名）鼠（俗語の方言）、ふうろう（動物）

ねこぢり（名）海鼠（筑前の方言）、うみかもめ（動物）

ねこたこ（名）狗沙魚、ねこさめ（動物）

ねこかぶる（自）猫被、猫被る、そしらぬふりをする、ものしらぬふりする（猫被の女が猫女の個ぶなどに云ふ）

ねこがら（名）蔡（たねものを入るる器）

ねこかす（他）寢糞、ひとりねかしたく

ねこだ（名）醍醐、ちちのつかなか

ねこそげ（副）根芽、ねこそぎ、ねこあ、ねもうとも、又のこらず、みな

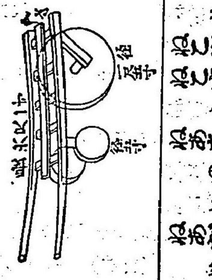
ねこばばこ（名）猫婆、猫婆、やまとことば、やはらかなことば

ねこまやま　猫鳴山（紀城國紀城郡に在る山）

ねこむ（自）就寢、ねいる、就眠、熟睡、よくねむる

ねこのあしそう（名）猫足間眼草（虎耳草科）（植物）

ねこぐるま（名）猫車、京師車（此車は運用極めて便利にして一人にて三四拾貫目の物を運搬する也）



（圖の車猫）

ねこぐさ（名）白頭翁、おきなぐさ、しらとり、おきなこ（植物）

ねこまた（名）猫、野猫、ねこのらねこ（動物）

ねこまた（名）貓、猫魔、金花猫、金葉猫、やまねこ（或云ふ猫の化たる者）（動物）

ねこける（自）睡、睡倒、ねむりてたふれる

ねこじ（名）猫兒、少猫、こねこ（動物）

ねこあし（名）猫脚（諸器等の脚の猫脚の形なる物）、鳳脚

ねこ（名）臥屋、寢房、臥處、ねること、こやこと、ねん

ねこまた（名）海鼠（筑後の方言）、うみかもめ（動物）

ねこまめ（名）虎頭沙魚（猫の如き頭の鮫にて背は褐色にして斑紋あり）（動物）

ねこめ（名）根芽、ねながら、ねこうば

ねこんに　尚寢、ねているさまこうに

ねこじゃくし（名）紫草（東京の方言）、れいし（植物）

ねこせ（名）猫背、せむしせなこ

ねこそ（他）根掘（草木を根ごとみなほさるを云ふ）

ねあらせ（名）根合（歌合の類にて五月五日菖蒲の根に歌を附し之れを合せて勝敗を決するを云ふ）

ねあがりまつ（名）根顯松、黃山松（根の地上に顯はれたる松）、ねあらしまつ（植物）

ねあげ（名）直上（直殿を上げる事）

ねあさる（自）寢惚、ねむりくたびれる

ねあせ（名）寢汗、寢汗、盜汗（夜睡り居る間に出

る汗）

ねぶかし（形）　腹膨　はら〜ふくれる

ねぶかし（名）　露根（地根を地上に露はす事）＝ねあがり

ねぶかす（自）　腹膨　はらをふくらす

ねぶり（名）　年星（生れ年により星を祭ると云ふ）

ねぶり（俗）（名）　腹相　はらがた　はら〜　はらつ

ねぶり（名）　腹膨　はらがた　はら〜　はらつ

ねぶり（名）　直下（直腹を下る事）

ねぶり（名）　腹潤　はらとものおりけ　はらはにのおりけ

ねぶり（名）　根笹　千里竹　趨王竹　祝儀竹　ふたけ　ふんなたけ　しの（植物）

ねぶり（名）　腹鳴　はらがなること　はらがな（夜中などに目をさまして聞ふ　腹鳴が悪しと云ふは其心に貧うる也）

ねぶりあり（名）　鍋　にはとり（動物）

ねぶりある（自）　腹膨　はらがふくる　はらをふく（「ねぶか」を見よ）

ねぶりあるし　腹膨　信州安曇郡に在る地名）

ねぶりぐさ（名）　荻　をぎ（植物）

ねぶりし（名）　根殺　ねはり（樹木の）　ねをはること

ねぶりす（自）　根殺　ねをはる（樹木の）　つ〜　腹

ねぶと（名）　爾宜　而宜　かんはし　頭部　はふり

ねぶと（名）　頭　ねぶと　ねがひ　ひと　＝又勢物　ねぶとらうこと

ねぶと（名）　忍草　根忍　ねぶか　ひと（植物）

ねぶりむし（名）　蠹心　蛀蛀　蠹蝕（植物の根を食ひ切る惡蟲）

ねぶる（他）　捲直　折直　こまる（直腹を）

ねぶたがる（形）　貪眠　欲睡　ねむがる（「ねぶたし」に同じ）

ねぶらす（他）　勢　倚　いたはる　はぐくみそしやする

ねぶむし（名）　蛭蛭　しみこ（動物）

ねぶりえ（名）　願事　祈事　いのり　ねがひごと

ねぶし　根岸（氏また地名）

ねぶかの（名）　濃貨　腐貨　なれもの　ふたりとなりの　ねかしもの

ねめる（他）　疾視　睡視　白眼　にらむ（下を見よ）

ねめつける（他）　疾視　頭目　睡目　にらみつける（上を見よ）

ねみだれがみ（名）　膝髪　ねみだれがみ（腹て亂れたる髪）

ねみず（名）　宿水　〜みなみず

ねみずこぶし（名）　卵　卵の一名（植物）

ねみみ（名）　膝耳　ねむれるひとのみみ

ねみみにみず　膝耳に水（突然不意なる出來事）

ねもと（名）　根城　本城　本丸（はんをる）

ねもとぐさ（名）　根白草　せり（植物）

ねもりいし（名）　鼠石（茶庭に据る石の一　庭造法に云ふ所）

ねじがねぐさ（名）　鈎草　ぎぼうし（植物）

ねしづまる（自）　腹沈　沈眠　ねむりしづまる

ねじめ（名）　根締（樹の根を衝き堅むる事）

ねじめ（名）　音締（音曲の音壁の緩緊を調ふ）

ねびる（名）　山蕗　蕗蕗　ひるのたゝび（植物）

ねびうぢり　婦負郡（越中國の郡の名　姉負郡とも書く）

ねびたち（名）　止婦　とし

ねびき（名）　直引　減價（直腹を減ず事）

ねびき（名）　根引　ねこぎ　＝うけたじ　かうけ

ねびえ（名）　腹冷（腹て寒さに感ずる事）

ねもと（名）　根元　根株　ねぎは　ねつこ

ねものがたり（名）　寝物語　腹談（夫婦等が床の中に在てする談話）

ねもごつく（形）　嗜　嗜　ねんごろ

ねもり（名）　根芹　せりのたゝび（植物）

ねぶつぐれ（名）　腹小便　ふつはり　寝床　臥便　便利（睡りて床の上に小便する事）

ねぶ（名）　社松　やしろ　生まれた蹴鞠柏の一種（植物）

ねぶたしり（名）　切屋足（屋根の上を調ふ）　横梁

ねぶり（形）　根切（古事草根にて衣服等を染に使たるを調ふ）　根殺　根染

ねぶりごと（名）　腹言　くつちひとと　譫言（氣味惡うねぶりごとする夫なども云ふ）

ねぶと（名）　根助紐（感に飾を附る紐）　腹紐

ねぶつぼ（名）　牛尾魚（動物）

ねぶたぶき（名）　風鳴　咲　嘆（風の如く鳴る事）　ねぶかなぶ　ちうちうこと

ねぶのばん（名）　不寝番　よばん　夜守（夜の番を調ふ　また江戸城にて諸番の内引ける深夜にあて三階中の行燈の油をつぎ廻り又用心の拍子木を打て廻る男なり）

ねぶのせき　念稲川（田羽國田河郡に在り）

ねぶあし（名）　首風　たゝり　疝疾　しうよ

ねぶきる（自）　腹過　あまりはら〜なる

ねぶゆ（名）　樹　木根根（いはた）の類にして蝶を出す木）　ちふのき（植物）

ねぶあし（名）　風　社者　家鹿　家兎（動物）

ねぶあいろ（名）　風色　鼠色　灰色　正銀色　鼠黒色

ねぶあなたび（名）　風花火　はしりまはるはなび　はしりはなび

ねぶあなしり（名）　風走（「ねぶはしり」に同じ）

ねぶあぶり（名）　摺　弾　掛風器　竪風　ねぶかなぶ　し　＝又ねぶこうし

ねぶあかや（名）　灰褐色（色の名）　ねぶかかれるちやいろ

ねぶあおおし（名）　風乗　相風器　ねぶかぶり

ねぶあかがく（名）　勢　蹴　風色の語

ねぶあかや（名）　風栄　〜ものな（植物）

ねぶあもも（名）　茵蔯（植物）

ねぶあたけ（名）　風足茵　風茸　鐵蹴　押帝　狐　はまたけ（植物）

ねぶあつかひ（名）　風邪　ねぶかをつかふかぜのこと

ねぶあはやし（名）　風柏草　たまたす　牛蒡（植物）

ねぶあなぶき（名）　風鳴　嘲風（「ねぶかぶき」に同じ）

ねぶあのな（名）　綜草（植物）

ねぶあのし（名）　風手　虎の類）

ねぶあのあ（名）　風師　呻　鼠　地頭　ぢゐし（動物）

ねぶあのあま（名）　巻耳　かなぐさ（植物）

ねぶあなぐさ（名）　假蘇　荆芥　ねぶかなぐさ（植物）

ねぶあひくび（名）　黄頷蛇（動物）

ねぶあけ（名）　風毛　ねぶかのけ

ねぶあけのうま（名）　蹴馬（動物）

ねぶあけのふで　風鞭　ねぶかひけのふで　風心　虚鞭　ねぶかのこふで

ねぶあいろし（名）　風銀　風雅　銀石　貝殻（雑石の名）　＝又ねぶかぶり　ぶり

ねぶあしぶ（名）　風鞭　いぼ

ねぶあおぶり（名）　苦蓼（食用の方言）　ぶり（植物）

ねぶあき（名）　女貞（伊豫の方言）　ねぶかぶり（植物）

ねぶああ或ねぶあわ（名）　女貞　鐵樹　冬青　呉　風足茵　ねぶかぶり　ひあつはぶ　呪風樹　木斛　〜こ〜（植物）

ねん（名）　念　中日を念と云ふ　中五日は卽ち念五日なり　はつか

ねん（名）　念　たゝひ　思念

ねん（名）　年　稔　とし　歳

ねん（名）　猴（猿の類にて黒ひげを有す）（動物）

ねんいん（名）　念入（往者　周到なる　いんぎん）

ねんぎい（名）　年祭　としのこう　としあひ　としかつかふ

ねんぎょう（名）　念願　にもはらし　懇願　願望

ねんぎょう（名）　年報　としごとのしらせ

ねんぎょう（名）　念願　望願　のがみ　ねがひ　志願

ねんぎん（名）　粘飯　そ〜いひ

ねんぎん（名）　年番　としのやくにんをかること　又ひと（町村等の事務の）　頭番　としのたうば　ん　ねんよ

ねんぼ（名）　年甫　としはじめ

ねんぼ（名）　年末　としのくれ　歳末

ねんぼう（名）　年俸　年給（一年として受る給金）

ねんぺう（名）年表（年代記）
ねんぺき（名）粘土（くなつち、ねばつち）
ねんぺき（名）年度（さしあたり）
ねんぺつ（名）年頭（さしのはじめ（俗に年頭の禮を直に年頭と謂ふ））
ねんぺつ（名）念頭（たゞひ、心頭、こゝろ）
ねんぺう（名）年中（一年の間を謂ふ）
ねんぺうぎやうじ　年中行事（一年の中に行ふところの諸事ならはち五節句祭禮其他の式事を謂ふ、又た此事を記るしたる書をも然か名く、支那の歳時紀事の類なり）
ねんぺうやく（する）（自）粘着（ねばりつく、こゝりつく）
ねんりよ（名）念慮（たゞひ、おもんぱかり）
ねんりき（名）念力（たゞひのちから）
ねんが（名）年賀（さしのようこび（新年の慶賀を謂ふ））
ねんがう（名）年號（年の名にて慶應明治の如きを謂ふ）
ねんかん（名）年鑑（さしのかがみ（毎年の事事を錄したる書を然か呼ぶ、統計年鑑、政治年鑑の類をいふ））
ねんねん（名）年頃（ねんぱん、直歳）
ねんだい（名）年代（さしよ、こたい（時代））
ねんだいき（名）年代記（年表（古代よりの年年の記事））
ねんれい（名）年禮、賀歳、年賀（年の初の祝ひ、さしのいはひ、拜年）
ねんれい（名）年齡（さし、よはひ、さしたち）
ねんれいちやう（名）年禮帳、賀狀（年始の賀に來る人が各々その名を記るし行く爲に出したる白紙簿）
ねんれき（名）年暦（さしのこよみ）
ねんれん（俗）（名）嬰兒（かぎりこ（小兒の語））
ねんねん　念念（一念一念をいふ）、毎念
ねんねん（副）年年（さしさし、歳歳）
ねんらい（形）年來（さしたちの、さしひさし、從來）
ねんらう（名）年老（さしより）
ねんぐ（名）年貢、租稅（つかぎ、貢租（政府に納る））
ねんぐとりたてやく（名）年貢取立役、收稅官（徵稅官）
ねんぐこう（名）年光（さし、よはひ、年華）
ねんぐこん（名）念願、願望（ねがひのかみ）
ねんぐまい（名）年貢米、租米、貢米、上納米（つきぐまい（政府への））
ねんぐまつ（名）年末（歳末、歳杪、さしのすゑ、）
ねんぐまつ（名）船名（支那の淸朝の名）
ねんまく（名）粘膜（ねばるうすかは（身体の皆若くは鼓の内面に返つけたる皆に粘液を分泌する膜皮）
ねんけ　粘毒（はなをひねる、＝はなをたゝける）
ねんけつ　年月（さしつき）
ねんけん（名）年限（期限、そだものかぎり）
ねんぷ（名）年賦（さしわり、しがけ（年年に割りて借金等を返くす事））
ねんぶつ（名）念佛（はさけをねんずること）
ねんぶつどう（名）念佛堂（佛物）
ねんぶつだう（名）念佛堂（念佛を誦ふる爲の寺院）、てら
ねんぶつかう（名）念佛講（念佛を誦ふる目的の集會）
ねんぶん（名副）年分、年度（一年分）
ねんごろ（形）親、親切、懇意、懇願、叮嚀、丁寧、懇切（こんせつ）、親密、親厚、懇篤、懇爲（ねもころ）
ねんこう（名）鰌公（ねまつりどの（鰌鯉を等ふる人を戲れに然か謂ふ）、＝高官人、肉食者）
ねんこつ（名）粘糊、綿密（粗物）
ねんざ（する）（他）撚搓（ひねくる）
ねんさい（名）年歳（さし、年歳）
ねんさえ（名）年筋（よはひ、さし人の）
ねんき（名）年紀（さし、よはひ、年齡、＝また年代）
ねんき（名）年季（さしのすゑ）

ねんき（名）年期（さしきはめ（年公人が子等が年月を限りて主人に事ふる年間を謂ふ））
ねんき（名）粘氣（ねばりけ、ねばるうかから）
ねんき（名）年忌、周忌（ひさきはりのいか（死人の））
ねんきぼつこう（名）年期奉公（年期を定めて奴子人等公する事）
ねんきぼつこうもの（名）年期奉公者（ねんきぼうこうする者、ねんきもの）
ねんきん（名）年魚（あゆ、あい（動物））
ねんきんぎよく（名）年玉（さしたま（新年の贈物））
ねんきやくし（名）粘着紙、粗紙（ねばりがみ、ねばりかぶらはら、やまかしゆう（植物））
ねんきやく（名）年行事（年番役人（町村組合等の）、排年（ねんよのやくにん）
ねんきふ（名）年給、年俸（一年の給料）
ねんきもの（名）年期者（年期を定めて奉公する者）、隨年
ねんきん（名）年金（年年則はる筭或は恩給金）
ねんこ（名）年齡（よはひ、さし、年齡）
ねんこ（名）年始（さしのはじめ（俗に年始の賀を直に年始と謂ふ））
ねんこ（名）漁網（よりこ）
ねんこよ（名）年初（さしのはじめ、年首）
ねんこや（名）念者（ていねいもの（物事に念を入るる人））
ねんこつ（名）粘膜（ねばるうつかは（粗物））
ねんしゆ（名）年首、年始（さしはじめ）
ねんしゆ（する）（他）念誦（ねんじなくる（佛名等を））
ねんじゆ（名）念珠、珠數（じゆず）、念數（佛を念ずる時に爪にて〜る者）
ねんじゆのせき　念種園（田羽國田川郡に在り）
ねんじん（名）念人（念者に同じ）
ねんえき（名）粘液（ねばしる、ねばるみつ（身體中の））
ねんび（名）年尾、年末（さしのすゑ）
ねんせい（名）年稅（さしたちのかつぎ）
ねんせい（名）年運（陰陽家にて一年間の吉凶を占考する謂ふ）
ねんせう（名）年少（さしのくれ、年末）
ねんせう（形）年少（さしわか、さしのいかは）
ねんせんや（名）鰌漁師（しさよりをする者）
ねんず（名）念珠（じゆず）
ねんずる（名）念（一心に佛名を唱ふるを云ふ）
ねんすう（名）年數（さしかず、＝たはくのさし）
ねんすき（名）念珠工（じゆず上を細工する人）

な　奈那名、是は「は」の父音と「あ」の母音と合して生ずる音にして五十音の中に在ては第五行第一段に位す

な（名）名（號、なまえ、よび名、稱、なゝ、稱號）
な（名）菜（蔬、あをな（粗物））
な（代名詞）汝（なんぢ（古語））
な（名）字（文字、ゆと）
な（名）七（しち、ななつ（數の名））
な（名）儺（道饗、たにやらひ、なやらひ）
な（名）爾（うも（古語））
な（命令詞）勿（なかれ（古語或は俗））
ない（形）內（ならない、＝まくゆつこの、＝ひうかの）
ない（俗）（自形）無（ない、なし）
ない（名）嬭（乳母、めのと、うば）
ない（名）地震（ぢしん）、地動（ぢのふるふこと）
ないい（名）內意（ないのかんがへ）
ないい（名）內醫（內科の醫）
ないい（名）內衣（ゆかた、ゆかたぎ）
ないいう（名）內證（うちうちのうれひ（國內の騷動等をいふ））
ないえう（名）內方（うちかた、內儀、內室、おかみさん）
ないえんげえん　內緣外緣（かなしばり（魔法にて緣るを謂ふ））
ないくい（名）內壁（ないにしり、內壁）
ないくん（名）內訓（うちをし（內部の訓戒））
ないぐん（名）內鄕（原位除目の時公事を行ふ官

ないらん（名）内亂（うちのみだれ（十種の一にして父母祖伯兄弟姉妹等の近親に違ふを謂ふ或は云ふ小功以下の親父祖の妾に通ずるなりと）、派淫）

ないむだいじん（名）内務大臣（内務省の長官）

ないむしやう（名）内務省（内國の事務を監督する官衙）

ないくすし（名）内科（身内の治療をする醫師）

ないくるし（名）内證（うちうち）

ないぐうし　内外（うちうちと）＝また内國外國、中外

ないくうん（名）内官（うはやく、うはつかく）に　うは

ないぐう（名）内宮（伊勢國度會郡に在る大神宮をいふ）

ないくん（名）内訓（官局にて長官より手下の官吏に内々に誡し戒むる事を謂ふ）

ないこん（名）内君（つま、細君、妻）

ないやう（名）内洋（うちうち、内海）

ないやく（名）内藥（のみぐすり、内服藥）

ないやく（名）内約（うちうちのやくそく）

ないまく（名）内膜（身内の薄皮）

ないげ　内外（うちと、うちうちと）

ないけう（名）内教（佛の教、佛道）

ないけうだう（名）内教坊（女官の雅樂技芸を習の最高の官人にして内閣の事務を掌す）

ないかくじゆん（名）内閣顧問（内閣の相談役）

ないかま或ないきが（名）雑鎌（なぎたつるかま、長鎌（兵器にて人を雑き切るに用ふ、又の雑鎌なぎがまと見ゆ）

ないかしにする（他）蔑、無、罔、輕侮、かろんずる、かろしめる

ないもつ（名）内離（でものの、はれもの

ないだいじん（名）内大臣（高官の官名）

ないだん（名）内談、私談（まくものつてのうちあはせ

ないそ（名）乃祖（せんぞ、祖先

ないそう（する）（他）内奏（ないないまうしあぐる、密奏

ないそん（名）内損（身内の虧損）

ないつう（名）内通（味方の謀を敵に密に通ずる事）、内應

ないねつ（名）内熱（熱病の身内に在る者）

ないない（副）内内（みつみつ、ひそかに）

ないら（名）内疝（内痢、内痢（馬の病）

ないらけ（名）内痢疫（馬の病「ないら」に同じ）

ないらん（する）内亂（うちうちにみだる、内乱、ないないみだる

ないらん（名）内亂（うちうちのわざわい（國内の騒亂）、一にうちのいくさ、内訌、内爭

ないらん（名）乃祖、迺祖（うのそ、御祖（うのこう

ないしどころ（名）内侍所（かしこどころ、賢所（南殿の東にて三種の神器の一なる神鏡の在りし所の室、また其神鏡をいふ）

ないしどころのかがみ　内侍所神鏡（三種の神器の一なる八咫の鏡）

ないしよ（名）（形）内證（内密、ないない、ひそか

ないしよ（名）内助（つま、内室、内儀、つれあひ

ないしよう（名）内證（ないはやけならはこと、ひそかまことまた女部屋の奥部を主人を然かいふ）

ないしようだいじん（名）内宰相（内大臣を云ふ）

ないしよく（名）内職（私業、わたくしのしごと、ないしよしごと

ないしよく（名）内職（皇室の職事をいふ）

ないしよく（名）（名）私子（かくした、私生兒、野合子

ないしつ（名）内室（つま（紳士の妻）、内助、内儀、かかあ

ないしつ（名副）内實（うちのまこと、うちまひ

ないしのつかさ（名）内侍司（後宮職官の事を掌る女官）

ないしのすけ　掌侍（女官の名）

ないしよう（副）乃者（このころ、うがたろ

ないけうだうのつかさ　内教坊別當（音し女樂の事を掌りし官人）

ないけん（名）内檢（うちうちのしらべ（官府の）

ないけん（する）内見（うちうちにみる、内覽

ないふ（名）内府（内大臣の稱）

ないふ（する）（自）内附（つきしたがふ

ないぶ（名）内部（はらのうち、＝うちのかた、＝うち

ないぶつ（名）内佛（家の内に安置する佛像をいふ）

ないふく（名）（形）内福（うちがふくしく、かねがねはくあるる

ないふく（する）（他）内服（うちにのむ（藥にいふ）

ないぶん（名）（形）内分（うちうちがひそか、ないしよ

ないこう（名）内訌（うちはもめ、内亂

ないこう（代名詞）乃公、迺公（われ（父親或は貴顯者自ら言ふ詞）

ないこう（する）（自）内攻（たひこむ（疾病等が）

ないこく（名）内國（うちのくに（外國に對す）

ないこく（副）迺刻（即刻、うのとき

ないこん（名）内閣（たくみ、閣閣

ないてい（名）内庭（うちのには

ないてん（名）内典（釋教の書をいふ、外典即ち儒書に對す）

ないでん（名）内殿（たくみ、たくみのみや

ないない（俗）（名）内證（私和、ないないですまそこと

ないぶい（名）内膳（身内の五藏）

ないぶい（名）内機（政内の機關を謂ふ）

ないき（名）内記（官名にて書記官の類、庶の内史局に當る又柱下と云ふ）、うちのしるすつかさ

ないき（名）内儀（つま、内室、おかかさん、君夫人、夫人（他人の妻をいふ）

ないきそく（名）内規則（會社内などに設くる社内の規則などを云ふ）

ないきやく（名）内客（うちうちのまゝ）

ないきふと（名）内給事（庶の官名、我朝大進（だいしんのうとことびと）及び少進（すけしんのうとことびと）に同じ）

ないめん（名）内面（うちがは

ないみつ（形）内密（こつそり、ないない、ひそか

ないと（名）飼兎（田舍の方言、うさぎ（動物）

ないと（名）内侍（女官の名）

ないと（接續詞）乃至（あるひは、または

なのうみ　縄乃浦（縄浦とも云ふ、摂津の港にて和歌に見ゆ）

なのが（名）　縄延（縄り延を長く伸して地を量る事）

なばこぼり　那波郡（上野國の郡の名）

なまず（名）　鯰、たゐち、鮎（田間の魚）

なまりだい（名）　鯛魚（大魚の名）

なまりなわ（名）　縄切（犯罪人を縛る時に刑縄を取る手際を云ふ）、なはきりのわざ

なまわ（名）　縄輪、しはること、しばり、繋縛

なまんだ（名）　苗代、苗田、苗床、苗畑、なわどこ（稻の苗をつくる處）

なまんだいこん（名）　稗田蘿蔔（植物）

なまんだうど（名）　胡麻子、はるゑか、麻黄（植物）

なまんせん（名）　鮮鱗（せかの一種）（動物）

なに（代名詞）　何、いかなる、いづれ

なにはた　難波（仁德天皇及崇峻天皇の新しき都地にして摂津國東生郡に在り、今の大坂の地）、浪華、浪速、波花

なにはたやう　浪花町（東京市日本橋區の町名）

なにはりう　難波流（謡曲の一流にして後鳥羽帝の時に起りし者）

なにはつ　難波津（摂津國の船付場即ち大坂を謂ふ）

なにはつう（名）　難波津（しらひこの始めて開ひし歌に「なにはづにさくやこのはな」と詠ぜり）

なにはづのはりえ　難波堀江（大和國高市郡櫻井寺の北飛鳥川の西に在る堀割）

なにはづのうめ　難波梅（花は中輪にして色淡白八重なり）（植物）

なにはぐさ（名）　菜子草、菌、よし、あし（植物）

なにはしんまち　浪花新町（摂津國大坂の遊女町の名）

なにとぞ（副）　何卒、どうか、ぜひ

なにとなく（副）　無何、無大小、どこやら

なにとて（副）　何迚、いかなれば、何以、如何

なにおう（形）　自名、なのこと、＝なだかき

なにをもつて（副）　何以、詛庸、何爲、いかなれば

なにか　何、あるもの

なにかも　何、かれこれ、とかう

なにがな　何、なにかあるもの

なにがし（代名詞）　某、それがし（名をしらはずして人を指す詞）

なにら（形）　何等、いかなる、なんら

なにれ　何是、かれこれ、あれやこれ

なにやう（俗）　何樣、なにさま、いかさま

なにげなく（副）　無何樣、なにもたもはず

なにがえん（俗）（副）　何分、いかにも

なにせんのべつたい　内膳別當（内膳のことを掌る）

なにせんのしやう（名）　内膳正（内膳司の長官）

なに　那波（氏また地名）

なま（名）　柔、縄、しはるもの、なびたるもの、ひ、を

なまだり（名）　縄張、なはをはること、＝又なはは れるところ（宮殿等の爲に）、＝縄始

なまだし（名）　縄棚、巻稿、なはのはし（縄を以て棚をなせる者）

なまだこ（名）　縄樹子、なはにてつくれるはし

なまとぼし（名）　苦計、なはをとぼすはり

なまなりあり　奈牛市（土佐國安藝郡に在る船付場）

なたりあり　名張町（伊賀國名張郡の町名）

なたりごぼり　名張郡（伊賀國の郡の名）

なだかう　那覇港（琉球國中縄島の港の名）

なだたぬま　名籠沼（陸前國遠田郡に在る沼、「なびれぬま」とも云ふ）

なつう（形）　縄付、しばられる、繋縛

なつたら　縄茶、なはをとる

なつたり（名）　縄車（縄をとる機具）

なつむら　那波村（摂津國赤穂郡の村名）

なつむしう（名）　縄延（縄にてつくれるむしう）

なつのりの　縄延（なつ名はうものうこ」の枕詞）

なつ（形）　直、まつすぐなる、ただしき、正直、＝又ただは、質直

なほし（名）　直衣、裲襠、裲衣、ひたたれのたゞ

なほし（俗）（名）　皮袴、袴、ぬ、ぬはしせつたなはし、やうなは

なほしたあるる（他）　矯樣、たゞしなほす（曲木なども）

なほしのしろう（名）　直衣、なほし

なほしま　直島（讃岐國の北方に在る小島）

なほびのかみ　直日神、ものはひうるかみ（神の名）

なほもつて（副）　尚以、こゝろに、なほさら

なほす（他）　治療、いやす、治、療治、よくする（病を）、＝糾正、あらためたゞす

なく（名）　苗、わかいね、＝わかばえ（草木の）

なべ（名）　鍋、鑊（物を煮る鐵の器）

なべいかけや（名）　補鍋匠、なべつくろひ、いかけや

なべに（後置詞）　鍋、つひでに

なべ或なべこん（俗）　鍋（俗に「あしたをそんな」を然か呼ぶ）、國語

なべとりかつら（名）　瓢（阿波の方言）、のぶた（植物）

なへこし（名）　苗床（苗を作り育る場）、なはしろ

なへる（自）　緩、なよなよする（「なえる」に同じ）

なほき（形）　直、まつすぐなる、ただしき、正直、＝又ただは、質直

なほし（名）　直衣、裲襠、裲衣、ひたたれのたゞ

なほし（俗）（名）　皮袴、袴、ぬ、ぬはしせつたなはし、やうなは

なほしたあるる（他）　矯樣、たゞしなほす（曲木なども）

なほしのしろう（名）　直衣、なほし

なほしま　直島（讃岐國の北方に在る小島）

なほびのかみ　直日神、ものはひうるかみ（神の名）

なほもつて（副）　尚以、こゝろに、なほさら

なほす（他）　治療、いやす、治、療治、よくする（病を）、＝糾正、あらためたゞす

なく（名）　苗、わかいね、＝わかばえ（草木の）

なべ（名）　鍋、鑊（物を煮る鐵の器）

なべいかけや（名）　補鍋匠、なべつくろひ、いかけや

なべに（後置詞）　鍋、つひでに

なべ或なべこん（俗）　鍋（俗に「あしたをそんな」を然か呼ぶ）、國語

なべとりかつら（名）　瓢（阿波の方言）、のぶた（植物）

なへこし（名）　苗床（苗を作り育る場）、なはしろ

なへる（自）　緩、なよなよする（「なえる」に同じ）

なりいでる（自）出世、よにいでる、かをたてる
なりこたゆん（自）雷鳴、なりひびく（音が）、轟鳴
なりさん（名）成果、なりゆき、そはり
なりさひ（名）業、産計、産業、家業、渡世、商賣、すぎはひ、くらしむき
なりさひぶね（名）渡船、たふね
なりさよめん（自）鳴響、なりひびく（人の聲が）
なりさろう（名）別業、しもやしき、れう
なりおとる（自）成劣、なりまさる
なりうたる（自）鳴渡、ひびきわたる
なりかえる（自）成替、爲代、かはりになる（人の）、かがはりになる
なりかたち　裝束、みなりかたち（形（なり）を見る べし）
なりた　成田（氏また下總國成田不動の在る地、「なりたまち」を見よ）
なりたち（名）成立、でき、＝また生長、おひたち
なりたつ（自）成立、できる、なる
なりたや　成田屋（俳優四十郎の家の稱）
なりたまち　成田町（下總國下埴生郡の町名）
なりなんとす　將向、將、ならんとする、なりかかる
なりこん（名）物（果物の根もと）、はふ
なりこたる（自）零落、なりさがる、しやしくなる

草稿
なり　等（とう）、なんど（物の數を一一に擧げずに略して類はす詞）、など、ら
なりがえ　名取川（陸前國名取郡に在る有名の川）
なりさうそう（名）名取草、牡丹、はつかそう、ふかみそう（植物）
なりごおり　名取郡（陸前國の郡の名）
なぜか（副）奈何、爲爲、なぜ、いかで
なぜこそ（名）名所（名の附いてある所、また名のある處）＝又ありしよ
なぜて（副）奈何、なぜか
なちのたき　那智澤（紀伊國の那智山に懸る有名の瀑布）
なちがね（名）鐵金、かねつけいし
なちやま　那智山（紀伊國牟婁郡に在る山、三十三番觀音の其一の安置せられし山にて有名の那智澤此に懸る）
なり（名）形、樣、鏡、かたち、すがた
なり（名）服裝、みなり、よそほひ、いでたち
なり（名）鳴、なること、＝なること
なり（名）業、なりはひ
なり　也、にてあり、である
なり（名）瀨病人、かつたい、瀨子、天刑病者、＝また癩病

なりあがる（自）成成、なりあがる
なりけ（名）生毛（地より生ずる凡ての物を云ふ）、なりもの
なりあり（名）形振、服裝、みなり、＝體裁、すがた、かたち
なりこまや　成駒屋（俳優芝鶴の稱）
なりあがりもの（名）上達者、くあがれるもの（身賤より高貴に上れる者）
なりあがる（自）成上、くあがる、上達、昇進
なりあひ　成相（丹後國與謝郡の地名）
なりさがる（自）成下、だらくさる（身賤に）、なりこたる
なりゆき（名）成行、ゆくすえ、はて、なりはて、結局、末路
なりひさちやう　業平町（東京市本所區小梅の町名）
なりひさご（名）瓢簞子、生瓢子、瓢瓜、瓢瓜、ゆふがほ（植物）
なりひびく（自）鳴響、たとしてひびきわたる
なりもの（名）果物、くだもの、このみ
なりもの（名）鳴物、樂器、なりものの
なりんとす（俗）（名）瀨病人、なり、かつたい、瀨者
なぬか（名）七日（毎七の日、また六に一つ加へたる日）、＝また人日（正月の七日）

なぬかのよ　七日夜、七夕（陰曆の七月七日の夜を七夕といふ）
なぬかび（名）人日（正月の七日をいふ）
なぬし（名）名主、村司、里長、里正、むらをさ、しやうや
なる（自）成、成就、落成、できあがる、をはる、＝爲、造、作、かたちをなす（他の）、＝生、結、むすぶ（果實等が）
なる（名）成（大隋曆中段十二直の一稱にて從來世俗は之に依て萬事の吉凶を判せり是れ斗柄にあたりて相むかふ者にして天天の主記と名く爲す事必ず成就する故に成といふ）
なる（自）鳴、たとへうる
なるかみ　鳴神（歌謡俗十八候の一）
なるかみ　鳴神（太陰曆三月の異名）
なるかみの　鳴神之（みれば、かしこし、「雷」等の枕詞）
なるたけ（俗）（副）成丈、可成的、可及的、できるだけ
なるたき　鳴瀧（山城國の瀧の名、また紀伊國に同名の瀧あり）
なるこ（名）鳴子（鳥を驚かす具、また人を呼ぶ器）
なるこゆり（名）黃精、黃精、たはばゆり（大葉の黃精を白葉の黃精と云ひ、所謂の黃精を正精と云ふ）（植物）
なるさがた　鳴潟（尾張國の入江）
なるさの　鳴瀨野（尾張の地名）
なるさまち　鳴瀨町（尾張國愛知郡の町名）
なるさんしぼり（名）鳴瀨絞（尾張國鳴瀨及び有松地方より染出す絞形の綿布）
なるしまむら　奈留島村（肥前國南松浦郡の村）
なるせ　鳴瀨、成瀨（氏）
なるせがわ　鳴瀨川（陸前國に在る有名の川）
なるり（名）名折（名譽を毀損すること云ふ）、なを
なれ（名）名折、はぢ、恥辱、羞恥、おれ（家の

ながを（名）名父（他人の子に名を與ふる人）
ながを（名）名和、那和（氏）
ながをのみたま　名和濱（伯耆國汗入郡に在り）
ながか　那珂（氏また地名）
ながか（名形）中、なかほど、なかごろ、＝中央、まんなか、＝又うち、内
ながか（名）交際、まじはり、＝なからひ、關係
ながか（俗）（名）際内、〜ごろ、ごろ（遊女の在る地をいふ）、北里
ながか　等（俗に「など」を「なか」と云ふなり、「なにか」の略なり）
ながかど（名）仲居、なかゐもの（遊廓の揚屋にて座敷の世話諸事をとりさばく女をいふ）
ながい（名）長眠（永〜ねむりをいふ）、ながね
ながゐ（名）長居、なが〜をること、＝又なが〜はなしをすること（他人の家にて）、ながっちり（ながしり）、長坐
ながゐ　長井、永井（氏）
ながいとせあき　永千秋（永遠無窮の年月）
ながのうみぬま　長井日沼（下總國に在る大沼）
ながいわにちおき　隔日、いちにちをき
ながいわねんおき　隔年、いちねんをび
ながいり（名）中入、なかやすみ、こやすみ、少憩（演劇、名所、用達等の）

ながゐもの（名）中居女（遊女屋の婢）、なかどん
ながいれ（名）中入（大中入小中入等あり、戰爭の際に敵軍の前後の間を遮斷して攻擊せしむる法を謂ふ）
ながいれ（名）累、なかにいれたるわた、＝又なかわた
ながいづみまち　中泉町（遠江國豐田郡の町名）
ながゐのうら　長居浦（攝津國の浦にして和歌に名を傳へたる者）
ながゐまち　長井町（羽前國西置賜郡の町名）
ながいふきむら　中結城村（下總國結城郡の村名）
ながいき（形名）長生、長命、眉壽、長壽、なが〜しいきのながさをこと
ながいとゐんむら　中伊樂院村（薩摩國日置郡の村名）
ながいも（名）薯蕷、長命、山蕷、家山蕷、やまいも（植物）
ながうえんやう　中六番町（東京市麴町區の町名）
ながえ（名）牛、牛車、中央、中、仲、まんなか、なかごろ、途中
ながえおり（名）長羽織、長外衣、ながまはたり
ながえかま（名）長釜、ながまはかま

ながたし　長笛、長談、ながものがたり
ながたらむら　永原村（近江國西濃井郡の村名）
ながはま　長濱（近江國坂田郡の地にて琵琶湖に濱すまた伊勢國の濱にて和歌に名高き者）
ながはまやりめん（名）長濱縮緬（近江國坂田郡長濱より出づ）
ながはまがや（名）長濱敷茅（敷物の類）
ながはまなだ　長濱港（土佐國の港港の名）
ながはし（名）長梯、ながき上り段）
ながに（副）於中、うちに、なかに、なかへ、〜、成中
ながにわ（名）中庭（家の眞中にある庭）
ながにし（名）香蝶、蓮蝶、蝶蝶、蝶蝶、かひのな（動物）
ながにも（副）于中、なかへ〜、就中、殊、ことに
ながはぎ（名）中稻、なかば、なかばかち
ながはり（名）長斯、ながきはり（城の）
ながはりちやう　永堀町（東京市深川區深川の町名）
ながく（名）名籍、なをかくること
ながと　長門（山陽道中の國名）
ながとり（名）中鳥、にはんどり（雞鳴三時の一にして第三番よりを然か云ふ）
ながとのうら　長門浦（長門國の港灣）
ながとみ　中臣（氏また神名）

ながとみのよらひ　中臣祓（中臣の人が世人の罪を祓ふ爲に誦（しむ）祝詞文にして後世神官等之を神前に誦す）
ながとみまち　永富町（東京市神田區の町名）
ながわ（名）帶下、赤帶、血崩、赤崩下（婦人の病にして月經の長く下りて止まざる者）、血崩、ちのながれ
ながわがひ（名）中縫、縫交、なかたがひ
ながわ（名）仲（長米の四にある兄弟を云ふ）、なかつぎ
ながわ　長路、ながみち、長程
ながわな　那賀郡（十六郡淡の一）
ながわやう　仲町（東京市小石川區小石川及雜司谷、下谷區池之端、神田區神田、深川區富岡門前、牛込區牛込及四谷區四谷赤坂區赤坂等の町名）
ながぬま　長沼（氏また下總國に在る大沼）
ながぬまむら　長沼村（下野國岩船郡、岩代國岩瀨郡、信濃國上水内郡及び羽前國東田川郡の村名）
ながをりがみ（名）中折紙、かみのな
ながをか（名）長岡（桓武天皇の都したまひし地にして山城國に在り）
ながをかまち　長岡町（越後國古志郡の町名）
ながをかごほり　長岡郡（土佐國の郡の名）

ながをやま　長尾山（丹後國の山）
ながうた（名）綿胎、綿絮（市圓などの心にいるる綿）、ふるわた、あしきわた
ながうらしなむら　中浦新村（駿河國安倍郡の村名）
ながうら　長脇指、ながきわきざし、＝又ながわきざしたちひと、はくうちう、をとこたて（俗に慶川時代の博徒を然か呼べり、是れ彼等が長脇指をかしたるに因る）
ながからや　中塚宮（河內國高市郡に在り）
ながかた　中川（氏）
ながかた　那賀川（紀伊國粟水峠より發す）
ながかたごほり　中川郡（天竺國及び十陵國の郡の名）
ながかみ（名）中神（天一神の一名なり十二神の中央に居るが故に然か云ふ）
ながかひ（名）仲買、接買、牙商、牙行、牙侩、さいとり、なかつぎがひ
ながかひ（名）長刀（江州の方言）、ぢやうがひ（動物）
ながよ　長夜、永夜、ながきよ、終夜
ながよし（形）和好、したしき
ながよし　中吉（氏）
ながだた　永田（氏また地名）
ながたち（名）媒妁、長媒、媒介、紹介、永人、親柄、

ながれ　流、中止（事物の夫なりにやめを云ふ）
ながれ（名）流、ながること、＝かは、＝流水、淡川、灘波
ながれにさかのぼる　溯洄、泝、かはかみにのぼる
ながれぼし（名）流星、飛星、奔星、よばひぼし

ながれる（自）流、ながつゆく、はしりゆく（水が）、＝うれる、なくれる（矢等が）、＝つぶされる（貨物の最早うけもどされ口様になるをいふ）

ながれをくむ　相流、かはながつをくむ、＝したがひのつとる（他人の流儀等に准ふをいふ）

ながれこたる（自）流渡、たたよひわたる

ながれのなんな（名）流女、遊女、あそびめ

ながれのかたらけ（名）流祓、願祓（又貧人より受けける祓をいふ）

ながれのみ　流身、うきかはたけ（遊女の身をいふ）

ながれくこんやう（名）流潴頃、流水食（無縁者の爲に川にて水を注ぎ手向へる事）

ながれや（名）流矢、うれや、よこにうれたるや、なくれや

ながれやまもり　流山町（下総國葛飾郡の町名）

ながれこ（名）鯉魚（土佐の方言）、どこぶし（動物）

ながれこのよ（名）後世、未来、のちのよ

ながれさん（名）流産（りうさん）、はんさん（胎兒が月満たず中途にして死にて生れ出づる事）

ながれみつ（名）流水、逝水、ながるるみつ、うきみつ

ながれもの（名）流貨、ながれたるしろもの（收斂されずして業でられたる貨物）

ながれ（自）中剃（頭の中の剃りたる處）

ながれら（名）牛天、中天、牛空、牛暇、うらなか

ながその　中園（氏）

ながつぼね（名）長局（諸侯が雇ふる女等を置く室）、ちんなべや

ながつか　長塚（氏）

ながつがは　中津川（美濃國恵那郡の町名）

ながつかさ（名）中務（古の官名）

ながつかさのたいふ（名）中務大輔（古の官名）

ながつかさのたいふ（名）中務大輔（古の中務省の次官）

ながつかさのたいしよう（名）中務大丞（古の官名）

ながつかさのさうよう（名）中務卿（古の大臣にして宮中の事を統括す）

ながつかさのしやう（名）中務省（古の八省の一也）

ながつかみ（名）約（くう）、さらのことをけものの（動物）

ながつまち　中津町（豊前國下毛郡の町名）

ながつぐほり　中津郡（豊前國の郡の名）

ながつき（名）中秋、さいきり、なかひ、仲商

ながつきの（名）長月、若月、稚月（陰暦の九月をいふ）

ながつきそう（名）長月草、菊（植物）

ながね　中根（氏）

ながはより（名）中直、和解、復和、釋恨、和幾、ただびなかよくなること、調停、講和

ながながと（後）（副）中中、よほど、ようにて、もひに

ながながと（副）長長、永永、ながらく

ながなき　長鳴、ながくなくこと（鳥などが）＝また啼（小兒の泣て止まざるを云ふ）

ながなきどり（名）長鳴鳥、鶏、にはとり（「とこよのながなきどり」を見よ）

ながなすび（名）水茄（植物）

ながら（名）牛、央、なかば

ながらく（後置詞）乍、つつ、するあひだに

ながら　長柄（氏）

ながらは　牛井（氏）

ながらえ（名）牛、なかば

ながらくる（自）存命、存生、生存、いきてをる

ながらがは　長良川（美濃國郡上郡より發す）＝長柄川（攝津國の川の名）

ながらのはし　長柄橋（攝津國西生郡にあり、橋）

ながらのはま　長柄濱（攝津の長柄浦をいふ）

ながらく（副）永久、いつひさしく、ながながと

ながらやま　長等山（近江國滋賀郡に在る有名の山）

ながのやまの　長等山之（「ながらく」の枕詞）

ながらのごほり　長柄郡（上總國の郡の名）

ながらく（名）永劫、ながまとはり

ながむかし　中古（ちうこ）、中葉（上古と目今の間の時代）

ながむた　中牟田（氏）

ながむら　中村（氏）

ながむらまち　中村町（陸奥國宇多郡の町名）

ながうど（名）仲人、媒酌、媒介、水人、なかだち、なかとりもち

ながうり（名）絲瓜（隣州の方言）、くちき（植物）

ながうた（名）長歌（長謌の和歌）、＝長唄（三絃に合せてうたふ歌）

ながの　中野（氏）

ながの　長野（氏、また信州の郡名にて善光寺此に在り）

ながのをん　中院（氏）

ながのまち　長野原町（上野國吾妻郡の町名）

ながのだう　中坊（氏）

ながのとしか　中旬、中元、月終、月中（一月の真中の十日）

ながのまち　中野町（信濃國下高井郡の町名）

ながのまつりごとすのつかさ（名）中務省（古官名、所中事を司る又國閑と號す）、なかのまつりごとのつかさ

ながのけんちやう　長野縣廳（信濃國水内郡長野に設置せらる）

ながのこ　中ノ湖（若狭國三方郡に在る湖）

ながのこのかみ（名）中兄、つぎのあに、なかより

ながのこうまち　中乃條町（上野國吾妻郡の町名）

ながのなと　中水門（阿波國の瀬戸）

ながのび（名）長延、ながくひきのばすこと

ながのまつりつかさ（名）中務省（「ちうなこん」を見よ）

ながく（副）長、ひさしく

ながくほ（形名）凹、なかひく、なかくぼみ、坳

ながくぼまち　長窪古町（信濃國小縣郡の町名）

ながくぼしんまち　長窪新町（信濃國小縣郡の町名）

ながぐつ（名）長靴、ながきくつ、ゆもふりくつ

ながくどり（名）中宿（中門の類をいふ、庭造法に云ふ所）

ながぐで　長洲（尾張國に在る地にして有名の古戰場）

ながくそむら　長倉村（尾張國知多郡の村名）

ながくみ（名）中酌、和醴、調酒、酌にとりもち、こそぬかり

ながや（名）長屋、ながくつづけるいくつ（一軒建ちの家）

ながやま　中山（ほまた美濃に在る有名の山、南宮山又美濃御山とも云ふ、又た大和國の山）

ながやまひ　長病、宿病、痼疾、宿病、痼疾、久病、たちたちやまひ、ながひくやまひ

ながやまず（名）小頭、こやすみ、あひたのやすみ

ながまま（名）仲間、同盟、伴侶、合夥、合社、夥伴、盟與、夥計、夥伴、同朋、同僚、同社、同僚、とも、くみあひ

ながふつう（名）豇豆（伊勢の方言）、ちまげ（植物）

ながぶり　中布利布利（氏）

ながふくろ（名）氣、くうたん、ひとこと（植物）

ながこ（名）心、中心、なかのところ

ながこ（名）鐵莖、鐵莖（刀劍の身が柄の中に入りたる部分）、柄心、中心、なかこ、こや、＝虹、やりのなかこ

ながこ（名）瓜心、うりのなかのか

ながこ（名）笛足、やのなかこ（矢鏃の元が矢幹に入りたる部分を謂ふ）

ながこ（名）佛（島嶋にて佛をしか呼ふ）

ながこう（名副）中葉、中古、中世（古と今の間の時代）

ながこう（名副）中頃、中淺、中頃、なかば、

ながこほり　郡賀郡（伊豆國、石見國、紀伊國、阿波國、日向國）、＝また郡司郡（弥前國、常陸國、駿

岐國、武藏國）、＝また中郡（中後國の郡名）

ながこぼし（名）心宿、心星（中八宿の一なり、心〔しん〕を見よ）

ながこゑ（名）中言、かげこと、かげがしり（此人を彼の人に惡くいふ如き事）

ながし（名）中稻、なかこうみのるいね（早稻と晩稻の中間に出來る稻）

ながし（名）長路、ながみち、＝ながきたび

ながしう　中條、ちうでう（氏）

ながしうまち　中條町（越後國北條區郡の町名）

ながあめ（名）霖雨、淫雨、霖雨、久雨、霪雨、黴雨、苦雨、梅雨、霉雨、淫霖、ふりつゞくあめ

ながあしき（形）不和、不親和、なかのよからぬ、すれあふ、したしからぬ

ながき（名）長、ながきこと、たけ、＝延長、ながくひろがれること

ながき　長岐（氏）

ながき（名）長柱、ながは、ながしり

ながきえ　長禦（氏また甲斐國の地名）

ながきえちやう　長澤町（東京市京橋區の町名）

ながきと　中里（氏）

ながさるがくちやう　中猿樂町（東京市神田區の町名）

ながさか　長坂、長阪、ながきさかみち、＝また（氏）

ながさら（名）長皿、ながきさら

ながさうし（名）長稍、ながきしやうとん

ながさごほり　長狹郡（安房國の郡の名）

ながさけ（名）神饌米、十六口（じふろくぐち）（植物）

ながさき　長崎（肥前國西彼杵郡の郡會にして日本五港の一）

ながさきちやう　長崎町（東京市京橋區また本所區本所の町名）

ながさきけんちやう　長崎縣廳（肥前國長崎に設置す）

ながし（名）中弁（長中にさう笑）、なかかんざし

ながしき　長坐敷、ちやうざ、ながま、＝ながざかもり

ながき（形）長、脩、たけにとほき、＝みじかからぬ、悠、＝延長、とほくあたれる、＝永、永久、長久、ひさしき、＝とこしなへの、＝永日、ひながき

ながさり　中吉（氏）

ながされ（名）條片、ながきされ、長片、長布片

ながきねむり　長眠、ひさしくねむること、＝永眠、しぬること

ながきみじかき　長短、＝淨瑠璃、ふしもの

ながきひ　永日、長日、遲日、暇日

ながぎ（名）長服、ながきこうぶ、長衣

ながゆび（名）帶、たび（衣服の）

ながゆび（名）中指、將指、たかたかゆび、まんなかのゆび、たけたかゆび

ながあめ（名）長雨、霖雨、ながあめ

ながあめ（名）眺望、ながめること、みはらし、けしき（景色）

ながかた（名）長形、ながきかたち

ながめる（他）長、ながくする

ながめる（他）詠、こゑをながくする、＝うたふ、＝よむ（歌を）

ながめる（他）眺望、のがむ、みる、＝みはらす、＝みつめる、眺、望、遠望、はるかにみる

ながみち　長道、修道、遠路、長路、長程、とほきみち、ながきみち

ながみかど　中御門（氏）

ながみかどてんのう　中御門天皇（人皇第百十四代の帝紀元二千三百七十一年（西洋紀元一千七百十一年）より二千三百九十六年に至る在位三十六年御齡三十八にて崩ず）

ながみねやま　長峰山（近江國の山及び丹波國の山の名）

ながし（名）洗水、淨瓶、ものあらふゆか（場所の）

ながし（他）（名）流、（流水に）

に身體を洗はする所）

ながしり（名形）長尻、ながおすそ、ながきすそ

ながしをとこ（名）洗丁、ちんすけ、はんたう（湯屋の）

ながしの　長篠（三河國南設楽郡豐川の兩岸に在る古戰場、今は長篠村となれり）

ながしま（名）中島（庭園内の池の中の島を然かいふ）

ながしまいし（名）中島石（平庭の中に中島に擬したる石を四一又を中島石といふ）

ながしまちやう　中島町（東京市深川區深川の町名）

ながしまちやう　永島町（東京市京橋區の町名）

ながしまど　中島郡（尾張と美濃に跨る郡の名）

ながしやとう（名）中弓藤（中に藤を卷きたる弓の名）

ながしこ（名）流子（淵路（たきたし）に材木を淵の上より流しおとす人）

ながしめ（名）流眼、流盼、流睇、眺眼、邪眼、邪視、眼（惡に見る目）、よこめ

ながしもの（名）流人、しまながしびと、配流人、遠島人

ながえ（名）轅、ながきさき（車の前に施して馬を

つなぐ長き木）

ながえ（名）長柄、ながきえ、ながきもつとこう（鉾槍等の）

ながえ（名）長竿、ながきさを

ながえい（名）鞍頭鈴（鞍州の方言）、かいづか（動物）

ながえがさ（名）長柄傘（吉し江戸吉原にて大夫が道中の時さしかけさせたる傘をいふ）

ながえこし（名）腰輿、ながきえのつきたるこし

ながえもち（名）傘夫、ながえのからかさもち（貴人の後に從ひて長き傘を持つ者）

ながびき（名）媒酌人、仲人、なかうど

ながびつ（名）長櫃、ながもち

ながびく（形）中延、凹、なかゝば

ながひこ（名）走根草（植物）

ながもち（名）長柄、長櫃、ながびつ、たけながはこ

ながもち　六百文（青柴助などが錢六百文即ち六錢の符號に用ひたる語）

ながやもんちやう　中門前町（東京市芝區の町名）

ながを（名）仲等、倉掛夫、かつぎ、になひびと（倉より米穀などを擔ひ出る人足）

ながを（他）今帶、なみたをいたさする、＝なげかする、＝くるしむる（人を）

なががせがわ　長瀬川（伊勢國に在る河）

ながせきんざん　中瀬銀山（但馬國美方郡に在る銀を產する山）

ながせん（名）長線（「ちやうせん」を見よ）

ながせんだう　中仙道（東京より板橋を經て行く木曾路をいふ）

ながす（他）流（水に浮べて遣る）、ながれゆかしむる、＝又つけたる口、すてる（廢物を收藏せず口也）、＝又つたへくる、ひろめる（名を）（俗に紫器を捨てて錢を乞ひまはる人を流しまはる人といふ）

ながすまち　中洲町（東京市日本橋區の町にて新大橋の下に在る一小島なり元此處は中洲と云へる洲なりしが近所島となせしを以て此名あり）

ながすまち　長洲町（肥後國玉名郡の町名）

ながすみちやう　永住町（東京市麹町區麹町區四谷區四谷の町名）

ながえ（名）青蛙（石見の方言）、あまがえる（動物）

ながえつく（副）既中、とりわけ、なかにも

ながたけ（名）桃繼竹、四季竹、長篠竹、女子竹、たけのたぐひ（植物）

ながたけ（名）幼竹、弱竹、蘆竹、和竹、しなこなすたけ

ながながと（副）永歌、やはらかに、のからなく、

なつし（名）名言、鯛、にら（動物）
なつしで郡（名）名所郡（樺太島の一郡）
なつた（名）鉈、鑿、鋸刀、撰刀、小斧、出刀、やまがたな（木を斬る刀）
なつた（名）洋、海、あらうみ
なつだ　薩田（薩摩國の海邊）
なつたい（名）（形）名代、有名、聞名、聞者、なたかき、いちじるしき、なにをふ
なつたい（名）名代、名題、ものく、な、題號
なつたいめん（名）名對面、名謁（名を呼びて紹介し或は來訪を告ぐる事）
なつたのうら　名立浦（鎮津の海濱にして和歌に名高き者）
なつたやまち　名立町（越後國西頸城郡の町名）
なつたかのうら　名高浦（遠江及び紀伊の海濱にして共に和歌に名高き者）
なつたかき（形）名高、有名、名、なのきこえたる、鋒、鋒、疾名、聞、名譽、榮譽、聞譽、聞顯、名、有名、聖、聖
なつたれ（名）瓶、ゆきくつれ、＝山崩、落岩、やまくつれ
なつたね（名）菜種、あぶらなのたね
なつたねあぶら（名）菜油、あぶらな、油菜（植物）
なつたねのぐ　菜種供（京都の小町にて二月十五日に執行する祭）

なつたらか（形）緩、平貫、たひらか、なめらか、＝きふなら山
なつたまめ（名）刀豆、挾殼豆、白刀豆（植物）
なつたそけ（名）隱元豆（閩州の方言）、いんげんまめ（植物）
なつためる（他）宥、寛、宥恕、寛宥、ゆるくする、＝やはらぐる、＝かるくする
なれ（名）習慣、くせ、ならひ
なれども（俗）雖然、しかれども、されども
なれる（自）馴、なじむ、＝狎、親、親、私、昵、昵近、なれなれしくなる、＝慣、つねになる、くせになる
なれそめる　馴初、なじみはじめる
なれなれしく（副）昵昵敬、したしげに、＝馴馴敬、なじみたるらしく
なれなれしき（形）昵昵敬、したしげ、馴馴敬、なじみたるらしき
なれむつぶ（自）馴昵、親睦、なれしたしむ
なれまぐはひ（名）和姦（姦夫姦婦が相和して通ずる事）
なれごろも（名）褻衣、慣衣、なれきぬ（常にきる服）
なれあひ（名形）通合、共謀、同謀（共に謀りて惡事を爲すを謂ふ）
なれきぬ（名）褻衣、ふだんぎ、つねぎ、＝慣衣、きなれたるこころも、＝また和讃、鋼衣、ふんどし、腰衣、したたび
なれしか（名）馴鹿、となかい（樺太又は西伯利亞産する鹿にて雪車を引くに用ふ）（動物）
なぞ（名）謎、廻詞、謎語、隱語、かくしことば
なぞ（副）何、如何、なにか、いかに
なぞ（名）等、など、なんぞ（「など」を見よ）
なぞく（形）斜、なな、なせ、かたむける
なぞくる（他）進、なぞらへる
なぞかけ　謎、謎者、なぞのかけて
なぞらへる（他）擬、準、准、ひきくらへる、＝くらへる、＝たとへいふ
なぞのしらまし　奈良自橋（出羽國にあり）
なつ（名）夏（四季の一にして最も暑き氣候の時）
なつ（他）撫、なでる、ととのる
なついん　捺印、おしいん、おしたるはん
なつおり　夏羽織（夏着る羽織、外衣）
なつかき（名）夏茨、至頭茨、にはばら（植物）
なつかしかみ（名）胡椒、ちんぜう（植物）
なつかぶし（名）歌謡、なつぶし
なつまめ（名）納豆、大豆豉、醗酵、なれまめ、もらしまめ（食物）
なつまつたい（名）甘草（植物）
なつまつまめ（名）本豆、まめのたくひ（植物）

なつまつしる（名）納豆汁（納豆を加へてつくれる味噌汁）
なつまつ（する）（他）納得、うけひく、うけがふ、承諾
なつまのうら　夏海浦（陸奥國東津輕郡に在て陸奥海に突出して背嶽湖を包める岬）
なつりやま　魚釣山（遠江國石田郡の山）
なつそびく　夏麻引（「うなかがた」「うなかぶし」等の枕詞）
なつかき（名）草雉鶏（加州の方言）、こうじがき（動物）
なつかしそう（名）風葵、石竹、なでしこ（植物）
なつかしき（形）恋慕、可懷、懷愛、したはしき、こひしき
なつがんぞう（名）銀翼（和泉の方言）、のぎたう（植物）
なつたいしん（名）夏瀧砌（植物）
なつだいだい（名）夏橙、金柑、きんかん（植物）
なつだで（名）夏蓼、ぞたくたで、うたで（植物）
なつそびく　夏麻引（「うなかがた」「うなかぶし」等の枕詞）
なつはき（名）淡恕、ねぎのたくひ（植物）
なつはな（名）蕨、東風菜、銀毛菜、蕨生菜、はるぜな（植物）
なつは（自）蕨、ゆしはる、ゆるぎはる（馬が耳を伏せて）
なつは（自）蕨、ゆきが、ゆるぎ、＝はらにもつ（食物が）
なつむ（自）泥、泥塗、拘泥、こりかたまる、かかはりすぎる
なつむめ（名）木天蓼、またたび（植物）
なつむし（名）金蚊子（南部の方言）、こがねむし（動物）
なつむし（名）蚊、はたる（動物）
なつむし（名）夏蚊、なつのむし（夏の夜に出る蚊なりと云ふ、夏蚊の火虫なきつゝ、是れ夏日の虫は夜分火を慕ひて之に投ずるが故なり）
なつのしらつゆ（名）蔵王（陸地蔵の類）（植物）
なつのやひ（名）蕨、從、從（「からすむぎ」の類）（植物）
なつのひ　夏日、炎日、赫日
なつく（自）懷、こころをよせる、慕附、依附、歸、＝馴伏、したしみきたる、なれる
なつくさの　夏草之（「あひねのはま」「しなえうらぶれ」「たゆひしなえて」「露分衣」「ぬしまち」等の枕詞）
なつくさ（名）木牛夏、野櫻桃（胡頽子の類）、きのな（植物）
なつくずの　夏葛之（「たえず」の枕詞）
なつやま　夏山（河波國三好郡に在る山）

なつやせ（名）夏痩、注夏痩、なつやせるやまひ、なつやせること
なつまめ（名）霞豆、うちまめ（植物）
なつまめ（名）梅豆（植物）
なつけ（名）薬酒、醗酵、明醗酵、つけなし、しほつけな
なつける（他）贈、名、命、稱、なをつける、ちなむ、なをたくる
なつける（他）懷、令懷、したしまする、ものしむる、馴狎、なじませる、なれさする
なつぶし（名）蚊遣、ふせぎやの火鉢、あせぼ、あせしらず
なつむし（名）原蠶、夏蠶、蛹蠶、蠶蚕（年に二度生ずる蠶）（動物）
なつむしたね（名）夏蠶種、なつがひこのたね
なつむしのふん　原蠶沙、二蠶沙、なつがひこのふん
なつむしうら（名）鶴鶏、たほとり（動物）
なつむん（名）南瓜（西京の方言）、なんきん（植物）
なつまめ（名）夏小豆（植物）
なつまる（自）相撲、あひすまふ、したしみあふ、
なつき（名）夏衣、袷衣、裏衣、なつのきもの
なつき（名）腦、腦、なつ、あたまのうら
なつきく（名）夏菊、施雅花、きくさき（植物）

ななつかたぎ（名）七束髪（はさの事を云ふ）
ななつだつぐ　七道具（刀、長刀、槍、鑓、弩、鎗、鉄砲を云ふ）
ななつのほし（名）七星（北斗をめぐる七星を云ふ）
ななつのみち（名）七道（東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道を然か云ふ）
ななつげ（名）聚毛、眉（足の大指の毛をいふ）
ななつまがり（形名）順後、ななつまでのち、＝下順時（明六つの前の時刻を謂ひて物の古びたるを言ふにも用ふ）
ななつ言言やう（名）七結髪、寛若、たにしるさ（植物）
ななつめん　七面（歌謡俗十八候の一）
ななつみね　七ッ峯（豫州國志太郡に在る山）
ななぬか　四十九日（人死して後の七週日を云ふ）
ななくりのゆ　七久里湯（信州筑摩郡の温泉）
ななくさ或あ言のななくさ　七草（秋花ぞ七人に喪せらるる七種の草なり桔梗、荻、女郎花、藤袴、葛の花、撫子、尾花）
ななくさ（名）七草（正月の七日を云ふ、また其時食ふ七種の蔬菜「ななくさのわかな」を見よ）
ななくさのつかな　七種若菜（芹、せり、薺、なづな、五行、ごぎやう、御形、ごぎやう、蘩蔞、はこべら、仏座、ほとけのざ）

ななつたがらし　七味唐辛子（唐辛子七味を和したる薬味）
ななくむら　七曲村（下總國葛飾郡の村名）
ななくのあみ（名）七曲網（佛經の語にしてなくの網を以て物をすくふが如く人を佛が救度うるを斯の如くいふ事なりと云ふ）
ななとも（名）澤潟、なまを（植物）
ななとうぐさ（名）澤潟（佐渡の方言）、なまを（植物）
ななりそ（名）莫鳴草、神馬草、はたはら、なのりそ（莫菜草）（植物）
ななをまち　七尾町（能登國鹿島郡の町名）
ななをしま　七尾島（薩摩國の島）
ななかたけ（名）囲天竹（植物）
なながうむら　七郷村（下總國葛飾郡の村名）
ななかまる（名）百両金（筑後の方言）、かうたちばな（植物）
ななた（名）七十、しちじう（古語）
ななそ　七十歳（しちじうさい）
ななそが　七曲我（音曲に云ふ所の調伏、元服、小神、夜討、切腹、離縁、伏木の七曲我）
ななつ（名形）七、しち（三と三に一を加へたる數）
ななついし　七頭石（武蔵國多摩郡に在る山）

ななつたけ（名）蒲、菖蒲、きのこの（植物）
ななつけ（名）茶貫瓜、糖瓜、しうりのかすづけ
ななつけうり（名）糖瓜、かすづけしうり（植物の名）
ならなくに　不爲、ならぬに、ならぬに
ならのなかみかど　南京七帝（元明、元正、聖武、孝謙、淳仁、稱德、光仁）
ならく（名）掻落（地獄の苦）、ならく、泥梨（ないり）、ならか
ならげ　楢下（氏）
ならけんわらう　奈良縣國（大和國添上郡奈良町に設置す）
ならふ（自）習、講、學、ならふ、＝倣、擬、まねる、まねする
ならぶ（自）雙、双、并、比、肩、ならべる、ならぶ、ならべる
ならもらし　奈良晒布（大和國添上郡奈良より出る有名の晒布）
ならもち　楢崎（氏）
ならし（名副）平均、平等（彼我を均一にする事）
ならし（名）鑢、鑪、せん（銀治の用ふる具）
ならしらふ（他）鳴音、聲言、いひあらはす、ならにあらはしいふ
ならした（名）楢羽（鹿の羽に云ふ）

なつまつ（植物）
なつゆ言（名）綱麻、きやうがのこ、ゝさのな（植物）
なつゆ言（名）無根草（佐渡の方言）、ねなしぐさ（植物）
なつめ（名）果木合（茶の湯の茶を容るる果器の器也し銅其他にても之を作るあり）
なつめ（名）聚（植物及び其果、此樹を一に九卿と云ふ）
なつめ　夏目（氏）
なつめむし（名）蛾（動物）
なつみかは　夏井川（大和國吉野郡に在り）
なつみがは　菜摘川（氏）
なつみかん（名）蜜柑、柑、び（は）（植物）
なつみかん（名）夏蜜柑（五六月の交に肥前などより出る大なる蜜柑を謂ふ、今は之を長州蜜柑と呼ぶ）、早蜜柑（植物）
なつみむら　夏井村（常陸國鹿島郡の村名）
なつみのうくのやま　夏井上山（大和國の山）
なつみのうら　夏實浦（紀伊國の海濱にて和歌に見えたる者）
なつしま（名）納所（寺院内の飲食其他の雜務を掌る僧）、調家、厨帑
なつしま　夏島（相模國の地名）
なつぞのせん（名）夏水仙、蘇鉄、そつはのかみ

なつたがらし　七味唐辛子（唐辛子七味を和したる薬味）
ななくむら　七曲村（下總國葛飾郡の村名）
ななくのあみ（名）七曲網（佛經の語にしてなくの網を以て物をすくふが如く人を佛が救度うるを斯の如くいふ事なりと云ふ）
ななとも（名）澤潟、なまを（植物）
ななとうぐさ（名）澤潟（佐渡の方言）、なまを（植物）
ななりそ（名）莫鳴草、神馬草、はたはら、なのりそ（莫菜草）（植物）
ななをまち　七尾町（能登國鹿島郡の町名）
ななをしま　七尾島（薩摩國の島）
ななかたけ（名）囲天竹（植物）
なながうむら　七郷村（下總國葛飾郡の村名）
ななかまる（名）百両金（筑後の方言）、かうたちばな（植物）
ななた（名）七十、しちじう（古語）
ななそ　七十歳（しちじうさい）
ななそが　七曲我（音曲に云ふ所の調伏、元服、小神、夜討、切腹、離縁、伏木の七曲我）
ななつ（名形）七、しち（三と三に一を加へたる數）
ななついし　七頭石（武蔵國多摩郡に在る山）

ほしに
ななしぐれたうげ　七時雨峠（陸中國鹿角郡に在る山）
ななしゆび（名）無名指、くすりゆび、くすりゆび（手の第四の指）
ななりやま　七穂峯（豫前國黒川郡に在る山、七疑峯ともいふ）
ななせのよど　七瀬淀（大和國または肥前國の地名）
なら　平城（元明天皇の都したまひたる地にして大和國添上郡に在り、其後聖武天皇より孝謙天皇まで及淳仁天皇より光仁天皇まで都せられたり）、奈良、諸楽
なら（名）楢、柚、背岡柚（植物）
ならい（名）北風、うしとらのかぜ、東北風
ならうしやう（名）銅青、銅綠、あかがねのろくしやう
ならだやし　楢林（氏）
ならぐごほり　楢梁郡（紀城國の郡の名）
ならはし（名）風俗、習俗、風儀、慣習、慣、俗、しきたり、くせ
ならはす（他）演習、けいこさせる
ならべる（他）並、陳列、排列、並列、つらねる、ならべたてる
ならべぜに（名）連錢、れんせん（錢を多く並べたる如き模様）

ならたけ（名）蒲、菖蒲、きのこの（植物）
ならづけ（名）茶貫瓜、糖瓜、しうりのかすづけ
ならづけうり（名）糖瓜、かすづけしうり（植物の名）
ならなくに　不爲、ならぬに、ならぬに
ならのなかみかど　南京七帝（元明、元正、聖武、孝謙、淳仁、稱德、光仁）
ならく（名）掻落（地獄の苦）、ならく、泥梨（ないり）、ならか
ならげ　楢下（氏）
ならけんわらう　奈良縣國（大和國添上郡奈良町に設置す）
ならふ（自）習、講、學、ならふ、＝倣、擬、まねる、まねする
ならぶ（自）雙、双、并、比、肩、ならべる、ならぶ、ならべる
ならもらし　奈良晒布（大和國添上郡奈良より出る有名の晒布）
ならもち　楢崎（氏）
ならし（名副）平均、平等（彼我を均一にする事）
ならし（名）鑢、鑪、せん（銀治の用ふる具）
ならしらふ（他）鳴音、聲言、いひあらはす、ならにあらはしいふ
ならした（名）楢羽（鹿の羽に云ふ）

なつまつ（植物）
なつゆ言（名）綱麻、きやうがのこ、ゝさのな（植物）
なつゆ言（名）無根草（佐渡の方言）、ねなしぐさ（植物）
なつめ（名）果木合（茶の湯の茶を容るる果器の器也し銅其他にても之を作るあり）
なつめ（名）聚（植物及び其果、此樹を一に九卿と云ふ）
なつめ　夏目（氏）
なつめむし（名）蛾（動物）
なつみかは　夏井川（大和國吉野郡に在り）
なつみがは　菜摘川（氏）
なつみかん（名）蜜柑、柑、び（は）（植物）
なつみかん（名）夏蜜柑（五六月の交に肥前などより出る大なる蜜柑を謂ふ、今は之を長州蜜柑と呼ぶ）、早蜜柑（植物）
なつみむら　夏井村（常陸國鹿島郡の村名）
なつみのうくのやま　夏井上山（大和國の山）
なつみのうら　夏實浦（紀伊國の海濱にて和歌に見えたる者）
なつしま（名）納所（寺院内の飲食其他の雜務を掌る僧）、調家、厨帑
なつしま　夏島（相模國の地名）
なつぞのせん（名）夏水仙、蘇鉄、そつはのかみ

なつたがらし　七味唐辛子（唐辛子七味を和したる薬味）
ななくむら　七曲村（下總國葛飾郡の村名）
ななくのあみ（名）七曲網（佛經の語にしてなくの網を以て物をすくふが如く人を佛が救度うるを斯の如くいふ事なりと云ふ）
ななとも（名）澤潟、なまを（植物）
ななとうぐさ（名）澤潟（佐渡の方言）、なまを（植物）
ななりそ（名）莫鳴草、神馬草、はたはら、なのりそ（莫菜草）（植物）
ななをまち　七尾町（能登國鹿島郡の町名）
ななをしま　七尾島（薩摩國の島）
ななかたけ（名）囲天竹（植物）
なながうむら　七郷村（下總國葛飾郡の村名）
ななかまる（名）百両金（筑後の方言）、かうたちばな（植物）
ななた（名）七十、しちじう（古語）
ななそ　七十歳（しちじうさい）
ななそが　七曲我（音曲に云ふ所の調伏、元服、小神、夜討、切腹、離縁、伏木の七曲我）
ななつ（名形）七、しち（三と三に一を加へたる數）
ななついし　七頭石（武蔵國多摩郡に在る山）

なつ（名）五月菊、なつはなぶ～ゝ～（植物）
なつ言言（名）綱麻、きやうがのこ、ゝさのな（植物）
なつ言（名）無根草（佐渡の方言）、ねなしぐさ（植物）
なつめ（名）果木合（茶の湯の茶を容るる果器の器也し銅其他にても之を作るあり）
なつめ（名）聚（植物及び其果、此樹を一に九卿と云ふ）
なつめ　夏目（氏）
なつめむし（名）蛾（動物）
なつみかは　夏井川（大和國吉野郡に在り）
なつみがは　菜摘川（氏）
なつみかん（名）蜜柑、柑、び（は）（植物）
なつみかん（名）夏蜜柑（五六月の交に肥前などより出る大なる蜜柑を謂ふ、今は之を長州蜜柑と呼ぶ）、早蜜柑（植物）
なつみむら　夏井村（常陸國鹿島郡の村名）
なつみのうくのやま　夏井上山（大和國の山）
なつみのうら　夏實浦（紀伊國の海濱にて和歌に見えたる者）
なつしま（名）納所（寺院内の飲食其他の雜務を掌る僧）、調家、厨帑
なつしま　夏島（相模國の地名）
なつぞのせん（名）夏水仙、蘇鉄、そつはのかみ

（はさけのれ）、鯛茶（すすな）、鯛花（すすしろ）の七種にて一月の七日に雜煮につくりて食ふ者）
ななくさのかゆ　七種粥（正月七日に食ふ七種の菜（上を見よ）を和したる粥をいふ、此風は弘仁年中に始まりし者にて此月廚より大氣爲わたり炎りて諸人苦悩をかゝるを打消す爲に設けたる者なりと云ふ）
ななくさのたから　七種寶（金、銀、瑠璃、硨磲、玉、琥、馬瑙、珠を云ふ）
ななふし（名）七節たけのふしもし（動物）
ななし（名）斜子、七股（絹絲を七股によりて織れる上等絹物にて岩代陸前の邊より出づ）
ななし（名）七子（赤銅七子など云ひて門、扉、障子、屏風、櫃などに装する金物に七子織の如く細刻を施こせるを謂ふ）
ななし（名）鳴子（刀劍の飾に云ふ所）
ななしうびやうおう言言　七小人衆（人生は禍多けれども又終に福に至るの譬をいふ）
ななしまち　七小町（音曲に云ふ所の草紙洗、通小町、卒都婆、山本、卒都婆）
ななし言言　斜子絹、七股絹、ななこ
ななめ（形）斜、邪、陰、かたむく、ならく、なせ、＝すがひ、すがひ、
ななめならず　不斜、にはかたならず、いたく、に

ほしに
ななしぐれたうげ　七時雨峠（陸中國鹿角郡に在る山）
ななしゆび（名）無名指、くすりゆび、くすりゆび（手の第四の指）
ななりやま　七穂峯（豫前國黒川郡に在る山、七疑峯ともいふ）
ななせのよど　七瀬淀（大和國または肥前國の地名）
なら　平城（元明天皇の都したまひたる地にして大和國添上郡に在り、其後聖武天皇より孝謙天皇まで及淳仁天皇より光仁天皇まで都せられたり）、奈良、諸楽
なら（名）楢、柚、背岡柚（植物）
ならい（名）北風、うしとらのかぜ、東北風
ならうしやう（名）銅青、銅綠、あかがねのろくしやう
ならだやし　楢林（氏）
ならぐごほり　楢梁郡（紀城國の郡の名）
ならはし（名）風俗、習俗、風儀、慣習、慣、俗、しきたり、くせ
ならはす（他）演習、けいこさせる
ならべる（他）並、陳列、排列、並列、つらねる、ならべたてる
ならべぜに（名）連錢、れんせん（錢を多く並べたる如き模様）

（六七一）

ならしだの　楢羽之（「なれ」の枕詞）

ならして（名）　鳴者、ならすもの

ならえんこんがう（名）　那羅延金剛、右弼剛金（二王の一）

ならえんてん（名）　那羅延天（梵語にして天界或は天神の名）

ならひ（名）　習慣、し〜せ、ならへること、習

ならびまま　並濱（攝津國の海邊にて和歌に名高し）

ならびに（副）　並、并、あはせて

ならびおこなれる　並行、ともにおこなはれる

ならびなし（形）　無比、無類、たぐひまれなる、たぐひなき

ならひとむ（他）　演習、熟學、熟煉、じゆ〜れんする

ならす（他）　鳴、ならさする、＝琅（鼓を）、＝鏘（鐘を）、＝擊（釜を）、＝膊（手足の節を）、＝聲（不平等を）

ならす（他）　生（草木に果實を結ばしむるを云ふ）

ならす（他）　平均、均一、平等、平樹、ひとし〜する、たひらにする

ならす（他）　夷、平坦、たひらにす（土地を）

ならずもの（俗）（名）　無賴者、破落戸、だうら〜もの、あしきもの

なむ　南無、那謨、殺謨、南摩、納莫（梵音にして敬從或は飯命するの意なり）

なむぢ（代名詞）　汝（「なんぢ」に同じ）

なむさんだう　南無三寶（事を誤りて歎息する詞）

なむきの　列城（武烈天皇の都したまひし地にして大和に在り）

なむし（名）　蝸、螟蛉（菜にをる青蟲）（動物）

なう（名）　腦、頭腦（頭の項に在る精神運動の主府）

なうろう（名）　腦漏（腦漿の流れ出る病）

なうり（名）　蕓薹者、なをうるひと

なうり（名）　菜瓜（大和及び讃岐の方言）、しろうり（植物）

なうがい（名）　腦蓋、あたまのはち、なづき

なうがいこつ（名）　腦蓋骨、なづき、あたまのはちぼね、さら

なうだい　蕪代、むかしのよ、蕪世

なうそ（名）　蕪祖、乃祖、せんぞ、とほつおや

なうそ（名）　腦疽、〜びきれちやう（病名）

なうなう　喃喃（人に向ひて呼び又〜ぢ〜に用ふる詞なり、喃喃と呼びぢめ、喃喃ききてたべなど云ふ）

なうらん（する）（自）　惱亂、〜るひみだれる（心神すでに惱亂して目見ること能はずなど云ふ）

なうまく（名）　腦膜、なづきのかは（腦を蔽ふ薄皮）

なうまく　蕪膜（「なむ」を見よ）

なうで（形）　有名、なある、なにおふ、なたかき

なうてん（名）　腦顛、腦項、かしらのいただき

なうあう（する）（自）　惱懊、なやむ、〜るしむ

なうさつ（する）（他）　惱殺、なやましころす（美人等が人の心を蕩かすに借り用ふ）

なうきんしよう（名）　腦禁衝（腦の病）

なうみそ（俗）（名）　腦味噌、腦漿（頭腦の體質を謂ふ）

なうど（名副）　蕪時、むかし、うのかみ、さきに

なうじつ（名副）　蕪日、むかし、昔日、さきに

なうじうけつ（名）　腦充血、あたまのたもくなるやまひ（病名）

なうしや（副）　蕪者、まへかた、さきに、むかし

なうしやう（名）　腦漿、なうみう

なうびやう（名）　腦病（頭腦の痛む病）

なうずね（名）　腦髓、づなう

なのにしごほり　名西郡（阿波國の郡の名）

なのり（名）　寶名、諱、いみな、通稱に非る名）

なのりそ（名）　莫告藻、莫鳴菜、神馬藻、ほたわら、ななりう、うみくさのな（植物）

なのりその　名乘藻之（「名はのらしても」の枕詞）

なのりあふ　名告合、互告其名、なをつげあふ

なのる（自他）　名告、なをいふ、＝名、なづ〜る

なのめに（副）　緩、すこしゆるみて

なのみ　名而已、有名無實、なばかり

なのひがしごほり　名東郡（阿波國の郡の名）

なく（自）　喰、泣、なみだをいだす、＝哭、なげく、＝慟、いたむ、＝鳴、鳴、呱（鳥等が）、＝唧（虫が）、すだく

なぐ（他）　薙、よこにきりはらふ、かる（剪）

なぐ（自）　和、おだやかになる（海の波が）

なぐねだけ　名久井嶽（陸中國九戸郡に在る山）

なぐもし　名高（「いはみの海」「さみねの島」「吉野の山」等の枕詞）

なくとりの　鳴鳥之（「やめばつがるる」の枕詞）

なぐるやの　放箭之（「さほぞかりあて」の枕詞）

なぐるみ（名）　呉桃、〜るみのな（植物）

なくたづの　鳴鶴之（「なきにしなかむ」の枕詞）

なぐれる（自）　閃閃、斜行、ろれる、ろける、よこへきれる

なぐれもの（名）　濫貨、腐貨、ねきもの、ろうづものの、うれぬもの

なくなる（自）　無成、皆壊、絶、たえる、つきる、＝殁、滅、死、しぬる

なくなく（副）　泣泣、なきつつ

なぐら　名倉（氏）

なぐらど（名）　名倉砥（三河國設樂郡名倉村より出る所の砥石）

なぐらむら　名倉村（三河國北設樂郡、紀伊國伊都郡及び相模國津久井郡の村名）

なぐや（名）　投箭、なげや、なげつけるや

なくことなす　如啼兒（「ことだにとはず」、「したひ」、「ねのみなきつつ」等の枕詞）

なくさやま　名草山（紀伊國名草郡に在る山）

なくさごほり　名草郡（紀伊國の郡の名）

なぐさめる（他）　慰、慰藉、たのしませる、＝散（鬱を）、慰勞、いたはる

なくせみ（名）　蚱蟬、雌蟬

なや（名）　納屋、ものおき、こや

なや（名）　魚屋、さかなや、魚牙子、うをざんや

ならふ（自）　追儺、おにやらひする

ならひ（名）　追儺、おにやらひ

なやむ（自）　惱、懊、難、辛苦、難儀、勿勞、難覊、〜るしむ、うれへ（もだへる）

なやましき（形）　惱敷、うれはしき、〜るしき、辛苦、わづらはしき

なやます（他）　惱、なやみをおこす、＝煩勞、わづらはす（人を）

なやみ（名）　惱、苦心、痛苦、煩悶、〜るしみ、いたみ

なやす（他）　鍛、きた〜る、ねる、うちかためる（金屬を）

なやす（俗）（他）　痰、なにさする、なへしむる

なま（形名）　生、にぬ（不煮）、＝鮮（魚の）、＝青、みじゆ〜

なまいき（形）　半生、なかばしぬる（半死）

なまいき（俗）（形）　虚誇、いきすぎ、ものしりがほする

なまにえ（形）　生煮、よ〜にぬ、＝半煮、半熟（はんじゆ〜）

なまへ（名）　杖核（讃岐の方言）、しでのき（植物）

なまへ（名）　名前、な、となへ、名稱

なまち（名）　生血、鮮血、いきち（生物の身より出る血）

なまり　鉛、鮎、黒鋼、やはらかきかね、青金、金公

なまり（名）　白鐵、びや〜らふ、すずなまり

なまり（名）　生鰹節（「なまりぶし」の畧）

なまり（名）　方言、おなかことば、＝訛、轉、よこなまり

なまりだま（名）　鉛子、鉛丸、鉛彈（鐵砲の）

なまりぶし（名）　生鰹節、かつものなまぼし

なまる（自）　訛、よこなまる、あやまる（言語が）、轉訛、誤

なまをんな（名）　青女、あををんな（宮廷に仕ふる婦人）

なまこかき（形）　生弱、まだわかき、こわかい、うらわかき

なまかん（名）　生皮（鳶、鴉等の皮と肉を適宜にきりて酢に漬け置き醤油を煮たて其沸騰するを

待ち客の肉などを捉入して直に出す、又牛蒡などを之に加ふ）

なまかず 生醒、まだかわかぬかず

なまがは(名) 鰓鐵、鮭(鐵の鰓なる者)

なまがしめん 生學問、半學、半面學、未熟

なまがしゑん(俗) 生名聞、半額解、はやのかこみ、よ〜わからぬこと、＝知半解

なまがひ(名) 生貝、あはび(料理屋にて鮑を添か呼ぶ是生にて三杯酢にして出す者なれば也)

なまがもの 生可之(「かひ」の祝詞)

なまがよひ(形名) 半醉、なかばよひたる、また酒屋淡、さけにゑひたるひと、なまゑひ

なまだ(名) 醒魚(安房の方言)、うつは(動物)

なまだれ(名) 生溜(「だし」の一種、料理に云ふ所)

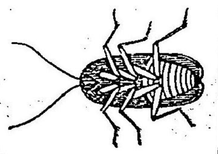
なまだまご 生卵、うでぬたまご

なまづ(名) 鯰、鯉、鰻魚、怒魚、ひげあるうを(動物)

なまつば(ま)(名) 生唾(穢き物等を見て口より頻りに出る津液)

なまつむし(名) 鯰虫(「かつぱ」を見よ)

(圖の虫鯰)



なまつめ(名) 生爪、しきつめ、しなそつめ

なまつゆ(名) 生露(生の儘の糸を面福につゆを謂ふ)

なまつえむら 鯰江村(攝津國東成郡の村名)

なまなり(名) 背生(俗面に云ふ所)

なまなか(俗)(副) 生中、なまじひに、すこしばかり

なまなれ(形) 半熟、なかばなれたる、まだよくなれぬ(食物に云ふ)

なまなま(形) 生半、なまちしゃ、あたらしげなる

なまなましき(形) 生生疎、いきなまちしゃ、＝未熟、いたらぬ

なまにかし(名) 近古(あまりふるからぬる時)

なまうを(名) 生魚、鮮魚、生鮮、腥魚、なまぐさかな

なまぐさし(名) 生臭子、むしゃわし、ゆうやわし

なまぐさい(俗)(形) 剣になり、ぬれぬ(又物が)

なまぐさき(形) 腥、生臭、腥、なまぐさかな〜ぢ、＝又なまぐさのにおひある

なまやけ(形) 生燒、よ〜やけぬ、なかばやけたる(肉が)

なまける(俗)(自) 懶惰、解怠、怠惰、をこたる、ずるける

なまこ(名) 海參、海鼠、海鼠、海鼠

なごやまち　名護山（筑前國の山）

なごやあらき　名古屋崎（尾張の名古屋より例田する名細を崎）

なごやみさき　名古屋崎（筑前國遠賀郡目畑の海岸に在る崎）

なごめる（他）　凪、和、やはらぐる、なだめる

なごし（名）　夏越、なつをこすこと（下を見よ）

なごしのはらへ（名）　名越祓（六月の晦日の大祓をいふ）、和解

なごん（名）　納言（古昔の高官の名、大中小の三等あり）

なで　無而（なくして或なくして之略なり、かれなで來るなど云ふ）

なでる（他）　撫、摩擦、さする（手にて）

なでつける（他）　撫付、髪、〜しけつる

なでつけがみ（名）　撫附髪（きりかけにて背になでつけるをいふ）

なでむら　名手村（紀伊國那賀郡の村名）

なでう（副形）　何條、なんでう、いかで、＝又いかなる、いかさまの

なでうもなき（形）　無何條事、なにごともなく、平凡、なみなみの、よのつねの

なでうし（名）　撫牛（牛の形の置物をいふ）

なであげる（他）　搗上、うく（なでる、さすりあげる）

なでそする（他）　撫、摩擦、あんまする、＝かわいがる

なでぎり（名）　撫斬、よこなぐにきること

なでしこ（名）　撫子、瞿麥、洛陽花、南天竺草、瞿麥、天涯、且句麥、聖草、龍爪、むさなでしこ、とこなつ（石竹も此一種）（植物）

なでもの（名）　撫物（人の形の紙にして人の罪を負はせて祭るに用ふ、＝にえもの、ものびもの）

なでん（名）　南殿（紫宸殿を謂ふ、なんでん）

なのるところ　名所、名勝、遊跡、なだかきところ

なあて（名）　名宛、あてな、ところがき

なぞなし（名）　難問、ぞうひこ、うまれること

なさかのうら　奈佐可浦（常陸の國の海濱）

なさのみなと　那佐港（阿波國の港の名）

なさけ（名）　情、あはれ、こころ、＝もののあはれ、こひ（情をひき、戯る或は酒ふるは娼婦の業を爲すを云ふ）

なさけなき或なさけなし（形）　無情、薄情、殘酷、なさけしらず、おそひやりなし、＝つれなし、むごたらしい、むごい、殘忍、酷薄

なさけのたね　情種（俗に孕み子を然かいふ、但し正に情夫情婦の間に用ふ、情の種を宿しなど云ふ）

なさし（名）　名刺、名札、手札、姓名札、なふだ（宿所姓名を記せる札）

なき或なし（動形）　無、亡、ない、ぬ（不有）

なき（形）　亡、しにたる、うせたる

なき（名）　竹柏、柳、椎、仙動木（植物）

なき（名）　和、和波、靜波、しづまり（海波の）

なきまし　亡母、先妣、しにたるはは

なきまどふ（他）　難惑、まどにうろたふ

なきまどす（他）　啼泣、なかにてふかす（目を）

なきまどひ（自）　啼惑、うたひまどひす（鳥が）

なきあひ　亡父、先考、しにたるちち

なきり（名）　鯛、鯉（長州の方言）、あまうがや（植物）

なきりだうやう（名）　薬切庖丁、だいどこうはうちやう（薬剤を切る刀）

なきえ（名）　翹、をなき（鳥の尾の上の長き毛）

なきえんな（名）　哭婦、泣女、なきめ（雜式の時雇はれて哭く婦人）

なきがら（名）　亡體、死骸、しかばね、しにがら、死體

なきたま（名）　亡魂、亡靈、死靈（死人の靈魂）

なきたおす（他）　難倒、よこにはらひたふす

なきたとる（他）　難立、よこにはらふ、＝うちたふす

なきうら（名）　立而、なきがは

なきはま（名）　泣濱、なきつつしはるを云ふ）

なきなた（名）　薙刀、長剣、眉尖刀、長刀（長き柄の太刀にて敵になる者なる故に然かなづく）、柳葉刀

（國の刀薙）

なきなたがうじゆ（名）　薙刀毒藻（植物）

なきふせる（他）　薙伏、はらひたふす

なきふす（自）　泣伏、ないてうつぶす

なきこゑ（名）　啼聲、啼泣之聲、なくこと

あきあと（名）　亡迹、しにたるあと、死後

なきあかす（他）　啼明、なきてよをあかす、よがらなく

なきそ（名）　渚、汀、江、澳、沙頃、みぎは、かつぎは、きしべ

なきそでぐ（自）　啼顔、なげきてそでをぬらす、わびなきをする〜

なきそけぶる（自）　號泣、號哭、なげきよはる

なきあ（名）　泣婦（「なきめんな」を見よ）

なきまどひる（自）　啼迷、なきてうろたへる

なきしたふ（自）　啼慕、こひてなく

なきがら（名）　亡人、亡者、死骸、死人、しかばね

なきやたくる（自）　哭問、なげきなやむ

なきすがる（他）　難居、よこにはらひてすわらする

なゆむ（自）　慵、〜るしむ、なやむ

なゆたけの　美行之（「をほつ大浦」「をはよる子等」等の枕詞）

なゆみ（名）　梱、ねずかをいるつは、ねづかをし

なあ（名）　厩、はだつけ（馬具にて鞍の下にある物）

なあ（名）　鍔（鐔の背にて刃なき處をいふ）

なあ（形名）　無禮、ぶやなき、不敬、失禮、失敬、粗暴

なあ（名）　柄、柄、柄尻、なはしり、ぐらぐらくだるやまひ、＝赤痢、あかなあ、＝白痢、しろなあ

なあまら（名）　柄、柄（「なあ」をみよ）

なありがは　滑川（相模國鎌倉郡の川の名、また越中國新川郡の町名及川の名）

なあぬま　滑沼（下總國に在る大沼）

なある（他）　並、ならべる、並列

なある（他）　祇、祇、ねぎる、＝咬、啼、〜ちにてあらはす

なあかは　名女川（岩代國の川の名）

なみだのつき（形）涙脆、なみだのこぼれやすき（物に感動して直に涙を出すを謂ふ）

なみつき　雙槻（用明天皇の都したまひし地にして大和國に在り）

なみなみ（形）並並、ひとしはり、よのつね、平凡、平平凡凡

なみなみ（形）溢溢（衆多の貌）、ものがる、＝又盈盈たつふり

なみうつきは（名）波打際（海波の打寄する岸）、なみよせきは

なみのたち（名）波花（波の泡たちてしら〜見ゆるを云ふ）、＝しは（令體）

なみのまの　浪穢之（「いたふらしまよ」の枕詞）

なみのかみ（名）賜侯（大波の神）

なみのうね　波龍、起倒波、なみのしは、なみのたかみ

なみのこ（名）浪子（鮗の屬にて安房國より出す）（動物）

なみのこがひ（名）浪子貝（上に同じ）（動物）

なみのしは（名）水紋（水面のしはかて見ゆるを云ふ）

なみのひと　凡人、庶人、ただうど、よのつねのひと、等閑人

なみのやまやま　連座山（近江國高島郡の山）

なみのやまの　唯渡之（「うつ〜しうまと」の枕詞）

なみ（名）波、濤、浪、瀾、波瀾（海水の風に動搖する者）

なみゐる（自）列居、列坐、並居、班列、ならびをる、つらなる

なみち（名）波路（海上の道路）、＝又ふなぢ

なみだいし（名）波分石（庭の瀧の口に設けて瀧下の流水を分つ石なり、庭造法に云ふ）

なみだのひれ（名）波分鰭（鰹魚の背鰭をいふ）、しやうしやうのひれ（また鯛の尾の上端をいひ、また鮪の尾の上端をいふ）

なみかけのうら　浪懸浦（筑前の海浦にして和歌に名高き者）

なみよけ（名）波除、水堤、堤防、つつみ、かつふせぎ

なみよけぐひ（名）除波杭、かつふせぐひ

なみだ（名）泪、涙、眼水、巍水、淚、淚、珠淚（目より流る時等に出る水）

なみたのひれ（名）断波鰭（鯉の背に立てる大鰭）

なみたたがす　流淚、落淚、なみだをこぼす

なみたがいた　泪機（丹後國の海邊にて和歌に名高き者、泪の浦とも云ふ）

なみたつ（自）浪立、なみがたつ、ものがる

なみたぐむ（自）含淚、なみだをもつ、なみだをふくむ、もせる、沾然

なみかもあり　浪河町（下總國香取郡の町名）

なみかに　行方（氏また地名）

なみかに　鏡紋（鏡の表裏の淺にして或る時代に名〜）

なみかたごほり　行方郡（常陸國の郡の名）

なめらか（形）滑、滑澤、圓滑、光滑、すべこい、すべすべしたる、すべる、＝つやつやしき

なめくじり或なめくじ（名）蛞蝓、蛞蝓、括蝓、蛞蝓、蛞蝓、土蝸、なめくじら（動物）

なめこうを（名）斬鯷魚（「くわつゆをよ」を見よ）（動物）

なめけ（名）無禮、しつれい、ぶさほう、しつけい、おやなし

なめし（名）裝飾（背裝をいれてたきたる帙）

なめしかは（名）滑革、滑革、柔革、柔皮、つくりがは

なめす（他）礦、磨、滑、柔、滑、つくる（皮を）

なめまる（冷）（他）祇、飽、なめる、ねぶる

なめまろる（他）無厄（物をつらねすうるを云ふ）、ならべすえる

なめすすき（名）滑薄（樓前の一名）（植物）

なみ（名）次、次第、ならび、列

なみ（名）次、ついで、＝あたり（月次「つきなみ」などに用ふ）

なみ（形）常、凡、並、よのつね

なみ（名）波川、なかのあひだ

なみがしら（名）牡蠣、かき（動物）

なみまつ（名）列松、ならびまつ、なかきまつ、まつなみき

なみまくら（名）波枕（海上に夜をあかす事にいふ）

なみしのひれ（名）超波鰭（鯛の腹の傍に在る鰭を鰭）、かしはのひれ、＝又尾鰭（鮪の尾の下鰭をいふ）

なみあん（名）次間（中等の間にて其製法は常の茶を能〜とき「たまり」と酒を混入し沸かすなり、是は料理の吸物に用る者にて筵子に用る甘き間に非らず）

なみき（名）並樹、並木、列樹、行樹、ならびはえたるき（道路の兩傍等に）

なみき　並木、次樹（氏）

なみきまち　並木町（東京市淺草區淺草の町名）

なみしきのひれ（名）波布鰭（鰹の頭にある鰭）

なみする（他）無、沒、なしがしらにする、かうしおる

なし　無、あらず（「なき」をかよ）

なし（名）梨、玉乳、ありのみ（植物）

なしまろ（名）生瓜、うかのは、質母（「なす」の下を見よ）

なしうち（名）梨地、泥金、撒金、撒金（梨色地の漆に金粉を散じたる者）、摺金

なしりもろ（他）詣問、きひつめる

なしる（他）問、きひつめる、＝せめる

なしかも（副）如何、いかにして、いかでかは

なしかん（名）梨子羹（梨子を搾りて白砂糖葛粉（かんてん）等を混和し作れる羊羹の類）

なしつぼ（名）梨壺（禁中の温明殿の北に在りし昭陽舎を云ふ）

なしつぼのごかせん　梨壺五歌仙（赤染衛門、和泉式部、紫式部、馬内侍、伊勢大輔（上東門院の侍女）なり）

なしつぼのしちかせん　梨壺七歌仙（赤染衛門、和泉式部、紫式部、清少納言、伊勢大輔、馬内侍、小式部）

なしおんる（自）做後、すること、なしれる

なしむ（自）飼、馴、狎、慣、なれる、したしくなる

なしつぶて（俗）（名）清潔、たんたんがく（借財を數月あるひは數年にわりて遲くすを謂ふ）、分遲

なしまぜる（他）令馴、なれませる、したしませる

なしまんじう（名）梨饅頭（極上等の水梨を求め兩方の小口を切り小刀にて中の身を去り此中へ上等の饅頭を押入れ蒸したる者）

なしあん（名）梨餡（梨地塗へ畫かきたる事）

なしもの（名）鱗、魚鱗、鱗、＝鱗手（魚の鱗を鱗に擬めたる者）、しはかう

なす（名）陰茎（陰莖の立はを謂ふ）、不起、じんきよ

なえる（自）萎、萎、萎、なよなよとなる、きかなくなる（手足等が）、＝くにやくにやする、不仁、麻痺、攣縮

なえあし（名）痿蹇、なえたるあし

なびうめ（名）名披梅（華人などが我が名を得意ぶる〜披梅する事）

なびか　並河（氏）

なびかす（他）令靡、ひらひらせしむる（風に）、＝したがはする

なびれぬま　名瀦沼（陸前國遠田郡に在る有名の沼、「なはたぬま」とも云ふ）

なびく（自）靡、靡、搖、倚、靡、靡、ひらつく、ひらひらする（風に）、＝又したがふ、歸服

なもみ（名）苍耳、蒼耳、ぬなもみ、ぬなもみ（植物）

なせ（名）夫君、をつと、せのきみ（古語）

なせ（俗）（副）何、なにゆゑ、いかなれば、なにとて

なす　那須（氏）

なす（名）茄、茄子、なすび（植物）

なす（他）爲、作、做、行、たこなふ、いたす、＝又か

く す、ゆ ど す、選、淅、＝また産生、うむ（繼子を「なすはなか」と云ひ、生母を「なしはら」と云ふが如し）

なす（他）産、生、うむ（子を）

なすりつける（他）擦、ぬりつける、＝又轉、れはせる（罪を人に）

なする（他）擦、ぬる、こする

なすがたけ　那須岳（一名栗臼が嶽と云ふ、下野の有名の山）

なすつけ（名）茄漬、つけなす、つけたるなすび

なすらくる（他）進、展（「ながらくる」に同じ）

なすのがはら　那須野原（下野國に在る有名の原）

なすび（名）芝草、香附子、水香稜（植物）

なすびなり　那須郡（下野國の郡の名）

なすびる（自）馴、ゆゆにしたしみをる、つれだつをる

なすび（名）茄子、茄、茄瓜、落蘇、落蘇、昆布瓜、紫瓜、紫瓜（植物）

なすび（名）陰莖（婦人陰戸に物の茄子の形にて垂れさがれる者を謂ひて五不女の一とす）、角、茄角、なすびつび、茄陰

なすびがね（名）鉄金（金を鉄或は茄子の如くに成したる者を云ふ）金莖

なすびつび（名）茄陰、陰莖、なすび（五不女の一「なすび」を見よ）

なすびでんがく（名）茄子田樂、茄串、なすのしぎやき（食品）

なすびもんなり（名）龍葵、いぬほほづき（植物）

なん（副）何（「なに」の促音）

なん（名形）南、みなみ、雖

なん（形）敢（せんだん）柔、顧、しなやか

なん（形）難、かたき、むつかしき

なん（名形）男、をとこ、をのこ

なんら　難、むつかしきたやすき

なんいん（名）男陰、男根、陰莖、玉茎、陽茎、屌、屌（男子の生殖器）

なんうん（する）難論、なとりいひあらうふ

なんぱ（名）、ーする（自）難破、なんせん、破船、ふねがこはれる（海にて）

なんば　難波、なには（攝津國東生郡の地名）

なんば　難波（氏）

なんば　南蛮（氏）

なんばに（名）難波煮（料理の名なり、小鯛をやきて「ずいき」と煮たる者）

なんぱう（名）南方、みなみのかた

なんぷう（名）男房（女房に對す、昔し禁中に設あり し職なり、和訓栞に曰く、母中雜記に曰く、多は女房の供する所なり、男房を召すことは稀なり」と、嬉戯記にも女房男房の名見ゆ）

なんぼ（俗）（副）何程、いくら、なにはど

なんぼくのやしろ　南木社（河州石川郡に在り祠正成の盔を祭れる所）

なんぐん　何遍、幾度、幾遍、いくたび

なんぐん　南郡（大和國添上郡の郡名）、奈良、平城

なんぐん（名）郡戸、ものたまくや、＝雲戸、くもの くや

なんぐん（俗）、何度、なんぐん、いくたび

なんぐん　等、など、なら

なんぐう（名）南斗（南極をいふ）

なんぐう（名）南瞿、つるうめもどき、いせはなび（植物）

なんぐのたつけい　南郡八景（南四堂の磯、佐保川の霧、猿澤池の月、春日野の鹿、三笠山の雪、螢井坂の雨、東大寺の鐘、猿澤の行人をいふ、「はつけい」を參觀せよ）

なんぐのしちだいじ　南都七大寺（東大、興福、西大、元興、大安、藥師、法隆の七個寺）

なんぐまち　船戸町（東京市牛込區牛込の町名）

なんぐ言　何時、なにのとき、いつ、＝又いつぱく とき

なんぢ（代名詞）汝、爾、女、乃、若、而、爾、阿你（人に向ひて呼ぶ詞）、うなた、いまし、な

なんぢ（形）難治、なほらぬ（病の）、なほりがたき、いとがたき

なんぢら（代名詞）汝等、爾輩、汝輩、爾等、女等、爾等、きみたち、がた「なんぢ」の複數）、卿等、卿輩、きみたち

なんりよ（名）南呂（大陰暦八月の異名）

なんかい（形）難解、けしがたき、さとりにくき

なんかいだう　南海道（日本六道の一にして紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐の六國を含む）

なんかいなんぐ　南海南郡（大和國添上郡に在り又奈良郡と云ふ）

なんかいさい（名）南蛮菜、はたぜ（植物）

なんかう（名）南洋、かうや、

なんだい（名）難題、むつかしきたい（歌の）、＝又（俗）むつかしきひがかり

なんたいさん　男體山（常陸國八溝郡に在る山）

なんたわ（代名詞）汝等、い選、なんぢら（目下の者に向ひて言ふ詞你選が俗言なと云ふ）

なんれう（名）南鐵、鐵鋌、銀鋌（銀子をいふ）

なんぐ（副）何、奚、那、奈、いかんが、いかで

なんなく（副）無難、なんなんに、さはりなく

なんなん（形）諄諄、くどくど（談話の時の緊をいふ）

なんなんする（自）乖、向、方、將、まさにならんとする

なんら　何等、いかなる、なにら

なんらう（名）男郎（郎は男女の敬稱にして男郎は卽ち男をいふの美稱）

なんの（代名詞）何、なにの、いかなる

なんく　難有、むつかしきもんく

なんくわ（形）敢和、やはらかき

なんくわ（する）（自）敢化、やはらかになる

なんくわ　南瓜、かぼちや、たうなす、ぼうぶら（植物）

なんくせ（俗）（名）難癖、非難、缺點、きず、あしき こと（人に難癖をつけるなど云ふ卽ち人の名譽を害するの意なり）

なんげん（名）敢言、やはらかきことば、温言

なんぶ　南部（氏ふた陸中の森岡城を云ふ、大南部小南部に分かれ此より有名の南部鐵を產す）

なんぶぬり（名）南部塗（陸奥の南部に行はるる一種の漆塗法）

なんぶつ（名）難物、やつかいもの、もてあましもの

なんぶつむき（名）南部絹（陸中國南部より產出する織物）

なんぷう　南風、みなみかぜ

なんぷう（名）難風、たはかぜ、あしきかぜ、暴風

〔なんぷうほくふう〕南風北風、かけつかくしつ、たとつかくしつ

なんぶのすけ（名）南部雌、こうもがはのすけ（動物）

なんぶじま（名）南部縞（南部より織出す紬）
なんぶん（俗）（副）何分、いかにも、さぞ
なんぺい（名）鼈甲（手に物を握りて其數をあてて勝負を決する戯）、猜拳
なんべい（名）軟骨、やはらかさはね（鼈の骨の如き柔かなる骨を謂ふ）
なんぺんし（名）南五味子、さねかづら、びなんかづら（植物）
なんべん（名）南根、うまのすず（植物）
なんべん（名）男根、をはしら、陰莖（男陰を見よ）
なんぺい（名）男丁、をとこ、さかりのをとこ、をとな、＝又よはつ
なんぺう　南朝（建武の亂の後皇統南北に分れたる其南の方にして正朝をたてらる）
なんぞう（副形）何條、いかで、どうして（「なでう」をみよ）
なんぞう　南條（氏）
なんぞうこほり　南條郡（越前國の郡の名）
なんぞうぶん（副）如何、なやふ、なにをして、なぜて
なんぞう（俗）諸物、各物、なにものにても
なんぢく（名）南天、南天竹、南燭、三葉燭、南天燭、難那木（植物）
なんぢん（名）南晨、なでん（紫宸に書し設けありし紫辰殿を謂ふ）、しんでん、ししんでん

なんとう（名）南天竹、南燭、なんてん（植物）
なんとうきり（名）歪頭笑、たをのゆがもな（植物）
なんとうきり（名）南天桐、梅、きりのたゝひ（植物）
なんとうしゅん（名）南天燭、なんてん（植物）
なんどう（名）難產、なやみさん（婦人の）
なんどう（俗）（名）、ーする（自）難儀、なやみ、くるしみ、なやむ
なんとうよく（名）南極（地軸の南端即ち地球の極南端の處）
なんとうよく　南曲（支那戲曲の名）
なんとうせい（名）南極星、うらんせい（星の名）
なんどうぎやう（名）難行、苦行、くるしきおこなひ（佛徒等の爲す）
なんとう　南京（支那の一邦府）
なんきんいたち（名）南京鼠、金櫻子、なにはいばら（植物）
なんきんいろ（名）南京藍、藍銅（植物）
なんきんぜい（名）烏臼木、桕、たうはぜ（植物）
なんきんだえす　南京綴子、雷絹（織物の名）
なんきんだま　南京紬（支那より來る紬）、唐紬
なんきんたま（名）南京玉（小さき硝子製の玉にして婦女子が飾として物に用ふる者）

なんきんはし（名）南京豆（「ぢこちらか」を見よ）
なんきんうり（名）南京瓜（植物）
なんきんうるし（名）南京漆、白蠟、漆蠟、家蠟（動物）
なんきんうめ（名）南京梅、唯樱（「らふばい」を見よ）、かうらうめ（植物）
なんきんやき（名）白瓷、からつやき（陶器の製に云ふ）、〜うでのちやわん
なんきんまめ（名）南京豆、鬼豆、落花生（らくくわせい）、眉尼豆（植物）
なんきんまめ（名）鬼豆（筑前筑後の方言）、あらまめ（植物）
なんきんやつり（名）南京釣、藻繰似僧（繰を繰て人形を踊らする戯）
なんめん（する）南面、みなみにむかふこと（天子は南に向て坐し給ふに因て南面するは天下に王たるの義を表す）
なんし（名）男子、をとこのこ、をのこ、＝をのこ、をとこ、男兒
なんじ　何時、なんどき、いつ、〜ぞ
なんじ　難字、けしがたきもんじ
なんじ（名）難事、むつかしきこと、かたきこと
なんじ　難解、むつかしきこと、はこと
なんじよ（名）難所、かたきところ、＝けはしきところ

なんとよん（名）南燭（南天に同じ）（植物）
なんとよん（名）男色、おかま、雜衆、雜色、尾衆、男風、衆道、非道、押鮫
なんしよくか（名）男色家、たかまつるひと、雜衆者
なんしやうさん　南昌山（支那中國紫波郡に在る山）
なんしやのき（名）椿（常陸の方言）、たまつばき（植物）
なんじやく（形）軟弱、よわき、よわよわしき
なんじゆう（形）難渋、こもつかしき、＝（俗）（名動）困難、こまり、ひんぱふ、こまる
なんじゆく（名）南戌（星の名、廿八宿の斗を云ふ）
〔なんぜん〕南淵、なぶち（氏）
なんぜんたう　南禪寺（大和國添上郡にある有名の大寺）
なんぜんぶだい　南贍部提（南贍部の譯音にて此娑婆世界を云ふ）（佛語）
なんぴ（俗）（名）難非、なんくせ
なんぴと　何人、なにびと、いかなるひと
なんぴようやう　南氷洋（五大洋の一にして南極に接す）
なんびやう　難病、なやまひ
なんもん（名）南門、みなみのもん、午門、＝また星（戌桂の西に在る二星の名）
なんもん（名）難問、むつかしきとひ、難題

なんせい（名）南産（馬物の一名）、ものつくれたけ（植物）
なんせい（名）男性、をとこのたち（言語文字等にも云ふ）、だんせい
なんせん（俗）（名）、ーする（自）難船、なんば、破船、くつがへりこはれる（船が海にて）
なんせんぶしう　南陽部州（「なんえんぶだい」に同じ）
なんぞる（他）難、なじる、せめる
なんすれぞ（副）胡爲、何爲、奚爲、いかにして、いかんぞ

ら

ラ、雖、良　是は「る」の父音と「あ」の母音と合して生ずる音にして五十音の中に於て第九行第一段に位す、此音を以て始まる純粹の日本語は殆どあることなし

ら（形）裸、裸、はだか（無衣）
ら　等、ども、たち、など（複數の時に語尾に添る詞）
ら（名）騾、うまうま（驢と牝馬の間に生れし畜）（動物）
ら（名）羅、うすもの、紗
ら（名）螺、蜆、はらがひ（又螺の一枚なる貝の總稱）
ら（名）羅、男根、をとこのもの、をはしら

ら（名）籟、ふえもの（樂器）＝又なりたち（固竹等の）
らい（名）雷、いかづち、かみなり、雷公
らい　賴（氏）
らい（名）涿（尾七尺を涿と云ひ又八尺を龍と云ふ）（動物）
らい（名）信天翁、鵜、あほうどり（動物）
らい（名）雜茨、こけこらも（他にまとふ茨草）
らいらうこう（名）來路花、さるひや（植物）
らいはい（名）、ーする（他）禮拜、をがみ、をがむ（神佛等を）
らいはいだう（名）禮拜堂、教會堂、てらかや、會堂（れいはいだう）
らいはる（俗）來春（らいしゅん）、きたるはる、あくるはる、明春
らいたう（名）、ーする（自）來訪、きたづれ、きまひ、來問、きたづる
らいだん（名）禮壇、ぼん
らいに（名）白樹、やう、ぎうのき、ぎうなぎ、はまけぎ、かぎうのきわた（植物）
らいぼく（名）櫑木、すりこぎ、れんぎ
らいぼん（名）雷盆、すりばち
らいく（する）來聘（外國より來りて聞問する）
らいぎう（する）（自）雷同（妄りに他人の說等に

致するをいふ）

らいちゃく〔する〕（自）　来着、きたりつく、到着

らいちん（名）　雷鎚、かみなりのをのた（落雷の勢に因て地中より出る古器）

〔らいりえ〕　来聟、こうゑ（氏）

らいりん〔する〕（自）　来臨、きたりのぞむ（貴客等の）

らいろう〔する〕　来往（ゆきかよする）

らいが　来駕、きたること、来車、来臨（他人の来訪を謂ふ）

〔らいから〕　来海、きまち、くるみ（氏）

らいかう〔する〕（自）　来航（外國より船にて来る）

らいかう〔する〕　来港、みなとにつく（船が）

らいがう〔する〕（他）　来迎、きたりむかへる（佛等が）

らいかく〔する〕（自）　来格、きたりいたる（神明などが）、来降

らいかく　来客（らいきやく）、きたるきやくしん、来賓

らいがく〔する〕　来學、きたりまなぶ

らいきけ（名）　雷除、避雷針、かみなりよけ

らいたいらんだ（形）　懶惰、なまけるきこたる

らいたい（形）　獺獺、きつくうくうる

らいたう（名）　雷和、すりうすす（ものがらをまる具）

らいだう（名）　礫堂、きやくま（客間）

らいだん〔する〕　来談、きたりはなす、来訪

らいれき（名）　来歴、（たるあと、したい、由来、履歴＝歴史

らいそ（名）　鷸貝、蛤貝、むきかい、ぬきかは（動物）

らいそん（名）　来孫、しうん、すゑ（孫の又孫の子を謂ふ、子孫の下を見よ）

らいつい（名）　雷鎚、かみなりのかなづち（落雷の勢により地中より出てる古器）

らいねん（名）　来年、あくるとし、来歳、明年

らいらう（名）　雷雷、なりはたあくこと（雷雷の）

らいらく（形副）　磊落、ものにかかはらぬ、はしいまままなる＝又たしくしらぎまま

らいう（名）　雷雨、かみなりあめ、ゆふだち

らいうにゆき　来國行（有名の刀工國行の男、山城の西郊に住す）

らいうか（名）　雷火、かみなりのひ、かみなりよりたこるひ

らいうさう〔する〕　来會、きたりあふ、會合、よりあふ

らいうこう（名）　雷光、いなびかり、電光

らいうこん（名）　雷管、かんこんどう（鐵砲の發火裝置）

らいやう　来陽、らいはる（来春）、明春

らいざんもん　来蔵山（陸奥國三戸郡及び陸中國閉伊郡に跨る山）

らいけう（名）　雷雞、らいてう（雷鳥即ち松雞に同じ）「らいてう」を見よ（動物）

らいげつ（名）　来月、きたるつき、翌月、つぎのつき

らいげき（名）　雷擊、かみなりうち（電の疎く事ある落る事）

らいさく（名）　雷斧、石斧、磨礱、てんこのまさかり（土中より出る上古の石斧）、かみなりのをぬた

らいふく〔する〕（自）　来復、きたりかへる、ふたたびもどる

らいふく（名）　来服、羅紗、だらこん、たばね（植物）

らいふせき（名）　雷除、かみなりよけ、らいよけ

らいづつみ（名）　雷鼓、はちめんつつみ＝又かみなりのつつみ

らいこう（名）　雷公、なるかみ、らかうち、かみなり

らいこう〔する〕　来貢、きたりてかつぎたてまつる（他國の人が）

らいさん（名形）　来千、らいせん、らいよりのをそ

らいさい（名）　雷迅、らいこうせん、いなびかり

らいさつ　来刹（綾來の和者）

らいさつ〔する〕　来刹（外國の使臣等が來りて聘問するをいふ）

らいさう（名）　雷鳥、雷鎚、松鎚（松鼠色にして冬に至れば白色に變ずる鳥にて處處の高山に居る）（動物）

（圖　雷鳥）

らいでん（名）　畠田、うゑつけはた（休耕田）

らいでん（名）　雷電、らいこう、いなびかり＝また昴（宝宿の南に在る六星の名）

らいでんきう（名）　樹（西京の方言）、ひさご（植物）

らいそん（名）　禮賓（來賓の類）

らいき　禮記（五經の一にて支那の周禮を敷る書）

らいき（名）　雷族（雷文を語とする支那の族）

らいき（俗）（名）　来後、来訪、来臨、きひきたること

らいきう（名）　雷鼓、はたはた、うをのな（動物）

らいきやく（名）　来客、きたるきやくしん、まらうど、来賓

らいゆ（名）　来由、わけがら、ゆらい（由来）

らいゆ（名）　来論、きたれるまと、（他人の書簡を謂ふ）

らいめい　雷名、どどろく、なり（高名を謂ふ）

らいめい（名）　雷鳴、はたがみ、なるかみ＝らかうちなること

らいめい　来命、きたれるたはせ（手紙来論に同じ）

らいし（名）　雷師、なるかみ

らいし（名）　来相、すきくは

らいし（名）　雷子（盆の類）

らいし（名）　雷紙、副義紙、禮紙、あまりかみ（書狀の初に連ず白紙＝又あまれるしらかみ（母婦などに云ふ、書の末に個の裏紙ありなど見ゆ）

らいしよ　来書、きたれるてがみ（他人の遣れる書狀）

らいじつ　来日、きたるひ、あくるひ、明日

らいじつ（名）　雷獣、貂鼠、かみなりけもの（雷を好むといふ獣にて俗は貂の類）（動物）

らいしや　来車（来臨に同じ）

らいしや（名）　癩者、かつたい、なりんぼ、癩病人

らいしゅん　来春、あくるはる、明春

らいじん　雷神、いかづちがみ

らいじん　来人、きたるひと、来客

らいそん（名）　来裔、遠孫、すゑ（遠き子孫）

らいすい〔する〕　来訪、きたりたずねる、きたりまかゆる

らいえん〔する〕　来援、きたりたすくる、かせいにくる

らいびやう（名）　癩病、かつたい、天刑病、はたけ

らいひん　来賓（来客に同じ）

らいひん　来儐、きたれるたより（人より来たれる書狀等をいふ）

らいせい（名）　来世、のちのよ、あのよ、未来、こんよ

らいせいきん（名）　雷霆菌、かみなりたけ（植物）

らいせいせき（名）　磊石、くりしゝとやり

らいう（名）　羅紗、あはうぞ、にあらうぞ（植物）

らいば（名）　騾馬、うまうま（驢馬と牝馬の間に生れたる獣）（動物）

らいら（名）　蠣蛤、たうあかうぞ

らいらう（名）　蠣蛤、ちやれけ（佛の頭の如き）

らいらう（名）　羅漢、てうせんもたま、きのな（植物）

らいん（名）　羅盤、はうばり（方針）、羅針盤、とし（船中に用ふる磁石の類）

らに（名）　蘭、ふうはかま（草の名）

らいし（名）　電兵、かまはりつはもの、電卒

らいう（名）　羅紗、あかがね

らう（名）　牢（馬場などの周圍にまうくる低き柵

らうそくせい（名）落花生（らく〜〜おしやう）、南京豆、唐豆、なんきんまめ（植物）

らうぶ（名）亂舞、のうのまひ、能舞

らうこ（名）鳴蛤、たくりかんきり（動物）

らうこ（名）鵰虎、獺虎（北海の獺にして其皮珍重せらる我千島邊にも多く產す）（動物）

（圖の虎鵰）

らうこだけ　獄虎　（十勝國の山）

らうこせき（名）鳴蛤石、たくりかんきり（「えりがに」の分泌する石塊にして制酸の功ありとて藥用に供せられたり）

らうさい（名）蕎子、らうさう（植物）

らうさやう（名）蜀黍、唐黍、白蜀黍、やなにら、にんにくのたぐひ（植物）

らうこ（名）離次（年功の順序）、＝次第、次序、つらや

らうこあがき（形）無閑次、混雜、みだれたる、あけのわからぬ

らうせうこん（名）蘇枋發、たうがらし（植物）

目口爪など具りて恰も蘇汐の如くして色黑く皮は金黑斑なりと云ふ）（動物）

らたい（名）蘇帶、うすきぬのたび

らたい（名）羅帶、きるはだか、あかはだか

らたん（する）裸程、はだぬぐ

られつ（する）（自他）羅列、ならぶ、ならべる、つらなる、つらねる、陳列

らえ（名）羅漢、漢柏（はくか）（植物）

らえつ（名）巡逻、かまはりやく、巡逻矣、＝また巡逻

らつぱ（名）喇叭、蘆笛、ふきもの、又ちるやめう（樂器）

（圖の蛤叭貝）

らつぱがい（名）喇叭蛤（圓錐形の海中動物にして游泳する時は明形をなし他物に吸着く時は喇叭の形を成す故に此名あり）

らつぱたい（名）喇叭隊、吹角隊（軍隊中の喇叭方）

らつぱつえん（名）喇叭管（樂人の明笛より子管に接する管）

らつぱふき（名）喇叭吹、吹角手、喇叭手（喇叭を吹く人）

らつか（名）蘇枋、たうがらし（植物）

らつぐい　老米、ひねこめ、古米

らつぐわつ（名）廊廻（御廊の中をしら）

らつぐま（名）老鬼、水鬼、かかつく（動物）

らつぐまつ（する）（自）勞動、はたらく、力役、はれをする勞役

らつぐつ（名）郎等、けらい、臣僕、臣下（君主或は大將に從ふ者）

らつぐま（他）撈取、かきさがしとる（水中に在る物等を）

らつぐま（する）（他）明謂、よかあげる、はがらかにする

らつかた（名）老女、にんたるをんな、＝（又大名或諸侯の內に仕ふる上役の婦女）

らつかつ（名）郎中（唐の官名、我大少丞に當る）

らつかつ（名）老中、國老（德川時代に於る參議官にして今の大臣の如き者）

らつかつ（名）老耳、ものなし、ものしらず

らつりよく（名）、＝する（自）勞力、はれをする勞動、力役、はれをする

らつる（する）老成、老練、にんたる

らつた（名）老翁、おきな、ものしりびと、老人、老人

らつか（名）廊架、廊下、步廊、回廊、はうどの、わたりどの（廊の下を見よ）、步廊

にして屋々に柱樣の物を建てて其上に橫に木竹等などを渡ねて渉したる者）、やらい、柵、行馬

らつう（名）蹂躙、はだかむし（人類等を支那にて然か言くるあり）

らつう（名）螺柱、ねがはしら

らつあかる（形）不時明、ものがつかぬ、てぬる、ものはりせぬ

らつあく　時明、ことがわかる、＝ものがつく、＝はやくすむ

らりよう　羅綾、うすもの及あや

らる（副）嚴鐵、こまこま、こまかに、くはしく

らる　被、見遭所、觀、裏（文法の被動体に用ふる漢字）

らをたけ（名）煙管、きせるだけ

らかつ（名）蘿蔔、つたかつら（植物）

らかつ（する）拉行、ものらくゆく、つかまくゆく

らかん（名）鑼乾（寺院の鑼鼓）、鑼隊

らかん（名）羅漢（起信にして羅漢の類の稱）、あらかん

らかんえん（名）羅漢柏、ひば、あすなろ（植物）

らかんしよう（名）羅漢松、まき、いぬまき、らかんまき、川柏（植物）

らかんじや（名）羅漢蕉（熱帶地方に產する最も恐るべき毒蛇にて其長小見の蛇が如く土頭は

らつぐい（する）（自）鑼鼓、あばれる、うちたくる、ふたあく

らつぐつし（名）鑼鼓子、ふるのか

らつぐらひ（名）牢獄（囚徒を詰く教す所）

らつえつ（する）浪費、ものらうちする（銃丸等を）、あつたうちする

らつえつ（名）狼把草、たうこき（植物）

らつだん（名）老婆心、親切心、せわやきこころ

らつえん（名）勞瘵、いたづき、わづらひ、病氣

らつだん（名）牢番、ひとやもり、らうもり、管獄、監獄、看獄吏

らつにられる　嚴謹、人年、收監、監禁、禁獄、禁錮、ひとやにられる

らつにやく　若年、老少、にんたるわかき

らつにん（名）浪人、浪士、ものすらひびと、浮浪徒、無主の士（零落の人）

らつにん（名）牢人（牢獄の人）

らつぼ　老婦、老婆（年老たる或は淫縱した婆夫）

らつぼ　老婢、しにせ

らつぼ　老牢（年たりたる牢）

らつぼつ（名）老年草、ししのくびき（植物）

らつくい　老兵、ふるつはもの、いくさなれたるものの

らつぐい（名）米糧、かて、糧食、＝兵糧（ひやうら

らうが（名）狼牙、みつもり、みなもとさう（植物）
らうがい（名）蜈蚣、むかで、むしの名（動物）
らうがい（名）勞咳、たきろく、やまひ、勞察、勞症、肺病（病名）
らうかたし（名）廊架橋、廊道、わたりはし（家の此より彼に渡す高き路）
らうがはしき（形）亂、かたがはし、さはがしき
らうがはしき（形）濁、かたがはし
らうかうする（自）狼狽、ひきにたてつく、抗抵、さからふ
らうかく（名）浪客、かすらひびと（浪人を見よ）
らうがこ（名）牢囚（牢のまはりの柵）
らうがそ（名）牢疫、ひとやがそ（牢内に發する惡き吹出物）
らうかん（名）琅玕、あをだま（寶石また珊瑚の類）
らうがん（名）老眼（老人の眼）、にいめ、よわれる まなこ
らうこ（名）牢獄、うごし
らうこれい　老躰、にいのすがた、老嬢、老身
らうたう（名）蓮若、蓮唐行唐、天仙子、はかる ゆき、はまりゆき、はしりどころ（植物）
らうたう（形）濫倒、しだらなき、みだりなる（酒盛などの樣）＝又だらなれたる
らうたう（名）老黨（封建時代に在て君主に久しく仕へたる臣を謂ふ）
らうたけ（名）唎竿竹、煙管竹、無節竹、きせるだけ（植物）
らうれう（名）糧料、かて、食料
らうれん（形）老練、よくなれたる、老功、熟達
らうえ　老鼠、たはねずみ、たやねずみ、硯鼠
らうえ（名）蓮蕊、たびらこ（植物）
らうえうこ（名）老眼芳、てうじやう、ぎみげし（植物）
らうえう　老僧、老法師、ごしよはうす
らうえこ　老尼（老たる人の謂）
らうはん　老年、にいたるよはひ
らうはんし（名）牢名主、老囚徒（獄中にて最も權力ある囚人）
らうらう（形）浪浪、さまよふ、さすらふ
らうらう（形副）朗朗、あきらか、はがらか
らうらう（形副）傑傑（玉等の鳴る音）
らうらうし（形）勞勞（事物に煩雜したるを云ふ）
らうらうす（する）（自）牢落、たちぶれる
らうらん（形）老爛、にいてものうき
らうこ（名）、ーする（自）勞苦、はねをり、つとめ はたらく
らうこと（名）狼火、のろし、狼煙
らうどうはん（名）老年瓦盃（支那のいなかの酒人れ）
らうとう（名）朗光、朗明、さるぼう（貝の名）（動物）
らうとう（する）（自）老耄、にいかがも
らうとん　郎君、ものこ、きみ（婦人より言ふ男子の美稱）＝をつき
らうや（俗）（名）牢屋、囚獄、ひとや、牢獄（「らう」を見よ）
らうや　哪邪（趙王勾踐の娘したる國）
らうや　老婆、にやば、老父、にいたるちち
らうやかがり（名）牢屋番、司獄官吏、看守、獄丁、押丁、獄吏
らうやのようらう　郎琊八王（王祥、王衍、王敦、王澄、王敦、王導、王戎、王玄）
らうやぶり（名）牢破、破牢、破獄、反獄、越獄、脫監、ひとやぶり
らうまい（名）糧米、かて、糧食＝また兵糧
らうまう（する）（自）老耄、にいほれる、老醜
らうまけう（名）羅馬教、耶蘇教（天主教をいふ）
らうげきう（名）狼牙棒（支那の武器にして油がらみの類）
らうげつ　朗月、はがらかなるつき
らうげそう（名）狼牙草、こまつたぶ（植物）
らうげき（する）（他）浪費、あつたうする、やた

らうこう　老父、ちち、にやば、老爺
らうふ（名）老婦、はは、老嬢
らうふ　老夫、をとこより、老翁、老人
らうぶう（名）牢扶持、囚糧（囚徒の食料）
らうぶう　老婦（老子を譯迦）
らうぶぎやう（名）牢奉行（牢を掌どる官吏）
らうこ　老狐、ふるきつね、たぬき
らうこ（形）牢固、かたき、堅固＝つよき（城等が）
らうぶん（名）浪説、むだごと、むだ〜ち
らうこう　老後、をとこよりてのち、にいちき
らうこう（形）老功、老練、老成、熟練、ひなたる、ひなたみなる
らうごく（名）牢獄、ひとや、囚獄、獄屋
らうごく（名）牢獄、囚獄、囚屋、獄屋（囚徒を護送する車）
らうこしゆ（名）老鼠蘭、ひらきやう（植物）
らうこえ（名）老槌、ふるきやわらもの
らうこう（する）（自）明徹、すきとほる（水晶清水等が）
らうこう（する）（自）老耄、にいほれる
らうこう（する）（自）眼眩、めまりあがる、めまひがする
らうこん　明天、はがらかなるひより、晴天

らうそん　浪費、たしかもうはなし、かせりのうはさ
らうある（形）有徳（功ある）を謂ふ
らうあう（名）老媼、老婆、にいたるをんな
らうあうこ（名）老瓜、かうすうり、王瓜（植物）
らうあうそん（名）老鴉蔕、てんがいばな、石蔕（植物）
らうきう（名）勞察、勞瘵、ろうしやう、肺病
らうきう（形）眼眩、めまひ、ひよろつく
らうきう（名）牢疫、ろうがそ（牢内に流行する惡疫）
らうきう（する）（自）老病、にいたつる、にいほれる
らうこう（名）明明、はがらか、あきらか
らうし　老死、にいしに（天然の死を謂ふ）
らうし　牢死（牢屋にて死する事）
らうし　老子（姓李名は耳支那の哲人にして老子道德經の著者）
らうし（名）浪士、ろうにん（浪人）、無主無住の士、さすらひびと
らうじつ（形）老實、りちぎ、正直、まめやか
らうじつ（名）郎從、つきびと、郎等、けらい
らうしゆ（名）老者、をとこより、にいびと
らうしゆ（名）牢舍、にしこめ、ひとやにいるること、人牢、禁錮

らうとしよん　老者、老母、老父、にいたるわかを
らうとしよん（名）狼藉（大晦日中段の凶日の名）
らうしゆ　老酒、ひねさけ、古酒
らうしゆ（名）老手、なれたるひと、てだれ、熟練家、てなれ
らうしゆ　老樹、にいき、古木
らうしゆ　老僧、有僧、にいたるものこり（老年の僧者）
らうしん（名）老身、にいのみ、老體
らうしん　勞神、勞心、こころをつかふ、きをもむ（心を煩心）
らうしん（名）老人、をとこより、にいびと
らうしんせい（名）老人星、孤南、壽星（南極星を謂ふ）
らうえい（名）朗詠、聲あげて詩歌を誦ふを謂ふ（朗唱）
らうえう　老幼、にいたるとをさなき、老少
らうえき（名）勞役、はたらき、勞力
らうえん（名）狼煙、のろし、狼火
らうぢやう（名）老病、にいのやまひ、をしやか
らうせい（形）老成、老練、よくなれたる（「老功」を見よ）
らうせい（形）牢固、よくはれたる（天氣が）
らうせい（名）老蟬、やんま、をんぼ（動物）
らうせつ（名）浪說、流言、浮說、うはさ

がる（個の漢語等にも云ふ）

らくだ（名）駱駝（南亞細亞及び亞非利加に生ずる大獣にして人類の用をなすこと馬牛の如し）（動物）

（圖の駱駝）

らくたい（名）落帶（琵琶の異名）

らくたい（名）ーする（自）落第（試驗に合格せぬ事にて及第の反對）

らくだい（形）落題（詩歌の其本題に合はぬを謂ふ）

らくだつ（する）（自）落脱（たちぬける）

らくだらば（名）駱駝（「らくだ」に同じ）（動物）

らくだん（する）（自）落膽（がからうとなること）失望

らくつい（する）（自）落墜（たつる）墮落

らくば（名）樂隊（ねてやすむこと）

らくらく　落葉（たつるしかりて）かかなりがたつ

らくらく（副）落落（船舶等に拘泥せぬ樣）

らくらく（副）樂樂（たのしーーがかりなー）

〔らくらくぢ〕樂樂瀬（但馬國の海濱なり「ささなみ」と云ふ）

らくらく　落花（たつるはな）

らくだい（名）落題（たつるうめ（笛の異名として用ふ）

らくたつ（する）落髮（かみをうる）薙髮

らくたつ（する）（他）絡包（からげる）まとふ

らくたん（する）（自）落魂（落膽）（たちぬける）零落、流離、漂泊

らくたん（する）（自）落胆（たちはげる（建物などが）

らくだん（する）（他）絡綿（しばる）ゆはひる

らくだん（形）落莫（おちぶれたる）落魂

らくたん（名）絡綿（いとまき）絡絡、絡搦

らくぢ（名）酪母（さけのもと）

らくど（名）樂土（たのしきーに）極樂土

らくとう（名）洛東（京都鴨川の東の市街を云ふ）

らくとう　洛中（みやこのうち）京都下

らくとうす（する）（自）落落（たちつー）

らくるる（する）落涙（なみだをたとす）

らくか（名）落痂（かさぶた（瘡物の）

らくか（名）落霞（ゆふがすみ（零の異名として用ふ）

らくがき（名）樂事（もたがき）談題（所等にする）戲書

らくがん（名）落鴈（たりるかりがね（池中等に）ーまた妙米鮭（魚子の名）

らくた（する）（自）落魄（たつる）ーわるーんりさ

らくしゃ（名）絡車（いとまきーーる）

らくしゃく（名）落籍（妓だれ）とかか

らくしゅ（する）落手（とにする）うけとる）落掌、落手

らくしゅう　落城（しろがにつる）しろがたちいる

らくしゅ（名）落首（世を諷し譏る詩歌にして道等に故らに投げすて置く者）

らくしゅ（する）落手（落葉）てにする）うけとる

らくしん　落寞（ぬけがみ）たちかか

らくじん（名）樂人（ひきなるひと）樂人

らくしんふ（名）落新婦（とりあしようま）あは（植物）

らくしんふ（名）絡新婦（ちようちょう）たしゃ（動物）

らくらく　落葉（たちは（柳木の）

らくらくしょう（名）落葉松（からまつ）ふるまつ（新羅松（植物）

らくらくしょうこ（名）落葉松耳（えぶりこ（植物）

らくらく（形副）絡繹（つらなる）ひきつづく）陸續

らくらん（名）樂園（たのしきうの）極樂、ーまた遊園（あそびぶ）

らくせい（名）落西（「らくさい」を見よ）

らくせい（する）（自）落成（できあがる）成功、成

らくさう　若少（若年）（たいたるわかき）（こしより）

らくさうはん（名）若少年（雁來紅）（かまつかのはな（植物）

らくさうぶそく　若少不足（人語の足らぬ事を謂ふ）

らくさう（形名）狼藉（とりかたしたる）亂雜（ーまた亂暴（みだれさわぐこと）

らくさうもの（名）狼藉者（らんぼうもの）

らくさん（名）狼筅（竹にて造れる支那の武器）

らくす（自）勞（つかるはねをる）くたびれ

らくすい（する）（自）若衰（たいたをろくる）（こしより）やつれる

らくすゐ（名）流水（ながれのたまり）

らくすう（名）船艙（船）うみなる

らく（名）樂（たのしみ）ーー又（俗）（形）やすし（たやすき）

らく（名）雛（形ち鶏の如くー首にして三身の鳥）

らく（名）酪（牛乳等の油質分を謂ふ）

らくいん（名）落胤（たとしたね（貴人公卿等に）（庶子）（子を謂ふ）

らくいんきよ（名）樂隱居（世を子に譲りて閑居に樂む事）

らくだ（名）駱駝（かはちげのうま（動物）

らくだ　落馬（うまよりたつる）

らくがう　落合（かやこのうち（京都に云ふ）

らくかせい（名）落花生（らくーーわしやう）（南京豆）（豆）（たうとんまめ（植物）

らくがん（名）落雁（雁鴈）（鴈紙（書籍の名印を謂ふ）

らくがう（名）落鴈（いりひ）落日（夕陽）

らくがう（名）洛陽（みやこ）帝都（京師）帝京（王城）

らくやうのしこう　洛陽四關（東は函谷關、南は伊闕、西は函谷、北は孟津（若支那に在る者）

らくやうのこと　洛陽十詠（「ささやうこ」の下に就て見るべし）

らくやうこ（名）洛陽花（ぼたん（植物）

らくやき（名）樂燒（樂窯（陶器の一燒法）

らくせい（名）落成（落成式）（竣成式）（工事の竣功を祝ふ事）

らくげつ　落月（たつるつき（西に沒する月）

らくけつえき（名）落鉄（やつーー（衣服の）

らくご（名）樂語（たのしみ）

らくご（名）落語（たとしばなし）俳諧（諧謔）談、戲言

らくごか（名）落語家（はなしか（落語を見よ）

らくこう（名）樂園（たのしきーに）樂園（極樂）

らくこつ（名）絡鐵（やきがね（身體の或る部分を燒ーに用ふる鐵）

らくしゃ（名）落紙（たちがか）（鴈信）（鴈紙（書籍の紙の脱けたる者をいふ）

らくじん　樂田（尾張國の地名）

らくさい（名）洛西（京都鴨川の西の市街を謂ふ）（洛東に對す）（白川原此に在り）

らくさつ　落札（たちふだ（入札が落るを謂ふ）（あたりふだ）

らくさう（名）落想（かんがへ）（心にうかびたる思用想を云ふ）

らくさうこう（名）落霜紅（ーーもみぢ（植物）

らくさき　落葵（つるもうもみぢ（植物）

らくさき　落日（いりひ）落日（夕日）（ゆふひ）

らくさき（名）落眉（安者）（おちつき）

らくさん（する）（他）絡繹（ひきつづくる）

らくめい（する）落命（いのちをとす）（殞命）

らくじ（名）落字（かきたとしたること）脫文、誤字

らくしよ（名）落書（諷刺の言を書て道に落しに）（者又は人目に觸る處に掲ぐる書を物を謂ふ）

らくしよう（する）落飾（かみをとす）（天子が剃髮し給ふを謂ふ）

らくしつ（する）（自）落失（たちうせる）（物品等が）

らくじつ（名）落日（いりひ）落陽（夕陽）（夕日）（ゆふひ）

だが

らてん(形名) 拉甸、拉丁(古の羅馬國の形容詞に用ひ又轉じて同國の語を謂ふ)

らでん(名) 螺鈿、あをがひをちりばめ(漆器の背貫細工)

らてんご(名) 拉甸語、拉丁語(古の羅馬國の語)

らと(名) 鑼鼓、みまはりのうまのり、巡邏騎兵

らと 鑼鼓、うちものとうも

らまつ言(名) 羅形言(白木の言にして化生の物を対る者)

らゆ(名) 蘭草、はなゆ、はなかつと(植物)

らゐ(名) 碑次(文字等の順序)

らゐ(名) 羅紗、こけらこうも(植物)

らゐ(名) 螺鈿、にな(動物)

らゐまる(ちる)(他) 羅縷、たりたす、こまかくする(罪案などを)、＝こまかくしこまかくする

らゐや(名) 羅紗、けたりもの、羅紗、毬毬

らゐやなけ(名) 羅紗刷毛、はこりたをしブラシ

らゐやう(名) 羅城、うまくるわ、外廓(城の)

らゐやうゐん(名) 羅生門(京都の名)(植物)

らゐやうゐん 羅城門(西京九條東寺の西にあり北門の名)、＝うまくるわのもん(城の)

らゐやゐん(名) 羅紗毛筆、紗筆、ひつと(其毛を前で種物に用ふ可し)(動物)

らゐん 羅紗、はだかか

らか(名)(名) 羅初、茶蕨、大根、とは(植物)

らかけ(名) 臘月、しはす(十二月をいふ)

らかつる(ちる)(他) 螺封、ちらにてふうとる(手紙等を)

らかん(名) 羅漢山(天竺の摩揭陀國の三藐に入滅されし高山の名)

らかこと(名) 臘日(一年の終の日をいふ)

らかこと(名) 螺子鳥、あをり(動物)

らかこと(名) 螺鳴鳥、まあうまし(動物)

らかこゆ(名) 螺鈿、女貝、＝いはつはき(植物)

らかこゆ(名) 螺鈿、ちふのき(植物)

らかん(ちる)(他) 拉利、ひきのばす(絲等を)

らかが言(形) 螺淫(鼠を進く愛りたるを謂ふ)

らかめん(名) 螺木綿、螺布、ちふびきぬの

らかも言(名) 螺白、石玉、大理石、＝海雲石、＝業水石(光澤ある石の名)

らこ(名) 羅宇、ちか(烏鷄を刑ふる貝)

らごら 羅陀羅(釋迦十大弟子の一にして密行第一たる者)

らこう(名) 羅候、游候、しのびのもの

らこうもら(名) 羅候星(星の名)

らこく(名) 羅穀、うすもの(絹の)

らこく(名) 螺殼、かひがら(貝殼)

らこく(名) 螺釘、ねじ〜ぎ

らこく(ちる)(自) 羅漢、はだかになる、＝(形)は功

らこもら(名) 落居馬、はしつきのうま(動物)

らこもら(名) 落照、しりひかげ、しりひのひかり、＝しりひ、ゆふひかげ

らこもる言(ちる) 落籍(名籍を此をと退く事)、廢業(藝妓等の)

らこもる言(名) 絡石、ていかかづら(植物)

らこもら(名) 落胆、たちば、遊廓

らゐゐ(名) 陸鹿瘡、下疳瘡(かんそう)、しんきやうの〜ちるやまひ、かうのたこひ

らま(名) 蘿蔔、かぶしゃ、かはねもそ(植物)

らまつ(名) 羅綱、あか

らら(名) 蝶(世間の知る者にて木蝶蝶蝶等あり)

ららこら(名) 蝶椿、蝶椿、蝶椿花(十二月に開く椿)、かうらうめ、たうらうめ、なんきんもも(植物)

らるにんきつ(名) 螺人形、ちふづくりのひとがた(螺を以て造れる人形)

らるる(名) 螺地(紙の地合に云ふ)

らるかい(名) 蝶(土佐の方言)、ちうほ(動物)

らるそゐ(名) 蝶燭(火を煙す蝶の様)、蝶焙

らるそゐまつ 蝶燭町(東京市神田區の町名)

らるそゐたい(名) 蝶燭燈(蝶燭をもちて燈)、燭燈、燭燈

らるけ(形) 信針、はんだつけ(金と金とを)

らるのき(名) 螺鈿、はせうるし(植物)

らん(名) 蘭、蘭

蘭(茎より孔雀より小さく雉より大きく形は孔雀の毛孔雀に似たり)、＝又特鳳(鳳凰の類にして所言の鳥)(動物)

らん(名) 蘭、ふうはかま、あらら、幽蘭、幽芳、春草、蘭花(植物)

らん(名) 濫、みだりなる、＝あまりなる、すぎたる

らん(名形) 亂、みだれ(治の反對)、みだれたる

らん(名) 襤褸、やぶれぬの

らんぞう(ちる)(他) 亂發、みだれうちする(銃砲を)

らんぞう 亂髮、みだれがみ、前髮

らんぞう 亂邦、みだれくに、亂國

らんぞう(名)、ーする(他) 亂樂、あれならし、暴行

らんだこ(名) 蘭宿(食盲を入れて將軍に服はる糧)

らんぞん(形) 爛斑(諸の色の雜れるを謂ふ)

らんこや或らんこや(名) 蘭若、ぎこう

らんこふ(ちる)(自) 亂入、闖入、みだれいる、闖入、にしこう

らんこう(名) 蘭鬼、(大陸暦四月の異名)

らんこう(名) 鑑臣(金魚の異名)(動物)

らんこうう 闌鬼、たそひをくたく、作思

らんこう言(俗)(形) 亂的、混雜、いりみだれ

らんり(名) 亂雜、みだれ、ちらく、醜亂、かおさ(世の中の騒亂を謂ふ)

らんりよく(名) 蘭綠、あおらふ(蘭綠)

らんる(名) 襤褸、ぼろ、つづれ

らんおう(ちる)、亂暴、あつたうする、亂暴

らんか(名) 欄架、けんたい(書物を載て謂ふ)

らんが(名) 鑾駕(天子の御車をいふ)

らんかい 亂階、みだれのもと

らんかう 亂行、みだりがはしきおこなひ

らんかう(名) 闌干、なかまをまじはり

らんかく(名) 欄格(欄杆の格子)

らんかく(名) 欄額、はしらぬき

らんかく(名) 蘭學(阿蘭陀の語學)

らんかん(名) 欄杆、てすり、欄干、ばしき

らんきよ(名) 鑑與、かこ、かご

らんきよ(名) 鑾與、かこ(天子の御乘物)

らんきよう(形) 爛漫、しやうのもの、ものの

らんこ(名) 羅針盤、はうはりきかい、磁石(船中に用ふる)、しこや

らんえん(名) 蘭麝、麝牛の東に在る三足の名)

らんえんそう(名) 蘭蝶草、まあうた、つるまさき(植物)

らんぱやう(俗)(名) 亂病(虎列刺病の略)

らんぴす(名) 青金(拉甸語にして樂石の名)

らも 貞世(氏)

らもい(名) 嚢嚢、乞食、こつじき、かたを

らもいた(名) 羅者板、嚢表紙、けたりものの、たくひ

らもい(名) 羅切(國人を謂ふ)、らせつもの

らもい(名) 羅利、たに、羅刹鬼(佛經語)

らもいあい(名) 羅切者、寺人、淨身男子、らせつしたるものこと(下を見よ)

らもいする 羅切、利劍(男根或は陰莖を切る)

らもも言(名) 螺貝石(琉球國の產)

らもも言え 裸骨馬、はだかうま

らもん(名) 裸跣、はだし、すあし

らもん(名) 螺旋、ねぢ、ねぢれたるもの

らもん(名) 羅蹠、蹠(厚毛羅の敷物の名)

らもん(名) 螺雜、ねぢり、ねぢれたるもの

らん(名)、ーする(他) 睡、みること、一瞥、一見

らんこと或らんこと(名) 蘭若、ぎこう

らんこふ(ちる)(自) 亂入、闖入、みだれいる、闖入、にしこう

らんこう(名) 蘭鬼、(大陸暦四月の異名)

らんこう(名) 鑑臣(金魚の異名)(動物)

らんこう言 闌鬼、たそひをくたく、作思

らんこう言(俗)(形) 亂的、混雜、いりみだれ

らんり(名) 亂雜、みだれ、ちらく、醜亂、かおさ(世の中の騒亂を謂ふ)

らんりよく(名) 蘭綠、あおらふ(蘭綠)

らんる(名) 襤褸、ぼろ、つづれ

らんおう(ちる)、亂暴、あつたうする、亂暴

らんか(名) 欄架、けんたい(書物を載て謂ふ)

らんが(名) 鑾駕(天子の御車をいふ)

らんかい 亂階、みだれのもと

らんかう 亂行、みだりがはしきおこなひ

らんかう(名) 闌干、なかまをまじはり

らんかく(名) 欄格(欄杆の格子)

らんかく(名) 欄額、はしらぬき

らんかく(名) 蘭學(阿蘭陀の語學)

らんかん(名) 欄杆、てすり、欄干、ばしき

らんきよ(名) 鑑與、かこ、かご

らんきよ(名) 鑾與、かこ(天子の御乘物)

らんきよう(形) 爛漫、しやうのもの、ものの

らんぷ（名）　洋燈（石油を燃す燈器）〔実語〕
らんぷ（する）　亂離、みだれ散ふ（多人數が）、＝また（名）能舞、のうのまひ
らんぷがら（名）　洋燈筒（「ランプ」の光を集むる爲の筒）
らんぷだい（名）　洋燈架（「ランプ」を載る臺）
らんぷつり（名）　洋燈吊（「ランプ」を吊る金の環）
らんぷしん（名）　洋燈心（「ランプ」に用ふる布燈心）
らんぺき（名）　闌胡、あらはせ（動物）
らんぺつ（名）　藍缸、あおつぼ（藍を入れて著る具）
らんぺん　亂圓、みだれたるまに
らんぺい（名）　蘭亭（支那の紹興府會稽郡に在り昔し東晉の王羲之等四十一人の相會せし處とぞいふ）
らんぺん（名）　藍靛、あおだま、藍玉
らんぺん（名）　南烟（上總の方言）、なんてん（植物）
らんぼう　蘭殿（皇后の宮を謂ふ）、蘭宮
らんぼう（名）　藍鞭、あおだま、藍靛
らんぼうらん（名）　闌天竹、なんかんたけ（植物）
らんぼう（する）　亂暴、らんぼうにふるまひする
らんぼう（形）　亂雜、らんぱくなる、雜雜

らんぼう（する）（自）　亂走、みだれつひとる、敗北、敗走
らんぼうこう　欄外、わくうと（欄内に反す）
らんぼうこん　濫官、冗官（無用の官を謂ふ）
らんぼうこん　蘭官、ものぼるやくにん（貴樂官吏）
らんぼうか（名）　亂杙、亂杭、亂樁（戰爭の時敵を拒ゃ爲に地に打つ杭を謂ふ）、鹿角
らんぼうだ（俗）（名）　亂杭國、うちはは
らんぼうえ　亂軍、みだれいくさ
らんぼう（名）　闌夜、よなか、よふけ
らんぼう（形）　亂脩、しりみだれ（蔡の如く亂れたる）
らんぼう（名）　欄間（鴨居の上部を云ふ）
らんぼうえ（形副）　闌漫（花の紅白咲亂れたる貌、みごとなる、＝又あらはなる、爛漫
らんけい（名）　戀鯉（戀を見よ）（動物）
らんけい（名）　蘭桂、たま、やまにつけい（植物）
らんけい（名）　明形、たまたまなり、たまたまのかたちなる
らんけつ（名）　蘭月（支那の七月を謂ふ）
らんけつ（名）　嵐談（山城國葛野郡の嵐山を謂ふ）
らんけつ（名）、一（する）（他）　亂擊、あつたうちする、みだれうちうする、らんうちうする、あつたやたちにうつ（他人の身体などを打擲するを謂ふ）

らんぷ（名）　綱布、ぼろ、綱屑、やれぎれ
らんぷ（名）　洋燈（石油を燃す燈器）〔実語〕
らんぷ（する）　亂離、みだれ散ふ（多人數が）、＝また（名）能舞、のうのまひ
らんぷがら（名）　洋燈筒（「ランプ」の光を集むる爲の筒）
らんぷだい（名）　洋燈架（「ランプ」を載る臺）
らんぷつり（名）　洋燈吊（「ランプ」を吊る金の環）
らんぷしん（名）　洋燈心（「ランプ」に用ふる布燈心）
らんぺき（名）　闌胡、あらはせ（動物）
らんぺつ（名）　藍缸、あおつぼ（藍を入れて著る具）
らんぺん　亂圓、みだれたるまに
らんぺい（名）　蘭亭（支那の紹興府會稽郡に在り昔し東晉の王羲之等四十一人の相會せし處とぞいふ）
らんぺん（名）　藍靛、あおだま、藍玉
らんぺん（名）　南烟（上總の方言）、なんてん（植物）
らんぼう　蘭殿（皇后の宮を謂ふ）、蘭宮
らんぼう（名）　藍鞭、あおだま、藍靛
らんぼうらん（名）　闌天竹、なんかんたけ（植物）
らんぼう（する）　亂暴、らんぼうにふるまひする
らんぼう（形）　亂雜、らんぱくなる、雜雜

らんぼう（する）（自）　亂走、みだれつひとる、敗北、敗走
らんぼうこう　欄外、わくうと（欄内に反す）
らんぼうこん　濫官、冗官（無用の官を謂ふ）
らんぼうこん　蘭官、ものぼるやくにん（貴樂官吏）
らんぼうか（名）　亂杙、亂杭、亂樁（戰爭の時敵を拒ゃ爲に地に打つ杭を謂ふ）、鹿角
らんぼうだ（俗）（名）　亂杭國、うちはは
らんぼうえ　亂軍、みだれいくさ
らんぼう（名）　闌夜、よなか、よふけ
らんぼう（形）　亂脩、しりみだれ（蔡の如く亂れたる）
らんぼう（名）　欄間（鴨居の上部を云ふ）
らんぼうえ（形副）　闌漫（花の紅白咲亂れたる貌、みごとなる、＝又あらはなる、爛漫
らんけい（名）　戀鯉（戀を見よ）（動物）
らんけい（名）　蘭桂、たま、やまにつけい（植物）
らんけい（名）　明形、たまたまなり、たまたまのかたちなる
らんけつ（名）　蘭月（支那の七月を謂ふ）
らんけつ（名）　嵐談（山城國葛野郡の嵐山を謂ふ）
らんけつ（名）、一（する）（他）　亂擊、あつたうちする、みだれうちうする、らんうちうする、あつたやたちにうつ（他人の身体などを打擲するを謂ふ）

らんぷ（する）　濫用、妄用、＝みだりにつかふ
らんだ（形）　懶惰、ものうく、ものしやう、懶怠、なまける、そこたる
らんだ（形）　懶惰、なまける、ものうく（上を見よ）
らんだい（名）　蘭燈（蘭省（らんしやう）を見よ）
らんだい　亂道、みだりなることば、濫言、虫說
らんだう（名）　那吒、蘭塔、亂頭、たふば、卒塔婆（うとば）
らんだうば（名）　那塔婆、たふば（寺院の境内に立つる者）、＝又はかば、墓地
らんぞ　濫訴、みだりにうつたへること
らんぞ（する）（他）　欄置、ものをたてる、とやまする、ものをくる
らんぞう（する）　亂捜（らんしう）、やたらにさがしする
らんない　欄内、わくうち（書物新聞紙等の欄線の内）
らんらん（副形）　爛爛、ひかりかがやく
らんらん（名）　蘭花、らんのはな（盆物の「うらぼん」を水に入れ盆をふやけたる頃出して豆の頭、小刀目一つつついれて胡麻油にて揚れば恰も蘭花の如く開く此料理を蘭花といふ）
らんらん（名）　蘭華、蘭蘭、いたちぐさ（植物）

らんぼう（名）　亂心者、國亂人、國子、ものぐるひ、ものくるひ
らんぴ　濫費、みだりにつひやすこと（無用の費耗）
らんぴつ　亂筆、みだれがき
らんぴき（名）　藍櫛、藍櫛（物の滓を漉て取る器）
らんぷん（名）　闌門（大腸と小腸と會ふ處なり又糞水ともいふ）
らんせい　亂世、みだれよ
らんせい（形）　卵生、たまごにてうまるる（禽蟲の如く卵となりて生るるをいふ）
らんせい　濫製、粗造、みだりなるつくりかた、みだりにつくる
らんせい（名）　蘭省（皇后の宮を謂ふ）、蘭殿
らんせい　濫政、みだりなるまつりごと、惡政
らんせう（名）　蘭雀、たんぎく、ちのな（植物）
らんせき（名）　蘭夕、よふけ、深夜
らんせきこう（名）　卵石貨、たんこいし
らんせん（副形）　爛然、あきらかにかがやく
らんせん（副形）　闌然、はちはち、活潑、眞隆る貌
らんすい（する）（自）　闌醉、ゑひつぶれる、いたくよふ

らんぼう（名）　亂心者、國亂人、國子、ものぐるひ、ものくるひ
らんぴ　濫費、みだりにつひやすこと（無用の費耗）
らんぴつ　亂筆、みだれがき
らんぴき（名）　藍櫛、藍櫛（物の滓を漉て取る器）
らんぷん（名）　闌門（大腸と小腸と會ふ處なり又糞水ともいふ）
らんせい　亂世、みだれよ
らんせい（形）　卵生、たまごにてうまるる（禽蟲の如く卵となりて生るるをいふ）
らんせい　濫製、粗造、みだりなるつくりかた、みだりにつくる
らんせい（名）　蘭省（皇后の宮を謂ふ）、蘭殿
らんせい　濫政、みだりなるまつりごと、惡政
らんせう（名）　蘭雀、たんぎく、ちのな（植物）
らんせき（名）　蘭夕、よふけ、深夜
らんせきこう（名）　卵石貨、たんこいし
らんせん（副形）　爛然、あきらかにかがやく
らんせん（副形）　闌然、はちはち、活潑、眞隆る貌
らんすい（する）（自）　闌醉、ゑひつぶれる、いたくよふ

らんしんもの（俗）（名）　亂心者、國亂人、國子、ものぐるひ、ものくるひ
らんぴ　濫費、みだりにつひやすこと（無用の費耗）
らんぴつ　亂筆、みだれがき
らんぴき（名）　藍櫛、藍櫛（物の滓を漉て取る器）
らんぷん（名）　闌門（大腸と小腸と會ふ處なり又糞水ともいふ）
らんせい　亂世、みだれよ
らんせい（形）　卵生、たまごにてうまるる（禽蟲の如く卵となりて生るるをいふ）
らんせい　濫製、粗造、みだりなるつくりかた、みだりにつくる
らんせい（名）　蘭省（皇后の宮を謂ふ）、蘭殿
らんせい　濫政、みだりなるまつりごと、惡政
らんせう（名）　蘭雀、たんぎく、ちのな（植物）
らんせき（名）　蘭夕、よふけ、深夜
らんせきこう（名）　卵石貨、たんこいし
らんせん（副形）　爛然、あきらかにかがやく
らんせん（副形）　闌然、はちはち、活潑、眞隆る貌
らんすい（する）（自）　闌醉、ゑひつぶれる、いたくよふ

らんしよう（名）　亂書、たらんだるみ（回亂院圖の書）
らんしよう　亂緒、みだれのいとぐち、らんのはじめ、亂階
らんしよう（名）　攬勝（勝地即ち名勝の地を尋ね訪ふを謂ふ、攬勝之樂を極むなど用ふ）
らんしよく（名）　藍色、あおいろ
らんじや（名）　亂舞、かをりもの
らんじや（名）　蘭若、てら、佛寺、精舍（梵語）
らんじやたい（名）　蘭若待（名香木の名にして又蘭若寺と云ふ南都東大寺の領庄に在り即ち伽藍の類地）
らんじやう（名）　蘭省、蘭臺（天子の御書籍を謂ふ）
らんじやう（する）　濫賞、みだりにほめる（勝劣有功無功等を論ぜずに濫りに賞するをいふ）
らんじやう（名）　濫觴、はじまり、起原、根本
らんじゆう（する）（自他）　濫出、みだりにでる（貨幣等が外國へ）
らんじゆう（名）　欄柱、かしらだて（柱にて假に作れる腐壁）
らんしん（名）　亂心、きちがひ、失心、狂氣
らんしん（名）　亂臣（不忠の臣）
らんじん（名）　亂人、亂暴者、無法者、あばれもの
らんじんそう（名）　蘭人草、にら（植物）

らんぷ（する）　濫用、妄用、＝みだりにつかふ
らんだ（形）　懶惰、ものうく、ものしやう、懶怠、なまける、そこたる
らんだ（形）　懶惰、なまける、ものうく（上を見よ）
らんだい（名）　蘭燈（蘭省（らんしやう）を見よ）
らんだい　亂道、みだりなることば、濫言、虫說
らんだう（名）　那吒、蘭塔、亂頭、たふば、卒塔婆（うとば）
らんだうば（名）　那塔婆、たふば（寺院の境内に立つる者）、＝又はかば、墓地
らんぞ　濫訴、みだりにうつたへること
らんぞ（する）（他）　欄置、ものをたてる、とやまする、ものをくる
らんぞう（する）　亂捜（らんしう）、やたらにさがしする
らんない　欄内、わくうち（書物新聞紙等の欄線の内）
らんらん（副形）　爛爛、ひかりかがやく
らんらん（名）　蘭花、らんのはな（盆物の「うらぼん」を水に入れ盆をふやけたる頃出して豆の頭、小刀目一つつついれて胡麻油にて揚れば恰も蘭花の如く開く此料理を蘭花といふ）
らんらん（名）　蘭華、蘭蘭、いたちぐさ（植物）

む、無、牟　是は「ら」の父音と「う」の母音と合して生ずる音にして五十音の中にては第七行第三段に位す

むあう(名形)　無、兄、なきこと（又詞の上に冠らせて無きの意を表す例へば無爆炭、無理等の如し）亡

むい(名)　霧、きり

むい(名)　謀、ゆめ、いつめ

むい　無爲すること、爲無(佛教の語)＝又たのつかり、自然(天下の治まる事等に云ふ)

むい　無位、くらゐなき

むいもつ・無一物、ひとつのものもなき(何も無きを謂ふ)

むいか　六日(第六の日或は六箇の日)

むいかいちむら　六日市村（越後古志郡また石見國鹿足郡の村名）

むいかまちむら　六日町村（越後國南魚沼郡の村名）

むう(名)　室、いく＝窟、窖、あなぐら＝暖室、温室、蒸室、燒室、あたたかきいく或くや

むう(名)　蒸室、ぬりものをうつ(塗ぬりたる物を乾かす室)

むう(名)　夢、ゆめ、ゆめ

むう(名)　無明(佛教にて誤の煩惱を脱したるを謂ふ)

むう(名)　杜松、ねず(植物)

むうえむら　室戸村(土佐國安藝郡の村名)

むうえみさき　室戸崎(土佐國東南の海角の名、安藝郡に屬す)

むうが　室賀(氏)

むうこう　室榎(氏)

むうこうのみなと　室榎港(周防國の港の名)

むうねやま　室根山(陸中國磐井郡に在る山)

むうつ(名)　無漏子、うてつのみ(「うてつ」を見よ)

むうのえまり　室泊(播磨國の船泊場なり其他室の浦、室の浦、室の瀬戸なども云ふ)

むうのつ　室津(播磨國揖西郡の海港)

むうのうら　室浦(紀伊國の海浦にて和歌に見ゆ)

むうのやしま　室八島(下野國那須郡の地名にて和歌に見ゆ)

むうつ(形)　無疎、まちなし

むうまち　室町(足利將軍の幕府)

むうまち　室町(東京市日本橋區の町名)

むうまちのさんかんれい　室町三管領(武衛、貴山、細川)

むうまちのじゅうにしゅう　室町十二位（一族、大名、侍所、外樣、御定衆、供衆、申次、番方、國人、奉行、走衆）

むうまちのしょうぐん　室町將軍(足利將軍を云ふ)

むうみ　室生(紀伊國の郡の名)

むうらむら　室生村(大和國宇陀郡の村名)

むうるさい(形)　暖室閉（暖室にて閉ぢたるをいふ）

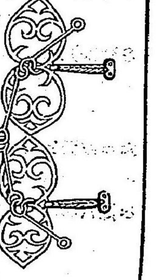
むうるさばな　暖室花(暖室にて咲かせたる花)

むうん(副)　無論、勿論、いふまでもなく、もちろん

むえつ(名)　暖疾業(俗体の男色)、うはつく

むくら(名)　蓬、荊蕀、茨、いばら、ちがや、刺花、牛蒡(植物)

むくらがうつ(名)　蕨、蕨(馬術の一種)（本國たるは大和國奈良正倉院の所藏）



（圖の衛藜蕨）

むこう(形)　無道、暴、不義、無道、らんぼう

むこう(形)　無二、ならびなき、ふたつなき

むにむちゃくに(副)　無二無三、ちやみに、ひたすら

むこうる(他)　無、むだにする、むなしくする

むこんだう(名)　無人島(小笠原島の一名)、ボーニンアイランド

むぼう(形)　無謀、むやみ、かんがへなき

むぼう(名)　夢、ゆめ、うらなひ、ゆめはんと

むほん(名)　謀叛、不軌、非違、謀反、反逆、はんぎゃく(君主に叛く事)

むほんしんのう　無品親王（位品の宣下なき王子を云ふ）

むぐ(名)　野木瓜、むべかづら(植物)

むぐ(形)　宜、もっとも、しかるべき、當然

むぐかづら(名)　野瓜、野木瓜、雨子、郁子、假寧枝、ゆけびなどはびけ(植物)

むくん(形)　無邊、かぎりなき、はてしなき、無限

むくんりう　無邊流(劍術の一流)

むぐ(形)　無囚、かんがへなき

むぐう　武藤(氏)

むぐんに(副)　無群、徒、むれなきに、いたづらに

むぐんしん(俗)(形)　無群心、ふしんしょうち、うけひかぬ

むち(形)　無智、ちえなき、たちか

むち(名)　鞭(馬を打つ具)＝笞、罪、過、笑、たたき、ぼう

むち(形)　無地(織物の縞なきを云ふ)

むりょう(形)　無利益、りえきなき

むりやう(形)　無量、はかりなき、かぎりなき

むるる(形)　無類、なきびなき

むが(形)　無我、わたくしなき

むかい　向井(氏)

むかがた(名)　坂邊、むかふがた、さかはた

むかえり(名)　一周、ひとめぐり(歳月に云ふ也一年の周る期をいふ、例へば幾年人がむかはりにして故郷にかへるなど見ゆ尚下を見よ)

むかえり(名)　賈、人賈、かがはり、ひとしち

むかえりえきりん(名)　再息日(一周忌を謂ふ)

むかえりえん(名)　期年、期歳、周年、ひとめしまはり(一年目の廻り來るを謂ふ)

むかえりつき(名)　期月、ひとめぐりつき(一箇月目のめぐり來るを云ふ)

むかえらたつ(俗)(自)　忽怒、易怒、いかりやすくある

むかえま(名)　向屋、むかふやね

むかえき(名)　行縢、行騰、行形、はばき(脛をたはふ具)

むかえきむら　行縢村(備後國殿田郡の村)

むかえきやま　行縢山(日向國臼杵郡に在る山)

むかい(名)　迎、迎接、いでむかふこと

むかいれる(他)　迎入、いでむかふ

むかえる(自)　迎(來る人に行きて出でむかふ事を

らん）、怒、逆

むかくかん（名）迎鬼、むかくのもの

むかくぶね（名）迎船、むかくのふね

むかくび（名）迎火（盂七月十三日の夜に焚きて死者の魂を迎ふる火）

むかつく（自）煩悶、はきけをもよふす、はきたくなる

むかつき（名）煩悶、止氣、はきけ

むかむか（副）煩悶、煩悶（吐き氣を催す貌）

むかつく（形）無効、しるしなき、やくにたたぬ

むかつのさと　無何有之郷（莊子が設けたる寓言の國）

むがく（形）無學、がくもんなき（又佛道にては詩作に超越したる佛徒を然か謂ふ）

むかふ（自）向、對、對、かはをむける、かはあはする

むかふね（名）板櫂、むかは、まくは

むかふがた　向ケ岡（「むかひのをか」を見よ）

むかふがし　向河岸、對岸、前岸、かはむかふ、むかふのきし

むかふかぜ（名）面風、まくより吹くかぜ、むかふかぜ、逆風、横風

むかふこ（俗）（名）向疵、かは、むかくるかは

むかふのみや　向日宮（山城國乙訓郡に在り）

むかふまち　向日町（山城國乙訓郡の町名）

むかふ手（名）駒面傷（前に受たる傷なり駒傷に對す）、むかひきず

むかふみす（俗）（形）向不見、粗暴、輕率、せきかず、暴虐馮河

むかふじま　向島（東京淺草區内隅田川の沿岸にして春の日には櫻樹千里の眺めあり）、震堤、＝又向島（讃岐國の北方にある群島の一）

むかふしまむら　向島村（山城國紀伊郡の村名）

むかふば（名）膓、腸骨、はぎのまくぼね、すね

むかご（名）零餘子、ぬかご、やまいもの子（山藥の葉間に生ずるものなり）（植物）

むかで（名）蜈蚣、百足、百脚、馬陸、馬拔、馬蹄、蛾蟻、蚰蜒、即止（動物）

むかでいし（名）蜈蚣石、いしのな

むかでのり（名）蛇苔（植物）

むかでぐさ（名）蜈蚣草、筑草（植物）

むかさ　向笠、六笠（氏）

むかし（名副）昔、往昔、往古、宿昔、昔時、疇昔、在昔、往年、昔年、いにしへ、すぎにしとき

むかしがたり（名）昔語、むかしのものがたり、むかしがたり、古事談、＝小說、つくりはなし

むかしばなし（名）昔語、むかしばなし、古事談、＝小說

むかしかたぎ（形）古風、質直、いつはりなき（古風の純朴なるをいふ）

むかしよもぎ（名）蓬、やまよもぎ（植物）

むかしやう（名）昔樣、むかしのさま、むかしふう

むかひだちのし（名）當世子（本樣の子を謂ふ）

むかひかぜ（名）逆風、むかふかぜ

むかひのをか　向岡（武州豐島郡忍ケ岡と相向くる地）

むかひけ（名）嘔氣、はきけ、はきたきこころもち

むかひあふ　對面、むかひあふ（「人にて」）、＝相向、對立

むかひ手（名）向疵（「むかふきず」を見よ）

むかひめ（名）正妃、まことのきさき（王者の正室）、王妃

むかひび（名）向火、迎火（彼方の火に應じて放つ火を云ふ、又は生魂祭に焚きて其魂を迎ふる火をいふ）

むかで（名）蜈蚣（美濃の方言）、むかで（動物）

むかんかん（形）無感覺、かんじなき、＝かまひつけぬ

むよう（形）無用、ようなき、いらぬ、＝又むからず、そからず

むくん（形）無感、ふくんなき、ものほしつ

むた（俗）（形）徒、いたづら、無益、＝甘、元、よけい

むたい（俗）（形）無體、むり（無理）

むだばなし（名）閑話、せけんばなし、閑談、自語（用事にあらざる話）

むだづかひ（名）浪費、徒費、花費、無費、濫費、枉費、いたづらにつひやすこと（金等を）

むだつ（形）無刀、かたなをたばず、まるごし

むだつ武ぶだう（形）無道、かうなきは、非道

むだうしん　無道心（宗教を信ぜざる心を謂ふ）、無信心

むだぐち　手田口（氏）

むだごと（名）空談、むだばなし、いたづらばなし、無用談

むだぐひ（名）徒食、くひつぶし、＝又いたづらくひ、あひだくひ

むだこと（名）徒事、浮事、あだごと、やくにたたぬこと、いたづらごと

むだもの（名）長物、贅物、冗物、よけいもの、いらぬもの

むだん（副）無斷、はしなく、ゆくりなく

むれ（名）群、むらがり、族

むれ　手禰（氏）

むれる（自）群居、群集、簇、叢集、むらがりまる

むれる（自）蒸、蒸、むれにはまる

むれう（形）無聊、たのしみなき、たもしうから

むれくひたか（名）白鷺、たかのたくひ（動物）

むれすゞめ（名）鍋雀、蟬、花（植物）

むそぢ　六十歳（六十年の齡）

むだむだする（自）躁、躁、まだは足心、躁、むだむだする

むそうこくし　夢窓國師（天龍寺の開基）

むそく（形）無腦、むそくなること、＝したがふこころなき（無腦の臣なき謂ふ）

むつ（形名）六（三と三を合せたる數）

むつ（形）陸、しとしとむつむ

むつ　陸奥（東山道の郡名今の陸前陸中陸奥を兼ぬ）

むつ（名）蟹、蝦、蟹、花蟹、石蟹、むつのうを（動物）

むつ（名）天竺葵（河内の方言）、やぶにくけい（植物）

むつむつ（俗）（形）憤然、勃然（怒る貌）

むつむつ（俗）（形）無手、相撲、くひもつ貌

むつむつする（俗）（自）勃然、いかれるようをする、いかる、はらたつ、勃如

むつおよび（名）睦、親、親（彼の六本なるを云ふ）、むつ

むつき（名）襁褓（小兒を負ふ衣服）、襁衣

むこう(名)　陰月(正月の異名)

むつゆび(名)　駢指(足の)、枝指(手の)(親指の二本に成れるを謂ふ)、枝生指、もつゆび

むつみつき(名)　陰月(太陰暦正月の異名)

むつみむら　陰美村(三河國宝飯郡の村名)

むね(名)　背、せなか(刀の)

むね(名)　前甲(鎧の胴の方)

むね(名)　棟、冷、屋根(屋背の其中の最も高き處)

むね(名)　旨、意、こころ、■ わけ、■ 又宗、かなめ(肝要の謂)

むね(名)　胸、心、胷、臆、こころのうち

むねいたみ(名)　胸痛、心痛、むねいたのいたみ、むねのいたみ

むねより(形)　宗能、宗、おもたてるもの(主君の臣下に云ふ)

むねよりのつはもの(名)　宗能兵卒、宗兵、おもたてるつはもの

むねよりのもの(名)　宗能者、おもたてるけらい

むねりか　宗近(一條院の朝の刀工、東三條に住す故に三條小鍛冶と呼ぶ)

むねをしがす　悲心、悲意、ふかくおもふ、こがれる

むらさきる(形)　胸躍、狂はまけをもよはす、■ 又こころのそわそわしまどはしさ

むらたかしんのうつ　宗貞親王(鎌倉十將軍の下を見よ)

むらつも　無熱池(印度雪山の南大雪山の北に在り周囲八百里をいふ)

むらつち(名)　刀背打(刀の背にて打つ事)

むらさきるし(形)　烟霧、むねがもやもやする、むねがいたい

むらさけ(名)　酸敗、むねのやくること

むらあげ(名)　上棟、上棟(棟を造り構くる事、また家を組たてたる時に行ふ式)

むらあし(名)　胸帯、むねのようび(胸を護る武具、むなあて)

むらん(名)(形)　無念、ぶんぬん、くやしさ

むらんぐ(形)　無年貢、ぬんぐそうらは、無税(地所に云ふ)

むないた(名)　胸板、胸鄽、むねのほね、■ 又むなあて

むなさき(名)　空鬪、むなしくはすること(鐵馬などにて勝負のたあらず徒らに先づ馳る事)

むなぼね(名)　胸骨、鳩尾骨、むねのほね

むなおひ(名)　鳩尾骨、むなぼね

むながはら(名)　棟瓦、誠、むねのかはら(屋背の棟の上を蓋ふ瓦)

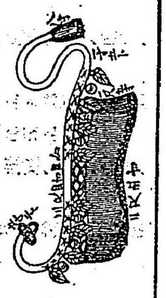
むなかた　宗像(氏)

むなかたごほり　宗像郡(筑前國の郡の名)

むなかぶり(名)　胸飾、むねのかぶりもの(衣服の)

むながき(名)　鞅(むながひを參照せよ)

むながひ(名)　鞅、胸掛、


むながひ
ちがい
ちがい
ちがい

むらさきの　紫野（山城國葛野郡に在り一休禪師の住せし大德寺の在る所）

むらさきの　紫之（「こがたの海」「名高の浦」等の枕詞）

むらさきのにわ（名）　紫苑（禁裏の御苑）

むらさきのり（名）　紫菜、紫賀、石菜、紫菜（植物）

むらさきぐさ（名）　紫草（紫草の根を採て染料に供す）

むらさきぐさ（名）　紫草、ふぢ（植物）

むらさきごけ（名）　紫苔、紫衣（植物）

むらさきぢんぷ（名）　紫田夫（料理の名、紫蘇の實を旨煮にして醤油豆皮と生薑につゆを入れて合せたる者）

むらさきしきぶ　紫式部（源氏物語の著者）

むらさきしきぶ（名）　紫式部、紫菫、やまむらさき、かもうりさき（植物）

むらさきしきみ（名）　女冠菜、やまむらさき（植物）

むらさきびんらう（名）　紫檳榔、むらさびんらう（植物）

むらさきすゐしゃう（名）　紫石英、いしのな

むらさめ（名）　村雨、暴雨、過雨、急雨、白雨、ゆふだち

むらさ　村木（氏）

むらさき（名）　略式（一方に偏する心）、偏

むらすゝ（名）　漁翁、漁人、うをとり、すなどりし、れふし

むらすゝ（名）　邑君、里正、むらのをさ

むらすゝの　群物（「心」の枕詞）

むらじ　連（上古、官名にて大臣の如き者）、かばねのな

むらしぐれ（名）　村時雨、村雨、むらさめ

むらじはぎう（名）　村下藤（弓の名）

むらせ（名）　村瀬（氏）

むらすゝめ（名）　群雀、むらがるすゝめ

むらう（名）　霧雨、きりさめ、きりあめ

むのう（形）　無能、はたらきなき、ちえなき＝又無藝

むのうりきしゃ（名）　無能力者（厩舎、白痴、如者等をいふ）

むく　鉾矢（氏）

むく（他）　剝はぎ、くち（皮等を）

むく（自）　向、むかふ

むく（形）　無垢、純、まじりなき（金等にいふ）＝又あかつかぬ、あかじみぬ

むく（名）　木工、もく、だいく、たくみ

むく（名）　椋、椋、椋樹、加條木（植物）

むく（名）　鵲、むくいぬ（動物）

むくい（名）　報、むくゆること、返報、報酬（「くんぱう」「はうしう」を參觀せよ）

むくいぬ（名）　惡犬、狂犬、癩犬、狗、食犬、けだものいぬ、むくいぬ（動物）

むくいる（他）　報、酬、復、酌、報愛、報恩、報酬、かくす、しかくす、はうする

むくろ（名）　軀、み、からだ、身体、體軀

むくろじ（名）　欒、むくれんじ、つぶ（俗を椶木と云ふ）木欒實、無患子、無患樹、菩提子（植物）

むくろじ或むくれんじ（名）　無患子（備前筑前の方言）、むくろじ（植物）

むくどり（名）　椋鳥、白頭翁（椋の實を食ふ故に然かいふ、こむくには、むくえ二種あり）（動物）

（圖の白頭翁）

むくれ（俗）（形）　無口、ことばすくなき、ものいはぬ、むつつりしたる

むぐり（名）　鼠、ねずみ（臣鄰臣洲の一國）

むぐり（名）　潜水、潜鳥、もぐりこ＝又鑽鑽、もぐりこ、ひりかにあるなひとつの＝また鑽鑽逆女、ちこ、

むぐりこ（名）　潜水者、かつぎ（水中に沈みて事をなす者）

むくる（他）　剝、むくはぎ

むくる（自）　潜、しづむ（水中等に）

むくやま　椋茶町（阿波國板野郡の町名）

むくみ（俗）（形）　腫、腫、腫、

む（名）婿、聟、壻、女婿（己の女子の夫＝また只をつと）

むし（形）無欲、つれなし、無罪

むしに（副）無期、いつまでも、かぎりなく

むしをり（名）聘取（夫を迎ふる事）

むしがは　武蔵川（摂津國武庫郡の大川）

むしがさき　武蔵崎（摂津國の岬）

むしがは（名）埋遺（埋みすてる人）

むしたらしい（俗）（形）酷虐、むごい、なさけなし

むしうばり　武蔵郡（摂津國の郡の名、武蔵山、武蔵海など和歌に名高し）

むごい（形）殘酷、殘忍、苛酷、酷虐、慘酷、苛なさけなし

むごいまつりごと　苛政、虐政、暴政、苛政、抑壓、壓制、苛法、あらあらしきまつりごと

むごいあしらひ　虐待、虐遇、あらあらしきあしらひ

むじん（形）無盡、尽なし、うつなる、まことなしは、無窮

むじん（名）必死、ゆめ、ゆめのうつつのたましひ

むごん（形）無言、ものいはぬ、ことばなし

む（俗）（形）無手、からて、てぶら、すで、なにもまたぬ、てぶら

むてつぽう（形）無手法、ちやか、かんがくなし

むとう（名）鶏鳥、ふうとう（其毛羽甚美麗にして歐洲にては婦人の頭飾に用ふ）（動物）

むとん（形）無鈍（淡交に反り無なきを謂ふ）、白交

むなし（形）無実、つまらなし、ひとり

むなしく或むなしく（形）無手、あるなし、なるか

むなし（俗）（形）汚穢、穢所、きたない、かしこし

むなし（形）無罪、つみなし、無辜

むなぎる（他）貪、欲、愛、貪慾、貪慾はしがる＝かすめミる

むなしく（副）無益、むだに、いたはなし

むなげ（形）叢生、多毛、けなかし、けむくじら

むなつ（名）夢想、ゆめとらせ（夢に現象を見る事）

むなつく（形）無氣、なつかなし＝又くみあひたる

むなうち（形）無雙（なちう）、ならびなし、ふたつなし＝ふたつ（漢附）

むなうちに（副）無慚、むさんに、かはひそうに

むなうちなし（名）無雙百柳（百柳の1種）

むなうちあり（名）無雙蕊、ふたあるはな

むなうちまんさく（名）無雙萬作（萬作の1種）

むなうちまん（俗）（形）無遮作、わけもなし、たやすし

む（名）麥、大麥、裸麥、布麥、ばくばく（古語）（植物）

むぎ（名）紫草、紫草、むらさきのなは

むぎいりし（名）炒（加賀の方言）、こがし

むぎいた（名）麥麩、麥麩板（麥麩をつく板）

むぎたた（名）麥田、麥畦（麥を作れる田園）

むぎたうやつ（名）麥田丁、かはむぎはたちやう

むぎをやり（名）麥穗始、雉槍（四稜の及にて尖鋭なりたる者）

むぎをはし（名）麥麩、むぎふるひ、篩、麥篩（麥粉を篩ふ具）

むきえけい　無期徒刑、はてしなきろうえき、終身懲役

むきえき（名）麥藁、むぎのわら、むぎあを

むきりけい　無期流刑、はてしなきるながし

むきおし（名）麥杖、麥棒、めんぼう（麥麩を打つ棒）

むきおすき（名）汗麥杖、麥棒（むぎこのねりたるまたしのはす棒）

むきうりあし（名）麥刈版、むぎかりあし

むきうら（名）麥藁、麥稈、むぎのこ、稈、むぎのら

むきうらだつし（名）麥帽子、むぎわらづくりのかぶりもの

むきうらぶきいし（名）麥藁葺工（麥藁にて種々の形を造れる物）

むきかり（名）麥刈、むぎかること

むきかりがたな（名）麥刀、むぎをかりとるもの

むきかりがま（名）麥鎌、むぎをかりとるもの

むきかた（名）捻頭（食菓の名）

むきから（名）麥稈、稈、むぎのから、麥莖

むきからしんば（名）麥藁蛸蛸（動物）

むきからすめ（名）麥藁（伊勢白子の方言）、しらぶか（動物）

むきからし（名）蕎麥（土佐の方言）、よしはらすめ（動物）

むきかす（名）麥滓、むぎのふ、ふ

むきなし（名）無極（天地萬物の未だ存立せざる始を謂ふ、太虛の初發原とも云ふは即ち無極の德なり無極より太極生ず是れ無極より太極生ず、是れ無より有を生化し來る也）

むきだし（形）露出、剝出、あらはなる＝つつみかくしなし、あらは＝無封（手紙などの）

むきだし（名）麥麩、麥饅、むぎうどん（むぎうどん）、麥麵（食物）

むきだこし（名）麥麩、むぎこし（植物）

む（名）武蔵、武蔵村（摂津國武庫郡の村名）

むさしの　武蔵野（昔し武蔵の上なりしに、武蔵國に有名なりし野原にして江戸は其東端に位せり）

むさしのくさ（俗）（形）匿名（「むさし」を見よ）

むさしすぎ　武蔵杉（杉を産る杉の1種）

むさごほり　武分郡（上總國の郡の名）

むさぼり（名）鼯鼠、山鼠、鼯鼠、鼯鼠、飛生鼠、のもすみ、はんどり、うはなし、（飛鼠門の1にして鼠は狐の如く、内翅は蝙蝠の翅尾に似たり、頂背の毛は紫赤の色を呈し、背は黄父の色を帶び、腹下は黄にして喉頷あり、即短かく八三尺長に尾能、蝙人の呼ぶが如し）（動物）

（鼠の國）

むさぼる（形）貪婪、汚穢、きたなし

むさし　武蔵（東海道の國名にして東共中にあり）

むさし（名）人格蹴（將棋の知を遊蹴の兵）、馬蹴、やりすかり

むさしむら　武蔵村（摂津國東國東郡の村名）

むさしの　武蔵野（昔し武蔵の上なりしに、武蔵國に有名なりし野原にして江戸は其東端に位せり）

む（名）婿、聟、壻、女婿（己の女子の夫＝また只をつと）

むし（形）無欲、つれなし、無罪

むしに（副）無期、いつまでも、かぎりなく

むしをり（名）聘取（夫を迎ふる事）

むしがは　武蔵川（摂津國武庫郡の大川）

むしがさき　武蔵崎（摂津國の岬）

むしがは（名）埋遺（埋みすてる人）

むしたらしい（俗）（形）酷虐、むごい、なさけなし

むしうばり　武蔵郡（摂津國の郡の名、武蔵山、武蔵海など和歌に名高し）

むごい（形）殘酷、殘忍、苛酷、酷虐、慘酷、苛なさけなし

むごいまつりごと　苛政、虐政、暴政、苛政、抑壓、壓制、苛法、あらあらしきまつりごと

むごいあしらひ　虐待、虐遇、あらあらしきあしらひ

むじん（形）無盡、尽なし、うつなる、まことなしは、無窮

むじん（名）必死、ゆめ、ゆめのうつつのたましひ

むごん（形）無言、ものいはぬ、ことばなし

む（俗）（形）無手、からて、てぶら、すで、なにもまたぬ、てぶら

むてつぽう（形）無手法、ちやか、かんがくなし

むとう（名）鶏鳥、ふうとう（其毛羽甚美麗にして歐洲にては婦人の頭飾に用ふ）（動物）

むとん（形）無鈍（淡交に反り無なきを謂ふ）、白交

むなし（形）無実、つまらなし、ひとり

むなしく或むなしく（形）無手、あるなし、なるか

むなし（俗）（形）汚穢、穢所、きたない、かしこし

むなし（形）無罪、つみなし、無辜

むなぎる（他）貪、欲、愛、貪慾、貪慾はしがる＝かすめミる

むなしく（副）無益、むだに、いたはなし

むなげ（形）叢生、多毛、けなかし、けむくじら

むなつく（名）夢想、ゆめとらせ（夢に現象を見る事）

むなつく（形）無氣、なつかなし＝又くみあひたる

むなうち（形）無雙（なちう）、ならびなし、ふたつなし＝ふたつ（漢附）

むなうちに（副）無慚、むさんに、かはひそうに

むなうちなし（名）無雙百柳（百柳の1種）

むなうちあり（名）無雙蕊、ふたあるはな

むなうちまんさく（名）無雙萬作（萬作の1種）

むなうちまん（俗）（形）無遮作、わけもなし、たやすし

む（名）麥、大麥、裸麥、布麥、ばくばく（古語）（植物）

むぎ（名）紫草、紫草、むらさきのなは

むぎいりし（名）炒（加賀の方言）、こがし

むぎいた（名）麥麩、麥麩板（麥麩をつく板）

むぎたた（名）麥田、麥畦（麥を作れる田園）

むぎたうやつ（名）麥田丁、かはむぎはたちやう

むぎをやり（名）麥穗始、雉槍（四稜の及にて尖鋭なりたる者）

むぎをはし（名）麥麩、むぎふるひ、篩、麥篩（麥粉を篩ふ具）

むきえけい　無期徒刑、はてしなきろうえき、終身懲役

むきえき（名）麥藁、むぎのわら、むぎあを

むきりけい　無期流刑、はてしなきるながし

むきおし（名）麥杖、麥棒、めんぼう（麥麩を打つ棒）

むきおすき（名）汗麥杖、麥棒（むぎこのねりたるまたしのはす棒）

むきうりあし（名）麥刈版、むぎかりあし

むきうら（名）麥藁、麥稈、むぎのこ、稈、むぎのら

むきうらだつし（名）麥帽子、むぎわらづくりのかぶりもの

かやあり(名) 茅併(茅)、むさとしらくのもち

かやあやし(名) 茅醸(茅にて作れる酢)

かやす(名) 茅酢(茅にて作れる酢)

かやすくり(名) 伏雞、ふせる

かやの(名) 榧、うち、このはな(植物)

かやのい(形) 無名、なな、なのあらは

かやのい(形) 無銘、しるしなし、なえしるさは

かやのいし(名) 無名指、べにつけゆび、くすりゆび

かやのはらのやま 榧原山(近江國の山)

かやのほしの言(名) 榧、こんぶい(植物)

かやのみ 榧津里(豫州宇和郡の地名)

かやのみや 榧宮(山城葛野郡に在り)

かやのやまあいびん 榧十一品(江榧、早榧、潮榧、古榧、巾兼榧、緑茶榧、百兼銅榧、紅榧、鶴榧、黄榧、鶴榧)

かやのゆ 榧廻(丹後竹野郡の地名)

かやん(形) 無面、なもなし、はつかしき、あんぼくなき

かや(形) 無茶、あらなし、あらはひあらは、らまみなき

かやあう(名) 無叫、くらき、ひかりなし、やみ

かやあいし(名) 無名貝、あるたま(石上に生ずる黒石殿の如き者)(藥品)

かやあいし(名) 無名指(第四の指)、くすりゆび、べにさしゆび、あるいし

かやし(名) 茶(国名の方言)、ちゃ(植物)

かやしのうみ 無貢之罪、流罪、流刑、ぬれぎぬ

かやしうしる(名) 無朱汁(「あうめしる」の類にて野菜類を多く入れつくる汁)

かやな(名) 鉾、鉾、たぬき、まか(動物)

かやなべ(名) 茶鍋、かしものなべ

かやなつかひ(名) 鉾使(きつねつかひの類をいふ)

かやなのいし(名) 瀧瀬(佐渡の方言)、かがみそ(植物)

かやむう(名) 蒸室(麹を作る爲めあたかに拵造したるむろ)

かやのぼる(自) 蒸騰(天日に蒸れて上る)

かやのぬけがら或かやのから 蛻、蛻皮、ぬけがら、ぬけがら

かやうし(名) 蒸菓子、もちもの、なまもの(未かも漢字)

かやえ(名) 蟲類、蛙天、かやのくう

かやき(名) 蚊母草、かやのあつまるくさ(植物)

かやく(名) 巧匠、工匠、工匠、大匠、巧匠、巧匠(動物)

かやく(名形) 蟲食、かやばみ、かやのくひたる、かやばみたる、蟲蝕、蟲食(書籍の)

かやり(名) 茶(国名の方言)、ちゃ(植物)

かやり(名) 茶粉、茶殺、團茶、白、うどんこ、むぎのこな

かやりぶり 或儀郡(美濃國の郡の名)

かやりがし(名) 粉茶子、茶殺(茶を煎りて粉となしたる者にて茶子として食ふ)、むぎのこ

かやりやんだ(名) 打茶場、むぎうちは(茶を打たせる場)

かやりふ(名) 茶織(面物)

かやあふ(自) 向合、むかひあふ

かやあき(名) 茶秋、むぎのかのりぎ、むぎかりどき

かやゆ(名) 茶湯(茶をせんじたる湯)

かやあい(形) 無記名、なしるさは(證券等に所有主の名を記さぬを謂ふ)

かやあし(名) 茶碗、むぎのくひもの

かやあしいし(名) 茶碗石、いしのな

かやあしだな(名) 茶門冬(伊勢の方言)、やまつげ(植物)

かやあしだな(名) 通草草(近江の方言)、かまつかな(植物)

かやあ(名) 鋼鉄(目類の殼を去りたる者)

かやあかいし(名) 茶の一種、かやのきいしき(植物)

かやしやしや(名) 相殺子(豫州の方言)、やみ(植物)

かやし(名) 茶、もすこと、又ちやかんもし

かやし(形) 無私、わたくしなき、わたかまりなき

かやし(名形) 無垢、とはきやなき、かぶりなきやなき、又はとりなき

かやし(名) 蟲(足あるもの)虫、蟲(足なきもの)(動物)

かやし(副) 既、無乃、いつか、かくして

かやし(名) 席、筵、莚席、草席、しきもの、御坐

かやしぼ(名) 席帆、むしろのほ(船の)、席帆

かやしぐち(名) 席門、むしろのぐち、むしろをさにもちひたるもの、戸口

かやしだ 席田(美濃の地名)

かやしだむら 席田村(筑前國席田郡の村名)

かやしだごほり 席田郡(筑前國及美濃國の郡の名)

かやしうり(名) 筵織(筵を織る人)

かやしむし(名) 虫蟲、蟲蟲、蛙、むしくひは、くちは

かやしむし(形) 蟲、蟲、蟲、蛙、むしがくふ、しかくふ、魚食

かやしみ(名形) 蟲食、むしくひ、魚食

かやしたる(名) 蛭蛆(筑後の方言)、つちはたる(動物)

かやしぼし(名) 蟲曝(夏日衣服書籍等を乾す事)

かやしりなぶし(名) 蟲殺撫子(石竹の一種)(植物)

かやしりうく(自) 掃仆、しがみつく

かやしりえび(名) 蝦蛄老(蝦の料理)

かやしる(他) 掃、つかみとる、ひきぬく、毛、ぬく(羽毛なども)、一毛(根を)

かやおろく(名) 蟲押、むしをすりて膏藥

かやかり(名) 蒸菓(尾張の方言)、がまずか(植物)

かやおひのゆ 蟲生温泉(遠江の國に在る有名なる温泉)

かやかれい(名) 蒸鰈、むしやきのかれい(薄く切りて「はいろ」に懸け炙りたる鰈にて美味なり)

かやかご(名) 蟲籠(夏の日に鳴く蟲を入るる籠)、蟬籠、むしこ

かやかめた(名) 甕、むしくひば、むしば

かやよ(名) 蒸蟲、はかば、はかは

かやよく(形) 無職、しごとなき、無業

かやよくけん(形) 無職業、しごとなき、こわもなき

かやよく(名) 無食子、没食子(木に生ずる蟲の巣也また沒渡子と云ふ)

かやよけ(名) 蟲除、むしはらひ

かやう(形) 無矢、無誓、無誓、つみなき

かやうり(名) 蒸瓜(伊豫の方言)、はこべ(植物)

虫明錦とも云ふ）

むしけ(名)　幽酒、せうちう

むしこ(名)　無醋、むしこなる、がくもんなる

むしこ(形)　無色、いろなる、すなはち

むしゆう　無主地、ぬしなきち

むしゆん(形)　無宿、やどなし（罪人に云ふ）

むしゆん(名)〜する(自)　不所、鎖閉、〜ひらがひ、〜ひらがふ

むしめがね(名)　顯微鏡（微き物を大きく見る目鏡）

むじ(形)　無慈悲、なさけなき、あはれみなき、むごき

むじゆう(名)　低能、むしやむし、粉粢

むじゆの(名)　雜物、むしやむし、むしこしらへたるもの（雜煮子料理などをいふ）

むしす(名)　蟲酢、吐酸（喉に上り來る酸氣）、酸敢液

むしん(俗)(名)　無心（金錢等を借る事）

むしん(形)　無心、こころなき、うつかり、たくみこころなき

むしん(形)　無銘、つくるなき、＝また(俗)(名)頒世子謎

むしんえう(名)　無霜期、ありあけのまもしび

むしんえいふ　請借金子、かはをかりたしまいふ

むしやうぶり(名)　無常鳥、はまさきす（「はまさきす」を見よ）(動物)

むしやうえん　無上菩提、うくなーたふまき（釋迦佛等を謂ふ）

むしやうしう(名)　無常鳥（子規の一名）(動物)

むしやうしよ(名)　無常所、はかば、墓場、墳墓

むしやのこうり　武者小路（氏）

むしやぶり(名)　武者慄（武士が甲冑を着けたる姿態をいふ、ものはれ武者慄なども云ふ）

むしやぶりつく(俗)(自)　緊提著、しがみつく、しがまとりつくる（爭鬪の時などに對手にしがみつくを謂ふ）

むしやゆきやう(名)　武者修行（武術を練磨する爲めに諸國を遍歷するを云ふ）

むしけ(名)　蟲氣、はらいたか

むしけら　蟲蟻、むしまけら

むしぶろ(名)　蒸浴室、ふろふき（沸氣の蒸發する所に居て身を洗ふ事）

むしぶな(名)　魚鰾、たびらこ(動物)

むしま(名)　蟲籠、むしかご、鶉籠

むしまろし(名)　蟲取、蟲取、蟲取（蟲取の名）(植物)

むしまもる　蟄（虫が冬日穴中にこもるをいふ）

むしあつき(形)　蒸暑、蒸暑、むしてあつくるし、＝鬱熱、煩濕

むしあけのやり　虫明海苔（備前國邑久郡の瀬戸、

（圖の勝利者武）

むしやだまり(名)　武者溜（城門の中嘶等の屯まる所）

むじやう(形)　無上、このうくなき、うくなき

むじやう(形)　無狀、いやなき、無禮

むじやう(形)　無常、つねなき、はかなき

むじやう(形)　無情、なさけなき、つれなき、むごき、＝又こころなき（草木などに云ふ）

むしやうに(俗)(副)　無正、無性、むやみに、やたらに、かたはりに

むせいたい(形)　無政府（政府なくして亂るるをいふ）

むせいふ(形)　無政府（政府なくして亂るるをいふ）

むせいふたい(名)　無政府黨（政府を顚覆せんを務むる人）

むせる(自)　噎、嗆、咽、喉、むせる

むせる(自)　炎熱、むす、むしあつくある

むせかへる(自)　咽返、咽嗆（はなはだしくむせるを云ふ）

むせつちく(名)　無節竹、うつだけ

むせき(形)　無籍、やどなし、流浪

むせん(俗)(形)　無銭、せんかたなき

むせん(名)　夢占、ゆめうら、ゆめうらなひ、ゆめはんじ、因夢

むす(自)　產出、はくる、うまれる

むす(他自)　蒸（蒸氣をもて燒く）、又炎熱、むしあつくある

むす　人名（氏）

むすぼほる(自)　鬱結、ものがふさぐ、ものうさをせぬ

むすぼれる(自)　結、むすばる、＝鬱結、悉結、鬱悶、ものがふさぐ

むすむすする(自)　鬱悶、かゆまこころもちする、かゆくならばゆる、＝又足心酸雖（腐しく過ぎ

に登り足の爪が不安の感覺を生ずるを謂ふ）

むすう(形)　無數、かずしれぬ、おびただし

むすのり(名)　紫菜(植物)

むすぶ(他)　結、結繞、緊著、結繞、綱、紐、ゆふ、しばる

むすぶ(自)　凝結、こりかたまる（流動物の）

むすぶ(他)　掬（水を手にすくひあつまるを謂ふ、樽桶の水を掬びてなどを用ふ）

むすぶ(他)　綱（糸を結ぶなどを謂ふ）、＝また綱結、綱、とりきめる、ちなる（他國と條約を結ぶなどを謂ふ）

むすぶのかみ(名)　結神、神媒、月老、月下翁（縁結びの神即ち婚姻の神を謂ふ）

むすぶのうら　結浦（紀伊及び但馬の海濱にして並に和歌に名高き者）

むすこ(名)　男、息子、息男、をとこのこ

むすめ(名)　女、娘、嬢、女子、息女、小女、女兒、をんなのこ

むすめ(名)　眞「ねずみ」の一名(動物)

むすめこ(名)　女子、をんなのこ

むすめこ(名)　外孫（女子が他に嫁して生まるる子）

むすめこ(名)　娘子、むすめのこ

むすび(名)　結、むすぶこと、＝又むすびたるを

むしんけい(形)　無神經、かんとなき、無感覺

むしんそう(名)　無蘇謎、頼母子謎（たのもしこう）

むしんそう(名)　無心草、眞鍮、はばこそう(植物)

むしんそう(名)　雨福、同福、かうらいぎく、しゆんぎく、きくな(植物)

むしんそう(形名)　無雜綴、つくるこなきくら（天地の如きをいふ）

むしんらん(名)　無蕊蘭(植物)

むしんき(形)　無益、むだ、やくにたたぬ、むやく

むしん(名)　歩障、ゆめにおうはるること、おうはれ

むしん(形)　無緣、ゆかりなき、ちなみなき

むしんたん(名)　無煙炭（堅くして燃るに煙なき石炭）

むしんつか(名)　無緣塚、淺塚（親戚朋友の弔ふ者なき死者の爲に設けたる墓）

むしんせきたん(名)　無煙石炭（無煙炭を見よ）

むじ(形)　無比、ならびなき、無類、たぐひなき

むじたい(俗)(形)　無非道、かちならぬ、むごい

むじつ(形)　無實（文字を書き得ぬをいふ）、文盲

むびやう(形)　無病、やまひなき、無疾

むもん(形)　無紋（衣服等の紋のなきをいふ）

むぜい(形)　無税、かつぎなき、うんとやうとらぬ

む

むすび（名）　團食、にぎりめし

むすびうどん（名）　結豆腐（料理の一法、「うどんぎうふ」の如く切り湯の中にて四五筋あつめてむすぶも、湯に入れれば自然になしがたし）

むすびかぶ（名）　結頭、むすびあ、むすび

むすびたま（名）　纐、むすびあ

むすびつける（他）　結有、結着、ゆひつける

むすびぶち（名）　結文（封じる代りに結びたる紙片）

むすびまり（名）　結鰹節（料理の名）

むすびぐさ（名）　黄蜀葵、かうきた、結香（植物）

むすびめ（名）　結目、結、結頭、むすびたるところ（「はなむすび」及「こまむすび」或「まむすび」などの別あり）

むせんむせん（俗）（副）　想嘔吐、むかむか（吐かんと欲する狀）

う

ウ、宇、羽、烏、卯　是は五音組の一にして五十音の中にては第一行第三段に位す、又「わゐうゑを」の「う」も是と同音にして此中に編す

う（名）　宇、のき、＝又あめがした、＝よ（天下の）

う（名形）　有、あるもの、ある、存在

う（他自）　得（「うる」をみよ）

う（名）　雨、あめ

う（名）　鈍、泥鰌、こて

う（名）　蚩、はまぐり、ひらがほん

う（形）　迂、まはりどほき、迂遠、うゝわつ

う（副）　唯、しかり、はい、ようし（應ずる詞）、を

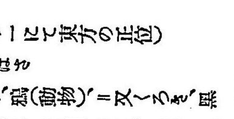
う（名）　卯（十二支の一にて東方の正位）

う（名）　羽、はね、つばさ

う（名形）　烏、からす、烏（動物）、＝又ゝうき、黑

う（名）　鵜、鵜鷺（水鳥にして馴して魚を捕るに用ふ可し）、ましこ、ゝり、樸鳥（動物）

う（名）　竿、竹竿（樂器）（圖の竹）



うい（形）　愛（「うき」の轉）、うれはしき、かなしき

うい　烏衣（黑色の衣）、ゝうこうも

うい（名）　雨衣、あまがつぱ、あまぎ

うい（名）　雨遮、あまけ、あまよけし

うゐ　宇井（氏）

うゐ（名）　有爲、なすあること（自殺の動作等をいふ）

うゐうゐ（名）　外郎（唐土の人外郎といふ者が日本に渡來りて弘めし藥にて相州小田原に本舗あり、又菓子の名）

うゐうゐ　外郎（歌舞伎十八番の一、曾かるまと「かるはらはん」を見よ）

うゐうゐあ（名）　外郎餅（食物の名）

ういう（名）　烏有、皆無、まつたくなくなること（烏有に歸すなど云ふ）

ういういし（形）　初初敏、稚々、わかわかしき

ういやつ（俗）　愛奴、かんしんなやつ（臣僕等を賞するに言ふ詞）

うゐしゑん　有爲轉變（世間の事の移り替りて常なきを云ふ）

うゐきやう（名）　薔薇、薔薇、ゝれのたま（植物）

うゐきやうゆ（名）　薔薇油、うゐきやうあぶら

うゐきやうめし（名）　薔薇飯（薔薇の粉をかけたる飯）

うゐきやうすゐ（名）　薔薇水、うゐきやうみづ

うゐする（他）　煨（熱き炭の中にて燒く）

ういえ（名）　烏賊、ゝゐりがら

ういえ或をいえ（名）、ーする（自）　嗚咽、すすりなき、すすりなきする

うゐえん　維也納（奥地利の都府）

うゐう　雨降、あまふり

うゐう（名）　雨湯、あまゆ

うゐう（形）　有涙（煩惱の角は身に纏はる事をいひて無涙に對す）

うゐう（名）　空虫、孔、穴、窓、うつろ、ほら、あな（地或は木の）

うゐうゐ（形）　空空、うつろなるからなる

うゐう　迂路、まはりみち、まはりどほきみち

うゐう　烏蘇、ゝうしう、畢目（酒に云ふ）

うゐうゐん（他）　踊拔（多くの中より引拔く）、ぬび、ゝ

うゐうゐする（自）　狼狽、周章、あわてまわる

うゐうゐし（自）　狼狽、まごまごする、心神恐亂

うゐうゐう（自）　狼狽、うゐうゐして、うゐうゐして

うゐうゐう（名）　鱗魚、鱗類、うを、さかな、魚類

うゐうゐし（名）　鱗、鱗（魚等の身を片片の外皮をいふ）

うゐうゐし（名）　鱗（京都祇園町の遊郭にて新地各郭を「はゝゝとん」と分る名）

うゐうん（形）　切亂、うたがはしき、あやしむべき

うゐ（名）　祖母（父方）、外母（母方）、おば、ばば（父母の母）

うゐ（名）　乳母、乳嬢、めのと、こうだとも、ちちのまうるもの、又「たまうは」といふもあり）

うゐ（名）　俟、淑、淡、嫺、しとやかなる、美女、美淡

うゐい（名）　優婆夷（俗体の女僧をいふ、「うはゝゝ」に對す）（梵語）

うゐい（名）　烏芋（植物）

うゐゐ（名）　上牙、上顎、うゝのは

うゐゐ（名）　上端、うゝのはし

うゐゐり（名）　上塗、うはぬり、うはぬはしこう

うゐゐれ（名）　浮雁、うはぬれ

うゐゐらおび（名）　發長腰帶（馬具）

うゐゐう（名）　樣（雜州の方言）、ゝぬぎ（植物）

うゐゐゐ（名）　百蟲、蛇蝎（蛇蝎の屬）、大蛇、たはくび、蟒（動物）

うゐゐゐう（名）　赤面徒者、ゝちなはとやうと（植物）

うゐに（名）　上荷（船内の上の方の積荷）、うはつみ

うゐにぶね（名）　上荷舟（海船より陸に荷物を運ぶ舟）

うゐゐ（名）　上邊、うゝのかた、＝外觀、うゝのかた、＝表面、たもて

うゐり　優婆離（十六羅漢の一）

うゐぬり（名）　上塗（壁等の上を塗る事）

うゐゐ（名）　後夫、のちがひ、のちのつま、のちのもつま

うゐおひ（名）　上掛、うはぎ、うはがけ

うゐかは（名）　表皮、たもてのかは

うゐかは（名）　外面、うゝがは、＝たもて

うゐかは（名）　衽（身の季用卽ち裏の外の皮）

うゐがく（名）　衽（衣の前部にて左右より合ふる所）

うゐかわ（名）　經緯（作波の方言）、ゝきりすう（植物）

うゐがたけ　嫗岳（日向と豐後の界にある山）

うゐがつら（名）　夜合藤、桃柳藤、九蔓藤（植物）

うゐがけ（名）　外衾、うはたうひ

うゐがき（名）　表書、たもてがき（書信等の）、＝なもて

うゐがゆり（名）　鬚裝藤貫母、うはゆり（植物）

うゐがみ（名）　上紙、うはつつみがみ

うゐかひ（名）　衽、うはがく

うゐかひ（名）　右馬伺（氏）

うゐたま（名）　烏羽玉（野干の實にして黑き壁に用ふ又藥理の名）

うゐゐん（名）　優婆塞（俗体の男僧をいふ、「うはゝゝ」に對す）（梵語）

うゐう　烏髮、ゝうかみ、畢髮

うゐう（形）　有髮、かみある、かみのけある

うゐつつみ（名）　上包、表包、たもてつつみ

うゐつつく（自）　浮雁、うはうはする

うゐゐり（名）　後妻、のちつま、のちがひ、のちのつま、後婦

うゐゐり（名）　闍（歌舞伎十八番の一）

うゐゐりうち（名）　後妻打（昔の風俗にて後妻を先妻の親族が來りて撲つ事）

うゐゐみ（名）　上波（たかくあがる波）

うえら（名）茨、いばら、荊、荊棘（植物）
うえらぐほり　笠原郡（信濃國の郡の名）
うえらむき（名）上向、うくのかたにむかふこと、＝たかゝらなること（山段が）
うえらう（名）烏蝶、うみすずめ（動物）
うえらうえ（形副）浮浮（うきてたちつかぬ貌）、ただまちぬ
うえらうう（名）羽蓋幅（五彩の羽をつゞりて幅きせし物）
うえらうがみ（名）覆背紙、うらうちがみ
うえのり（名）上乗（荷物と共に船に乗りて之を監督し行く人）、＝又かるわれ
うえのそら（形）浮空、上空、きゝながし、かけかまはぬ
うえくちびる（名）上唇、上吻、うくのかたのくちびる
うえくちひげ（名）上髭、うはひげ
うえぐすり（名）上薬、ぬりぐすり
うえやく（名）上役、上官、ぶうくのやくにん
うえまく（名）上幕（衣服の前の上なる証）、うくにかゝなるにより
うえまく（俗）（名）上前、物推金、かすり、＝わけまく
うえまがた　上膳、うくのまなた
うえぶる（他）垂、垂頭、しびてとる、＝垂、垂等、洗等、掠等、拾垂、剝等、刈、かすめる
うえこと（名）譫妄、譫語（熱等に浮されていふ詞）
うえこやま　姥子山（上野國勢多郡に在る山）
うえて（形）上手、じやうず、まさりてたくみなる
うえあご（名）上顎、うくのあご
うえぶく（名）噂、風説、風聞、はなし
うえぞうり（名）上草履（床上にて穿く草履）
うえぞくら　姥櫻（一重白色の櫻花にして葉の出ぬる前に咲く）
うえ言（名）浮氣、浮説、うはつくこころ、うはつはうこころ
うえ言（名）上衣、うくにきるきもの、上服、表着
うえ言ぬの（名）遊信郎、遊游兒、放游漢、あうびすきのひと、のらくらもの、浮浪子、蹶浪子、＝また浮浪子形、みちちあしきひと
うえゆり（名）醤瓶藥貝母、がはゆり、しがゝれゆり、うはがゆり（植物）
うえめ（名）上目（上の方を見る目）、＝うらめ
うえめがんそ（名）青劍草、ちりめんがんそ、ちりめんがんし（植物）
うえみず（名）上水（上に溜り或は流れる水）
うえみずさくら（名）上不見櫻、大櫻、しなさくら、淡櫻、山櫻桜（植物）
うえんかけ（名）上仕掛（弓の上の装飾を云ふ）
うえんし言（名）表服、表、にもてきもの
うえんし言（名）泥滑滑（鰌の品類、付鯛とは異なり）、やまじ言（動物）
うえんじ言（名）鍵、へらしき（馬具）
うえんぞ（名）上絡、銅染（染る布の上に表へ出る）
うえんえり（名）襲領、襲領、うくにかけたるえり（襲の上に塵垢などを防ぐために二重にかけたる襟）
うえん（名）外陰（眼鏡に云ふ）、霧鏡、ゝもがかり、外鏡
うえんぎやうえ（形）昌披、にぎやかひらけ
うえんけ（名）上髭（鼻下の短毛）、はなしたひげ、うはくちひげ
うえも（名）上裳（貴し官女が裳の上にきるひしき裳を縫を云ふ）、しびら
うえもの（名）上清（汁物の上の方の清みたる者をいふ）
うに（名）雷丁、海膽、がせ（「はりせんぼん」の類）（動物）
うにう（名）皿脂、につきせら、骨鯛、海狗（海獣の名）（動物）
うにこうる（名）一角獣（動物）
うはりぐひる（名）腰圧、にせきぶひ
うはく（名）烏木、黒檀（植物）
うえ（形名）上、かみ、＝陽、たゝて
うく（名）笠（魚を捕る具）、笱、やな（竹にて作れる者）
うく（名）上（人を尊敬して呼ぶ時の詞）「ちちうく」「あねうく」の如し
うく（名）夫人、内室（婦人の尊稱）
うぐ（形）宜、もつとも、むく
うくとら　上原（氏）
うくとらぐ（名）上流（女官の稱）
うくだ　上田（氏）
うくたまち　上田町（信濃國小縣郡の町名）
うくたこま（名）上田縞（信濃國上田より織出す絹）
うくつぼね（名）上局（禁裡にある高貴の休息所）
うぐなるかな　宜、もつともなるかな
うぐなる（自）諾、がてんする、うけがふ、しようちする
うくの　上野（氏また大和の地名、又「うくのやま」を見よ）
うくのもかま（名）表袴、袴、ひらみ
うくのねのこ（名）殿上人、雲客（四位以下の公卿を云ふ）
うくのやま（名）上野山（東京下谷の西北に在る小丘にて淵名を忍岡（しのぶがをか）と云ひ府下六公園の第一なる者、井山脈北に走り鶯鍵王子村に及ぶ、また此山を支那國に東台と呼ぶ）
うくの宮ぬ（名）祀、かりぎぬ（公服）
うくやな（名）笱、笱、すたれやな（魚を取る具）、うく
うくすき　上杉（氏）
うくすきむら　上杉村（越後國中頸城郡の村名）
うず　烏兎（日月を云ふ即ち金烏玉兎の略）
うぐ（名）獨活、うちたち、獨搖草、長生草、土當歸、水白芷（植物）
うぐはり（名）内令人（禁中諸殿の官にて武男の士をもて任ず、殿の通事舎人に當る）、うちのさぶらひ
うぐひす（他）蹂、疎、疎斥、疎隔、跡遠、うとんずる
うぐひす（名）烏豆、へらまめ（植物）
うぐひす（名）烏頭、かぶとぎく（植物）
うぐひす（名）倡、鶯知鳥（動物）
うぐひす（名）烏銅、にがうめ（銅を黑くしたる者）
うぐひす　有動（氏）
うぐひすし言（形）疎疎敗、そはそはしき、したしからぬ
うぐの　鵜殿（氏）
うぐのもし（名）碧蘆、よしのたゝひ（植物）
うぐく（名）有德（德行ある人を謂ふ）
うぐく（形）有徳、しあはせよき
うぐくじん（名）有徳人、しあはせよきひと、かねもち、物力戸
うぐすの　宇土町（肥後國宇土郡の町名）
うぐふ（他）疎、たはぶれ、ふる、したしむ
うぐこほり　宇土郡（肥後國の郡の名）
うぐこほり　有度郡（駿河國の郡の名）
うぐんだけ（名）偃能餅（料理の一法、餅を「すりみ」にして偃能粉を少しいれ板にうすく平に塗りて蒸湯をかけ適宜に細く切る也）
うぐ言（形）疎、疎、そはそはしき、したしからぬ、＝ゝらぎ、ゝはしからぬ
うぐめ（名）獨活草、うどのめ
うぐめつけ（名）烏頭草活（山城國醍醐にて蕨木の市草を醍醐にせし者）
うぐめ言（名）獨活（獨活の紫色にして細く長き者）（植物）
うぐん（名）偃能、温飩（食物の名）
うぐんのこ（名）偃能粉、麦麩（小麦粉の類）
うぐんや（名）偃能屋、麦麩屋、うどんゝはするしく
うぐんけ（名）優鉢花、優鉢羅花、鉢羅花（千年に一度花ひらくといふ想像樹）
うぐんこ（名）偃能粉、こむぎのこな、むぎこ
うち（名及後置詞）中、内、裏、なか
うち（名）内裏（天子のおはします處）、禁裏

うたせだす　打渡（「行田の原」「なかはえなす」等の枕詞）

うちうち（名）　内々、うちうち、うちあうち

うちうけ（名）　内譯、こまわけ、かぞへ

うづがは　宇治川（近江の湖水の下流なり、綴喜久世紀伊の三郡を經て淀川に入る）

うつがく（名）　器（底なき盆にて食を納れて腰に帶る者）、たびがく、こしがく、無底器、行纏、行縢、＝また轉義（腰の具に云ふ）、助開盆

うつかた（名）　徒歩、はやうつかた、けんべき（病名）

うつかた（名）　令政（式を人の妻を脅して言ふ詞）

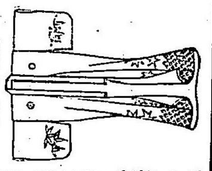
うつかつ（名）　打勝、かつ、まかす、制勝

うつがね（他）　火鉄、鉄面（鐵砲のはじきがね）

うつがらくり（名）　鐵鐶（內部に備へたる機關）

うつかけ（名）　裳、かひがうらぼね

うつかけ（名）　袿衣、うちぎ、袿襠（往昔婦人が衣服の上に纏ひし者）



うつかけ（名）　裲襠、うちかけ、しのはおり（上下の上の如く袖のなき者にて男が禮服の時にて衣物の上に打かけたる者なり冠束の頃も行はれしと太宰の獨語に見ゆ）

うつ　宇治氏、また山城國宇治郡に在る古來有名なる地にして最良の茶を產出す）

うで（名）　姓（源、平、藤原、菅原、清原、在原、紀、橘、大伴、小野の類）、＝氏（人の屬する族の稱）

うづの　雷林院（山城國愛宕郡の地名）

うづらいと（名）　打糸（山城國より製出する一種の絲）

うづらいまち　氏家町（下野國塩谷郡の町名）

うつらいる（自）　打入、射入、せめこむ

うつらと（名）　圓扇、氷執、便面、まるあふぎ

うつらと（名）　內甘（公けならぬこと）

うつらと（形）　內密、うつらと、＝ひかくも

うつらとだす（他）　打渡、こうす

うつらとる（他）　打飛、たたきはらふ、打撲、＝撲、ぶちはらふ、＝また（放鷹を打飛ばすと云ふ、大鷹にて雁を撲ふなり）

うつらん（名）　打稻（殿中にて面のきまれに此より彼へ打渡したる稻）

うつらん（名）　圓扇匠、うちはつくり

うつらんしゆ（名）　宇治橋手（料理の名、手をよく湯でて水晒にて洗し白砂糖をまぜて赤色は紅にて青色は抹茶にて染め米の粉を少し入て蒸籠にて蒸したる者）

うつらんとす（他）　撃走、せめておひはらふ

うつらぶく（名）　圓扇、てながえび（前物）

うつらん（名）　打稻、稻、穀、田、ぬたうつはん、うつらたい

うつらに（名）　內庭、なかには

うつらぼうす（他）　討亡、せめほろぼす

うつらぼり（名）　內塀、裏塀、なかのはり（城の內塀）

うつらを（名）　內令、つぼね、ながつぼね、をんなへや

うつらる（他）　討取、打取、こうす、＝くびきる

うつらるける（自）　打解、うちくつろぐ、＝開胸襟、こころをひらく

うつらゐ（名）　終、をはり、しまひ（演劇、相撲其他の終りをいふ）

うつらゐる（他）　打卸、うちこうす

うつらゐす（他）　驚散、せめはしらす

うつらゐ　宇治茶（山城國宇治郡宇治の里より出つる天下第一の名茶）

うつらをす（他）　打墜、打落、たたきおとす

うつりう（名）　圓扇（「うちは」を見よ）

うつりう（名）　內句（內の方へ曲りたる腰また婦人の如く足の先を內の方へ曲りたる甲）

うつりう（名）　內緣、家族中、いへのもの

うつりうに（名）　內反脚（脚が內へ曲がりたるをいふ）

うつりうる（他）　打割、割、裂、こはしきく

うつりうた（名）　鳥籠、ほうれいわた

うつりうん（名）　天運（運命、僥倖）

うつりうに　畿內（京師の周圍の國）、五畿內

うつりけに（副）　叫白、つつみかくしなく

うつりけける（他）　打裂、なげつける

うつりたる（名）　內頭、しんならひ、したけいこ

うつりたる（名）　銅鼓、けいきん（樂器の名、「きうけい」の下に圖あり就て見るべし）

うつりたび　打旅（「草香のやま」「こころ」「春」等の枕詞）

うつりたきのかれ（名）　內向鯉（鯉の胸に接せる者の鯉）

うつりつる（自）　雨注、あめのとくうつる（罪九等が）

うつりう（名）　宇宙（天地をいふ、或は云ふ四方上下を宇といひ、往古來今を宙といふ）

うつりうこ（名）　氏人、うちこ

うつりうこ（名）　牛毛石花菜（植物）

うつりうら（名）　黃絹、うらぎぬ

うつりうみ（名）　內海、近海、內洋、いりうみ、海（地の內に入りたる海）

うつりのぼる　打登（「佐保」の枕詞）

うつりのぼり（名）　內令人、うどねり

うつりのやうとや　氏長者（一族の長なり、例へば源氏の長者なと云ふ）

うつりのり（名）　內規（器物等の內の寸法）、うちのひろさ、內寸、內部寸方

うつりのりきつく（名）　宇治雁宮（山城國の宇治橋の傍に在り）

うつりのたくみのつかさ（名）　內匠寮、たくみつかさ

うつりのうみ　內海（丹後國の海）

うつりのしるすつかさ（名）　內記、ないき

うつりのもの　從者、ものもの、ものびと

うつりぐるま（名）　階輪（牛車の外に見にはをいふ）

うつりくるぶし（名）　內踝、うちかたのくるぶし

うつりたて（他）　聚祥、うちこはす

うつりつうる（自）　打解（「うちとける」を見よ）

うつりくさ（名）　木蘭、かうなほし（植物）

うつりくび（名）　斬髭（首を切り落す刑の名）

うつりより（名）　內壁（紙の名）

うつりやうん（名）　有頂天（佛書にいふ高き天の名）、＝（俗）うつり、うはのうつり

うつりやま　內山（氏）

うつりやまだいやう　內山下町（東京市麴町區の町、庭鳥館の所在地）

うつりやる（他）　打破、打壞、破壞、破祥、粉祥、聚破、打祥、粉粉、摧壞、うちこはす

うつりまし（名）　帆柱（船の帆柱に云ふ）、柱子、無底升

うかがふ（名）　原、かはら、のうち

うかがき（名）　撥鉤（鐵砲の用具にて敵を引つかくる者）

うかがみ（名）　氏神、うぶすなかみ、ちんじゆ

うかたがし（名）　槌師、きやうとや

うかがひ（名）　樋（竹を樋）

うかたせる（自）　打絞、よせきたる、せめきたる

うかたする　打絞（「鵜河」の枕詞）

うかた　內田（氏）

うかたたり　打田折（「たちの山」の枕詞）

うかたれ（名）　打緒（弓袋の上部の紐、緒りを云ふ）

うかたれまく（名）　打緒巻、まんまく

うかたふす（名）　打倒、うちこうす

うかたし（名）　等畝、うちたしたるうめん、丈田田地

うかたす（他）　打出、たたきいだす

うかたす（他）　丈田（田地を丈量して餘分の地面を見出すを謂ふ）

うかたけ（名）　綵毛、ちりみけ、ちりれけ

うかた（名）　打蹴（蹴を行て和らかに爲したる物）

うかたた　內外、はかうち、中外、表裏

うかたたし　打蹴（「なみのこう」の枕詞）

うかたた　打蹴（「たかのたはきん」の枕詞）

うかつく（自）　打綻、ひきつつく

うかぶ（名）　底、かなそこのうち

うかき（名）　撥鉤（鐵砲の用具にて敵を引つかくる者）

うかがみ（名）　氏神、うぶすなかみ、ちんじゆ

うかたがし（名）　槌師、きやうとや

うかがひ（名）　樋（竹を樋）

うかたせる（自）　打絞、よせきたる、せめきたる

うかたする　打絞（「鵜河」の枕詞）

うかた　內田（氏）

うかたたり　打田折（「たちの山」の枕詞）

うかたれ（名）　打緒（弓袋の上部の紐、緒りを云ふ）

うかたれまく（名）　打緒巻、まんまく

うかたふす（名）　打倒、うちこうす

うかたし（名）　等畝、うちたしたるうめん、丈田田地

うかたす（他）　打出、たたきいだす

うかたす（他）　丈田（田地を丈量して餘分の地面を見出すを謂ふ）

うかたけ（名）　綵毛、ちりみけ、ちりれけ

うかた（名）　打蹴（蹴を行て和らかに爲したる物）

うかたた　內外、はかうち、中外、表裏

うかたたし　打蹴（「なみのこう」の枕詞）

うかたた　打蹴（「たかのたはきん」の枕詞）

うかつく（自）　打綻、ひきつつく

うかつつみ（名）　天運（運命、僥倖）

うかつつに　畿內（京師の周圍の國）、五畿內

うかつけに（副）　叫白、つつみかくしなく

うかつける（他）　打裂、なげつける

うかたたし（名）　內頭、しんならひ、したけいこ

うかたたし（名）　銅鼓、けいきん（樂器の名、「きうけい」の下に圖あり就て見るべし）

うかたたび　打旅（「草香のやま」「こころ」「春」等の枕詞）

うかたきのかれ（名）　內向鯉（鯉の胸に接せる者の鯉）

うかつる（自）　雨注、あめのとくうつる（罪九等が）

うかつ（名）　宇宙（天地をいふ、或は云ふ四方上下を宇といひ、往古來今を宙といふ）

うかつこ（名）　氏人、うちこ

うかつこ（名）　牛毛石花菜（植物）

うかつら（名）　黃絹、うらぎぬ

うかつみ（名）　內海、近海、內洋、いりうみ、海（地の內に入りたる海）

うかのぼる　打登（「佐保」の枕詞）

うかのぼり（名）　內令人、うどねり

うかのかやうとや　氏長者（一族の長なり、例へば源氏の長者なと云ふ）

うかのり（名）　內規（器物等の內の寸法）、うちのひろさ、內寸、內部寸方

うかのりきつく（名）　宇治雁宮（山城國の宇治橋の傍に在り）

うかのたくみのつかさ（名）　內匠寮、たくみつかさ

うかのうみ　內海（丹後國の海）

うかのしるすつかさ（名）　內記、ないき

うかのもの　從者、ものもの、ものびと

うかぐるま（名）　階輪（牛車の外に見にはをいふ）

うかくるぶし（名）　內踝、うちかたのくるぶし

うかたて（他）　聚祥、うちこはす

うかつうる（自）　打解（「うちとける」を見よ）

うかつくさ（名）　木蘭、かうなほし（植物）

うかくび（名）　斬髭（首を切り落す刑の名）

うかより（名）　內壁（紙の名）

うかやうん（名）　有頂天（佛書にいふ高き天の名）、＝（俗）うつり、うはのうつり

うかやま　內山（氏）

うかやまだいやう　內山下町（東京市麴町區の町、庭鳥館の所在地）

うかやる（他）　打破、打壞、破壞、破祥、粉祥、聚破、打祥、粉粉、摧壞、うちこはす

うかまし（名）　帆柱（船の帆柱に云ふ）、柱子、無底升

うちまかせる（他）委任・委托・推委（まかせたく）
うちまた（名）内股（股の内の方）
うちまたもの（名）反側子（両方に〜つつく者）
うちまく（名）内幕（金襴・銅子又は布を以て作りたる幕をいふ・又幕内の幕子・家内の幕子及び内情等をいふ）
うちまける（自）打負・敗北（まけをとる）
うちまき（名）稲米（〜まきしね（神を祭る米）・散米）
うちまめ（名）打豆・押麦（たたきつぶしまめ）
うちけす（他）打消（たたきけす・＝けす・いけす）
うちもせる（他）打伏（たたきふせる）
うちこ（名）氏子（氏神の下に在る民）（うぶかにつ〜ひき）
うちころす（他）打殺・撲殺・殴殺（たたきころす）
うちこはす（他）打壊（たたきやぶる）
うちごほり　宇智郡（大和國の郡の名）
うちごほり　宇治郡（山城國の郡の名）
うちこむ（他）打込（たたきいれる）
うちこま（名）打鞠（こまを打合せて勝敗を決する遊戯）
うちこて（名）槌手（たいはうかた）
うちごのまま　打手浦（近江國滋賀郡大津港の湖畔にて有名の勝地）
うちごのこづち（名）打出小槌（用ひて地を打てば寶物の出現すといふ鎚）・金槌子
うちあはせ（名）腿・内股（うちもも）
うちあはび（名）鰒鮑（鮑の肉をのしたるもの）・のし
うちあける（他）打明（胸の思ひ等を）
うちあはび（名）鰒鮑（「うちあはび」に同じ）
うちあみ（名）撒網（たうあみ・電（まきあみ）
うちあひ（名）打合（たたきあひ・たたかひ）
うちいしかわやう　内幸町（東京市麹町區の町・國會議事堂の所在地）
うちぎ（名）内気（うちはのきまく）
うちき（名）袿（婦人の上衣）（「うちかけ」を見よ）
うちきり（名）打錐（孔をあける錐）
うちきみ（名）夫人（貴人の妻をいふ）
うちぎず（名）打傷・撲傷（たたききず）
うちみ（名）打肉・打身・撲身（打て傷つけたる過）（うちきず）
うちみ　内海（うつみ（氏）
うちみたりのまし（名）巾褌（褌・手拭等を容れる褌）
うちじに（名）討死・戰死・戰没（いくさにしぬること）
うちしたがく（他）打徙（うちたびける）
うちこ言（名）打敷（卓面・つくえかけ・棧子・＝御地敷（佛前の壇上に布く敷き物）
うちひ（名）樟（あらしも・＝樟（うけこし）
うちび（名）燧火（きりび・＝うちだすひ）
うちひらける（他）打平・打延（たたきてひらたくする）
うちひめみこ（名）内親王（天子の姉妹及皇女の尊稱）
うちひも（名）打紐・打紐・刷（〜みひも）
うちもらす（他）打洩・討漏（こうしもらす）
うちもの（名）打物（かたな・たち・つるぎ・短兵・兵刃）
うちもも（名）跨（また・跨股・内股）
うちもち言（名）槌鈎（戰船の具）
うちすぐる（他）打過（たたきふせる）
うちすすめ（名）燈臺（ひきりむし（蛾鎖の國）（動物）
うり（名）瓜（甜瓜・胡瓜の類の名）（植物）
うりく（名）賣家（うるべきいく）
うりたけ（名）瓜田（うりのはたけ・うりをつくるはたけ）
うりまろ（他）賣物（てはなす）
うりたひ（名）瓢（瓜の種を吹ふ出）・守瓜（動物）
うりぶち言（名）瓜期（うりのとゆ〜うるきき）
うりぬし（名）賣主（うるもの・うりと）
うりうりみは　瓜割嶽（紀伊國海草郡田部に在る山）
うりうたしがき　賣渡書・賣券（うりたるかきつけ・賣買・沽券）
うりうたす（他）賣渡（うりやる）
うりかくる（他）買賣（ふたたびうる）
うりかけ言へ（名）賣掛金（うりかしがね・かけうりがね）
うりかひ　賣買（うることかふこと）
うりよば（名）瓢（うりこも・うることも）
うりだね（名）瓜核（うりのたね・うりぞね）
うりだねがは（名）瓜子殼（ぼうながきかは・うりぞねかは）
うりたす（他）賣田・賣渡・販賣（いたしうる・＝賣足）
うりうりのさき言　宇利崎（田尻國神門郡の北端の岬）
うりうりごほり　雨引郡（石狩國の郡の名）
うりの言（名）八角楓・大空樹（植物）
うりんぐち（名）賣口（うりぐちこう）
うりふ（名）瓜生（うりばたけ・＝又（氏）
うりふの　瓜生野（摂津國の港の名・また山城國の地名）
うりふやま　瓜生山（山城國愛宕郡に在る山）
うりし（名）賣子（うりあるく〜もの・沿著（四方を賣りに歩くために派はれたる人・新聞賣子・賣藥賣子などあり）
うりし言（他）賣込（うりいれる）
うりて（名）賣手・賣人・賣主（うりぬし）
うりたん（他）賣断・賣渡（うること・ひきと）
うりたち言（名）賣断・清算（うること・賣買）
うりね（名）瓜核・瓜瓣（瓜の中の種）（うりたね）
うりぞねがは（名）瓜殼・瓜殼顔（うりたねがは・はうながきかは）
うりうり言（名）賣先（かひて）
うりうり言れ（形）賣切・賣盡（のこらずうりたる）
うりうり言れる（形）賣切・賣盡（みなうれをはる）
うりしろ（名）賣代（うるもののあたひ・＝又うることを（衣類道具を賣代なしてなど云ふ）
うりひろめる（形）賣広（うりつたくる）
うりもの（名）賣物・賣品・商品・賣買（うりしな）
うりもみ（名）瓜揉（胡瓜等を切りて作れる食物）
うりすぐる（名）賣尾（うされてうること（家等を）
うりん（名）羽林（左右近衛府の庁名）
うりんぐん（名）羽林軍（宮殿の南に在る四十五星の名）
うりんしやうぐん（名）羽林將軍（中將の庁名）
うぬ（名）犬（いぬ）
うぬ（名）汝（人を賤めて謂ふ言）
うぬぼれ（俗）（名形）自惚・自慢・自負・高慢（ひと
んぴとをりはめ・＝てはめ）
うぬぼれかがみ（名）自惚鏡（自己の顔を美く見せる凹中鏡の名）
うる（他）得・獲・占得（てにいれる・にる・＝あたふ・能・よくする・できる）
うる（他）賣・售・鬻（ひさぐ・沽・沽却・賣却（てはなす）
うる（自）熟（果實の食ふべくなりたるをいふ）
うるさんこむ（他）憂美・以憂美（よくにもふ）
うるさんこ言（形）美麗・輝麗・華美・美好・嬌麗・夜好・麗望（うつくしき）
うるほふ（自）潤・潤・潤・沾・潤・潤澤・浸潤（原語・浸潤はれる）
うるほひ（名）潤・ぬれ・＝又潤澤（ゆたかさ）
うるほす（他）潤（ぬらす・しめす）
うるわし（名）麗米（ただのこめ・うるこめ・うるしね）
うるりし（名）細魚（動物）
うるか（名）江豚魚（いるか（動物）
うるか（名）鱗腸（しほづけうるのこ・はらこ）
うるむ（自）疼（〜うるなる（打傷が）・あをになる）
うるむ（自）潤・濕（うるほふ・かうをふくむ（目が涙にて潤ふをいふ）
うるま　潤間（氏）

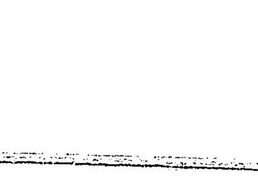
うをあのくに　琉球國、りうきう、沖繩
うをけ（形）　公儀、凝蹇、ぎうか、〻
うをふうし（名）　閏年（太陰暦にて十三ケ月ある年）
うをふつ言（名）　閏月、餘月（太陰暦にて十二箇月の外に今一つある月をいふ）
うをふつ言つめ（名）　閏月梅、山椿、さんさし（植物）
うをぶね（名）　秔、うるしね、うるち、たたのこめ、粳米
うをまと（名）　煩悩、ぼんのう、ぼんのう
うをもて言（形）　煩、わづらはしき、煩
うをもて言（形）　雕、雕、ぎたなき
うを言ぼし（名）　女宿（二十八宿の一にして西方に在り）
うを言び（名）　稷、ぬかびら、たたのきび
うをめ（名）　鯉、鯉、うをのな（動物）
うをゑしゆ（名）　鵲朱（赤黒色をいふ）
うをし（名）　漆（木より取りたる脂にて物を塗るに用ふ）（植物）
うをしし（名）　烏石、〜うをしし、からすいし
うをしぬけ（名）　漆刷毛、漆筆、うるしぬるはけ、漆筆
うをしぬり（名）　漆塗（漆を以て塗りたる物）
うをしぬけ（名）　漆櫛、うるしいれをけ
うをしかぶれ（名）　漆瘡、うるしかぶれ、うるしぶれ
うをしか言（名）　漆取、うるしとり、漆戸、うるしをとるひと
うをしか言（名）　漆柿、しぶかき（植物）
うをしね（名）　秔、うるこめ、粳、うるち（植物）
うをしむろ（名）　漆室（漆の塗りを乾かす室のむろ）
うをしの言（名）　漆樹（植物）
うをしや（名）　漆屋、ぬしや、うるしぬるひと
うをしし（名）　漆布、うるしこすぬの、漆布
うをしし（名）　漆漉（吉野紙の一名）
うをし言び（名）　稷、きび、明天（植物）
うをひ（名）　調（物に塩氣を含む事）＝餘（文餘箱ある事）
うをめ（名）　姿、ものもち、しんこ
うを（名）　魚、いを、さかな、うろこ
うをいちば（名）　魚市場、さかないち
うをとそん（名）　水虎（丹波日向の方言）、かつぱ（動物）
うをとり（名）　漁父、漁夫、漁翁、漁人、さかなとり、れふし、りやうさか、漁子、漁師
うをとうふ（名）　魚豆腐（料理の名、魚をよく搗り明鮮等などを混ぜて豆腐の樣に箱の内に布を敷きて蒸すなり）
うをゑびや（名）　魚問屋、魚牙、さかなどひや
うをゑちご（名）　越後國（越後國の郡の名）
うをがし（名）　魚河岸、さかなかし
うをがし（名）　魚河岸、さかながし
うをたな（名）　魚市、鮑魚市、さかなまち
うをつり（名）　釣徒、釣客、釣叟、釣人、釣者、つりびと
うをつまち　魚津町（越中國下新川郡の町）
うをつみなと　魚津港（越中國の地名）
うをとり（名）　魚戸、漁魚人、さかなとり
うをのこ（名）　魚子、鯛（はらこ）、鱈（日に故として年に在る者）、鮞（うをれいでたるもの）、鯉（稍長ずる者）
うをのあぶら　魚脂、鰾膠、魚白、魚脂
うをのめ（名）　魚目、石蹟、魚眼、疣、疣目、鯛眼、ものもの（身體に出る）
うをや（名）　魚屋、魚舗、さかなや
うをあきんど（名）　魚商、さかなや、さかなとり
うをあみ（名）　魚網、さかなあみ、うをとるあみ
うをせんべい（名）　魚煎餅（料理の名、何魚にても片身をたうし皮をのぞき上等の薄粉を溶して之を包み大なる竹筒にて叩きのばし適宜の梧口にて丸く押切り助炭にて燒くなり）
うをすみ　魚角、魚住（氏）
うを　宇和（氏）

うをうを（自）　煩、うをとある
うをうを　禹王（夏の代の明天子にして洪水を治めしを以て崇はる）
うをうをうを（副）　右往左往、あちらこちら、しよしよはうはう（戰ひ負けて右往左往に散亂するなどを云ふ）
うをのむら　宇和野村（紀伊國牟婁郡の村名）
うをとより　宇和郡（伊豫國の郡の名）
うをとま　宇和島（伊豫國北宇和郡の一郡名）
うか（名）　食、〜ひもの（古語）
うか　宇下、のもした
うがま（名）　鵜飼（鵜を使ひて水魚を捕る事）
うがゑ（名）　泛、うかせる、うける
うがかう（他）　覗、窺、伺、候、同候、偵問、覗伺、窺、覗、かる、のぞむ＝覬覦、ねらふ
うがかい（名）　伺、窺、請、請、請、たづねること（上官に）
うがかいよ（名）　伺書、たづねぶみ（官府に出す）
うがかいゑ（名）　回謀（敵地にいたりうかがふ人を云ふ）、しのび、かんじや
うがかいすん（形）　伺濟（官にきひあはせを爲し了りたる事）
うかれより（名）　狂鼎、〜るくるにはとり（時を誤まりて早く鳴きて人を驚かすが如き雄雞を謂ふ）
うかれる（自）　浮嘲、浮狂、うきたつ、うきうきす
うかれがらす（名）　烏、月夜烏（時ならぬに鳴く烏）
うかれうま（名）　遊女、うかれめ、ちようろう、ちよらう
うかれうた（名）　嘲歌、うきたつうた
うかれぶし（名）　浮節（都鄙一なきを歌ふ節をいふ）
うかれめ（名）　遊女、たはれめ、あそび、あそびめ、遊君、娼婦、娼妓、あそびめ＝私窩子、ぢこ〜
うかれびと（名）　浪人、浪客、浮浪人、そうらうびと
うかれびと（名）　嬉客、あそび、たはれを、いうきやく
うがつ（他）　穿鑿、はる、＝ほはす、＝みぬく
うかはらふ　如浮金（「きみ」の枕詞）
うから（名）　氏族、同族、やから、親戚
うかれ（自）　泛、〜〜（「うかれる」をみよ）
うかう（名）　芋頭、芋魁、いもの〜、いもがら、ずいき
うかう（副）　虚、うつかり、不注意
うかのかみ　宇賀神、稲魂（五穀の主宰の神）、ようけのかみ
うかく（名）　羽客（仙人を云ふ）、羽士、やまびと、仙人
うかまんま　宇加麻呂（麻呂の一）
うかぶ（自）　浮、泛、浮泳、浮游、浮動、うかむ、うく
うかぶ（形）　烏合、より集つまり（處々より知らぬ人などが寄集りたるを云ふ）
うかい（名）　鵜飼、鵜養（鵜を飼ひて魚を捕る人）、うかひ
うがい（名）　嗽、〜うがい、嗽
うがいぐすりやうけん（名）　嗽藥碗、〜うがいぐすりやわん
うがいがは　鵜飼川（豫州國宮十郡より出づ）
うかいぶね（名）　鵜飼舟（鵜を使ひて魚を捕る舟）
うよ（名）　雨餘、あまあがり
うよりやう（名）　雨餘嶺、いしなたんこ（土中にある雌色の鐵鏃の類）
うよく（名）　羽翼、はねつばさ
うた（名）　雅樂（音樂をいふ）
うた（名）　歌、謠、謠、うたふこと、＝唄、うたひもの
うだ　宇陀（氏また大和國に在る有名の地）
うだい　宇内、あめがした、天下
うだいじん（名）　右大臣（官名「〜人」を見よ）

うたいし（名）右大臣（古の官名、庶の尚書右大郎事に當る）
うたいしやう（名）右大將（右近衛大將をいふ）
うたいしん（名）右大臣、かみのおとど（左大臣の下内大臣の上に在り、庶の大保、右丞相、右僕射に同じ）
うたいせう（名）右大少（古の官名、檢非違使に屬す）
うたへ（名）訴、公事、訴訟（事件の曲直を官に訴へ其判決を受くるを云ふ）
うたた（名）手立、他（衆上の國）、たたりがた、はりのうへのちひさをはしら
うたりびほり　鴨足郡（讃岐國の郡の名）、鵜多郡
うたゑ（名）歌男、うたたふをこ
うたがはしやう　宇田川町（東京市芝區の町名）
うたがはしき（形）可疑、可ぶかし、疑
うたがはだ（名）歌牌（歌かきたる骨牌）
うたかた（名）泡沫、浮漚（あわ、水の）、＝又しばしのま、＝かりうあ
うたかたぐさ（名）升麻、とりあし、とりあしこよう（植物）
うたがふ（他）疑、惑、疑、嫌疑、疑猜、疑回、疑貳、しかにまこうに、かんがふ、＝れあひまどふ
うたがき（名）歌垣（男女大勢して歌をもて戯を遊べるをして遊ぶ古代の風俗）、かがひうた
うたがきやま　歌垣山（攝津國能勢郡に在る山）
うたがみ　宇田紙（大和國より産出する紙の名）
うたがひ（名）疑、疑心、疑念、しかがまたもふこころ
うたよみ（名）歌人、うたび、うたよもひと
うたた（副）轉、いよいよ、＝いたく、＝うたて
うたたね（名）假寐、假睡、假眠、かりね、轉眠
うたつ（他）（名）罪、違、うん、ちかえ、しゆつせ
うたなが（名）前胡、みつばそさ（植物）
うたながめ（名）詠歌（歌をよむを云ふ）
うたうたひ（名）唱女、うたひめ、＝うかれめ
うたうら（名）歌占（歌に由て事の吉凶を占ふを云ふ）
うたのかみ（名）雅樂頭（音律を司る古くの官名）
うたのつかさ（名）雅樂寮、かがくれう
うたのくらい　歌曾、うたよみあつまり
うたぐ（他）想、慮、だをかかくる、いたく
うたぐち（名）歌口（笛の吹く所の口を云ふ）
うたまくら（名）歌枕（國中の名所を歌に詠かいるるを云ふ）
うたまひのつかさ（名）雅樂寮、がくれう
うたげ（名）宴、さかもり、酒宴、饗宴
うたける（自）歌、こしかくる、あそらかく
うたふ（他）歌、謠、謳、唱、詠歌、唱歌、吟詠、歌頌、明、こゑをながめていふ、だがめる、ふしつけていふ
うたぶくろ（名）歌袋（歌を書たる紙を入れて柱にかくる飾袋）
うたびほり　鵜足郡（讃岐國の郡の名）、＝宇多郡（淡路國の郡の名）
うだごほり　宇陀郡（大和國の郡の名）
うたがた（副）轉、うたた、＝いたく、たはいに
うたてし（形）本性、はなはだし、＝薄情、なさけしらず
うだいんてう　宇多天皇（人皇第五十九代の帝、紀元一千五百四十八年（西年紀元八百八十八年）より一千五百五十八年迄、在位十年御齢六十五正統紀七十六といふ字子醍と號し又寛平法皇と號す）
うたあはせ（名）歌合、うたくらべ（歌の善惡をくらべる戯）
うため（名）歌女、うたひめ、うたうたふをんな、＝妓女、歌妓、妓女、げいこ
うたゑ（名）歌師（歌にて說く道）
うたひ（名）謠曲（ふしをつけてうたふ一種の曲）
うたひだね（名）鵜羽、鳴羽（鵜の尾にある長き羽）
うたひて（名）歌者、うたふもの、うたうたふひと、＝又うたひかた
うたひとり（名）歌頭（歌舞の名人）、歌聖

うたひもの（名）謠物、うたふこと物
うたすごほり　歌菜郡（後志國の郡の名）
うたん（名）羽緞、とうちゝりん（織物）
うたんせん（名）羽團扇、はうちは
うれ（名）梢、こず（枝の）、こずえ、＝末、すゑ、はし
うれへ（名）愁、憂、愁、愁、かなしみ
うれへ（名）愁訴狀、愁を官に訴ふる文書）
うれる（自）憂、うれゆく
うれたし（形）憂、なげかはし
うれへぐち（名）惜口、うれゆくちを
うれうる或うれへる（自）憂、患、悔恨、怨、愁、血、愁傷、憂慮、憂恨、かなしむ、なげく
うれしがる（自）嬉、喜、よろこぶ
うれしみ（名）嬉、うれしさ、よろこばし
うれしがる（自）嬉、うれしがる、よろこぶ
うれしい（形）嬉、喜、よろこばし、歡、悅
うれひ（名）患、憂（「うれへ」を見よ）
うゑ（名）蝟（大蝟、海蝟の二種あり）（動物）
うゑ（名）鷹、鳴、拙、若、鷂（雄を「とりうゑ」と云ふ）（動物）
うゑ（名形）遠言、謠言、いつはり、妄言、＝まこと、ようぬ、虛僞、妄誕、虛誕、虛妄
うゑがへのしんじ　歌舞伎狂言（京都祇園西店原にて正月十四十五日の夜遊廓中の男女が色紙短冊歌に古歌を題として天滿宮の面前に巻物し先の古歌と眞者る例あり之を謠舞と云ふ大坂府の盛榮之繁事に其似るなり）
うゑつ言（俗）（名）誑言者、食言者、浮詐人、いつはりて
うゑつし言（形）似詐、似妄、いつはりしを
うゑむく（自）嘯（「うゑふく」に同じ）
うゑゞく（名）羽族（羽類ある動物）
うゑゞく（名）右族（れをれを骨鯽を云ふ）
うゑゞく（名）烏賊、墨魚、いか、鰞鰂（動物）
うゑゝる言（形）嘘嘘、こゝらを、うゑゝらを、をゝらを
うゑゝく（自）嘯、いをふゝ、＝ゝをえゝ
うゑゑむ（名）微笑、含笑、わらかにわらふ、えみをふゝむ
うう（名）蝟、ふるをい、をふるい
うう（する）（自）蝟、ふるを（氣が）、いんきになる
うう　字津（氏）
うう（他）打、殴、敲、擊、拍、拍、なつ、たゝく、＝拍（手を）、＝撲（布或衣を）、＝搥（鎚などを）、＝梶、つける（鉄をつける也）、白鐵以て中黑の鉄うつたる也なを云ふ）
うう（他）討、討伐、うちはらひ（敵を）
うう（他）組、あむ、＝押
うう（他）図（畫をかこもを云ふ）
うう（名）烏頭、烏頭、烏羽玉、ぬばたまの（植物）（植物）
うう（名）潤、うるを、かうわ、ゝるゝるをしか、う、巻水
うう（形）珍、めうらしき、たふとき
うう（名）蹲踞、うゝまりをること、かがみすわること
うういふ（名）嬉戯、をふるを、＝いをきはり
うう（形）冲、虛、空、空洞、中空、から、うつろ
ううこどうふ（名）空洞豆腐（料理の一法、豆腐を岩の如き形に造るなり）
うう（自）鬱、かはる、うつりかはる
ううふね（名）歌舟、御木舟、きるをふね、刳舟、全木舟（「うつほぶね」を見よ）、うつをふね
うつは（名）器、器皿、うつはもの、＝器具、たうぐ
うつはり（名）俗、虛言、いつはり
うつだり（名）梁、棟梁、屋樑（家の屋根の下に張れる大なる木）
うつだり（名）雉、きぎす、きじ（動物）
うつむこそう（名）鬱金草、うこん（植物）
うつむき（名）全剝、まるはぎ（皮の）
うつはもの（名）器物、うつは、器具、器具
うつほ（名）蝟魚（動物）
うつほ（名）空虛、洞、中空、空、はら、うつろ、からう（木の中の空なる處）
うつぼ（名）靫（矢を入るる器）、えびらのたぐひ

國人部　那賀郡　摂津（國の名）



（摂津國住吉郡住吉大社の神宝）

うつぼ（名）矢筈（弦を受ける所）

うつぼ（名）水落（たてどゆ）

うつぼがひ（名）鵜飼（動物）

うつぼい（形）鬱陶（しきりにはりふさぐ）

うつぼぐさ（名）忍草（草の名）

うつぼぐさ（名）夏枯草、洗面草、鐵色草、濱州夏枯草（かんたんのまゝ）（植物）

うつぼぶね（名）舳艫、艫、艫舟、なかゝりぶね、ゝまちぶね（「うつろぶね」を見よ）

うつぼ（名）空木（うつろのき）

うつぼ（する）（形）鬱閉（ふさぐ）

うつゝ（副）恍惚（夢の如き心地をいふ）

うつゝ（名）卯槌（正月の第一の卯の日に作りて厄除を祈る小さき槌）

うつゝ（他）打過（うちすてる）

うつゝ（名）鬱鬯（鬱金香の草より香氣を取りて鬱ぜたる酒にして支那にて祭祀に用ふ）

うつり（名）映、照、照、類、似（彼れと是れと相てりあふを云ふ）

うつり（名）鬱李（さくらんぼ）（植物）

うつりが（名）移者（うつれるにはひ）

うつりがより（名）浴衣（變遷の衣服）

うつりかはる（自）變遷、代謝、移換、移易、朝變、かはりゆく

うつりがたけ　移嶽（級城國に在る山、美山（うつくしたけ）とも呼ぶ）

うつりき（名）鬱李、空氣、かはりどころ

うつる（自）遷、迁、徙、推迁、移動、移轉、迁徙、ゆきかはる、きどころをかへる

うつる（自）伝染（うつりつ）（病が）

うつる（自）映（えいずる）（日光火氣等に云ふ）

うつる（形）空（うつろ）、うつぼ

うつろぶね（名）空舟（「うつぼぶね」を見よ）

うつろ（形副）鬱蔚（草木の繁茂するを云ふ）

うつろぶね（名）刳舟（うつろぶね、きるきぶね、空舟

うつかり（俗）（形副）無心、不注意（うかうか）

うつかひ（名）鵜遣、鵜匠（鵜を以て魚をとる人）、鵜師（うかひ）

うつたい（する）（自）鬱滯（ふさぎこまる）

うつたく（名）訴訟（ゝと、訴訟（民事上の）

うつたくにん（名）訴人、訴訟人（うつたくをする）

うつたくる（他）訴、訴訟（裁判所へ裁決を願ひ出る）

うつたゞり（名）杜鵑（「ほとゝぎす」の一名）（動物）

うつたが言（形）雄、雪隱（やまなりなる）

うつたう（形副）鬱陶（窓へ閉る貌）

うつたうし言（形）鬱陶敷（ゝ、ゝ、ゝ）、又うるさい

うつたけの　空竹之（「ゝを」の枕詞）

うつそう（副形）鬱蒼（草木のしげれるを云ふ）、こんもり、もりもり

うつそみ（名）顯身（此世に生存する人）、うつせみ

うつそみの　現身之（「やうゝのを」の枕詞）

うつつ（名）現、まこと、ほんまの、ゝいまの、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、又（俗）ぼうし、幻

うつつく（自）鬱悶、ふさぎこむ

うつつこゝろ（名）現心、たしかなるこゝろ、しゃうき

うつなふ（自）協同、うゝなふ、承諾、うけひく（神がかりして人を助くるを謂ふ）

うつな言（形）決、うたがひなく、たしかなる

うつら（形）虚、うつは、はら、から

うつら（名）鶉（四月頃なを「ゝ」と云ひ、月末中に鳴くを「ゝ」と云ふ）（動物）

うつらん（名）雄性、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うは（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うつ（名）卯杖（「うつゑ」の條）
うつゑのつかさ（名）卯杖祭師（卯杖を天子に奉呈する者）
うつもる（自）埋（物の下にはれてあるを云ふ）
うつもう（形）鬱蒸、うつもうし、〜うし
うつもも（名）股、うつもも、＝又物の內側
うつもん（名）憂悶、ふさぎもだくること
うつせがひ（名）空背貝（貝の殼）、空蟬、かひから、からがひ
うつせがひ　空貝（「みなと」の枕詞）
うつせき（する）（自）憂積、つもりつもる、かつる（百に憂恨などが心中に積り充るを謂ふ）、さかつもる、やるかたなくつもる
うつせみ（名）現身（此世に生て在る身）、うつし、み
うつせみ（名）蟬（三四月に鳴く蟬）（動物）
うつせみ（名）蛻蟬、せみのぬけがら、もぬけのから、空蟬、空蟬（古來之を世（よ）の枕言に用ふ）
うつせみの　現身之（「命」「しゝ」「命」「人」「人」「人」「世」等の枕詞）
うつせん（形訓）蔚然（物の盛んなる貌）
うつす（他）寫、謄、寫、抄、寫、寫、寫、圖、かきうつす、かきそこる

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うはあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うはあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うはあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うはあ（名）畦、畝、畦（はたけの）
うはめ（名）采女（「うねめ」を見よ）
うはぬの（名）畝布、よつゝりのたゝび、うねたりぬの、あせぬの（「うねたり」をみよ）
うはる（自）卷曲、まがり、くねる、＝蜿蜒
うはおり（形名）畝織（絲を畝の如く高くあげて織れる布を謂ふ）、起機、畝布
うはくる（自）蜿蜒（「うねる」を見よ）
うはめ（名）采女（昔し天子に仕へし諸國の郡司等の女妹をもて之に充てたり）
うはめやう　采女町（東京市宮城區の町名）
うはめつかさ（名）女采司（采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ）
うはめのしやう（名）采女正（官の官名）
うねびやま　畝傍山（大和國高市郡に在り、雲飛、雲根火等と書く、今俗に橿原山と謂ふ）
うねんじゆ（名）烏桕樹（植物）
うなゐ（名）髫髮（頭髮を頂まで垂たる童）
うなゐたれ（名）放髮髫（小童の髮を振り分けもる者を謂ふ）、はなり
うなゐまつ（名）馬鹿松（童髮の印に植へたる松）
うなゐこ（名）童子、髫髮、垂髮子、かみたれたる、もちわらは、うなゐはなり、ふりわけがみのこ

うはあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらあ（名）潮、はまゝ
うら（名）裡、うち、裏、なかのかた、うちかた
うら（名）相、こすゑ、えだのさき
うらさうかし（形）裏淺、心淺、こゝろはつかしき
うらとう　表裏、反對、うらたゝて（相反對するを云ふ）
うらとひ（名）占、うらかた、うらのおもて
うらとぶ（名）稻（月の米をいふ）、ゆはず
うらとん（名）裡刎、うちにたしたるはん
うらぼし（名）金星草（植物）
うらぼん（名）盂蘭盆（舊曆七月十五日の招魂祭）
うらべ（名）卜部、うらなひやべ、卜首、＝また（氏）
うらべ（名）浦邊、はまべ、濱邊、うみべ
うらまき（名）後卷、うらまき、圓卷、窠卷
うらまう（他）卜問、うらなひしてまふ
うらみどり（名）浦千鳥、所湖鳥、はまちどり
うらみぬき（名）裏地絹（衣服の裏に用ふる絹）
うらおき（名）日者、卜人、うらなひし
うらおもて　表裏、うちうと、裡表
うらおひ（名）猶豫、延疑、ためらひ、躊躇
うらび（名）浦回、はまべのめぐれるところ、うらめぐり
うらびあら　浦和町（武藏國北足立郡の町名）

うらかぜ　浦風（北海道日高國の郡名）
うらがくる（名）　裏反、裡反、反心、うらぶりする、裏切、内應、内通
うらかた（名）　卜筮、訓、兆、占、卜方、龜卜、うらなひ
うらかたがめ（名）　龜甲（占卜に用ふる龜）
うらがれる（自）　末枯、まがかれる（木の枝の）
うらかなしき（形）　心悲（心中に愛ふる悲）
うらかく（自）　洞甲、とほる（矢等が鎧を貫くを謂ふ）
うらがまち　浦賀町（相模國三浦郡の町名）
うらがこひ（名）　裏囲（庭園の裏の隅に施す囲）
うらかき（名）　裡書、批記（文の裏に書く保證の文）
うらかきにん（名）　裏書人、かはせてがたにうらがきするひと（爲替手形の下を見よ）
うらかすがせき　裏春夕陽（東京市麻布區の地名）
うらたいくやう　裏大工町（東京市深川區深川の町名）
うらたな（名）　裡店（人家の裏にある貧人の居家）
うらつたひ（名）　浦傳（海邊より海邊をつたひ行くを云ふ）
うらつじ　裏辻（氏）
うらなふ（他）　占、うらなひする、卜

うらなき（形）　無災、無障心、くたてなし、＝こころやすなく、＝又なにもなく
うらなし（名）　草履、ぞうり（裡を附けたる）
うらなひ（名）　占（神に願ふて邪の吉凶を定むる事、又は夢色或は人相に因て其吉凶を判斷する事）
うらなひしや（名）　卜人、卜筮師、卜者、占家、うらなひするひと、うらなひし
うらら（形）　皎、皎皎、迥迥、うらうら、明、のどか、のどやかしづかにあたたかなる（春の日の迥くして長閑なるを謂ふ）
うらむらさき（名）　紫蛤（動物）
うらうく（形名）　裏表、うらにもて、ちがへ
うらうち（名）　裏打、裏貼（書物等の裏に紙を張りて强くする事）
うらうら（形副）　迥迥、のどやか（「うらら」を見よ）
うらぐち（名）　裡口、うしろのくりぐち、＝かつて
うらやか（形）　素直、やさし、＝こころよく、＝うらら
うらやむ（自）　羨、羨慕、羨望、うらやましくなる
うらやま　浦山（氏）
うらやましき（形）　羨敬（我も彼の如くあれば善

からんと思ふをいふ）、＝又ねたまし、＝けなりがる
うらやすのくに　浦安國、あをつしま（日本國をいふ）
うらまち（名）　廂街、廂巷、うらどほり（市街の裏の貧人の多く居る町）
うらまち　裏町（東京市赤坂區の町名）
うらまち　裏松（氏）
うらこころ（形）　心裡、こころにしたふ（心裡に樂々之情を懷くを云ふ）
うらて（名）　幾方、うしろ、うしろかた
うらさくらやう　裏櫻樂町（東京市神田區の町名）
うらき　未木、すゑのこだ、きのすゑ
うらぎり（名）　裏切、反應、内應、内通、通敵、送款、反應（敵に通じて味方を襲ふ事）
うらきぬ（名）　裏衣、うらぎ、裏衣
うらめし（形）　怨敵、怪敵、うらかたきふ
うらみ（名）　怨恨、怨望、怨怒、怨怒、怨憤、心術、にくみたきふこと、＝遺憾、殘念、殘念、くやしくたきふこと
うらみる（他）　怨、恨、怪望、怨、怨、怨、あしくたきふ、にくむ
うらみのたき　裏見瀑（下野國河内郡に在る瀑の名、個よりのぼれば瀑の裏がみえるゆゑ然か

名〜）
うらこうり（名）　風尾草、ものうもと、はなが、はながしび、やまわらび、きとのそ、しだ、格莊草（植物）
うらしま　浦島（青〜浦島子が住ひし處をいふ「うらしまがこ」を見よ）
うらしまがこ　浦島子（丹後國與謝郡の人にて雄宮に入りて長壽を得たりしを傳ふる者）、浦島太郎
うらしまそう（名）　虎掌、まひうらてんなんしやう（植物）
うらしんえんちやう　裏神保町（東京市神田區の町名）
うらびと（名）　浦人、はまびと（海邊に住む人）
うらす（名）　浦洲、うらのす
うらえんぎん（名）　盂蘭盆（七月十五日を云ふ「うらぼんえ」を見よ）
うり（他）　生、産（中が胎より出す）、＝又まうける（父が子を）、産
うり　有無、あるなし
うり（他）　瓜、瓜（絲瓜を長くつぎ出す）、つむぐ
うり（自）　倦、倦厭、倦怠、倦退、あきつかれる、あきる、つかれる、くたびれる
うり（自）　熟、つゆる、あかくなる（果實に云ふ）
うり（自）　結瓣、うりまつ（瓣物に云ふ）、成瓣、瓣

化
うりかはがひ（名）　蚓、あかがひ、蚯蚓（動物）
うりかに（名）　蝦蟇にふたうもし、にしやどう（動物）
うりす（他）　炊、かしぐ（物をにたきする事）
うりすす（他）　温卵（雞鴨の卵をあたためるをいふ）
うりう（名）　烏芋、くろくわい（植物）
うりの　宇野（氏）
うりのはな（名）　卯花、淩霄花、凌花、水晶花、凌霄、うつぎ（植物）
うりのはな（名）　卯花、雪花、豆腐、豆洋、きうず、から（豆腐の洋をいふ）
うりのはなおとし（名形）　卯花嵐（嵐の異に云ふ）
うりのはなづき（名）　卯花月（太陰曆四月の異名）
うりのはなの　卯花之（「うきこと」の枕詞）
うりのはなだし（名）　卯花雨（三四月の雨を謂ふ）
うりのはら（名）　瓜原、うなはら
うりのけ（名）　鬼毛（重に用ふる兎の毛）
うりのあらこう（名）　崑崙黃、しやうのたもと、うりのあ
うりのみ（名）　鵜舟、まるのみ、かまずにのみこむこと
うりう（自）　齲（洋糖等を多く食ひて齒が一種の快ゆる感じを起こすをいふ）、齲酸酸
うりう（自）　浮、浮、うかぶ、況（水上に出る）
うりうのもり（名）　土龍、螻蛄、蝼蛄、田鼠、土豹、

ちやうもり（動物）
うりう（名）　瓜、つかうり
うりう（名）　烏芋、すゐのは（植物）
うりう（する）（自）　羽化（羽が生えると云ふ意にて仙人となるを謂ふ卽ち羽化して登仙するを云ふ）
うりう（名）　芋蜀、たうのしも（植物）
うりう（する）　疋回、まはりかちする
うりう（形）　疋淵、うつかり、＝まはりがはし
うりう（する）（自）　行廻、まがりかがみ
うりえ（名）　打猛、うけ（漁具の名）
うりか（名）　蛾、石斑魚、蛾、蛾（動物）
うりひす（名）　鶯、黃鳥、黃鳥、黃鶯、黃鶯、黃鶯、紫鵲、鶯、烏、金衣公子（樺の間〜所來りて鳴く有名の鳥）（動物）

（圖の鶯）

うりひす（名）　山鶯（紀州の方言）、あまた（植物）
うりひすいや（名）　鶯茶、鶯褐、あをかがりたる、ちやいろ（茶色に云ふ）
うりひすかぐら（名）　鶯鈴花（植物）

うごひすが吉（名）　窓垣（柴を密に並べて造れる垣）
うごひすが虫（名）　蛍貝、かひのこ（動物）
うごひすたけ（名）　鳴茸、紅菌、べにたけ（植物）
うごひすは（名）　黄花菜、なのはなひ（植物）
うごひすのたき　宮瀧（大和國の瀧の名）
うごひすのこのみ（名）　櫻桃、ゆすらうめ（植物）
うごひすのみ（名）　蒸餅（酵茶子の類）
うや　烏夜、やかのよ（暁夜に同じ）
うや（名）　禮、敬、ゆや
うや　朋夜、あしよ、あやふるよ
うやむやのせき　有耶無耶關（羽後國の有名の關跡）
うやうやし吉（形）　恭、敬、慇懃、うやまふ、謹恭
うやこ（名）　烏蘗、鍍鬼樽、穿弓、はたこん（植物）
うやまる（他）　敬、恭敬、尊崇、敬禮、たふとぶ
うま（名）　烏麻、くろごま（植物）
うま　右馬（官名にして左馬を將ず）
うま（名）　午（十二支の一）
うま（名）　馬、むま（牡馬一名父馬、牝馬一名小馬）（動物）
うま（形）　甘、あまい、あまのよい
うま（名）　午（數六のさい）
うまい（名）　乳醪、よしはもろこし、醍醐
うまいこと（名）　馬軍、馬服（騎兵を以て服ふる事）
うまいひ（名）　甘飯、うまいひ
うまじ（名）　馬場、はば
うまに（名）　旨煮（醤油と砂糖と味醂にて煮たる者）
うまに（名）　馬荷、駄荷（馬に負する荷物）
うまえこや（名）　厩、馬亭（馬を休ませる亭）
うまえり（名）　馭者、馭人、驅人、うまつかひ
うまえん（名）　馬架（馬をつなぐ木）、抑、うまかせ
うまる（名）　叫、うつめられる、いかる
うまかた（名）　馬方、馬奴、馬夫、馬丁、馬僕、うまひき
うまかひ（名）　圉人、牧士、飼、べったう
うまかひば（名）　牧馬場、馬飼場、まき、まきば
うまかせ（名）　馬抑、馬架、うまつなぎ、よせば、しら
うまよろひ（名）　馬介、馬鎧、馬甲、うまにきせる よろひ
うまだけ（名）　馬癖（馬を淫する事を謂ふ）
うまだらひ（名）　馬盥、うまあらふたらひ
うまだし（名）　馬出、副城、月城（城の三の丸）、うまがはのしろ
うまれ吉（名）　生年、うまれたるとし
うまれる（自）　生、降誕、誕生、生産、出産、よにいづる
うまれかえる（自）　生變、轉生、ふたたびうまれる、再生
うまれたて（形）　生立、うまれたるばかり
うまれつき（名形）　密性、生質、氣質、天性、氣質、うまれえたるこころ、＝生得、天武、天資、うまれえたる
うまれう（名）　右馬寮（昔し朝廷に屬して馬を掌りし官局の名）
うまれご（名）　生兒、あかご、赤子、うまれたての こ
うまれあはせる（自）　生合、うまれてゐる（他と同時に）
うまれび（名）　生日、誕辰、たんじやうび
うまつなぎ（名）　馬繋、抑、うまをつなぐはしら、うまかせ、うまをも
うまづら（名）　馬面、ながをかは
うまつき（名）　驛、宿、しゆくば（馬をつかふる宿驛）
うまのぶり（名）　馬腰（馬上にて居睡りする事）
うまう（名）　羽毛、はね（鳥の）
うまのしたおけ（名）　餞、餞別（旅行する人を見送る事又物を贈る事）
うまのり（名）　馬乘、騎士、騎兵、うまにのれる もの、＝調馬師、うまつかひ
うまのたちうち（名）　馬尾鞭（馬の尾に懸せる鞭）

うまのつめ　馬爪（「つゝし」の枕詞）
うまのつら　馬谷、鐙、うまのはきもの
うまのり　駒、駒、こま（動物）
うまのす　馬尾、うまのをのけ
うまのすすかけ（名）　馬忠鉢、うまのすすをさ（植物）
うまのすすぐさ（名）　馬忠鉢、うまのすすかけ、ゑはさうはな（植物）
うまぐま（名）　馬把、馬鍬、馬櫛、方把、まくは、まんぐわ（馬にひかせて田をかきたがくす具）
うまぐつ（名）　馬沓、鐵馬甲、鐵蹄、かなぐつ
うまぐし（名）　馬櫛、馬櫛、うまをゝしけづるくし
うまくすし（名）　馬醫、張里、はゝらゝ
うまや（名）　厩、馬坊、うまかふいく
うまやだし　厩橋（武藏國隅田川に架する橋にして東京市六大橋の一なり）
うまやみち（名）　驛路（國の内の大道を謂ふ）
うまやせき　厩嶋（御前崎の一名、遠江國榛原郡の海中に突出したる嶋）
うまあとり（名）　馬廻（大將若王等の左右を守る人）
うまげぶり（名）　馬廻（馬の脱たてる嶋）
うまぶね（名）　馬槽（馬の食物をいれる桶）
うまふる吉（名）　牛蛙、こはう（動物）

うまふせぎ（名）　行馬、柵、柵（五五六尺の杙柵に鐵釘を附して敵を防ぎ騎馬隊を防ぐに用ふる者）
（圖の馬行）
うまびより（名）　宇佐郡（伊豫國の郡の名）
うまこりの（名）　美濃之（「ゐや」の枕詞）
うまごやし（名）　苜蓿、うまをやしなふによろし、ゝ～ゝのな（植物）
うまあぶ（名）　虻、牛馬を噛刺す虫、馬蝿、うまはひ（動物）
うまあきんど（名）　博奕、伯勞（ばゝうう）
うまがえり（名）　蹄跡、（馬の足跡の窪を嶋）＝また傾瀦（其中に溜れる水）
うまさけ　美酒（「三輪」「みもろの山」「をかの市」等の枕詞）
うまさけを　美酒乎（「かんなび山」の枕詞）
うまし（名）　傳馬宿場の馬を駆ける者、促獣
うまる吉（名）　牧、うまかひば、まき
うまる吉（形）　甘、旨、美（味）、臣（味）、甘美、至旨、あまはひよ、ゝ～ちにかなふ
うまる吉（名）　馬衣、馬被、ばゝね（馬に被する衣）
うまる吉かな　桂香、よもやかな、よもやけのさかな

うまのこ　白酒、濁酒、よもやけ
うまのゆみ（名）　騎射（馬上にて弓射る事）
うまみ（名）　滋味、旨味、うまをあぢはひ
うまみちまち　馬道町（東京市淺草區淺草の町名）
うまみつた（名）　蠶豆、蠶、おにかつば（植物）
うまこしたる（名）　馬鍬、曲馬、うまのりけし
うまこしる（名）　馬鍬、干拔（鍬地に用ふる大棒の記號）
うまこしの　味物（「あぢたはな」の枕詞）
うまこしの　旨物（「立ちてつゝ～」鍬をりつけて等の枕詞）
うまひ（名）　烏麻、あまのとゝ～
うまひと（名）　貴人、たふとびひと、あてびと、紳士
うまひる（名）　馬蜂、馬蜂、馬蜂（動物）
うまひとり（名）　普花倍、こゝうう
うまゼり（名）　馬芹、野茴香、馬蘭、のうあきやう（植物）
うまぜがえ　馬瀬川（飛騨國に在る川の名）
うまゼやま　馬背山（鎌倉陸に路る山）
うまゼみ（名）　蚌、蛤、馬蜩、蟬（動物）
うまず（名）　石姫女、うまずめ、こゝうまはもんな
うまずきのゆ　馬杉温泉（安房國の有名の温泉）
うまずめ（名）　不產女、石姫、石女（子をもたる女を云ふ）

た酷兒（酒の）

うけく（名）受れい、うけこと

うけぐち（名）飯歌、やなれぐち、ふるくち（食業に出う）

うけぐ（自）誓約、ちかふ（神をもして誓ふを云ふ）

うけぐるま（名）綱輪車（綱輪を附て引綱をする車）

うけぐるまよ（名）烏頭魚、すみやきたひ（動物）

うけぶみ（名）請文、うけがき、うけしよ

うけこたく（名）應答、應答、ものこたく

うけこむ（他）受込、のみこむ、ひきうける

うけあふ（他）受合、保證、たしかとひきかす、＝うけにんになる

うけあひ（名）請合、保證、うけあふこと

うけあひにん（名）受合人、保證人、うけあふひと

うけさく（俗）（名）借作、小作（こさく）、かりつくり

うけ（名）羽蔽、はやふれなみ、飛蔽、しうきなれ、しうきのふれなみ

うけみ（名）受身、うけかたのみがまく、＝うけかた

うけしよ（名）請書、うけがき、うけふみ

うけとやう（名）請狀、うけがき、ひきうけとやうもん

（請）、包辦

うけおひにん（名）請負人、包辦人、立約人、ひきうけにん

うけおひしごと　請負仕事、包辦工、ひきうけしごと

うけがふ（他）肯、許、うけひく、がくんする

うけがき（名）受書、承書（承諾の由又は受領の證を書きたる書）

うけだち（名）受太刀、まけぶち、まけかかれたちつかひ

うけたまはる（他）承、うける、きく、＝拳、うけたまつる、＝謹聽、つつしみてきく

うけたす（俗）（他）購出、收贖、あがなひたす（質物・娘などを）、＝かひもどす

うけつ（名）閏月（太陰曆五月の異名）

うけつくりし（名）請造石（庭に置て造る石にて全庭の勢を受けもつるの意に取りて名く）

うけつけ（名）受付（官廳にて人民の用事願筆を聞きて受取る處）

うけな　浮穴（氏）

うけなぐり　浮穴郡（伊豫國の郡の名、上下にわかる）

うけうり（名）受賣、接賣（員受來りて復賣る書）

うけうりにん（名）受賣者、うけうりする者、＝ま

うけひ（名）誓約、ちかひ、ちかひごと

うけひがり（名）誓狩（誓約して狩して吉凶を占ふ事）

うけひく（他）承引、承諾、領諾、甘諾、應諾、うけがふ、ひきうける

うけもどす（他）購回、收贖、かひもどす、＝あがなひたす

うけもち（名）受持、擔任、擔當、ひきうけ、＝つきもち

うけもちば（名）受持場、つきもち、擔任場

うけもちのかみ　保食神、宇賀神（五穀の神をいふ）

うけん（形）有限、かぎりある（無限に對す）

うけん（形）有閑、ものうからぬ、しるしある

うけん（名）非絹、いろにしき（雜色の絹）

うけんぐり（名）非細絲（白地に暈形のある絹の糸）

うす（形）薄、まはりはき、やくにたたぬ

うす（名）右府（右大臣の稱）

うぶ（形）生眞、うまれつきのままなる、うまれつきの、き、生、天性

うぶえ（名）脇戸（鈞州等の方言）、かにはは

うぶかた　生方（氏）

うぶがみ（名）胞髮、うぶけ（生兒の胞毛）

うぶがみ（名）產神、うぶすなかみ、ちんとゆが

うぶすな（名）產土（生れたる土地を指て云ふ又「うぶすなかみ」に同じ）

うぶすなかみ（名）產土神、そこうのちんとゆか

うぶやぬ（名）湯殿、うつかひやぬ

うぶや（名）產舍、產室、こそうむしく、さんする くや

うぶやんなが（名）產淺（子の產れたる頃）、うまれたのいはひ

うぶけ（名）產毛、胞毛、幼毛、うまれこのかみのけ

うぶこ（名）產兒（產兒の生れて泣く兒）

うぶぎ（名）產衣、始衣、生衣、胞衣、產褥、うまれこのきもの

うぶぎぬ（名）產衣（「うぶぎ」に同じ）

うぶゆ（名）產湯、洗兒湯、初生湯（生れ子を洗ふ湯）

うぶめ（名）孕婦、はらみをんな、かもちをんな

うぶめ（名）產婦妖（孕婦の妖怪）、はらみをんなのばけもの（次を見よ）

うぶめどり（名）姑獲鳥、乳母鳥、夜行遊女、隱飛鬼鳥（產婦が化したりといふ惡鳥にして夜中飛て妖を爲す、若し小兒の衣を夜分外に乾しあるに過くは之に血をうつして去る、然る時は其子病となる事傳ふ、蓋し妄想のみ）

うぶすな（名）產土（生れたる土地を指て云ふ又「うぶすなかみ」に同じ）

うぶすなかみ（名）產土神、そこうのちんとゆ

うぶんぼく（名）烏文木（黑檀に同じ）（植物）

うい（名）雨日、あまび、ゆた（雷打）

うい（名）雨虫、あまむし（動物）

うご　羽後（出羽國の國名）

うご　雨後、あまあがり、あめのち

うごかす（他）動、ところをかへる、ゆすぶる、うつす、＝かんする（感）

うこつけい（名）烏骨鷄、はねのくろきにはまり（動物）

うごかれる（自）集、あつまる、よる

うごかす（自）針（集合して可を分つを云ふ）

うごく（自）搖、動、揺、うつる、ところをかへる

うこぎ（名）五加木、文藏草、木骨、八角茶（植物）

うごめく（自）蠕（虫の動くをいふ）、蠕動、蠕蠕、蠕動、むこむこする、むこむこ

うごめく（自）蠢（陶器の不中を云ふ）

うごめく（自）蠕（土の高く起るを云ふ）、蠕起、土起、ふくれあがる、＝又ところどころうたかんなる

うこん（名）鬱金、鬱金、かをりきのこ、金骨、鬱（植物）

うこん（うこん）（名）鬱金（色）（金骨色をいふ）

うこんかう（名）鬱金香（「うこんかう」に同じ、乳下に圓あり）（植物）

うこんぞめ（名形）鬱金染（金骨色に染たる事）

うそ鳥（名）鷸（「うそがいつち」に同じ）（動物）
うそ鳥あな（名）鬼宿、うそがのすみあな
うそ鳥あみ（名）鬼網、鬼宿、うそがとるあみ、鳥網
うそ鳥つる（名）鵠弦、ひかくのゆみつる（鵠狩の弓絃）
うそみ　宇佐美（氏）
うそん（名）雨傘、あまがさ
うそん（名）烏帽、えぼし、たいらえぼし
うそん（ふる）（自）烏帽かうすのごとくなる
うそんらし（俗）（形）胡乱敗、あやしい、あやしむべき
うそ（名）烏喫、くさのな（植物）
うそ（名）浮子、浮標、うくもの（水の上に浮かする具）、うけ
うそ（名）烏瓜、栝夫、ところこ
うそ（名）沼、ぬま
うそ（名）盃、さかづき
うそ（名）羽蟻、はあり、はねあるあり（動物）
うそいし（名）浮石、かるいし
うそえ（名）鼈、齧、齧、うそたるは（蔵を物を食ひて浮きたる歯）
うそえん（名）浮橋、船、浮梁、ふなはし
うそぼり（名）隠起彫、うそあげぼり、たかあげぼり、たかーはること

うそ（名）浮嘘、うそぶくこと
うそ（名）浮嘘、浮、水漏、漏、浮制、また、白鼠、四鼠、田字草（共に水面に浮む水草なれども前者と後者は別なり後者は其葉田字の如にして白き花さく）
うそぐも（名）浮雲（空に浮びたなびく雲）
うそやから（名）荆三稜、黒三稜、みくり（植物）
うそやう（名）右京（京都の區分の名又之を管理せる官人、向矢衣の語を見よ）
うそやうのたいふ（名）右京大夫（右京の官名）
うそやうまち　右京町（東京市四谷區の町名）
うそやうしき（名）右京職（左京職と共に京都を管轄したる職を謂ふ支那の京兆又馮翊は此兩職にあたる）、みやこのつかさ
うそやん（名）雨脚、あまあし、あまあし（雨の降り來る形を脚にたとへて云ふ）
うそふ（名）浮萍（華子の名）
うそふくう（名）浮肥（魚の腹内に在る風袋）、氣胞、風胞、はらみふくろ
うそぶくう（名）浮霧（水中を泳ぐ時に泡を爲に帶る空氣袋）
うそぶし　寝事、うれたそこ、かなしそこ
うそあがる（自）浮上、浮揚、うかみあがる、うかむ
うそあな　浮穴（安徳天皇の都したまひし地にて

うそ（名）糊金粉、うこんのこな
うこんえのちうじやう（名）右近衛中將（往古の武官）
うこんえのたいしやう（名）右近衛大將（往古武官の極官）
うぢ（名）腕、たなむき、かひな
うぢ四郎（名）腕甲、釧、くしろ、うでわ、ひぢのたまき
うぢる（自）腐、ゆれる、あまる（無肉の腐れたるをいふ）
うぢる（他）搗、放藥、すてる（古語）
うぢる（他）湯煮、ゆにてにる
うぢやし（名）相叉、たがくし、鞠腕、うでのたしくらべ
うぢかけす（名）腕手綱、ひぢかけいす、袈裟
うぢたち（名）腕立、侠隠、侠侯、遊侯、うでこそ、きさこぶわれ、任侯
うぢだめし（名）腕試、ちからだめし
うぢつよ（名）腕強、腕力、ちからつよ
うぢつよし（名）腕達、うでぶくろ（手袋の如く腕を覆ふ具、専に目利安にて製す）
うぢつよ（俗）（名）腕嬢、うでくらべ、ちからくらべ
うつぶは（名）孚、花托（花の附ける部分）、かかえ
うつぶは（名）蔡（屋根なき建物）

うぢなし（名）腕組、てをこまぬくこと、てをくむこと、叉手
うぢぬき（名）腕貫、てくび、うでのたま
うぢまくり（名）捲腕、揚袖、捲袖、捲腕、うでまくりはすること
うぢよう（俗）（名）遊侯、侠侯、任侯、きさこだて
うてん（名）雨天、あまふり、あまふりがち
うそ（名）窓、窓、うれひ、ふさぎ
うで　宇佐（氏また地名）
うでいら（名）烏附、そいかち、皂角子、皂莢（植物）
うでいら（形）有罪、つみある
うでいらかい（名）烏附角、そいのつの（藥用に供す）
うでいらが宣（名）有時飯、守餓鬼、しゐんぼう、つきしいひ、かねたま
うでいらぶん（名）烏附田（ねりやくの名）
うでえらし（名）散髪、遊髪、滑髪、遊髪、きさんと
うでうかうで　有候無候、かたちあるかたちなき（有形無形の萬物をいふ）
うでのみや　宇佐宮（豐前國宇佐郡に在り度幡八幡をいふ）
うでまち　宇佐町（豐前國宇佐郡の町名）
うでうぐり　宇佐郡（豐前國の郡の名）
うでぎ（名）鬼（屋を明月砂と云ふ）（動物）
うでぎつあ（名）蟹、蟹虎、うは（動物）

うきたつ（自）浮立、うきたつする、またのしくなる
うきたのうえんでし　宇喜田六花士（花房志摩、花水主殿、花田橋兵衛、花岡伸兵衛、花津與左衛門、花村三右衛門）
うきたのもり　浮田森（山城國の地名）
うきね（名）浮根、うきたるね（水中に）
うきぬは（名）浮蹠（鳥の如く水上に浮みて蹠る事）
うきぬはもり　浮蹠鳥、うきねうるもり
うきぬはのはら　浮蹠原（近江の地名）
うきな（名）浮名、酸名、あしきな（多くは色事に關はる）
うきな（名）蕪菁、かぶな、かぶら（植物）
うきな（名）恋、詩（植物）
うきむしや（俗）（名）遊武者、遊兵、遊軍、ひかつはもの（戰爭に加はらずして故に備ふる兵）
うきう（名）烏韭、いはたけ、ほうしのな、えんさんこけ（植物）
うきうぼん（名）烏臼木、なんきんはぜ、たうはぜ、蘇臼（植物）
うきうえ（名）雨久花、かつあふひ（植物）
うきうき（副）浮浮、うきたつ貌、いきはひよく
うきえ（名）淡霞（俳諧語にて淡霞を然か呼ぶ）

うきり　有期流刑（年數に限りの有る島流）
うきわたり（名）蔡、とゆんさい（植物）
うきおもひ　憂思、うれひ、かなしきたもひ
うきう（名）浮嘘、うきぶくうのたもひ（水に溺れ或は船に乘にまとふ輩）
うきかぶ（名）浮株、歳祭（僧道に係る株祭を云ふ）
うきよ（名）浮世、人世、世界、このよのなか、しやば（俗に當時の世格風俗などを然か云ふ、浮世絵、浮世風呂の如し）
うきよえ（名）浮絵、浮繪、いきかしら、たうのいも（植物）
うきよく（形）紆曲、まがる、くねる、まはりどほき
うきよぞうし（名）浮世草子（德川時代に成りし小説にして浮世の事を書ける者の總名、八文字屋自笑の製作の如きを謂ふ）
うきよし（名）浮世師（浮客または浮客通客などをいふ）
うきよぶし（名）浮世節（風俗節の類にして時の世間人情等を歌ける新節をいふ）
うきた　宇喜田、浮田（氏）
うきた（名）丁度煎（西京の方言）、ぬたか（動物）
うきたる（形）浮、浮、軽、たしかならぬ
うきたかし（名）浮貫（吉し船前を然か稱へたり）

うきあ　浮穴（安徳天皇の都したまひし地にて

大和國に在り）

うきあなごほり　浮大郡（伊豫國の郡の名）

うきあげぼり（名）　隆起彫、陽浮工、隆起工（表面より少しく高めて彫りあげたる細工）

うきあげもの（名）　浮出細工、凸彫（高く起きあがれる細工）

うきいを（名）　浮魚、鯛亜魚、まんぼう（魚の名）（動物）

うきぎ（名）　浮木、樣（水中に浮べる木）、筏

うきぎぶし（名）　浮書、うかれぶし、あうびぶし、けいせい

うきゆひ（名）　杯授（杯を返かはして酒を飲ふ事）

うきめ（名）　憂目、かなしきめ、＝からきめ

うきみ（名）　憂身、つらきみ、ものたまひあるみ

うきみなやつす　委憂身、はねをる、みをいれる、＝はまりこむ

うきしづみ　浮沈、うくこしづむこと、＝さかえたをろく、美天幸、繁榮

うきしま　浮島（浮島沼また浮島が原と云ふ、陸河國富士郡富士山の南にある沼また原、又陸奥國の小島にて世に和歌に名高し）

うきしま　浮島（海潮等に浮たる小島）

うきしまのやま　浮島山（伊豫國の山）

うきもん（名）　浮紋、（うきおりの模樣を云ふ）

うきす（名）　浮洲、すなす（砂洲）、すなのたかーあつまれるところ（川口に）

うきす（名）　丁度、あたかうものな（動物）

うきす（名）　浮巣（水の上に「にほどり」が作る浮きたる巣）

うきん（名）　烏金（赤銅に同じ）

うきん（名）　烏銀、ふすべがね、くろーせるしろかね

うきんかう（名）　紫定香、紅蘭花、紫流香（「うきんかう」を見よ）（植物）

うめ或はめ（名）　梅、樣、花魁、はなのあに（植物）

うめえら　梅原（氏）

うめぼし（名）　梅干、霜梅、白梅、吹梅、はしたうめ、＝又つけうめ（鹽と紫蘇にて漬たる梅）

うめぢゆ（名）　埋樋、いけたるぢゆ（地中に）、うづかび

うめち（名）　埋地、うめたところ

うめちや（名）　梅茶（今は是を「まーまーちゃ」と呼ぶ）

うめる（他）（他）　埋、うづめる、埋、埋、ふさぐ

うめる（他）（他）　漂入、うづまたす（泥に水を）

うめがか　梅香、うめのかをり、＝又食品の名

うめがえ　梅枝、うめのえだ

うめがえでんがく（名）　梅枝田夫（「きえかうるめ」を上等の酒と醤油にて煮付け山椒をかけたる食物にて梅に非らず）

うめがけ（名）　梅酒、梅花酒（梅の花をいれたる酒）

うめき（名）　埋木（穴等を塞ぐ木片）

うめぢ　埋渋、したひ、暗渠、うづみぢ、いらけみぞ（地中にいらけて汚水などを流す溝）

うめづき　梅月（太陰暦二月の異名）

うめびしほ（名）　梅漬醢醢（大なる肉魚を梅干の種子を去りて砂糖に漬けて作れる食物）

うめもどき（名）　梅蘿、落霜紅（梅の如くにして小さき果を結ぶ木）（植物）

うめず（名）　梅酢、梅醋、梅酒、梅汁、つけうめしる

うみ（名）　海、洋、大洋、沿海、海濱、うなばら

うみ（名）　膿、はれもののしる

うみいそ（名）　海濱、海濱、うみのいは、かーれいは

うみぐた（名）　海邊、うみのはまり、うみべ

うみだつ（名）　海坊主、鮫人、鮫客、水人、海客、和尚魚（海に居るといふ怪の動物の名）、人魚

うみほほづき（名）　海酸漿、海漿（「あかにし」の卵なり）

うみべ（名）　海邊、うみはた、うみのはまり

うみくわま（名）　海綿瓜、海綿、海綿（海中の生物の体を覆ふ綿の如き者）、スポンジ、うみわた、かばらや

うみた（名）　海畔、うみはた

うみべの（形）　沿海、うみにちかくる、うみのほとりの

うみがり（名）　海路、うみのみち、ふなぢ、航海

うみなり（名）　紡錘、うみたるあや

うみおとす（他）　分娩、うむ（子を）、産、生

うみねこ（名）　海鵜、ねこ（北海道十勝に産する海鵜）（動物）

うみなぢす　知恩院（「なからの宮」「ながとの浦」等の枕詞）

うみつた（名）　海綿、うみくちま、スポンジ、海綿（海中の生物の外衣なり、取り乾かして水氣を吸取るする用に供し、又湯浴にも使用す）、石勃、かばらや

うみがに（名）　海蟹、あしがに（動物）

うみがつき（名）　産月、うみなきり、りんけつ

うみがや（名）　石帆、うみひば（動物）

うみがらす（名）　海鵜、うみがらす、ねこ（動物）

うみがめ（名）　海龜、蹠、近海に住める魚にて正銳坊に似て全く異なり其大なる者は三尺四五寸に至る）

（圖の龜海）

うみがら（名）　冠殼、みづきりのな（動物）

うみがらす（名）　海鵜、みづきりのな（動物）

うみかぜ（名）　海風、うみのかぜ、うみをふーかぜ

うみよけづつみ（名）　海堤、うみよけつつみ、海岸堤防

うみたけ（名）　竹蟹（貝の名）（動物）

うみだす（他）（他）　産出、うむ（子を）、はらよりいだす

うみつぶ（名）　海蜷、たこのまーら（動物）

うみつば（名）　海蜷（「うみつぶ」に同じ）

うみつかれる（自）　倦疲、よわりはてる

うみづら（名）　海面、うみのかたまて

うみつける（他）　生附、ひりつける（卵等を）

うみつき（名）　開胎、産月、臨月、生月、うまれるつき（子の）

うみつめ　異海道、きうかいだう

うみなほき（名）　海鼠、あなご（動物）

うみうま（名）　海馬（動物）

うみのえ　生母、實母、まことのはは

うみのちち　實父、實父、まことのちち

うみのおや　生親、實親、まことのおや

うみのおとな（名）　海老、えび（動物）

うみくさ（名）　海草（海中に生ずるひじき、のり、あらめ等の總名）

うみやなぎ（名）　海柳、海王餘氣（植物）

ゆく

うしろうめ（名）後詰、こつめ、かせい

うしろむき（形）背面、後面、後向、背向（背をむける事）

うしろめたき（形）後暗、有陰、こころにうしろめたき（罪惡を行ひし者が）＝又のちしらは（未來を知り得ぬを謂ふ）

うしろべび（名）後頭（頭の背面）

うしろやすく（副）後安、きがかりなく、しんぱいなく、やすらかに（君を後安く暮さんと思ふ、或は人を後安くすると云ふ）

うしろうしろ（名）後言、しりうごと、かげごと、かげぶしり

うしろで（名）後手（手を背にまはす事）

うしろでしたる　背手縛、反縛、面縛

うしろあはせ（名形）背向、背合、せなかあはせ、せあはせ

うしろあたま（名）後頭（頭の背部）

うしろうし（名）後足、あとあし（馬等の）

うしろゆびさすす　指後指（背後にて人を嘲るをいふ）

うしろめたき（形）彩讃、しんぱいなる、きづかはしき、あんしんならぬ（夜中に少女一人を送ずるが如きを彩讃と云ふ）＝はばかるまこころある（自地にうの事を告るをうしろめたく

長さ三寸の角あり）（動物）

うし（名）牛（角ある家畜にして能く車を引く、其肉は食ふべく滋養分多し）＝犢（一歳を）、犢（二歳を）、稍（三歳を）、初（四歳を）、物（五歳を）、牝（六歳を云ふ）＝犢牛（形小にして農家に畜ふもの）＝水牛、南牛（くろまうし（力強くして能く重を載す）（動物）

うし（名）丑（十二支の一）

うし（名）臼、つつかいぼう、きさく（傾ける家等をきさくふる水）＝又つつか、かつとも

うし（名）雨師、あめのかみ

うし（名）雨師、樺柳、しだりやなぎ（植物）

うし（名）雨絲、こさめ、きりさめ

［うし］（名）羽子、こきのこ、はね、はご

うし（名）羽翅、つばさ、はがひ（鳥の）

うし（名）烏梅、あまはし、はしがき

うし（名）大人（師父などを尊びていふ詞）、家翁

うし（名）羽士（仙人または道教の師をいふ）

うし（名）蚓、はうのこ、蟲蚓、蜿（動物）

うしろ（名）後、背、者、後背、あと、あとべ＝せなか

うしろぐた（名）後方、あとのはう、うしろのかた

うしろがつき（形）後暗、こころやすく、きがうき

うしろかけ（名）後彩、うしろすがた、うしろ

うしろだて（名）後所、後援、しりだて、あとだて

うしろみ（名）後見（こうけん）＝阿衡（「あかう」を見よ）

うしろすがた　後姿、背姿、あとすがた、うしろよりみるかたち

うしたてら（名）牛倉（牛を管理する者）、牛番、牛舎

うしたち（名）蹄、鹿、（牛を刺す、鹿）（動物）

うしぢ（名）潮、潮海水、うみのそこしほ、あさしほ＝汐、ゆふしほ、こしほ

うしぢし（名）潮煮（水に塩をいれて煮たる者）

うしぢつき（名）粗漆（山城の方言）、しぬはつき（植物）

うしぢけふり（名）潮煙、うしほのさびちるもの

うしでや（名）牛室、牛棚、牛屋、うしごや、うしのをり

うしとら（名）丑寅、艮（東北の間）、東北維

うしとらかぜ（名）東北風、艮風

うしぬすびと（名）盜牛者、牛賊、うしを盜むひと

うしぬすびと（名）社父魚、しんとし、かへつ、伏念魚（動物）

うしおん　牛尾（氏）

うしかた（名）牛飼、牧童、牧人、うしかふひと

うしかたや（名）牧牛場、うしをやしなふところ

うしかひうら（名）牧牛見、牧童、うしをおふわらべ

うしかひふえ（名）牧笛、草笛、うしかひのふへふえ

うしよ（名）羽蟲、いろこむし、飛蟲

うしよう（名）芋苧、いもがら（植物）

うしよく（名）芋蝕、いもむし、烏蝕（動物）

うしたけ（名）牛蒡（牛の交接するをいふ）

うしたれ（名）水爛樹（土佐の方言）、いぼた（植物）

うしつく（自）嘯、つつや、ものも

うしつまり　宇田津町（能登國鹿苑郡の町名）

うしつき（名）牛飼（「うしかひ」を參看せよ）

うしな（名）蹄、ひづめ（動物）

うしなふ（他）失、遺失、喪失、亡失、失却、なくす

うしらん（名）烏蘭、跡引紙、けしづみ

うしかし（名）砂蝨子、すなくひむし、ありすなく（動物）

うしう　羽州（羽前と羽後を謂ふ）

うまう（名）牛馬（薩摩種子島に産する馬の名）（動物）＝又うしと及うま

うしうする（俗）（自）遊惰、ぶらぶらする

うしのたなつる或うしのたなつし（名）牛貫、うしのはなぐ

うしのたやま　牛乳、牛酪、うしのしたちち

うしのたやま　牛尾山（山城國宇治郡に在る山、音羽山とも稱す、近江に跨る）

うしのし　蚓、こうし（動物）

うしのしたた（名）芋蔕、しのね、ずいこ、牛蒡、牛舌菜、敗醤菜（植物）

うしのひたひ（名）石龍芻、りうがひげ、たつのひげ、蹈雪草、龍鬚草（植物）

うしづえ（名）犂（牛に牽かする農具）

うしづぼ　牛筬（氏）

うしづぬま　牛久沼（常陸國河内郡に在る沼、鮎子口に入る）

うしや（名）坊者、左官、泥工、かべぬり

うしや（名）羽紗、こうふ、りん

うしや（名）牛肉店、うしりりや

うしや（名）烏蛇、かうすくび（動物）

うしやう（名）烏程、釣樟、くろもじ（植物）

うしやう（名）右相（右大臣をいふ）、右府

うしやう（名）羽觴、さかづき

うしやう（名）賢臣、うつかひ、うかひ

うしやう（形名）有情、いのちある＝こころのあるもの（人畜の類をいふ）

うしやうふ（名）右相府、右大臣、うたいしん

うしやうつこ（名）右相國（「うしやうふ」に同じ）

うしやうげう（名）烏喉、かやのはし

うしやぬし（名）　信宿（二十八宿の一にて西方に位す、信（さ）を見よ）
うしやのみなと　牛窓港（備前國の港名）
うしやまつり（名）　獅子（はじり（動物）
うしやかみなと　牛深港（肥後國天草郡下島の南端に在り）
うしやうし（名）　屠牛兒、うしをほふるものの、ほふりて（屠者の）
うしやや（名）　牛櫛、うしくしや
うしやめ　牛込區（東京十五區の一）
うしやめまちまち　牛込北町（東京市牛込區の町）
うしやき（名）　牛裂（罪人を二頭の牛にて裂く刑）
うしやきだま（名）　月華花、ちやうしゆんくわ（植物）
うしゆ（名）　烏珠、くろまなこ、くろめ
うしゆきつ（名）　雪洲樹、雪州櫛、たねなしみかん（植物）
うしみつ（名）　丑三（夜分の深更の時、すなはち丑の時をいふ）
うしやり（名）　石龍芮（植物）
うしん（形）　有心、こころのある、＝有意
うず（名）　飢、餓、餓、饑饉、はうす、ひもじ、かつえ
うずうさう（名）　植殖、種植（牛蒡等を以てつけたる植物）
うずう（他）　植、殖、蒔、種、植、栽、栽（地に植等をしらけうを謂ひ、又人なを地等に人民を移すをいふ）
うずうる（自）　飢、ひもじくなる
うずかくる（他）　植替、うゑなほす、うゑごころをかくる
うずた　植田（氏）
うずむら　植村（氏）
うずまつ　植松（氏）
うずこみ（名）　植込（庭などに樹木を多く植たる處）
うずき（名）　植木、うゑたるき、には、つぼ（庭園の樹木等に鉢等に植たる者）＝また（氏）
うずきだい（名）　植木鉢、井盆、盆（草木を植る鉢）
うずきごや（名）　背房（草木を栽培する室）
うずきや（名）　植木屋、花屋、花戸、園丁、はつ〜り、はなつ〜り
うずきまち　植木町（肥後國山本郡の町名）
うずめ（名）　植女、たうゑをんな
うずじ（名）　活字、植字（活版の字）
うずじに（名）　餓死、飢死、うゑてしぬること
うずじかた　植字職、〜わつはんしよくにん
うずびと（名）　餓人（うゑたる人）
うずもの（名）　植物（草木をいふ）
うずもんのかみ（名）　右衛門督（古くの官名、唐の金吾將軍に當る）
うずもんのすけ（名）　右衛門佐（古くの官名、唐の金吾衛に當る）
うずもんふ　右衛門府（天子の宮の門を守れる者）
うすん（形）　淳、まはりをはぎ、＝うすくあつ
うすんぞ　烏蘇鼠（字書が傳寫の時に誤りゆくを云ふにて蝙蝠家の類と同じ）
うひ（形）　初、はじめての、はじめの
うひかぐのみこと　泥土煮尊（天神七代の第四の賜神「すひぢにのみこと」に對す）
うひかん　初冠（少年の士が初て服飾に出る事）
うひかむり（名）　初冠（元服を云ふ）
うひかうぶり（名）　初冠（「うひかむり」に同じ）
うひこ（名）　始祖、初祖、元祖、しはじめて、はじめしひと
うひこんがう（名）　右弱金剛、那羅延金剛（二王門の右の偶像）
うひうひし（形）　初初敏、稚稚、みうひしき、わかやか、＝ものなれぬ
うひやうゑのかみ（名）　右兵衛督（古くの武官の名）
うひやうゑのふ　右兵衛府（天子の宮殿の守護兵の府）
うひやうゑのすけ（名）　右兵衛佐（古くの武官の名）
うひまご（名）　初孫、はつまご、はじめてかるまご
うひご（名）　首生兒、嚆子（初産の子を云ふ）、初子、首子、はつこ
うひこゑ（名）　初聲、うまれこゑ（生れて初めて發する聲）
うひし（形）　初敏、うひうひし
うひや（名）　芋、いも、ずいもの
うもれいた（形）　憂鬱、こころのふさぼれる
うもれる（自）　埋、うづまれる、うづまる
うもれき（名）　埋木（永く土中若しくは川底等に埋まれおて其色黑くなり、其質石の如くなりたる古時代の埋木をいふ、鴨前仙洲の埋木天下に名高し）
うもれきさいく　埋木細工、うもれきのつくりもの
うもれみづ（名）　埋水（地中等見えぬ處を流るる水）
うやこ　羽茂郡（佐渡國の郡の名）
うやい（名）　烏賊、〜うのたま、〜うのこ、烏珠
うせる（自）　失、亡、なくなる、紛失、失敗
うせる（他）　亡（棺桶がはなうちを以て物をまうはすを云ふ）
うせたか（名）　失鷹、なくなりしかた、＝相失鷹、うしんたか
うせつ（形）　疎拙、つたなき、うくわつなる
うせつげん（名）　右少辨（官名、「げん」を見よ）
うせうゑ（名）　死人、しにうせし人、＝亡人、にげうせし人
うせうし（名）　右少史（官名、唐の倍祿主簿に當る）
うせうじやう（名）　右丞相、右大臣、うだいじん
うせき（名）　烏石、からすいし（硬き石炭）
うせびと（名）　亡者、かけたるひと、脱走人
うせもの（名）　失物、なくなりもの、遺失物
うせん　羽前（東山道の國名）
うせんさう（名）　烏頭草、からすあふぎ（植物）
うす（形）　薄、淡（「うすき」をかよ）、あつからぬ
うす（名）　臼、杵、つきうす、＝碓、いしうす、＝碓、からうす、＝碓、すりうす、磨
うす（自）　失、死、なくなる、ことぶる、うせる
うす（名）　皆蔕（古人が頭にまとしたる花飾の類）
うすう（名）　雨水、あまみづ、あめのみづ、＝また、雨水（大陰曆正月の中を謂ふ、二十四氣の一なり、「にじふしき」を見よ）
うすゐ　臼井、碓井（氏また下總國の地名）
うすゐ（名）　鵜、鵜（「うのゐ」に同じ）
うすゐまち　臼井町（下總國印幡郡の町名）
うすうこ（名）　薄、うすくなる、こと
うすがた（名）　薄刀、薄刀、薄刀、うすきはのはうちやう
うすえ（名）　臼齒、臼齒、たくは、たくのは
うすえかけうう（名）　蛾蝶類（動物）
うすぎた（名）　羅、紗、しや、うすきぬ
うすきなゐう（名）　薄藍（淡色の名）
うすにびり（名）　薄鼠、うすきにびりねず
うすにび（名）　薄鼠、うすきにび（淡色の）
うずら（名）　鶉、鶉、たうまり、わはまり、鶉田鳥、田雞鳥（動物）
うずらに（名）　淡紅、淡紅、うすくつけたるくに
うずらり（名）　白堊、白堊（家雜を云ふ）、にはとり
うずらり（名）　薄紫、淡紫、うすきたたみ、＝單席、ひとくたたみ
うすゐびいろ（名）　薄藍色、うすきかついろ
うすゐや（名）　薄茶、淡茶、うすくたてたるちや（茶の湯の式にて）
うすうらう（自）　微笑、冷笑、すこしわらふ、あざわらふ
うすかた（名）　蒼（鼓の中の白皮、＝鼓、うすきかは（音說中等の）
うすかすみ（名）　淡霞、うすきかすみ
うすだ　臼田（氏）
うすだけ（名）　臼貢（植物）

したるものにて其色白し）蒲團の名物）
うすゆきもんぐい（名）薄雪巾（絹子の名）
うずめ（名）雛田鳥（うすめもり（動物）
うすみどり（名形）淡緑（ものみどりいろ）
うすみの（名）薄美濃（うすきみのがみ）
うすもも　淡桃（うすきしろあんはい）あさは
うすえん（名）薄鉛（薄き紙の名）
うすいがえ　碓氷川（上野國碓氷峠より發す）
うすいたうげ　碓氷峠（上州より信州へ越ゆる三里余の大峠）
うすいく（自）磨抜（磨擦（うすきはす）
うすいこほり　碓氷郡（上野國の郡の名）
うすうの（名）羅（羅布（紗（しゃ）（うすきぬ）
うすうのおり（名）織織匠（うすきぬをおるもの）
うすうめ（名）薄梅（うすきもり（うすがすか）
うすずみ　薄墨（淡墨（うすきすみいろ）
うえ（名）縋（しあはせ（めぐりあはせ）
うえい　吉爲（盲行に同じ）（ことばあこなひ）
うえん（名）証拠（支那の度量の名）
うえんえん（名）雲年（大唐曆十一月の異名）
うえんえん（名）（一する（他）讒謗（はこび（ものはこび（讒言）
うえんえん（名）雲版（ちやうはん（飯盛の時に飯を集る具）
うえんぼ（名）雲母（きらう（鑛物）
うえんぼう（名）雲茅（〜ものかや）
うえんぞんえ　雲遠山（讃岐の豊田郡と伊勢の宇馬郡に跨る山）
うえんぎう（名）（一する（自）運動（うごき（うごき（はこび（うごく（まはる）
うえんぎう　云動（こゑばつかひしなかたち（ものいひしうち）言動）
うえんけい（名）運歩計（日月の運行を計算する器）
うえんえん（名）饅饅（饅粉にて作れる蒸餅の如き食品）
うえんえんとうふ（名）饅饅豆腐（豆腐を水をしぼり葛粉を混ぜよく〜すり美濃紙に平にのばし流槽にとり饅饅の如く細長くきりたる者）
うえんかう　運轉（はかりごとをめぐらす）
うえんかく（する）（他）蘊蓄（うつみたくはふる）
うえんかん（名）運賃（めちはこびちん）
うえんりん（名）蘊淪（そそなか）
〔うえんりんゐん〕雲林院（うんりん（山城國愛宕郡の地名）
うえんおう（名）蘊奥（奥義（おくそこ）
うえんか（名）雲霞（〜ものかすみ）
うえんか（名）運河（はりわり（ものはこぶかは）
うえんか（名）浮塵子（極小の蝗にて常に群をなして居る）（ぬかか（動物）

うえんか（名）芸者（山師（や里者（ゑんぼん（くんろうた（植物）
うえんか（名）芸者（熊胡（あまあかな（植物）
うえんか（名）（一する（自）運行（めぐる（ゆきめぐる（はまる）
うえんかん（名）雲漢（公家四位以下の徒）
うえんが（名）雲漢（たはがら（あまつがら（ものがは（天河（銀河（銀漢
うえんが　雲間（〜ものま（〜ものたにま）
うえんがたけ　雲間九嶽（九つの高き峯ある支那の山の名）
うえんよう（名）（一する（他）運用（とりまはし（はこび（つかひもちゐる（めぐらす）
うえんい（名）雲蘭（芸蘭（たちたつたんな（ものなたねな（植物）
うえんいのにしらえんしやう　雲紫中八嶽（跡瓦（馬成（紫淡（王粲（買復（陳俊（冰寺（社茂（窓布（博俊（岩鉄（壁鐵（盛鬼（王莉（朱裔（任光（樂遊（李忠（呂丹（万術（蓮蓬（邪彤（鍋期（剛祖（吹鍋（國宮（馬武（剥陸を云ふ）
うえんたう（する）（自）転倒（めまひたふれる（たちもちあ）
うえんえん（名）雲鵬（うに（動物）
うえんえん（名）運祥（しあはせ（天運
うえんえう（名）芸爲（まひびのまと（曾愛の恋を謂ふ）
うえんえん（名）雲称（つるのこ（つるのまと）の下を見よ）
うえんらのかた　雲形（陶器の古製の模様などに云ふ）
うえんむ（名）雲霧（〜ものきり）
うえんう　雲雨（〜ものあめ（男女の交りに譬へ言ふ）
うえんうえ　云云（しかとか（これこれ）
うえんの　海野（氏また地名）
うえんけい（名）雲磬（樂器の名）
うえんけい　運慶（南都の仏工にて法橋定朝六世の孫後鳥羽院の朝の人）
うえんげい（名）雲霓（〜ものたち（雲の立のぼる事）
うえんけう（する）（自）蘊蓄（うつまれる）
うえんけうかん（名）雲月窓（硯子の名）
うえんけん（名）雲絹（ものんきんどんす）
うえんけん（名）雲鋼（種種の文理模様ある鋼にて「うげん」に同じ）
うえんけんぐり（名）雲鋼縞（白地に雲形のある壁の縞）
うえんふ（名）雲布（いとより（織物の名）
うえんぶ（俗）運命（しあはせ（しあはせ（宿命
うえんこ（俗）（名）雲（〜う（小兒の語）
うえんこん（名）雲根（石の異名）
うえんい（名）雲梯（〜ものかけはし（攻城に用ふ

る砌子にて巻俵これを造り初めしとぞ）

うんぴら　雲泥（～もひと（其相違ふの大なるを謂ふ）

うんぴんうにん（名）　紅調粥（往日の正月十五日の赤豆粥を云ふ）

うんぴんえん（名）、―する（自）　運轉、めぐること、まはること、まはる、めぐる

うんぴんかう　運天港（琉球國沖縄島の港）

うんぶさい（名）　雲錦（太き木綿絲にて厚く織たる者にて足袋の裏などに用ふ）

うんぶさう（名）、―する（他）　運搬、はこぶこと、はこぶ

うんぶさう（名）　運奬（文部を謂ふ）

うんぶん（名）　運運、うんめい、うん

うんぶん（名）　雲紋、～もんりのありさま（吉凶を考ふる爲に見る所の者）

うんぶん（俗）（名）　温氣、あたたかさ、＝あつさ

うんぶんやく（名）　雲間（琵琶の一名）

うんめい（名）　運命、天命、しあはせ、まはりあはせ

うんめん（名）　雲綿（三種の一なり、桑城國知田郡白石の製造に係る最良の綿の類）

うんもん（名）　雲紋（頭の）

うんも　云母、しからふ、かーらふ（女部の女子の名に用ふ）

うんぷ（俗）（自）　倦、うむ、うみはてる、たしーつする

うんぷがほ　倦顔、うみたるかは、たしーつがほ

うんぷう（名）　雲實、はまさぶけ、とやけつしはふ、かはらふ（植物）

うんぷう　雲州（出雲國を謂ふ）

うんぷうきう（名）　雲州橋、温州橋、たねなしみかん（植物）

うんぷやう　雲壌（雲泥に同じ）

うんぷやう　雲上、～もの、（禁裏を斯～たとく言ふ）

うんぷやう（俗）（名）　運上（幕府時代の語にて例稅金をいふ）

うんぷやうしよ（名）　運上所（稅關を言ふ）

うんぷやく（名）　雲雀、ひばり（動物）

うんぷう（する）（自）　雲集、～もの、ごとーあつまる、たは～あつまる

うんぷゆ（名）、―する（他）　運轉、はこぶこと、もちはこぶ、つみはこぶ（俗に「うんゆ」とよむ）

〔うんえい〕　雲英、きら（氏）

うんえい（名）　雲霙、～もり、かげり

うんえふ（名）　雲葉、ふさ～ら（植物）

うんえき（名）　疫疫、はやりやまひ、やーびやう（虎列拉の如き病を然かいふ）

うんえん（名）　雲煙、～もけふり、＝もや

うんぴつ　運筆、ふでをはこぶこと、ふでづかひ、ふでまはし

うんぷ（名）　雲母、きらら（礦物）

うんめい（名）　運命（運命をいふ）、しあはせ

うんめい（名）　芸生（大學暦十一月の異名）

うんめい（名）　雲母、～もの、うら、たはから、若芽

うんめい（する）（他）　運搬（うんし）、つかたーはふ

うんめん（する）（自）　雲泥、ふちつ、めまひする

うんめんがたけ　温泉嶽（肥前の吉井が嶽）

うんめんごほり　温泉郡（伊豫國の郡の名）

うんもう（名）　雲水（行脚僧侶の位を云ふ）

うんもうあをけ（名）　運水桶、みつはこぶをけ

え

ゑ、慶、野、之　是は「ゑ」の父音と「た」の母音を合して生ずる音にして五十音の中にては第五行第五段に位す

え（後置詞）　之（屬する所運動の由て出る所等を顯はすの前、例へば我の事を言へば我に屬する事の義なるが如し）、的（北兵南兵等）、於（東京）

え（名）　帽、はば、ひろさ（布疋等の）

え（名）　野、柱、のはら、のら、＝郊

え（名）　鏃、箭、やがらたけ、＝箭、やがら（矢の柄）

えい（名）　野井、のはら、のら、＝郊

えいあん（名）　野安、やすら、やすらぎ（地名）

えいあん（名）　野庵、のいほり（地名）

えいあん（名）　野鞍、のくら（地名）

えいあん（名）　野暗、のくら（地名）

えいあん（名）　野闇、のくら（地名）

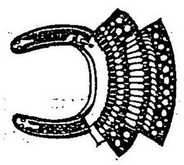
えいあん（名）　野闇、のくら（地名）

えいあん（名）　野闇

のりのたまがは　野路玉川（近江國に在り）
のりのつきて（名）　四月、うるふつき
のりのつきみ　後月宴（祝賀の九月十三日の夜を云ふ）
のりのあした　後朝、つぎのあさ、つぎのあす、＝きはぎは
のりのしのはら　野路原（近江の地名、和歌に名を詠めたへ者）
のりぐい（名）　後惟（こう〜ゐい）、のちに〜ゆること、あとゆやみ
のりまき（名）　後産、あとまき（産後に下る物）
のりもん（名）　後産、あとまき（産後に下る物）
のりせ（名）　後瀬、のちのあふせ、後會、再會
のりせやま　後瀬山（若狭國遠敷郡に在る山）
のりえん（名）　野陣、野營、露次（野原に陣を張る事）
のり（名）　意、範、法、程、規、矩、典、式、術、儀、則、法式、規則、たまて、ものたま
のり（名）　糊、粘、糊、糠、ねばつ〜もの（物をつけあはせる等に用ふ）、＝米糠（着物にひく）
のり（名）　殿血（血の刀に付きたる者）
のり（名）　矩、尺寸（すんしやく）
のり（名）　程、道程、とはず、くたたり
のり（名）　海苔、水苔、海茸、石髮、石衣、水綿、苔、海、藻、うみ〜ぞ（植物）
のり（名）　伸道、はとけのみち

のりぶくろ（名）　喉袋（牛などの頸下の垂肉を云ふ）、切
のりぶえ（名）　四肢、結喉、嚥管、のどのかぶみち、咙
のりしびと（名）　猟師、かりびと
のりのぶ　能登守（能登國の守、「すずのかぶと」を云ふ）
のりのぶち（名）　吭、のどぶえ
のりびこ（名）　咽管喉、のどのひこ、懸雍垂（喉の上部にある茸、松子形の肉）、嚥子喉、喉嚥
のり（名）　末葉、苗裔、子孫、はつうん
のり（名副及後置詞）　後、后、あと、＝うしろ、＝あとにて
のり（名）　野路、のみち、のはらみち
のりいりのをそこ　接脚夫、駅場、にどものいりもの
のりとら（名）　後胎、後産胎、繼母胎、のちうびのはら（繼母の産めるを云ふ）
のりなほし（副）　後程、後刻、のちに、のちかた
のりおひ（名）　後生（後に生れる人）、若年
のりかた（副）　後刻、のちはど、のちに
のりえひ（名）　後裔、にどものつま
のりうれ（名）　後夫、のちのをつま、にどものをつま、＝繼配、後妻、のちのつま
のりのり　後輩（今より後の輩、又年後を云ふ）

のりのくに　能登（北陸道の中の國名）
のみ（名）　咽、喉、のみど、のんど（食物の通りて腹に入る處）
のみち（名）　糸筋（絃中の方言）、うけ
のみに（副）　脚和、のどかに、こころよく
のみぼね（名）　喉骨、のんどのほね、結喉
のみい（形）　野蛮、のよりとりたる（鳥等の）
のみこ（名）　喉輪（兜の具にして喉にあつる物、此の國なるは出雲國日御崎社殿造營朝臣の所物と伝へ云ふ）


（圖の輪喉）

のみか（形）　長閑、脚和、悠然、脚脚、たたやかにこころよく、しづか
のみがはの　能登川之（「のちには逢む」の枕詞）
のみだんご（名）　喉咽子（男の喉に顯はれたる堅き者）
のみやかに（副）　長閑、こころよく、のどかに
のみのだんにく（名）　頸下垂肉（牛などの喉に垂れたる肉）、切
のみのかん（名）　懸雍垂、嚥管（咽喉に垂れたる茸かき雛形の者）、嚥子喉、扣鍵、喉嚥
のみやか（形）　脚和、のどか
のみけ（名）　喉疾、喉蟲、のどのやまひ（病名）

のりいた（名）　糊板、うへひのりいた
のりいれ（名）　糊器、のりをいれるうつは、＝紙の名（「のりいれがみ」を見よ）
のりいれる（他）　乗入、のりこむ（馬を進めて入る也）
のりいれる（他）　乗習、のりならす、しこむ（馬を乗てしこむを謂ふ）
のりいれがみ（名）　糊入紙（白〜き紙の名）、のりいれ
のりいし（名）　乗石（茶庭に据る石、庭潤法に云ふ所）
のりえけ（名）　糊刷毛、のりつけるはけ
のりえ（名）　前詞（詞の前に詞ふる發文）
のりえりば（名）　採藻場（海苔を採取する場）
のりえる（他）　乗取、せめとる（城城等を）
のりおろす（他）　乗下、のり〜だす（馬船等を）
のりかく（名）　乗懸（乗かくる爲めに從がくたる馬船車などを謂ふ）、＝副船、のりかく、＝副車、のりかくるま、＝副馬、乗崎、のりかくうま
のりかくる（他）　乗替、はかのにのる（他の馬船等に乗つる）
のりかかる（他）　乗懸、うくにつきかかる（船車等が物の）
のりかける（自）　乗掛、のりかかる（船等が時雨霰

（霜等に）
のりかぎ（名）　糊貫、うへひのら
のりだす（名）　乗出、のりてしたす（馬船等を）
のりぞめ（名）　乗初、はつのり（馬船等の）
のりつけ（形）　乗附、のりをひきたる（着物に云ふ）
のりつける（自）　乗附、はせつ〜（馬にて）
のりつぎ（名）　乗打、のりてはること（馬に乗て通る事、昔は二本そしたる人師ち十の俗を本民は馬に乗りて通る事を禁ぜられたり、之を乗打ならはと云ふ）
のりつる（自）　乗移（船車馬などに）、＝ふた惣記、よる、つ〜（狐狸天狗等が人にみつるを云ふ）
のりうま（名）　乗馬、騎馬、のるうま
のりのしな（名）　法華（佛壇の名）
のりのつかさ（名）　式部省（官名、庁の吏部に當る、文官の除授考課の事を掌る）、しきぶしやう
のりのふね（名）　法舟（教法の船師ち罪人を救ふ佛の船）
のりのし（名）　法師（佛教の僧徒を云ふ）
のりくら（名）　乗鞍（乗るに用ふる鞍）
のりくらやま　乗鞍山（飛騨の大野郡に在る山にて鞍を乗る者〜）

のりんん（名）　乗組、船員（船中に乗組みをる人人）
のりまとす（他）　乗廻、のりめぐらす（馬を）
のりまき（名）　海苔巻（鮓酒肴などを海苔につつむを云ふ）
のりふう（名）　糊封（糊にて封じたるを謂ふ）
のりごと（名）　詔言、みことのり（天子の）
のりこむ（自）　乗込、はせのりこむ（船に）
のりこえいし（名）　乗越石（茶庭の中潜りの處に設けたる飛石の1）
のりこえる（他）　乗越、のりこす（次を見よ）
のりこす（他）　乗越、のりこえる（馬あるひは車にて人より先をく進み越ゆるを謂ふ）
のりて（名）　乗者、のるもの、＝乗者、のれるもの
のりあし（名）　血脚、血蹤、のりのあと、ちのあと（人を切りたる等の）
のりあひ（形）　乗合、をりにのる（多〜の人が）
のりあひごしや（名）　乗合馬車（衆人の乗るに供ふる馬車）
のりあひふね（名）　乗合船（衆客の同乗する船）
のりぶみ（名）　神記、祝詞、かみがかり、たゝせん（記官）
のりもり（名）（形）　乗切、のりうち、のりきはし
のりゆみ（名）　賭射（昔の正月十人日の公事にして賭して弓射るの事を行ふ者）

のりあんと（名）海部飯（海草海苔を大にてあぶり細末にもみて飯に混ぜたる者）
のりあらす（他）乘遊、のりかくす
のりあり（名）賭物（雙六、將棋、碁等にかける材料）、かけもの
のりあり（名）乘物、駕籠（かご）、＝又輿、くるま
のりあらやう　乘物町（東京市神田區の町）
のりあかき（名）昇夫、轎夫、擔夫、かごかき
のりすてる（他）乘捨、たりてすてて、ゆく（馬車等を）
のる（他）告、つげる、いふ（而に天子神或は貴人の）
のる（他自）吸、吸ものの、しる、＝いひもの
のる（自）乘、うくにまたがる（馬の）、＝はいる（船の中に）、＝騎（馬に）、＝從（車に）、＝登、のぼる
のおとり（名）野盜、のべたゝり、どもらひ
のこ吉（名）暴風、颶風、野風、あらあらし（秋ふく暴き風）
のがる（自）吡、免、逃、にげる、まぬかる
のがれる（自）逃、遁、遁、吡、脫、免、逃、消、免、逃、遁、宥、まぬかれて、にげる、まぬかれる
のがけ（名）野蹴、蹈、野、或、のうびゝ、野遊、ゆさん
のがみ（名）紙、しげきたてがみ、＝紙、たてがみ

のだ（名）野、野面、放牧、はなしがひ（牛馬を野に）
のがひのうま　牧馬、のにはなしがうま
のがひのうし　牧牛、はなしがひのうし
のがす（他）令吡、にがす、のがれゆかする
のがん（名）野雁、鴨、鴨釣（動物）
のだいこう（名）辛節草、紫菜、しのはぐさ（植物）
のだいこん（名）野大根（肥後國に產する大根）（植物）
のたち（名）野立（野に立ちて晒曝する事）、＝又のにたちもること（柿木等）
のたち（名）野刀、野劍、おはたち、＝かりがたな（狩刀）
のたりのたり（俗）（副）紆紆、うねゝりうねゝり（のたる紐）、のたゝりて
のたる（自）匍行、はひまはる
のたれしし（名）倒死、たふれしに、ゆきたふれ
のたつ（自）仲立、斡旋、のたつ
のたら（名）鵜、しこつぐ（植物）
のたうまわる（自）苦悶、上轉八倒、もだえくるしむ
のたのたがわ　野田玉川（陸前國に在る有名の川）
のたくる（自）蛇行、うねゝりあるく、のたる

のぞ（他）除、しりぞく、のぞく
のぞき（名）臨時、臨時（茶の具）
のぞき（名）亦觀鏡、のかきがね（鏡を中に隱刻して外より目鏡にて見やすき種）
のぞらし（名）硯石（清滑石、しやうこやうし、しりこやうし）
のぞきたち（名）視点（点の眼子が外に顯はれ出たる點をいふ）
のぞきめがね（名）亦觀鏡（種種の鏡鏡を以て物を見やすき構造の物）
のぞく（名）布袋、ぬきめ、ぬがひ、このか
のつ　野津（氏）
のつ（名）祝詞、祈禱詞、神事詞、のりと（前前に誦ふる詞）
のつと（俗）（副）兀、にょっこり
のつとり（名）雉、きぎす、きじ（動物）
のつる（自）法、叫、從、ならふ、まねる、したがふ
のつる（他）乘取、乘捕、のりとる、せめとる
のつち（名）野槌、蛸槌、千歲槌（槌槌の知き形せる一種蛸の能類）（動物）
のつかる（俗）（自）乘、のるうくになる
のつら（名）野面、あつかはつら、鐵面皮
のつけに（俗）（副）突然、いきなり
のつけに（副）背向、側樂、あふのけに

のつけだち　能見堂（武州入貫郡六郷郡六郷庄に在り）
のつけうとり　野付郡（根室國の郡の名）
のつ吉（俗）（他）乘切、のりこなる
のつぴき（俗）（名）退引、のきひき、とゝつこと
のばし（名）野猪（山野に住む一種の猪）（動物）
のばすん（名）野馬、野馬、鵰、のらねずみ（動物）

（國の猪野）

のはか　野中、野田、のはらのなか
のはかせ　野長瀬（氏）
のら（名）野、草野、のはら（淺間ののらと歌に見ゆ）、又（俗）田野、はたけ
のらいぬ（名）野犬（飼主なき犬）
のらうり（名）腐（動物）
のらうの吉（名）白蓮（植物）
のらはし（名）野猪（野住の猪）、＝ぬしなきはこ
のらはずみ（名）蝗蟲、こばち（動物）
のらまめ（名）回鶻豆、鶻豆、えんどうまめ（植物）
のらまめ（名）蠶豆（尾州の方言）、うちまめ（植物）
のらだう（名）裏大（越前の方言）、のだう（植物）
のらえ（名）椎茸（植物）

のらのら（俗）（名）海子、だうゝゝもの
のむ（他）飲、のもにいれる（水等を）、＝呑、咽、嚥、まるのみする、＝喫（たばこ煙草を）
のむら（名）咽喉（飲食物をのみくだす道）、のど
のう（名）能（謠樂の名）
のう（名）能、ちから、わざ
のう（名）農、たつゝり、ひやくしやう、農夫、＝また農業
のう（名）膿、うみ（腫物）
のうこう吉ゆう（名）野面香、馬芹、うませり、馬新（植物）
のうつ　濃醲、ふかきつゆ、こきつゆ、しげきつゆ
のうにん（名）農人（農夫及農を見よ）
のうゝん（形名）能導、よくしやくする、えんのよし、＝またはやかなるえん
のうえん　能罪（謠等の功能を評）
のうゝう（形）濃厚、あつくこまかきこと
のうりよく（名）能力、ちから（身體精神制方の官能にも用ふ）
のうるし（名）農漆、大戟、蘭漆、繰花草、たはうるし（植物）
のうか（名）農家、ひやくしやうや、田家
のうかう（名）農耕、たがやすこと、たつゝること、農業
のうがく（名）農學（農業の學）

のうがゾ(名)　能樂(能の樂をいふ)
のうがゾがく(名)　農學校(農業の道を教ふる學校)
のうがゾし(名)　農學士(農學に達したる人又學位の名)
のうがき(俗)(名)　能書(藝の功能書)
のうよう　農用(農業に用ひる事)
のうたん　濃淡(こまやかなる＝うすきり、こまり)
のうれん(名)　暖簾、暖帳、暖嶂、門帷、布帷(「のれん」に同じ)
のうなん(俗)(名)　無能、無藝、やくにたたぬ
のうなう　濃醲(こまやか)
のうむ(名)　農務、農業、農事、たがやすわざ
のうのう(形)　濃濃(つゆこまやつゆしげき)
のうぐ(名)　農具、たつくりうつは、耕具
のうこつ(する)(自)　濃淳(うみもまもてやなれる(肌物に云ふ))うむ
のうこう(名)　農學(農學校を謂ふ)
のうやくしゃ(名)　能役者(能をつとむる人)
のうま(名)　野馬(のにすむうま、のうたうま、散馬、野馬、野獣(動物))
のうまい(名)　能米(こゝろ)
のうまのかみ　能町村(越中國射水郡の村名)
のうけ(名)　能化、しゝやう(僧家の語にて師を能化と云ひ弟子を所化と云ふ)
のうけつ(形)　能傑、すぐれたる
のうけつ(名)　膿血、ちうか、うみのち
のうけふ(名)　農業、ひやくしやうあそび、たがくすあそび、たつくりあそび
のうけう(名)　農學(農業の用學)、たつくりのひま
のうけん(名)　濃夫、むくいぬ(動物)
のうけんだう　能見堂(武藏國入間郡金澤の手前にある有名の古社の名但し今は只其址ある而已)、のつけだう
のうふ(名)　農府、たがやすまち
のうふ(名)　農夫、たつくり、田夫、田父、耕夫、耘夫、野人、ひやくしやう
のうこう(形)　濃厚、こまやかうすからぬ
のうこう(名)　農功、ひやくしやうあそび、たがくしあそび
のうこう(形)　能功、たくみ、こうす
のうさい(名)　能手、うまのから
のうさう　農業、たつくりかひこかこと
のうさう(名)　獣有(獣類の方言)、しゝふか(動物)
のうさゾ(名)　農作、たつくり、ひやくしやうしこと
のうさぎ(名)　野兎(動物)

のうさん(名)　農産、田產(田地の產物)、たはたのなりいでもの
のうさやうげん(名)　能狂言(能の戲をいふ)
のうあ(名)　野猪(獸物)
のうふん(名)　農民、ひやくしやう、農夫、農人、たつくり
のうじ(名)　能事、よくすること、はたらくあそび、つとめ
のうじ(名)　農事、たつくりしごと、ひやくしやうあそび、たがくしあそび
のうじ(名)　農時、ものつくりどき(農業上の)
のうじよ(名形)　能書、よくかくこと、＝かくことをよくする
のうしう　濃州(美濃國を謂ふ)
のうしう　能州(能登國を謂ふ)
のうしゆ(名)　農具(農事に用ふる具)
のうしゆ(形)　能弱、よくゆかんとすることをよくする
のうしゆ(名)　能者、よくできるもの
のうしやうむだいじん　農商務大臣(農商務商務の長官)
のうしやうむしやう(名)　農商務省(農商務商務を管掌する官衙)
のうじふ(名)　濃汁、うみしる、はれもののうみ
のうしゆん(名)　農畝、田畝、こはりなきやう(田

（圖の豚野）

のうた(名)　野豚(山野に住する一種の豚、此國なるは小笠原島の山中に居る者にて猪の如く双牙あれども野猪ならず)(動物)
のうたつ(名)　野荊、野茨、野薔薇、ノバラ、ノイバラ、ノイバラ(植物)
のうれん(名)　暖簾、のれん、まはり
のうつらがい(名)　猿牛(能登の方言)、ましやがひ(動物)
のうし(名)　野武士(强盜を爲すを常とせし土人をいふ)
のうし(名)　野伏(野に伏す事にて山伏を云ふに同じ修行者をうらびに其修行を謂ふ)
のうせり(名)　野伏、野臥、こゝとぞ、ものうらひ
のうすみ(名)　野栖、鳥獸、畑(動物)
のうすみ(名)　野栖(小鳥を鋼を以て調理したる食物)
のし(名)　鋸、のこぎり(大工の道具)
のしりおほきい(形)　殘多、もんねんなる、くやしき
のしりのとしつき(名)　餘年、餘齡(老て僅かに殘れる年月)
のじ(名)　野地(野邊或は路傍に生ずる草)(植物)
のじえん(形)　濃艷、つややかうつくしやか
のじつ(名形)　能筆、能書、かくことをよくする、かくことにかく
のじせん(名)　農船、たぶね(農作に用ふる船)
のじせんかつら(名)　紫藤、紫草、花藤、くまかつら、大藤、鳥目、武藤、風藤(植物)
のじ(ちん)(俗)(名)　仲、はさけ(小兒の語)
ののがき　野野垣(氏)
ののぐち　野野口(氏)
ののめゾ(俗)(自)　咲、しやくる
ののみや　野野宮(氏)
ののみやはら　野宮原(山城の地名)
ののしる(他自)　罵、ゝしる、ゝしくらふ、＝のる、ひやれる
ののぶ(名)　假蘇、ぬすみそ(植物)
のゾ(自)　退、退去、辭退、退出、退散、たちのくしりぞく
のぞき(名)　柘(野蠶がやどる柘)(植物)
のぞち(名)　野口(綾の具ある氏)
のぞみ(名)　旋覆花、をゝるま(植物)
のぞみ(名)　化香樹、のぞみ、枹樹(植物)
のゾれやまゾれ　野七里山七里、のまこはやまこえ
のぞき(名)　野草(野邊或は路傍に生ずる草)(植物)

のみ（名）　鯉、のどにたちたるはね（喉に刺さりたる魚の骨）
のみ（名）　北北頭、花鰹、はのさき、はなさき（「のけ」を見よ）
のり　乃木（氏）
のりえ（名）　爆弾、のりたま、のりのうは、終末、臨終
のりり（名）　犯底（殿貴）
のりだがい（名）　蛤蜊（筑前の方言）、あさりね（動物）
のりつね（名）　野狐、つねのきつね（動物）
のりむら（名）　能義村（出雲國能義郡の村名）
のりく（名）　野菊、苦菜（植物）
のりう（名）　牡蠣（奥州の方言）、ときこもぶ（植物）
のりぐち（名）　廊口、のりは、
のりけた（名）　篠桁、のりのけた、のりにはきこもりけた
のりこり　能義郡（出雲國の郡の名）
のりした　廊下、のきのした
のりこのぶ（名）　瓦葦、〜ちのな（植物）
のり（名）　卸（わたの類にて穀物秤のきるさらなどに用ふ）
のりる（他）（自）　前倒、さくくたふれる
のみ　面口、ばかり、耳、殷

のしつけ（名）　鯛（國の陸に云ふ）
のしば（名）　野稗、陸稗、をかぼ（植物）
のしつぬ（名）　仙術（術理の名、機械の術語（うあ　ぶしは）に苟を解きて入れ術策奴の如き者につけて深したる者）
のしつつり（名）　雀苦草（植物）
のしま　野島（近江國の地名、一の崎、一の浦、一の道などと云ふ、又淡路國の地名）
のしぶき（名形）　筋茎（屋根の詳を方にいふ）
のしあんば（名）　鼓刻、鼓斗鍋（「のし」をみよ）、のしにすうあはび、のし
のしあがる（他）（自）　伸縮、のびがる、一おはる
のしゆく（名）　野宿、露宿、のきり（屋外野等に寝る事）
のしめ（名）　鼓斗目（禮服の一制にして紫分けに作れる者）
のしし（名）　野猪、いのしし（動物）
のぶえまう（名）　野豌豆、翹搖（「からすのえんどう」「すずめのえんどう」の二種あり）（植物）
のび（名）　野火（野山に燃ゆる火）
のびちぢみ　伸縮、行縮、盈縮、延縮、而伸、ながくなるみとかくなる
のびる（名）　苦蕙、野蕙、野薤、山蕙（植物）
のびる（自）　伸、ながくなる

のみ　野蚤、能見（氏）
のみ（名）　蚤、蚋、狗蚤、蚊蚤（動物）
のみ（名）　鑿（木工の穴をうがつ具）
のみほす（他）　飲乾、飲竭、酷、酷のかつ〜す（酒を）
のみこ（名）　喉、のど、のんど（古語）
のみとり（名）　蚤刺、のみとりつは
のみち（名）　野道、野路、郊道、郊徑、野徑、のはら、のみち
のみおく（他）　飲置、おくまつてのみ、のみたくはくる
のみかん　谷川（武蔵國秩父郡村に發し北大森村に於て荒川に注ぐ）
のみつだ（名）　蜀葵（植物）
のみむし（名）　風蛸、蛸蟹、地蛸、蝶蛸、ともしびもむし、ねずみのみ（動物）
のみのえ　爵稍、稍、のみのまつまつ
のみぐち（名）　飲口、呼口、水管、吸口、管注、嘴注、管放、吸子嘴、ちゃうこ（瓶等に挿す口）
のみくらう　飲食、飲啖、のみこむ〜らふこと
のみひ（名）　蚤嚙、のみのくひたるところ
のみひ　飲食、さけのみこむ〜ふこと
のみはり　能美郡（加賀國の郡の名）

のみ　野蚤、能見（氏）
のみ（名）　蚤、蚋、狗蚤、蚊蚤（動物）
のみ（名）　鑿（木工の穴をうがつ具）
のみほす（他）　飲乾、飲竭、酷、酷のかつ〜す（酒を）
のみこ（名）　喉、のど、のんど（古語）
のみとり（名）　蚤刺、のみとりつは
のみち（名）　野道、野路、郊道、郊徑、野徑、のはら、のみち
のみおく（他）　飲置、おくまつてのみ、のみたくはくる
のみかん　谷川（武蔵國秩父郡村に發し北大森村に於て荒川に注ぐ）
のみつだ（名）　蜀葵（植物）
のみむし（名）　風蛸、蛸蟹、地蛸、蝶蛸、ともしびもむし、ねずみのみ（動物）
のみのえ　爵稍、稍、のみのまつまつ
のみぐち（名）　飲口、呼口、水管、吸口、管注、嘴注、管放、吸子嘴、ちゃうこ（瓶等に挿す口）
のみくらう　飲食、飲啖、のみこむ〜らふこと
のみひ（名）　蚤嚙、のみのくひたるところ
のみひ　飲食、さけのみこむ〜ふこと
のみはり　能美郡（加賀國の郡の名）

（圖の蚤）

のみむ　酒、酒、酒、

のひつじ(名) 野羊、山羊、羊、やまひつじ(動物)
のびらかに(副) 伸、ながらかに、ゆたかに
ののの(形) 伸伸、すゝやか、せらせら
ののびる(になる)(自) 延引、遲延、淹滯、躊躇、怠慢、緩延、遲緩、ゆるゝ、ゆるゝなる
ののやか(形) 伸、のびのび、せらせら
ののびあがる(自) 伸上、かゝるのす
ののび(名) 野引、やまびき
ののびやん(名) 仙人掌、ゝまのな(植物)
ののゆ(名) 野荊、細荊、ゝまのな(植物)
ののえ(名) 野稗(植物)
ののき 野木(氏)
ののもり(名) 野守(野を守る人)
ののもりのかがみ 野守鏡(郊野の清水を言ふ是れ物の形をうつせば也)
ののもり(名) 野地、ののたゝ、田面、のはら
ののもりに(副) 野迫、のゝせまゝはゞ、のらつはらに
のも 野瀬、野狩(氏)
のせ(名) 鶺鴒、鶺子、つゝり(鳥の一種)(動物)
のせり(名) 芹、芹菜、芹、せりのたゝひ、あまあかな(植物)
のせり(名) 前胡、竹葉菜、みつばゝな(植物)
のせる(他) 乘、うくにたゝ、乘、のらせる、記載、かゝのせる

のせ(名) 能勢郡(攝津國の郡の名)
のす(他) 伸、のばす
のす(他) 熨、のせる
のす(他) 熨、しわゝのばす(衣服に「ひのし」かける)
のゝ 野邊(氏)
ののえ(名) 咽喉、喉、嚨、のゝ、のみど
ののえぶえ(名) 吹、尤、笛、ふえ、のゝどぶえ、笛管
ののたらう(俗)(名) 呑太郎、のんだゝれ、ものの
ののたれ(俗)(名) 泥酔漢、ものみ、よつぱらひ
ののえ(俗)(形) 漫然的、うつうつし、はゝしら
ののえ(俗)(形) 楊氣、延氣、ゝらゝ、しんはいな
ののえ(名) 尺蠖、しゝゝとりむし(動物)

ノ

ノ、乃、知、久、九、ノ、具、俱、是は「ゝ」の父音と「う」の母韻を合して生ずる音にして五十音の中にありては第三行第三段に位す

ノ(名) 句、ふみのこゝは、文句
ノ(名形) 若、ゝるしみ、ノにがち、ノにがゝ、ノゝるしゝ
ノ(名形) 九、玖、ここのつ(四と四に一を加へたる數)、ノ=また第九

ノ(名) 狗、いぬ、犬(動物)
ノ(名) 彌(虎の屬)(動物)
ノ(名) 區、まちのわかち、ノ=又はこゝろ、は
ど(名) 具、うつは、うつはもの、たゝ
ど(する)(他) 具、うなゝる、具備、ノ=ゆしつれる(從者等を)
ど(形) 慮、たゝか、はか、ノ=たゝかもの
ノい(名) 惟(思非を愛くかなしむを言ふ)
ノい(名) 區劃(區從所にて其區の爲に區ひたゝ劃者)
どい 感想、たゝかこゝろ(また己れの心を指すの謙語の語)
ノいど(する)(他) 悔、やしなふ、うたてる、あたたあやしなふ
ノいあらため(名) 悔改、懺悔(罪事を悔いて改たむる事)
ノいあらためる(他) 悔改、ゝんけする、ゝやかてゝなほす
ノおき(名) 區域、ゝかひ、かぎり、ノ=又はしま
どいど(名) 甜菜子(佛前の方言)、ゝみ(植物)
ノおもがは 株瀬川(美濃國大野郡の呂久川を言ふ)
ノう(名) 畦、畦、たのゝう、あぜ(田と田の間の細き畦)

ノう(形) 黑(「ゝうゝ」に同じ)
ノう(形) 區劃、小笠、ちひさゝらく
どう(名) 感、たゝか、はか
ノういう 黑色、黑色、かうゝう
ノういと 黑、絲、ゝうゝと
ノういとえん(形) 黑絲淡、ゝうゝとにて薄ひたる(紙に云ふ)
ノういむら 黑石村(陸中國江刺郡の村名)
ノういまち 黑石町(陸奥國南部藩郡の町名)
ノうう 黑紬、ゝうゝう(織物の名)
ノうう(名) 門閂、閂、ゝうゝ(門戸の)
ノうう(名) 橋機(「ゝうゝ」に同じ)
ノうだい(名) 山鑄(紀州の方言)、うゝし(植物)
ノうだう(名) 黑方(織物の一種)
ノうとぶたく(名) 黑羽二重(織物の名)、ゝうゝ
ノうとふしやま 黑法師山(遠江國榛原郡に在る山)
ノうとせ(名) 黑帝八川(高麗樂の名)
ノうとせ(名) 珍珠花(植物)
ノうぼ(名) 炭、炭、ゝうゝぼ(炭の黑ゝなりたる者)、むゝのゝうぼ
ノうぼし(名) 黑石(硯石の名)
ノうぼし 黑鮮、ゝうゝぼつ

ノうはん(名) 黑本幹(肥前時代の茶製紙も然か名けたり是れ其茶紙を黑ゝしたるに因て然か稱せるなり)
ノうほんだん(名) 黑本幹(東京市芝區增上寺の本幹なり、元は參河國新田郡酒田村大樹寺に安置せられし者にて家康公の身代りに立ちしを信せられ、後駿河の久能山に移せしを二代將軍秀忠公增上寺を建立して其處に本幹として安置せし也を言ふ)
ノうぐがは 倉部川(越中新川郡に在り)
ノうぐうし(名) 黑表紙(正德享保の時代に行なはれたる從者帳列記を然か呼べり、其表紙の黑かりしに因てなり)
ノうくび(名) 烏賊、からすゝび(動物)
ノうぐり(名) 鵜(水鳥の名)
ノうぐびいろ 黑茶色、暗褐色、鐵錆色、錆色、ゝうかついろ
ノうゝ 黑地、ゝういろのゝ(織物の)
ノうゝりゝん 黑紹綱、烏紗紗、ゝうゝゝりゝん
ノうりん(名) 克欲林(鑑品)
ノうぬり(形) 黑漆、ゝうゝぬれる
ノうかぐほり 黑川郡(陸前國の郡の名)
ノうがつたい(名) 烏賊、ゝうゝらびやう、こゝか、黑賊

ノうがは(名) 鐵鉄、てつ、鐵鐵(生鐵熟鐵鋼鐵の三品あり)
ノうがはより(名) 鐵夫、ゝうがはほり
ノうがはのんだ(名) 鐵落、からゝう
ノうがはもち(名) 冬青の一種、ふゝらしば(植物)
ノうかば(名) 烏鵲(黑鹿毛の馬を言ふ)(動物)
ノうがき(名) 黑柿、澁漬木(器を作るに用ふる貫ゝ水)(植物)
ノうかみ 黑髮、旋髮、ゝうゝかみのけ
ノうかみやま 黑髮山(下野國河內郡と上野國群馬郡に跨る山にて男體山と稱す)
ノうがも(名) 黑鴨(動物)
ノうた 黑田(氏)
ノうたに 黑谷(飛騨國の地名)
ノうたば(名) 黑柳(草柳を言ふ)
ノうたま(名) 烏鵲、烏珠、ゝうゝたま(眼の)
ノうたま(名) 堅玉、ゝうこはく、地膠香
ノうたび(名) 黑鯛、鯉類、鯉魚、鮒(動物)
ノうたぬ(形名) 黑鈍、ゝうゝうゝたる
ノうつぐら(名) 眼巢、なゝかうと、たは、ゝうゝもゝゝ(植物)
ノうつち 黑土(土黑色の肥たる土)
ノうつる(名) 鵜鳥、つるのたゝひ、ゝはかつゝ(動物)

くろかばんし（名）蟷螂（一種大にして長さ四五分のものを胡蝶と云ふ）（動物）
くろごま（名）黒胡麻、豆麻子（植物）また其實）
くろごめ（名）黒米、玄米、つかねこめ
くろあざれ　黒斑（黒色の痣疵）、くろしみ
くろあめ（名）膠牙飴、薄飴、のみきりあめ
くろさとしりまち　黒澤尻町（陸中國東和賀郡の町名）
くろさたう（名）黒砂糖、黒糖、黒砂、粟砂糖、くろいろのさたう
くろさき　黒崎（筑後國の地名）
くろさきしま　黒崎島（對馬國の島の名）
くろさ（形）黒、烏玄、色黝、黝、黝、黝（烏の如き色なるを謂ふ）、＝栗（くろうるしぬりたる）
くろさ（名）畠水（海を云ふ）、たきぎ、こは
くろさつね（名）黒狐（北海道樺太地方に產する動物）
くろさつり（名）草莽女、たきぎうるをんな（西京にて柴薪を頭にのせて賣あるく婦人）、しばうりをんな
くろさまち　黒木町（筑後國上妻郡の町名）
くろさび（名）栢茶（植物）
くろさめ（名）舒鮋（筑後の方言）、いた（動物）
くろさめ（名）黒鯛、くろだい、くろまだこ

くろし（名）蚊帳子、ゐ〜（植物）
くろしぐみ（名）鯛親、きりのな（動物）
くろしなず（名）紫綬（皮膚病にして黑點を生ずる者）
くろしらさき（名）黒柴、こひしらさきのいろ
くろしらま（名）蕎麥、そばむぎ
くろう（する）（他）惡業、なやる、あそける、ばかにする
くろうと（名）熟練者、老練者、巧者、うのかちにあかるきひと、ぬれけもの、なれたるもの、＝また粹人
くろうま　黒馬、駿、くろけのうま（動物）
くろうまあざき（名）風茎、牛膝子、くろうばら（植物）
くろうし　黒牛、烏（黒色の牛）（動物）
くろうしのうみ　黒牛海（紀伊國の海にて和歌に名高し）
くろうんや　黒紫母、くろきやうら
くろうえ（名）黒鍬、動役、鍬人（動鍬を執て物〜人）、＝しごとし
くろうとあ（名）烏芋、蒟蒻、蒟蒻、田烏子、黒三稜、地梁（植物）
くろうとう（名）湯盛、茶碗、野圃、鬼油條、鼠前草（植物）
くろうる　黒漆、駿、黒、ぬつきーー、こきーー

くろうるい（名）黒雲草、きーーふき（植物）
くろうやなぎ　畔柳（氏）
くろうやき（形名）黒燒、くろーやける
くろうやき（名）黒燒（物を火にて黑く燒燒にした る者、蛇の黑燒などの如し藥品として用ふ）
くろまだら　黒斑、くろきぶつぶつ
くろまつ（名）黒松、きまつ（植物）
くろまたし（名）黒間、烏珠、くろまだき、くろまた
くろまく（名）黒帶（鬼鬼を使ふ者抔が內に隱れて擬縱の術を行ふ所の黑帶を云ふ）
くろまめ（名）黒豆、烏豆、雄豆、檜豆（植物）
くろまもる　合逗、くろーまる（「くろも」の他動詞）
くろまうま（名）驢馬、くろうま（動物）
くろみた（名）火疔（炙すること後に生ずるかさぶた）
くろみたう（名）黒狐、黒、のたう（植物）
くろふね（名）黒船（外國船を謂ふ）西洋船
くろふねちやう　黒船町（東京市淺草區の町名）
くろこ（名）地耳（正倭或は小樹下に生ずる黑色の菌（植物）
くろこうも　黒衣、緇衣、くろきもの（僧徒等の著る）
くろこくーー　黒鬼瓦、鬼瓦、黒松番、くろいろのこはーー

くろ（名）蚊（動物）
くろ（名）浦淡、ちうも、うかーーー（植物）
くろはだ（名）黒膚、くろーー、くろーー
くろと（名）支蹄、すかやきあしと（動物）
くろとう　黒白、くろきとうき、＝烏蘇（菲子に言ふ）
くろしほ（名）黒潮（南方熱帶地方の海より流れ來る潮流にして四國に沿ひ九州に至り其支流進みて日本海に入る、此潮潮あるが爲めに南方の人我に漂着し我國の水夫なども又南米に流着せり又之を黑潮川と稱す）、黑潮、東潮、沿潮（以上三箇は支那名）、ブラック、ヂッチ（英語の名）
くろしまうま（名）黒千條（毛茸の1種）（植物）
くろしま　黒島（薩摩國及び琉球國に此名の島あり、また對馬國の島の名）
くろしめす　黒紐子（織物の名）
くろえちやう　黒江町（東京市深川區の町名）
くろえぬり（名）黒江塗（一種の塗漆法）
くろび（名）黒日、受死（六曜日中段の凶日の名）
くろびかり　黒光、くろーひかるいろ
くろひつじ（名）黒羊、羊（動物）
くろひら　黒平（甲斐國の地名）
くろひめやま　黒姫山（信州水內郡と越後の中頸城郡に跨る山）

くろがばんし（名）蟷螂（一種大にして長さ四五分のものを胡蝶と云ふ）（動物）
くろごま（名）黒胡麻、豆麻子（植物）また其實）
くろごめ（名）黒米、玄米、つかねこめ
くろあざれ　黒斑（黒色の痣疵）、くろしみ
くろあめ（名）膠牙飴、薄飴、のみきりあめ
くろさとしりまち　黒澤尻町（陸中國東和賀郡の町名）
くろさたう（名）黒砂糖、黒糖、黒砂、粟砂糖、くろいろのさたう
くろさき　黒崎（筑後國の地名）
くろさきしま　黒崎島（對馬國の島の名）
くろさ（形）黒、烏玄、色黝、黝、黝、黝（烏の如き色なるを謂ふ）、＝栗（くろうるしぬりたる）
くろさ（名）畠水（海を云ふ）、たきぎ、こは
くろさつね（名）黒狐（北海道樺太地方に產する動物）
くろさつり（名）草莽女、たきぎうるをんな（西京にて柴薪を頭にのせて賣あるく婦人）、しばうりをんな
くろさまち　黒木町（筑後國上妻郡の町名）
くろさび（名）栢茶（植物）
くろうめ（名）舒鮋（筑後の方言）、いた（動物）
くろうめ（名）黒間、くろーまだき、くろまた

くろうと（名）蚊帳、烏珠、くろーーー

くにが（形）陸〜が、り〜う

くにかがす　國懸（國懸神社は紀伊國那賀郡にある官幣大社）

くにがた（名）地形、ものの〜、〜にのもう

くにつ（形）國津、國之、〜にの

くにつかみ（名）地祇、地神、國神、〜にのかみ（地上に住せし神をいふ）

くにつかみしろ（名）國社、こ〜くしや（官幣社の次）

くにつくり　國造村（加賀國能美郡の村名）

くにつもの（名）方物、國產、〜にもにのさんな

くにのまへ（名）國母、皇后宮、おほきさき

くにのおや（名）國親、天子、みかど

くにのかみ　國守、州牧、〜にのつかさ、知事

くにのつかさ（名）國司、知事（〜にのかみに同じ）

くにのうち　國內、宇內、邦內、城內

くにのみやつこ（名）國造（成務天皇の四年始めて定められし官、國司に同じ、後世改めて守と云ふ）

くにのみやこ　帶上郡（山城國相樂郡にて聖武帝皇居の地をいふ）

くにくうし（名）國崩、城主、しろ〜うし（大地にて石垣を崩す者）

くにが（名）桑尼、蠶、かひこ、たこさま（動物）

くにぬの（名）桑細工（桑にて造れる織物）

くにのみき（名）桑樹酒（桑の實にて作れる酒）

くにきりだん（名）蔵桑鍛、〜はさみ、もまない

くにくに（副）委敷、詳細、こまかに（「〜はしさ」をみよ）

くにくに（形）委、詳密、綿密、詳悉、詳細、委細、委曲、こまかき、つまび

くにくに（形）精、精巧、たくみ、あきらか

くにくにし（名）美女、うつくしきをんな、しこめ

くにひ（名）怡好、かつかう、ものごとのこのみ

くにもち（他）今喫、〜らはせる、たべさせる、＝あたくる

くにもち（名）野芋（植物）

くに（名）國、邦、州、城（人民の住する一區域の地をいふ）

くに　紫香（聖武天皇の都したまひたる地にして山城國の相樂郡に在り）

くにつみ（名）國忌、こ〜き（天子の喪をいふ）

くにより（俗）（名）國君、諸侯、〜にのきみ

くにのみやつこ（名）國造、立社（天神七代の第一の前）

くにのり　國友（氏）

くにがさきまち　鍋ケ崎町（陸中國東磐井郡の町名）

くにたけ（名）桑竹、桑茅（植物）

くにだのほり　桑田郡（丹波國の郡の名）

くにだつる（他）全、ものうむ、たくもつ、はかる

くにつき（名）桑柏、きのな（植物）

くにがまち　桑名町（伊勢國桑名郡の町名）

くにがのほり　桑村郡（伊勢國の郡の名）

くにむし（名）蠶、かひこ、おこさま（動物）

くにう（名）苦槲、にがひさご（植物）

くだう（名）公方（將軍を俗に然か呼べり）

くだうけ（名）公方家（將軍家を然か呼べり）

くにのかど（名）桑門、佛門、佛道、のりのみち

くにの（名）桑（蠶を養ふべき樹）（植物）

くにのゆみやなりのや　桑弓蓬矢（産褥の時など凶惡を拂ふために射る弓矢）

くにのみ　桑椹（桑の實なり）

くにたま（名）琥珀、こは〜（玉の名）

くにたま（名）黑髮、なでしこ、かはらなでしこ、もさなでしこ、さこなつ（植物）

くにやま　桑山（氏）

くにまゆ（名）繭、まゆ（かひこのす）

くにのり　弘法、のりをひろめる（宗教を世に弘めるを謂ふ）

くにもち　求法、のりをもとめる（佛法を求むる）

くにぬの（名）桑尼、蠶、かひこ、たこさま（動物）

くにぬのこう（名）桑細工（桑にて造れる織物）

くにのみき（名）桑樹酒（桑の實にて作れる酒）

くにきりだん（名）蔵桑鍛、〜はさみ、もまない

くにくに（副）委敷、詳細、こまかに（「〜はしさ」をみよ）

くにくに（形）委、詳密、綿密、詳悉、詳細、委細、委曲、こまかき、つまび

くにくに（形）精、精巧、たくみ、あきらか

くにくにし（名）美女、うつくしきをんな、しこめ

くにひ（名）怡好、かつかう、ものごとのこのみ

くにもち（他）今喫、〜らはせる、たべさせる、＝あたくる

くにもち（名）野芋（植物）

くに（名）國、邦、州、城（人民の住する一區域の地をいふ）

くに　紫香（聖武天皇の都したまひたる地にして山城國の相樂郡に在り）

くにつみ（名）國忌、こ〜き（天子の喪をいふ）

くにより（俗）（名）國君、諸侯、〜にのきみ

くにのみやつこ（名）國造、立社（天神七代の第一の前）

くにのり　國友（氏）

くにのけ　苦苔、なかきわれきすのはかり

くにやし（名）國郡（將軍の時大名がうの本領の國に設けし郡也）

くにんら（俗）（名）口人、乎人、中徒、俗輩、〜ちいれ、けらもん

くにうた（名）國歌、こ〜しよ（〜にのつかさより賞ものに添へて奉るふか）

くにことば（名）國語（一國の言語をいふ）

くにざかひ（名）國境、國界、封域、〜にのはて

くにさだ　國貞（氏）

くにさつのみやつこ　國狹槌尊（天神七代の第三の略前）

くにみたけ　國見嶽（羽後國仙北郡并に陸中國岩手郡に跨る山）

くにしま　國島（氏）

くにたち　國枝（氏）

くにひろ　國弘（氏）

くにもの（俗）（名）國者、おなかもの

くにん（名）惡人、おろかびと、ばかもの

くぼ（名）陰門、をんなのもの、たまく

くぼ（名形）窪、ひ〜きところ、＝ひ〜き、たちいりたる

くぼ　久保（氏）

くぼ（名）眼球、ほとり、たまのしろし

くぼち（名）窪地、ひ〜きもち

くぼまち　久保町（東京市芝區櫻田の名）

くぼた　久保田、窪田（氏）

くぼたまり（名）窪處、〜ほか、〜ほきところ、＝坳、くぼか、凹

くぼやかに（副）窪、〜ほかて、なかび〜に

くぼやこのほり　窪屋郡（備中國の郡の名）

くぼまる（自）窪、陷、ひ〜くなる、かぶさる、〜もる

くぼまたし　窄眼、眥、凹眼、〜ほめ、ひ〜きめ

くぼさ（名）利潤、まうけ、りはき、益

くぼきよ（名）狗母魚、にう（動物）

くぼわけつる　刳刻（木を刻みて舟を爲り木を刻りて柱を爲るを謂ふ）

くぼみ（名）窪、凹、坳、窐、陷凹、凹處、ひ〜きところ、くぼか

くぼんのじやうど　九品淨土（上品上生、上品中生、上品下生、中品上生、中品中生、中品下生、下品上生、下品中生、下品下生にして佛教に謂ふ極樂の淨土）

くぼんのじやうせつ　九品淨刹（九品淨土を見よ）

くま（名）熊、かきね、まがき

くまる（他）熟、焼、燒（火に）、ものやす、たく

くまつ（名）〜する（他）區別、けちめ、わかち、わ

くくんたうする（名）常備藥、藥品

くま（名）隈、かきど、くつつら

くま（名）曲、彎、かきのお〜、＝くつつら

くまはぐのほり　久邊郡（後志國の郡の名）

くまうと（俗）（自）鳴、響、ものうとうしふ、つぶや く

くまつ（名）句讀、〜きり、よかきり（文章の一句一句の淆別を言ふ）

くまつ　工藤（氏）

くまつくん（名）句讀點、よかきりしるし（文章の）

くまつくん（名）句讀師（漢文の教師を然かいくり）

くまん（名）功德、こう、とくがう、よきわざ

くまん（俗）（他）口說、演說、辯、ものいふ、しゃべる、しひよる（文に）＝又はなす、ものいふ（字治拾遺物語に藏座の兒の前にねりいでて口說〜を見ゆ）

くまくまと（俗）（副）喃喃、訥訥、こやかましく、〜りかくり〜りかくし

くまんゆ（名）功德主、だんな、施主

くまやま　九度山（紀伊國伊都郡に在る山）

くまをかす（俗）（他）口說、說、ものいひける、てにしられる（文を）

くちおもき(形)　口重（ものかずくちはぬを云ふ）むくち

くちをすふ　吸口、接吻、吮口、親嘴（口と口とを合はせる）

くちうき(名)　口牙、ぶやけ、しなやけ、分類

くちうき(名)　口（口の前端）、口角、吻

くちかるき(形)　口輕、くちはや、よくはなす

くちがき(名)　口書、口供（こうきょう）、訊牒、供詞、供狀（裁判所にて筆記せし原被の申し立て書）

くちがしこき(形)　口捷、辯口、辯舌、くちのたつしゃなる、くちりこう

くちかたく(形)　感直、はかしやうちゃ、たろかになはき

くちかたし(名)　口淸（少しばかり物を食ふを俗に然か云ふ濟し只口を淸すのみにて腹に滿たぬの意なり）

くちかせ(名)　惑犯能、扶犯（眉うは人の言を問ふの占ト）、また惑犯者、くちかせするもの

くちたたく(俗)(自)　多言、喋、しやべる、喋喋

くちたたく(自)　歎、嘆、歎、くちうちうち、ぐちがひすする

くちつから(副)　口自（自分の口にて）

くちつたへ(名)　口傳（ことばを以て傳ふる事）

くちつつみ(名)　口緘、くちとしたをちとし（手紙）

くちのこ(名)　口留、くつこ（牛馬の口にかくる物を云ふ）

くちのこ(名)　駒竹（竹馬に同じ）

くちのこ(する)(他)　驅逐、かる、たふ、たひはらふ

くちのこ(名)　苦竹、かはたけ、くれたけ、またけ、はちく、こまたけ（植物）

くちごもりに(副)　口口（苦惱口を開きて）、てんでに

くちごもる(名)　口毒（人の甘き言を云ふ）、うまきことば

くちごせ(名)　口辯、いひなれ、いひならひ

くちごすり(名)　口薬、線薬、細火薬（鐵砲の火口に入るる火薬）

くちごすりいれ(名)　鎖鎖、てつはつのくちすりいるるうつは

くちやかましき(俗)(形)　喋賀、序周、しかりちらす、こことをいふ

くちやつこ(名)　區長（一區の長たる人）

くちまい(俗)(名)　口米（從より米汁にてもして見本に取る米）

くちまね(名)　口真似、學舌（人の言語の如く眞似て言ふ事）

くちまめ(形)　饒舌、弄喋、長舌、しやべり、多言

くちぶえ(名)　口笛、肉笛（口にて出す笛の如き音）、うそふき

くちだく(名)　口答、反口、屁口、いひかくすこと、いひかくし

くちたつしや(俗)(形)　口巧者、くちまめ、くちりこう

くちごもる(自)　口禁、口謹、ことばつかくる、訥

くちあけ(俗)(名)　口明、くちはとあ、くちりうあ、ことはとあ

くちあみ(名)　口網（「ひきあみ」の類）

くちがかたき(自)　不愛口、くちをつつしまぬ、不制口

くちきき喧嘩くちきき(名)　喋、物、口角、くちのもとき、くちはし、ことばづる

くちき(名)　朽木、腐木、くされき

くちき(名)　栓子、こうつき、栓（瓶等の口を淸す者）

くちきたなき(形)　口淸、ものしきことばをはく、又ものくひたがる

くちきたけ(名)　朽木茸、きのこのたぐひ（植物）

くちきれい(俗)(形)　口奇麗（過ぎり作ら無きが如くに奇麗に物言ふを謂ふ）

くちきのもし　朽木稿（國史にありし稿にて和歌に名高き者）

くちきの言(名)　栓子草、せんのきこうつきのき（植物）

くちのこ(名)　啄、嘴、咮、はし（鳥の）、又くちばし

くちばしる(自)　口走、發言、うつかりいふ

くちびに(名)　口脂、くちびるにつけるべに

くちとり(名)　口取、肴食、接肴、酒心（料理の名、雛鉢、「きんとんに」などをつけあはせたる皿を云ふ）

くちとり(名)　擺人、擺卒、擺雇卒、べつたう（馬の）

くちとめ(名)　口止、封口、封舌、禁舌（人に語るを禁ずる事）

くちのしこ(俗)(形)　口利口、巧言、くちたつしゃ、いひまはしのうまい

くちのこ(名)　栓、栓、鎖、栓子、せんぬき（瓶の）

くちる(名)　朽、くつる、くさる（木等が）

くちる(他)　抉、挑、剔、抉、抉出、ほる、えぐる、かきまはす

くちおそき(形)　嚼、吻、鈍（ことばのにぶるを云ふ）

くちをしき(形動)　利口、くちのたつしゃなる、ごろうんができる、猥言、ものをいふ

くちをしき(形)　口惜、悔、遺、遺憾、殘惜、くやしき、ざんねんなる

くちをしらふ(俗)　飼口、食人、客食（人の家に寄なはるを謂ふ）

くちおもき(形)　口重（ものかずくちはぬを云ふ）、むくち

くちをすふ　吸口、接吻、吮口、親嘴（口と口とを合はせる）

くちうき(名)　口牙、ぶやけ、しなやけ、分類

くちうき(名)　口（口の前端）、口角、吻

くちかるき(形)　口輕、くちはや、よくはなす

くちがき(名)　口書、口供（こうきょう）、訊牒、供詞、供狀（裁判所にて筆記せし原被の申し立て書）

くちがしこき(形)　口捷、辯口、辯舌、くちのたつしゃなる、くちりこう

くちかたく(形)　感直、はかしやうちゃ、たろかになはき

くちかたし(名)　口淸（少しばかり物を食ふを俗に然か云ふ濟し只口を淸すのみにて腹に滿たぬの意なり）

くちかせ(名)　惑犯能、扶犯（眉うは人の言を問ふの占ト）、また惑犯者、くちかせするもの

くちたたく(俗)(自)　多言、喋、しやべる、喋喋

くちたたく(自)　歎、嘆、歎、くちうちうち、ぐちがひすする

くちつから(副)　口自（自分の口にて）

くちつたへ(名)　口傳（ことばを以て傳ふる事）

くちつつみ(名)　口緘、くちとしたをちとし（手紙）

くちのこ(名)　口留、くつこ（牛馬の口にかくる物を云ふ）

くちのこ(名)　駒竹（竹馬に同じ）

くちのこ(する)(他)　驅逐、かる、たふ、たひはらふ

くちのこ(名)　苦竹、かはたけ、くれたけ、またけ、はちく、こまたけ（植物）

くちごもりに(副)　口口（苦惱口を開きて）、てんでに

くちごもる(名)　口毒（人の甘き言を云ふ）、うまきことば

くちごせ(名)　口辯、いひなれ、いひならひ

くちごすり(名)　口薬、線薬、細火薬（鐵砲の火口に入るる火薬）

くちごすりいれ(名)　鎖鎖、てつはつのくちすりいるるうつは

くちやかましき(俗)(形)　喋賀、序周、しかりちらす、こことをいふ

くちやつこ(名)　區長（一區の長たる人）

くちまい(俗)(名)　口米（從より米汁にてもして見本に取る米）

くちまね(名)　口真似、學舌（人の言語の如く眞似て言ふ事）

くちまめ(形)　饒舌、弄喋、長舌、しやべり、多言

くちぶえ(名)　口笛、肉笛（口にて出す笛の如き音）、うそふき

くちびる(名)　接吻、接唇、親嘴、くちすふこと（外國の禮法）

くちうき(名)　口陰、くちもと、くちのやうす

くちはた(名)　蛇、くちはた、くち（動物）

くちばたもち(名)　蛇莓、蛇苺、くちもち（植物）

くちばしる(他)　口習（口辯の如く平素いひならはすを云ふ）

くちばしるみ(名)　口怨（口の過ちを悔いる爲に語り等する事）

くちばしり(名)　舌炙、したにてなめはすこと（肉等が食後に）

くちばし(名)　山梔、巵子、黃梔花、梔能、鮮麦、林檎、玉蜀黍（植物）

くちう　苦瓠、くるしきこころ

くちう(名)　宮中、禁理、たはうち

くちう　感瓠、わがこころ（我瓠心）

くちう(形)　感忠、たろかにまめまめしき

くちう(名)　感中（昔の時刻にて午前の口の時を然か云ふ、十二時の下を見よ）

くちうあん(名)　暦編、くしこうじ、くしたひ、すり

くちうそく(名)　暦編測、くしたひすり、くしこうじ

くちのこ(名)　口舌、くつこ（牛馬の口にかくる物を云ふ）

くちのこ(名)　駒竹（竹馬に同じ）

くちのこ(する)(他)　驅逐、かる、たふ、たひはらふ

くちのこ(名)　苦竹、かはたけ、くれたけ、またけ、はちく、こまたけ（植物）

くちごもりに(副)　口口（苦惱口を開きて）、てんでに

くちごもる(名)　口毒（人の甘き言を云ふ）、うまきことば

くちごせ(名)　口辯、いひなれ、いひならひ

くちごすり(名)　口薬、線薬、細火薬（鐵砲の火口に入るる火薬）

くちごすりいれ(名)　鎖鎖、てつはつのくちすりいるるうつは

くちやかましき(俗)(形)　喋賀、序周、しかりちらす、こことをいふ

くちやつこ(名)　區長（一區の長たる人）

くちまい(俗)(名)　口米（從より米汁にてもして見本に取る米）

くちまね(名)　口真似、學舌（人の言語の如く眞似て言ふ事）

くちまめ(形)　饒舌、弄喋、長舌、しやべり、多言

くちぶえ(名)　口笛、肉笛（口にて出す笛の如き音）、うそふき

くちとがむ　口利、巧言、辯口、〜ちたつしや、〜ちりこう

くちゆがむ　口、口歪、嘲、笑、嘲笑、〜ちまがる

くちゆめ（名）　飼、ぼら（動物）

くちゆめ（名）　和琴、大和琴、やまとこと

くちどば（名）　口鹽（口より鹽をふれて魚を腐けるを謂ふ、又口もとに少し〜鹽をふるを謂ふ）

くちぐち（名）　口畫、口画（音樂の表徴の次の頃に掛げたる畫）

くちぐちし（名）　口虎帽子（陸奥國にて製する一種の帽子）

くちびる（名）　唇、脣、紅脣（口の上下の殼）

くちびなわ（名）　口火繩（鐵砲の口〈火をつけ火繩）

くちびなた（名）　燃砲竿、（鐵砲等の口火をつけ竿）

くちびび（名）　口疹、〜ちはたのひび、〜ちびるのできもの（口の邊に發する細きふきでもの）

くちびと（名）　口元、口本、吻、〜ちのうは、＝又くり〜ち

くちびらう（自）　側、〜ちひしひする（「〜ちをもらう」を見よ）

くちぶん（俗）（名）　口錢（こうせん）、〜ちくれのまちけぜに

くちすう（自）　合唱、接吻、合喉、〜ちをあはせる、親嘴、接吻

くちすぐむ或くちすぐす（自）　口鏡、口吟、うそうにくふ、〜ちへせにくふ、＝口順、くちはやす、くちのしる（次の文字を見よ）

くちすさび或くちすさび（名）　口鏡、口遊、口唱、吟哦（己れの好む文字または思ふ所なども坐ろに口に挙げて獨り言ふ事、また人の是非評判などを口に言はやす事）

くちすぎ（名）　糊口、生活、よすぎ、活計（〜わつけく）

くり（名）　栗、〜りのみ、＝また鏡質（植物及び其果）

くり（名）　庫裏、寺庫、香積所、庫院、食堂（寺院の内なる僧の居處をいふ）、てらのたいどころ

くり（名）　埋（木中の異土）、〜うどう

くり（名）　股、こ（繩綿等のかたいと）

くりいろ　栗色、皂、〜りのかはのいろ、あいろ、暗色（黃を黑きの間色）

くりいれる（他）　繰入、〜りこまする（兵士等を）、＝〜りまはす（金子等を）

くりいきけう（名）　邪蹤教（伊西語派の耶蘇教）

くりいし（名）　栗石、わりいし、わりたいし、栗山、＝くりこいし、こくいし

くりいも（名）　栗薯、栗（薩隅等の水氣少なくして栗の如くなる薯を俗に然か呼なり、甘藷）

くりいと（名）　栗鉄（音琴に用ひたる道具の名）

くりだら　栗原（氏また陸奥の地名）

くりはらごほり　栗原郡（陸前國の郡の名）

くりこまち　栗駒町（武蔵國北葛飾郡の町名）

くりる　古里利（北海道の千島の總名）

くりこた（名）　繰綿（綿の實を去りて未だ調たざる者）

くりこたし（名）　紡綿花匠、〜りわたをこしらふひと

くりこし（名）　紡車、くるまるも〜

くりかた（名）　信濃、〜うしかは

くりかたわや（名）　栗皮茶（染色の名）

くりかへす（他）　繰返、とりかへす、とりちらす、轉載、流用、轉用、換用、＝〜りかへす、反覆

くりかへし　詳說、復言、〜りこと、かへすこと

くりかへす（他）　繰返、反覆、かへすこと

くりかた（名）　栗形（刀鞘の飾）

くりかたたに　栗殼谷（氏）

くりかたたけ　栗殼岳（或は倶利加羅に作る、加賀國河北郡と越中國礪波郡に跨る山）

くりかんな（名）　曲鉋、刮鉋、〜りぬ〜かんな

くりよ（する）（自）　苦慮、しんぱいする、たゝひわづらふ（「くりよ」を參觀せよ）

くりこと（名）　繰言、說言、〜りかへしこと、反覆言

くりこまやま　栗駒山（陸前栗原郡陸中西磐井郡羽後の雄勝郡に跨る山、栗川岳（すかはだけ）とも駒岳（こまがたけ）とも呼ぶ）

くりこあめ（名）　栗糖（栗にて作れる菓子）

くりあはせる（他）　繰合、〜りまはす、＝やりくる

くりあげる（他）　繰上、〜りくあげる

くりき（名）　功力、ちから、〜きく

くりびき（名）　退、回退（兵士が順順に引退くを謂ふ）

くりもり　栗本（氏）

くりん（名）　九輪（塔の上に置く蠟形物にて其巻ける數九つ有り）、上刹、相輪

くりんさう（名）　九輪草、空輪草、しちようさう、葉牡丹、寶幢花、山慈姑（植物）

くりんゆきさう（名）　九輪草（植物）

くるが（名）　陸地、〜りくが（「〜が」を見よ）

くるき（名）　脛木、鉄鞭、〜のき（植物）

くる（他）　繰、くるまする

くる（名）　刑、例、〜とりまる

くる（自）　來、到、來、〜きたる

くる（形）　慮、〜くせ、〜もしくせ、かんがへる

くるり（名）　逃、鑢（鑢を打つ具）、まひがね

くるり（名）　輪、（圖を輪）

矢、（水鳥を射る矢）

くるり（名）　周、まはり、周圍、四面、四方

くるりと（副）　旋然（ゆくる貌）

くるりまち　久留里町（上總國望陀郡の町名）

くるる（名）　櫺、〜くる（戸の側の轉ずる處）

くるるど（名）　櫺戸、まはしど

くるつ（名）　花街、柳巷、遊里、くるまち、くるつと

くるつ（名）　郭、曲輪（城のくるまはりを云ふ）

くるつびきやく（名）　廚飛脚、ふかつかひ

くるつひ（名）　來日、明日、あした、あす（「〜るひ」に同じ）

くるむ（他）　包、〜つむ、かぶせる

くるくる（副）　宛轉、旋、旋轉（〜くるり〜くるり回る貌）

くるみ（名）　（大胡桃）（植物）

くるま（名）　車、地車（輪にて進む器械）

くるまいす（名）　輪椅（足下に輪の附きたる椅子）

くるまだな（名）　風輪菜（植物）

くるまぐや（名）　車房、馬車房（車を入れ置く處）

くるまびな（名）　背龜、くびのな（動物）

くるまとめ（名）　車止（車の入るを禁ずる事）

くるまとめ（名）　車機制、わとけ、輪制、＝また制、

くるまのぼり　車のぼり（車の前の方に出でたる部分）
くるまのもり　車の盛り（車の前の方に出でたる部分）
くるまのもり　車の盛り（車の前の方に出でたる部分）
くるまのもり　車の盛り

ゲコウタン(名) 怪談、あやしきこと、あやしい

ゲコウダン(名) 會談、よりあひはなし

ゲコウレツ(する)(自) 乖戾、うむきもまる

ゲコウレツ(する)(自) 回線、あやる、まはる

ゲコエ(名) 倚聞、けらあん、〜ちられ

ゲコエ(名) 外祖(母の父母)、ははかたのおほ

ゲコエボ(名) 外祖母、ははかたのはは

ゲコエツ(する)(自) 歓走、つひえにげる

ゲコエゾク(名) 外族、ははかたのしんるゐ

ゲコエフ(名) 外祖父(母の父を謂ふ)

ゲコエン(名) 外孫(己の女子が他に嫁して生る子女を謂ふ)、たかやうのまご、むすめのこ

ゲコウ(名) 烏芋、〜うもあ(植物)

ゲコウ(する)(自) 怪奇、たもふ、かんがへる

ゲコウ(名) 偶婦、〜ぐう、ぐー、あやつりにんぎやう、ぐーのほう、しはおにんぎやう

ゲコウ(名) 偶婦女、〜ぐうあ、にんぎやうつかひのをんな

ゲコウ(名) 偶婦場、にんぎやうつかひば

ゲコウ(名) 偶婦戯、にんぎやうしばゐ、でーつかひわざ

ゲコウシ(名) 偶婦子、にんぎやうつかひ、〜ぐーやつかひ(人形を生けるが如く動かす婦人)

ゲコウ(名) 前香、うあやう、〜れのたもの(植物)

ゲコウガイ(名) 外郊、うとほり(城外の)

ゲコウカイ(する)(自) 乖戾、うむ、〜もまる

ゲコウカフ(名) 倦給、蛸、あかがひ(動物)

ゲコウガフ(名)、〜する(自) 會合、よりあひ、よりあふ

〔ゲコウカモン〕(名) 會下紋、えがが(禄家にて用ふる紋)

ゲコウカン(する)(他) 回看、かくりかる、ふりかくりみる、回顧

ゲコウキ(名)、〜する(他) 倚字(「〜ゐにん」を見よ)、はらむ

ゲコウキ 外用、うとにもちひる(藥にいふ)

ゲコウキン(名) 外欲(外物を得んと欲する慾心)

ゲコウ(名他) 倚胎(「〜ゐにん」を見よ)

ゲコウ(俗)(名) 回遊、まはしあか、回文

ゲコウ(形) 偉麗、そわがしき、せーせーする

ゲコウ(名) 脇刀、さしみはうちう

ゲコウ(名) 外岩、はたり、うはたり

ゲコウ(名)、〜する(自) 回答、こたく、こたくる

ゲコウ(名) 會糞、廻糞、かはせてがた(支那の語)

ゲコウ(形) 皆面、〜うぞ、〜ものかえ

ゲコウ(名) 會計、かんうやう(金錢の計算)

ゲコウ 會稽山(支那にて古越の王勾踐が呉の王のために會稽山に苦しめられし事をいふ)

ゲコウ 會稽三蹊(孔坡蹊、張林蹊、王亭蹊を云ふ)

ゲコウ(名) 會稽山(支那の浙州の地にして山上に禹王の墓あり)

ゲコウ(名) 鰹節、かつをぶし

ゲコウ(名) 外月天(支那の武器)

ゲコウ(名) 懸劍、ちひさつるぎ、ふところがたな

ゲコウ 快闘、はやそそる(藥等の)

ゲコウ(名) 外見、うとのみえ、みせかけ、みかけ

ゲコウ(する)(自) 回腸、まひもどる

ゲコウ(名) 外綱、かくしあ、かこひをんな、てかけ、かこひも

ゲコウ(名) 外物、はかのもの、うとのもの

ゲコウ(名) 回風、つむじかぜ、まはりかぜ、旋風

ゲコウ(する)(他) 回復、もりもど、ひもど、もどす、とりかへす

ゲコウ(する)(他) 恢復、ひもかへす、回復

ゲコウ

ゲコウ(名) 懐中時計、うでどけい、たもとどけい(懐中に携ふる小時辰儀をいふ)、襟頭表

ゲコウ(名) 懐中物、ふところのもの

ゲコウ(名) 懐中似、ふところすり(機會せらるる仮相)

ゲコウ(名) 廻廊(殿に當て左に廻る十六曲の廊の名)

ゲコウ 會長、〜みのかしら、會頭

ゲコウ(名) 回戦、回鑑(書翰の返書を云ふ)

ゲコウ 怪力、つよそちから、大力

ゲコウ(名) 回鑑(書翰の答書を云ふ)

ゲコウ(形) 顧汚、よごれたる、きたなき、けがれたる

ゲコウ(名) 會話、あひもかひはなし、はなしあひ

ゲコウ(名) 楓夏(大陰暦四月の異名)

ゲコウ(する)(他) 怪訝、いぶかる

ゲコウ(名) 鉄鍋、たけこは、たはふれこはば

ゲコウ(名) 外海、うとうみ、外洋(大洋をいふ)

ゲコウ(名) 慈姑蒲燒(慈姑を搗て麩粉を少しまぜ甘酒醤油にのべ油にて揚げ蒲燒にしたるもの)

ゲコウ(名) 偶婦(偶に同じ)、にんぎやうつかひ、〜ぐーつかひ

ゲコウ(名) 回廊、まもりはうどの(寺院殿堂等に設けたる廻〜して回りわたれる建物)、周廊

ゲコウ(名) 快樂、たのしみ、こころよさ

ゲコウ(名) 回鑑、さとがく(嫁せし女が婚姻を告に父母をみまふを謂ふ)

ゲコウ(名) 回鑑(天子の選擇を謂ふ)、選御

ゲコウ(する)(自) 恢亂、こころみだれる、おもひまどふ

ゲコウ(名) 外務(外國との交際の事務等をいふ)

ゲコウムダイジン(名) 外務大臣(外務省の長官)

ゲコウムショウ(名) 外務省(外務を執行ふ官署)

ゲコウ(名) 外科、げーわ(外部の疾治を謂ふ)

ゲコウ(名) 絵畫、ゑ(山水人物等の形を畫ける者)

ゲコウ(する)(自) 興浜、やぶれつひになる

ゲコウ(形副) 恢恢、たはしなる、ひろ

ゲコウ(名) 回回米、すすたま、〜すすたまのみ(蕊數(よーい)の下を見るべし)

ゲコウ(名) 回回米草、すすたま、或ひたま(「よーい」の下を見よ)(植物)

ゲコウ(名) 回回藷、あやすすき(植物)

ゲコウ(名) 回回藷、もつはのはたん(植物)

ゲコウ(名) 回回織、もうるだり

ゲコウ(形) 快活、こころよき、〜わつぱつ、さらさらしたる、はきはきしたる、活潑

ゲコウ(形副) 恢廓、ひろびろ、いろびろしたる、たはしなる

ゲコウ(名) 外郭、うとくるわ、うとがまく(城等の)

ゲコウ(名) 會館(紙會の爲めに設けたる家)

ゲコウ 外観、うとのみえ、うはつら、みえ、外面、外邊

ゲコウ 外邪、うとのわるい(外國より來る災害)、うとのわざはひ

ゲコウ(名) 回環裝包、はなのかかえ、かかえ

ゲコウ(する)(他) 薫訓、をしくる

ゲコウ(名) 外郭、のはら、郊野、まちうとのの

ゲコウ(名) 演説、でもの、みたるはれもの

ゲコウ(名) 外洋、うとうみ、外海、大洋、おほうみ

ゲコウ(名) 回蝶、ちちやもも(植物)

ゲコウ

ゲコウ

ゲコウ

くるまぜう（名）　陝窄、じやうたん、たぎけ
くるまぜあ（名）　外差、かこひめ、かこひもの
くるまぜき（名）　刎席、おもしろ、かやしろ
くるまぜき（名）　含席、よりあひば、＝（俗）（上等の料理屋を然か呼ぶ）
くるまぜき　椎石（形の奇妙なる岩石をいふ）
くるまぜき（名）　絡席、ゑもしろ、はなとぞ
くるまぜき（名）　外厠、ははかたのこんるゐ
くるません（名）　回船、運漕船（貨物を運輸する船）
くるません（する）（自）　回旋、めぐる、まはる
くるません　快船、はやふね、快艇
くるません（副）　鶴然、ひらでて、ぬきんでて
くるません（副）　快然、こころよく、こころよげに
くるません（副形）　地然、なはしなる（天等の）
くるませんやど（名）　回船宿、ふなづかやど
くるまん（名）　訛言、なまり、ことば
くるま（名）　貨路、きびなひ、所路、たくりもの
くるま（名）　瓜蔓、苦蔓、たうなや、唐蔓（植物）
くるま（名）　蝸舎、蝸屋、蝸窟（角蔵の者の住宅をいふ）
くるま（名）　火燼、ひはち、ひうり、ろ、ひたきぞころ
くるまう（名）　火炮、ふせご、ひかご
くるまう　非殺、つつ、しまたかまの（猫也を殺こせる殺）
くるま（名）　和波、なみ（海上の）
くるま（名）　火把、ひかき、火斗
くるま（名）　花鳥、つきげうき（動物）
くるま（名）　醉鳥、こうはしらげ（動物）
くるまい（名）　和貫、あひたいがひ
くるまつう（名）　果報、むくい（佛語）、いんぐわ
くるまつう（名）　花砲、はなび、烟花
くるまつう（名）　貨包、かねいれ、巾着
くるまつう（名）　花包、はなばかき（花の本に巻れる蓆形の物）
くるまつう（名）　火防、ひなせ、ひふせぎ、鎮火
くるまつう（名）　花芋、はなすすき（植物）
くるまつう（名）　鑑能、やかたなね、うるはしきふね
くるまつう（名）　風戻、ふしぎ、ねぢこう、ねぢ、ねぢ、ねぢ、嫌語
くるまつうの（名）　果報者、しあはせもの、うんよきひと
くるまん（名）　過牛、なかはすぎ、大牛
くるまん（名）　過犯、きが、つみ
くるまん（名）　駿雁、つれ、なかま
くるまんしう（名）　花斑鳥、いなきどり（動物）
くるまんすう　過半數、多數（半分以上の數）
くるまぜき（名）　花乳石（石の名）
くるまぜ（形）　和穆、やはらか

くるまぼう（名）　菲木、木炭、ゆーふきう（植物）
くるまぼう（名）　花木、はなぎ、
くるまぼう（する）（自）　和睦、むつまじくある
くるまぼう（名）　蠟木、ひさ、ら、しらかんば、かはのき、しらかば（植物）
くるまぼうかう（名）　花木香、必栗香、ひうりつかう（植物）
くるまん（名）　瓦瓮、はうろ、うちのうりなべ、淺瓮
くるく（名）　貨幣、かね、貨幣、たから（通用金錢を謂ふ）
くるく（名）　花瓶（くわびん）、はないけ、はないけがめ
くるく（名）　器皿、ぞがけるもの、無用物、やくにたたぬもの
くるく（名）　菲教（支那の祠廟の前に在る木にして日本の鳥居の如きものなり）＝とりゐ
くるく（名）　花蘂、はなびら（花の片片をいふ）
くるま（名）　花芋、はないけ、花瓶
くるま（名）　火芋、ひのし、鑪鐵、＝ひかき、火把
くるま（形）　濃度、きにすぎる、濃厚、あまりたはき
くるまう（名）　顆粒、缺多花、ふきのとう（植物）
くるまく（名）　花面、はならけ、はなけつ
くるまく（名）　火面、がんくひ（鑪名の）

くるまく（名）　蛸蛇、かくるのこ、たたまこやくし（動物）
くるまく（名）　瓦廊、瓦洞、がんどうやうちん
くるまくのあんと　蛸蛇文字（支那の古文の體を謂ふ）
くるまくぐち（名）　火燼口（劇場の雜踏の際既なるに設くる口）
くるまくさう（名）　花伸草、えびね（植物）
くるまくん（名）　火管鳴、やがらうき（動物）
くるまくん（名形）　筒編、ひきりもの、きくしん（獨身）、ひきりか
くるまくん　花間、たとが（人の送りし歌詩をいふ）
くるまくん（名）　菲殷子、きんすのたくひ
くるま（名）　月、つき（俗に歌詩を然かいふ）
くるまくん（形）　過重、なほすぎる
くるまう（名）　菲綱、うつくしきもの
くるまう（名）　菲胄、しくがら、よきやかう、菲族、貴族
くるまう（名）　菲鏡（きとの類）（動物）
くるまく（名）　盜賊、ぬすびと
くるまくう（名）　課長、かかりのかしら（官吏の）
くるまくう（名）　花嫁、あすびめ、女郎
くるまくう（名）　火定（僧等が紫雲を祖みて自ら焼け死ずるを言ふ）

くるまやうさん　菲京山（山城國愛宕郡に在る山）
くるり（名）　花利、きうけ、り、ゑ、えき
くるり（名）　貨利、かねきうけ、りえき
くるり（名）　寡樓、やもめ、寡婦（夫を失ひし女）
くるりと（名）　瓜蔓、相樓、きかうすつり（植物）
〔くるりと〕（名）　花鋼、くわりん（植物）
くるりと（形）　過度、なほすぎる
くるりう（名）　醉鼠、くりげうき（動物）
くるりうそう（名）　花鋼草、はなはたん（植物）
くるりやう（形）　過量（過分に同じ）
くるりん（名）　花鋼木、樓子樹、花鋼（花綻あるものを花鋼と云ふ、「くわりん」は音轉なり）（植物）
くるりんせん（名）　火輪船、ひらね、蒸汽船
くるえん　菲屋、美屋、りつばなるいく、うるはしきいく
くるえん（名）　嶋屋（「くわう」を見よ）、しやしきいく
くるえん　瓦屋、かはらや
くるこう（名）　貨所、きびなひ、たくりもの、荷宜
くるこう（名）　花王、ぼたん（植物）
くるか　花下、はなのもと、はなのした
くるか（名）　果下（切鮮より出る所の馬にて本朝の土佐駒に類す）、きもとま（動物）
くるか（名）　造家、ぞうしゆ、ぞうか、造師、造工、造伯

くるか（名）　瓦家、かはらや、瓦屋
くるか（名）　花街、くるまち、遊所、遊里、くるまち、くるは
くるか（名）、（する）（自）　和解（わかし）、なかはり、＝とけあふ、なかなはす
くるか（する）（自）　和諧、やはらぐ、よくまとまる
くるが（名）　禍害、わざはひ、災禍、きが
くるか（する）（自）　瓦解、くずれる、こわれる、くつがくる、顛覆
くるかえ（名）　果下馬（果下を見よ）（動物）
くるかつのしん　瓜蔓之鏡、ちつましきなからひ、ましみ、ちなか
くるかう（名）　花郊、はなぞの、はなたはきところ
くるかう（名）　禾穀、わら
くるかう（名）　造紙、えのしたがき
くるかうせき（名）　花剛石、花崗石、みかげいし
くるかん（名）　蝸角、かたつむりのつの
くるかん（名）　火閥、こたつやぐら
くるかく（名）　化學、金密學、せいかく（物体を分析して研究する學）
くるかく　造閣、うつくしきたてもの
くるかく（名）　化學士（化學の達人）、せいかく、くしや
くるかう（名）　花蟷、いたやがひ（動物）

ぐらぐら(名) 瓦斯、かはらがす、かはらやーかす

ぐらぐら(名) 禾粟、こめは(米穀をいふ)

ぐらぐら(名) 鞆族、たふさきらくがら、貴族

ぐらぐら(名) 活、いかす(未然に云ふ所にて所〜人の煩惱を止めおきて後人に必ず涅槃の妙味の味を推して其煩惱を復すると謂ふ、之を活をいれると呼ぶ)

ぐらぐら(名) 活路、〜らしのかち、すくはひ、生計

ぐらぐら(名) 栝樓、をからすうり(植物)

ぐらぐら(名) 活鹿草、ゐのしりそう(植物)

ぐらぐら(名) 月牌(七曜を佳祭する牌にて日牌、月牌、星牌等あり)

ぐらぐら(形) 活潑、いきいきとしたる、げんきよきぞーすーすーせぬ

ぐらぐら(名) 闊達、をびがか(衆の時にかなる者)

ぐらぐら(名) 活法、妙法、銀法(便利の方法を謂ふ)

ぐらぐら(名) 活版、うるとばん(活字にて印したる物)

ぐらぐら(する)(他) 活潑、しはる、きらくする

ぐらぐら(する)(自) 活動、うごきはたらー、=らーはたらー

ぐらぐら(名) 瓦斯、かはらがす、かはらやーかす

ぐらぐら(名) 禾粟、こめは(米穀をいふ)

ぐらぐら(名) 鞆族、たふさきらくがら、貴族

ぐらぐら(名) 活、いかす(未然に云ふ所にて所〜人の煩惱を止めおきて後人に必ず涅槃の妙味の味を推して其煩惱を復すると謂ふ、之を活をいれると呼ぶ)

ぐらぐら(名) 活路、〜らしのかち、すくはひ、生計

ぐらぐら(名) 栝樓、をからすうり(植物)

ぐらぐら(名) 活鹿草、ゐのしりそう(植物)

ぐらぐら(名) 月牌(七曜を佳祭する牌にて日牌、月牌、星牌等あり)

ぐらぐら(形) 活潑、いきいきとしたる、げんきよきぞーすーすーせぬ

ぐらぐら(名) 闊達、をびがか(衆の時にかなる者)

ぐらぐら(名) 活法、妙法、銀法(便利の方法を謂ふ)

ぐらぐら(名) 活版、うるとばん(活字にて印したる物)

ぐらぐら(する)(他) 活潑、しはる、きらくする

ぐらぐら(する)(自) 活動、うごきはたらー、=らーはたらー

ぐらぐら(名)、一する(自) 和合(わがう)、なかよきこと、むつましきこと、=むすびあふこと、=むつかあふ、=むすびつー、〜つつー

ぐらぐらそんきゃく(名) 火架三脚(五徳をいふ)

ぐらぐん(名) 火鉢、かなはし、ひはし

ぐらぐん(形) 果敢、はきはきしたる、ものはからは

ぐらぐん 花間、はなのあひだ

ぐらぐら 過愛、はやすぎ、溺愛

ぐらぐら 於給、うるはしきかたち

ぐらぐた(形) 過多、にはすぎる

ぐらぐた(形) 夥多、おびただしき、あまた

ぐらぐた(名) 花帶、はなはが、くた

ぐらぐた(俗)(名) 過高、さがのぼち、はつ(詞)、=又〜われう、前金

ぐらぐた(名) 花莖、はなのうてな

ぐらぐた(にする)(自) 夭大、姥、をこりたかなる

ぐらぐた(名) 課題(詩を作らする爲に出す題)

ぐらぐた(名) 科目(學士の等級を謂ふ)

ぐらぐた(名) 臥内、ねどこう、ふしど

ぐらぐた(形) 過當、あたりまくにすぎる

ぐらぐた(名) 禾稻、いね(植物)

ぐらぐた(名) 花托、うてな、はなのうてな、かえ

ぐらぐた(名) 火芒(傳毛氏の中に然かる〜是若悪多ければ也)

ぐらぐた(俗)(副) 瓦斯瓦斯(物の動き鳴る音を謂ふ)、がたがた(忽ち後ろにゆたゆたとゆふ音して倒ると云ふ)

ぐらぐん(名) 諮議、いつはりはこり

ぐらぐん(名) 貨殷、たんもの(反物)

ぐらぐん(形) 獨身、ひとりみ、獨身

ぐらぐん(名) 火淫、丹毒、ふーでのやまひ(病名)

ぐらぐん(名) 花壇、花場、花畦、はなのーそば、はなだん(庭中に土を高〜して花卉を植たる處)

ぐらぐん 果斷(決斷の迅かにして躊躇せざると謂ふ)、はきはきしたる、てきはきしたる

ぐらぐんもり(名) 花壇守、園丁、〜わたんをせわするもの

ぐらぐれい(名) 火鈴、ひはちん(灰形)

ぐらぐれい(形) 華麗、はなやかうるはしき

ぐらぐれる(する)(自) 瓦裂(瓦解に同じ)

ぐらぐれる(名) 禾倉(鼠孔の下人中の兩旁五分に在る穴)

ぐらぐれる(名) 科料、過料、贖罪金、はつきん、前金

ぐらぐれる(名) 瓦斯、かはらがす、ゆーつきて

ぐらぐれん(する)(他) 科斂、をりたてる(租稅を)

ぐらぐれん 諮議、をすだれ、うつーしきすだれ

ぐらぐらう(名) 花莖、はなのーそば、はなはせ

ぐらぐら(名) 活機(計物を制するに緊要なるを謂ふ)、機緊

ぐらぐら(名) 淵藪、ひろきこころ、そはけたるこころ

ぐらぐら(名) 活兵、いけうき、=又いけうつを

ぐらぐら(名) 蛞蝓、なめーじ(動物)

ぐらぐら(名) 蛞蝓、なめーじ(鹽漬の鰕鯛等の無を煙下等の魚)(動物)

ぐらぐら 活命、いのちいきる

ぐらぐら(名) 壁子、あーら、青者

ぐらぐら(名) 活潑、なめはら、ぞうぞうーたり

ぐらぐら 聒耳、かみにかまびすしき、やかましき

ぐらぐら(名) 活字、うるとじ、うるるもじ(活版に用ふる者、聚珍版(しうちんはん)を見よ)

ぐらぐらそく(名) 月蝕、げつしよく(月が地球の爲めに掩はれて光を失ふ事)

ぐらぐらや(名) 刮車(用水より田に水を引く水車)

ぐらぐらや(名) 活潑、いきいきとうつ、いきいきとうつ、すばし

ぐらぐら 活動、いけるかが、いきがか

ぐらぐらぐ(名) 活人畫(活きたる人々が古人物に扮裝して人形の如く見せかけたるを謂ふ)

ぐらぐら(する)(他) 刮剛、けづる、けずりきる

ぐらぐら 月旨、つきび、=ひつけ

ぐらぐら(名) 活出、いきいだし(動物)

ぐらぐら(形) 豁然、ひろびろしたる、なにもなき(虛空の如く)

ぐらぐらかいきう(名) 活機薯、あらゐ(植物)

ぐらぐらかん(形) 斯敏、かしまし、=かまびすし

ぐらぐらかん(する)(他) 活線、いきびからげる、〜〜る

ぐらぐらかん 活眼、いけるまなこ(淨〜物事を見わける眼)

ぐらぐらかう(名)、一する(自他) 活用、はたらき、はたらー、いかしてつかふ

ぐらぐらたいきう(名) 活造貝、なめーじ(動物)

ぐらぐらたく(形) 闊達、豁達、さとりひろき、=又こころひろき

ぐらぐらたく(形) 闊達、ありふれたる、ありうしかるは(文章に云ふ)

ぐらぐらたく(形) 活潑、なめらか、光澤、つやつやしき

ぐらぐら(形) 闊達、うるき、そはけたはしき

ぐらぐらえん(名) 活蒸、なまうすき(植物)

ぐらぐらぬい(形) 活潑、ぬめる、すべる、なめらか

ぐらぐらぬう(する)(他) 活鍵、〜〜る、〜〜りしめる

ぐらぐら(形)(副) 聒聒、かまびすしき、やかまし〜

ぐらぐら(名) 聒聒兒、〜つわもし(動物)

ぐらぐら(形) 聒譟、かまびすしき

ぐらぐら(形) 闊遠、ひろき、ひろらかなる

ぐらぐらやくきん(名) 活約筋、しめ〜〜うすぢ、=〜ひしめるすぢ(身體中の)

ぐらぐらけい(名) 活計、すくはひ、〜らし、活路、生計

ぐらぐらけつ(する)(他) 活結、〜〜る、〜〜りむすぶ

ぐらぐらけつ(名) 活結、はなむすび、むすびきり、むすびかた、ひきむすび

ぐらぐらげん(名) 活業、なりはひ、活計、〜らし、〜ちすぎ

ぐらぐらけん(形) 聒喧、かまびすしき、やかまし

ぐらぐらこう 活佛、いきぼとけ(靈驗あらたかなる佛、または現世に人となりたる佛)

ぐらぐらこう(名) 活物、いけるもの、生物

ぐらぐらこ(名) 括弧(文字を挾むに用ふ、即ち( )此記號をいふ)

ぐらぐらこう(名) 鶴亀、よしもし、けけ、剥裝(はうそう)、よしをり(動物)

ぐらぐらさつ 活殺、いけうころし、いかすころす、生殺

ぐらぐらさう(形) 聒噪、やかまし、かまびすしき

ゑこうゐん（名）光線大夫（従二位の唐名）
ゑこうゐんとう（名）光線侍郎（唐官名、我大膳亮にあたる）
ゑこうゐんせうけい（名）光線少卿（唐官名、我宮内卿にあたる）
〔ゑこうゐんぜん〕黄櫨染、はぜうめ（天子の御服の黄昏色染をいふ）
ゑこうれい（する）（自）荒廃、あれすたれる、あれはてる、荒蕪
ゑこうえい（名）黄櫨、きはうゑ、潤酒、にごりさけ
ゑこうえい（名）黄梅、かうめ、櫨梅、なんきんうめ（植物）
ゑこうえう（名）黄爽（「わうはつ」を見よ）
ゑこうえう　光訪、来賀、光臨（他人の来訪をいふ）
ゑこうえう（形）皎々、あきらかる、光輝
ゑこうえう（名）光耀、ひかり、光線（星等が發する）
ゑこうえう（名）黄雀、あを（動物）
ゑこうえん（形）柴栄、廣栄、ひろ〜さかはえなる
〔ゑこうえん〕（名）黄柏（「わうはく」を見よ）（植物）
ゑこうえん（名）黄白（黄金白銀の総にて即ち金銀を謂ふ、黄白に目を眩ますなど用ふ）
ゑこうえん（形）廣遠、ひろ〜、ひろびろとしたる、

ゑこうかい（する）（自）恢廣、あわひろまる
ゑこうか（名）造暦、いとまき、ひま
ゑこうか（名）黄油、きんなすび（植物）
ゑこうが　光臨（人の来るを敬ひて言ふ詞）
ゑこうがい（名）黄蓋（天那の長柄傘の名）
〔ゑこうがいふ〕（名）黄海布、あらめ（海草の名）（植物）
ゑこうかうこう（名）黄禍侯、あをばと（動物）
ゑこうかうしよく　黄褐色、きいろびいろ（色の名）
ゑこうかう（名）廣坑、かなあな、かねはらあな
ゑこうかうてんこう　光孝天皇（人皇第五十八代の帝、紀元一千五百四十五年（西洋紀元八百八十五年）より一千五百四十八年迄、在位三年御諱五十八小松の天皇と號す）
ゑこうかうてんこう　光格天皇（人皇第百十九代の帝、紀元二千四百四十一年（西洋紀元一千七百八十一年）より二千四百七十八年に至る、在位三十九年）
ゑこうかう（名）黄鈎、きはまり（動物）
ゑこうがきよ（名）黄牙魚、黄鯛魚（動物）
ゑこうがんとや（名）黄頷蛇、あをたいしやう（動物）
ゑこうだい（形）廣大、ひろ〜たはしなる、洪大、宏大、弘大、高大
ゑこうだい　曠代（曠世に同じ）

ゑこうだん（する）刮目、めをぬぐふ（物を善く見る爲に）
ゑこうせき（名）浩石（礦物）
ゑこうせん（副）豁然、〜からり、明瞭、さつぱり
ゑこうすゐ（名）月水、つきのものはじめ、てなし、月經、月信、經候、天癸、經水、めくり（女の）
ゑこうせん（名）火鍵、やけるこゑ、火災、〜わと
ゑこうら　果蓏、このみ〜さのみ（木果草實）
ゑこうら（名）蜾蠃、蜾蠃、こしぼそ、ゆすりはち、とがはち、土蜂（動物）
ゑこうらいじん（名）火雷神、ひがみなり、かみなり、そまを、雷公
ゑこうらうり（副）豁然、さつぱり、はつきり、ひろびろと
ゑこうらう（名）花表（太陰暦三月の異名）
ゑこうらう（名）火表（太陰暦六月の異名）
ゑこうらく（する）（自）和樂、やはらぎたのしむ（室家がどが）
ゑこうらく（名）花洛、はなのみやこ（京師即ち京都を義する詞）
ゑこうらく（名）掛絡、絡子、掛子、かけたび、たすき
ゑこうらくらく（副）瓦落瓦落、磊磈（物の崩れ倒るる音するをいふ）
ゑこうらうきよ（名）過腰、さけ、しやけ（動物）
ゑこうらきせき（名）明礬石（「明礬石（みやうばんせき）」に同じ）

ゑこうらん（名）花蘭、うつ〜しきこうら
ゑこうらん（名）花鑑、はなかど
ゑこうらん（名）調亂、よのさわぎ、みだれ、わざはひ
ゑこうらん（名）講壇、こをかけるらんかん
ゑこうり（名）花塢、はなはたけ、花壇、花床、はなこ
ゑこうり（名）過雨、むらさめ、さはりあめ
ゑこうり（形名）黄、き、きなる、＝又きいろ（此の連語にして此に見えぬ者は「わう」の下を見るべし）
ゑこうる　皇威（天子の御威光）
ゑこうりう（名）黄鵬、てん、黄貂（動物）
ゑこうりう（形）煌煌、ひかりかがやく
ゑこうりうきやうきう（名）荒唐益母草、ゆはたき（植物）
ゑこうりん（名）光陰、ひのかげ（日影）、ひあし、＝ときど、時間
ゑこうりん（名）皇胤（天子の御子孫）、たけのうちのすゑ
ゑこうろう（名）黄櫨、はぜのき、うるのき（植物）
ゑこうろう（形）荒陋、おなか、〜んぴ、野蛮
ゑこうろく（名）光祿（唐官名、我大膳職にあたる）

ゑこうわ　康和（いうきやうる、大智
ゑこうわよ（名）皇帝、よつぎのかこ、ひつぎのかこ、太子、皇太子
ゑこうわよ（名）皇女、ひめみこ、内親王
ゑこうわう（名）蝗蟲、いなご（動物）
ゑこうわやう（名）廣博、はらわた
ゑこうわやう（する）（他）皇張、誇張、たしひろめる、おほいにする、ひろ〜する
ゑこうわやう（する）（他）擴張（「〜わ〜ちやう」をみよ）
ゑこうわやう　廣場、ひろば、ひろきところ
ゑこうわう（名）黄鶯、うぐひす（鳥名につきては「うぐひす」の下を見よ）（動物）
ゑこうわうよう（名）荒廢、あれはか、あれつか
ゑこうわうよう（名）皇陵（天子の墓所を言ふ）、みさゝき
ゑこうりうしん（名）光綾子、ロゼりんす
ゑこうりやう（する）（自或形）荒涼、あれさびれる（市邑等が）、あれたる
ゑこうりん　光臨（人の来訪を敬ひて言ふ詞）、光来、来臨
ゑこうるえん（名）荒蕪、あはらや
ゑこうおん（名）光恩、ありがたきめぐみ
ゑこうおん（名）皇恩、すめらぎのめぐみ（天子の恩德）

ゑこうこう（する）（自）恢廣、あわひろまる
ゑこうこう（する）（自）恢廣、ひろ〜まる、ひろびろ
ゑこうこう（名）廣坑（北風の異名）
ゑこうこう（名）黄蒿、「おうはく」をかよ
〔ゑこうこう〕（名）黄蒿（「おうはく」を見よ）
ゑこうこう（形）廣博、ひろ〜ゆたか（学心等に謂ふ）
〔ゑこうこう〕（名）黄胖（おうはん）、黄病、はらいたみ
ゑこうこう（名）皇女、ひめみこ（天子の御息女）
ゑこうこうてんこう　光仁天皇（人皇第四十九代の帝、紀元一千四百三十年（西洋紀元七百七十年）より一千四百四十一年迄、在位十一年）
ゑこうさう（名）黄蜂、〜まはち（動物）
ゑこうさう（名）廣袤、ひろさ、ひろがり
ゑこうく（形名）荒涼、かたはなか、ひな
ゑこうこう　皇統、かがのすぢ（天子の血統を謂ふ）
ゑこうこう（名）黄豆、しろまめ（植物）
ゑこうこう（名）黄銅、しんちう、＝又きいろあかがね
ゑこうこうこう（名）黄頭郎、ちやとり（船をこぐ人）
ゑこうこうかん（名）黄柱鼎、れんげつつじ、半闌闌（植物）
ゑこうこう（名）黄池、ためいけ、せんすあらか

ゑこうこう（する）（自）恢廣、あわひろまる
ゑこうか（名）造暦、いとまき、ひま
ゑこうか（名）黄油、きんなすび（植物）
ゑこうが　光臨（人の来るを敬ひて言ふ詞）
ゑこうがい（名）黄蓋（天那の長柄傘の名）
〔ゑこうがいふ〕（名）黄海布、あらめ（海草の名）（植物）
ゑこうかうこう（名）黄禍侯、あをばと（動物）
ゑこうかうしよく　黄褐色、きいろびいろ（色の名）
ゑこうかう（名）廣坑、かなあな、かねはらあな
ゑこうかうてんこう　光孝天皇（人皇第五十八代の帝、紀元一千五百四十五年（西洋紀元八百八十五年）より一千五百四十八年迄、在位三年御諱五十八小松の天皇と號す）
ゑこうかうてんこう　光格天皇（人皇第百十九代の帝、紀元二千四百四十一年（西洋紀元一千七百八十一年）より二千四百七十八年に至る、在位三十九年）
ゑこうかう（名）黄鈎、きはまり（動物）
ゑこうがきよ（名）黄牙魚、黄鯛魚（動物）
ゑこうがんとや（名）黄頷蛇、あをたいしやう（動物）
ゑこうだい（形）廣大、ひろ〜たはしなる、洪大、宏大、弘大、高大
ゑこうだい　曠代（曠世に同じ）

ゑこうだん（名）廣漠（北風の異名）
ゑこうだん（名）積雲、雨雲、こゝはらもぐ（植物）
〔ゑこうだん〕（名）黄蘗（「おうはく」をかよ）
ゑこうたん（形）廣胖、ひろ〜ゆたか（学心等に謂ふ）
〔ゑこうたん〕（名）黄胖（おうはん）、黄病、はらいたみ
ゑこうたいじよ（名）皇女、ひめみこ（天子の御息女）
ゑこうたいてんこう　光仁天皇（人皇第四十九代の帝、紀元一千四百三十年（西洋紀元七百七十年）より一千四百四十一年迄、在位十一年）
ゑこうさう（名）黄蜂、〜まはち（動物）
ゑこうさう（名）廣袤、ひろさ、ひろがり
ゑこうく（形名）荒涼、かたはなか、ひな
ゑこうこう　皇統、かがのすぢ（天子の血統を謂ふ）
ゑこうこう（名）黄豆、しろまめ（植物）
ゑこうこう（名）黄銅、しんちう、＝又きいろあかがね
ゑこうこうこう（名）黄頭郎、ちやとり（船をこぐ人）
ゑこうこうかん（名）黄柱鼎、れんげつつじ、半闌闌（植物）
ゑこうこう（名）黄池、ためいけ、せんすあらか

ゑこうこう（名）廣袤（北風の異名）
ゑこうこう（名）積雲、雨雲、こゝはらもぐ（植物）
〔ゑこうこう〕（名）黄蘗（「おうはく」をかよ）
ゑこうこう（形）廣胖、ひろ〜ゆたか（学心等に謂ふ）
〔ゑこうこう〕（名）黄胖（おうはん）、黄病、はらいたみ
ゑこうこう（名）皇女、ひめみこ（天子の御息女）
ゑこうこうてんこう　光仁天皇（人皇第四十九代の帝、紀元一千四百三十年（西洋紀元七百七十年）より一千四百四十一年迄、在位十一年）
ゑこうさう（名）黄蜂、〜まはち（動物）
ゑこうさう（名）廣袤、ひろさ、ひろがり
ゑこうく（形名）荒涼、かたはなか、ひな
ゑこうこう　皇統、かがのすぢ（天子の血統を謂ふ）
ゑこうこう（名）黄豆、しろまめ（植物）
ゑこうこう（名）黄銅、しんちう、＝又きいろあかがね
ゑこうこうこう（名）黄頭郎、ちやとり（船をこぐ人）
ゑこうこうかん（名）黄柱鼎、れんげつつじ、半闌闌（植物）
ゑこうこう（名）黄池、ためいけ、せんすあらか

まりみつ

こうこうの花園　光瀧（河内國錦部郡に在り）

こうこう（する）（自）　惶惶、たじたじになる

こうこうこ（名）　黄瓜、ひめうり（植物）

こうこうこうきょく（名）　黄花女兒、きのうすめ、てんらうすめ（小說の題）

こうこうこん（名）　黄花菜、くわんとん（植物）

こうこうこう（形）　光滑、なめらか、＝つやある

こうこうこう（形）　廣闊、ひろびろ、ひろうか

こうこうこう（形副）　曠曠、ひろびろしたる、＝されはしなる

こうこうこう（形副）　皇皇、いきたはしなる

こうこうこう（形副）　煌煌、きらきら、晃晃、ひかりかがやく

こうこうこうこう（名）　黄鶴樓（支那の武昌府城西にあり昔し費禕仙と云ふ人黄鶴に乘じて此にいこひし故に其名ありとか）

こうこうさい（名）　黄花菜、にがな（植物）

こうこうさう（名）　黄鶯亭（支那の亭の名）

こうこうさん　皇城門（紫禁の門の名）

こうこうしん（名）　效鍾、まのまなびごこう、學校

こうこうしん（名）　黄環、ふうちかつら（植物）

こうこうしん（名形）　曠官、つかさをあらたしーする（其官職に在て其事務を怠りなるを謂ふ）

こうこうしん（名）　光燈、あんれんの、わるもの

こうこうしん（する）（自）　惶惶、うろうろ、＝かなしむ

こうこうしん（名）　黄昏、たそがれ、ひぐれ、日暮、ゆふぐれ、薄暮（昔の時刻にて午後の戌の刻を然かなり、十二時の下を見よ）

こうこうしんこう　光緒天皇（北朝初代の帝にして北條高時が立てし者、紀元一千九百九十一年〔西洋紀元一千三百三十一年〕より一千九百九十八年に至る）

こうこうしゅ（名）　皇帝、すめらみこと（天皇の稱にして漢の始皇帝より始まる）

こうこうしゅ　黄帝（太古五帝の一にして名を軒轅と云ふ、「ごてい」を見よ）

こうこうしゅのうこうしゅう　黄帝六相（黄帝、大禹、黄初、前漢、風后、后土）

こうこうしゅう（名）　黄蜀葵（えんすい）（食鑑）

こうこうしゅう（名）　黄鳥、うぐひす（動物）

こうこうしゅうきん（名）　黄鍾、あかにい（動物）

こうこうしゅう（名）　黄蝶、きいろのてふてふ（動物）

こうこうしん（名）　皇天、上天を謂ふ

こうこうしん（名）　皇典、かんにのふみ（日本の古書）

こうこうでん（名）　荒田、あれた

こうこうあう（名）　黄泉、うこひす（異名につきては

こうこうの花園

こうこうこう（名）　演説、たまりみつ、あまみつたまりみつ

こうこうこう（名）　光線、ねいきぬ

こうこうこう（名）　黄鼠、てん、黄貂、＝或いたち（動物）

こうこうこう（名）　皇祖（天子の先祖を云ふ）

こうこうこう（名）　皇祥、かがどのくらゐ（天子の位）

こうこうこう（名）　黄鍾（地を定める時に用ふる支那の樂器）

こうこうこう（名）　皇族（天子の御一族）、みやがた

こうこうこう（名）　鑛屬（鑛物の類）

こうこうけい（名）　黄蜀葵、りうきうあうはい（木屑科の他）（植物）

こうこうこん（名）　皇孫、まごかや（天子の御孫）

こうこうねん（名）　荒年、あれどし、ふきんどし、凶年、あしどし、ききんどし

こうこうら　光來、來臨（他人の來訪をいふ）

こうこうら（形）　曠朗、はがらか

こうこうら（する）（自）　慷慨、うちうち、＝なげきこころかなはぬ

こうこうら（形）　晃朗、はがらか、あきらか

こうこうら（名）　恍惚、つくづくのき（植物科）（植物）

こうこうり　皇務（天子の職務）

こうこうり（名）　演行、たまりみつ、どうにたりのたまりみつ

こうこうる（名）　光素、ねいきぬ

こうこうる（名）　黄鼠、てん、黄貂、＝或いたち（動物）

こうこうる（名）　皇祖（天子の先祖を云ふ）

こうこうる（名）　皇祥、かがどのくらゐ（天子の位）

こうこうる（名）　黄鍾（地を定める時に用ふる支那の樂器）

こうこうる（名）　皇族（天子の御一族）、みやがた

こうこうる（名）　鑛屬（鑛物の類）

こうこうるけい（名）　黄蜀葵、りうきうあうはい（木屑科の他）（植物）

こうこうるん（名）　皇孫、まごかや（天子の御孫）

こうこうるん（名）　荒年、あれどし、ふきんどし、凶年、あしどし、ききんどし

こうこうら　光來、來臨（他人の來訪をいふ）

こうこうら（形）　曠朗、はがらか

こうこうら（する）（自）　慷慨、うちうち、＝なげきこころかなはぬ

こうこうら（形）　晃朗、はがらか、あきらか

こうこうら（名）　恍惚、つくづくのき（植物科）（植物）

こうこうり　皇務（天子の職務）

こうこうり（名）　演行、たまりみつ、どうにたりのたまりみつ

こうこうる（名）　光素、ねいきぬ

こうこうる（名）　黄鼠、てん、黄貂、＝或いたち（動物）

こうこうる（名）　皇祖（天子の先祖を云ふ）

こうこうる（名）　皇祥、かがどのくらゐ（天子の位）

こうこうる（名）　黄鍾（地を定める時に用ふる支那の樂器）

こうこうる（名）　皇族（天子の御一族）、みやがた

こうこうる（名）　鑛屬（鑛物の類）

こうこうるけい（名）　黄蜀葵、りうきうあうはい（木屑科の他）（植物）

こうこうるん（名）　皇孫、まごかや（天子の御孫）

こうこうるん（名）　荒年、あれどし、ふきんどし、凶年、あしどし、ききんどし

こうこうる（名）　荒歌、あれの、＝廢詩、うらの、あらのうら

こうこうる（名）　曠野、ひろの、あらの、あらのうら

こうこうる（名）　黄蜀葵、つげ（下を見よ）（植物）

こうこうるけい（名）　黄楊木、ーきつげ、ひめつげ、つげ（植物）

〔こうこうる〕（名）　黄蜀、わうき、かなびき、つなう（植物）

こうこうら（名）　光景、ありさま、樣樣

こうこうら（名）　黄綿、山豆根、さんづこん（植物）

こうこうらうう　光月町（東京市淺草區淺草の町）

こうこうら　皮狀、ひうきせき

こうこうら　法衆、たはしなるもの、大衆

こうこうん（名）　黄巻（書籍を謂ふ古人紙を造る爲に黄蘗を以て染めたる黄紙を之に用ひたるが故に云ふ）

こうこうん（名）　黄絹、はなたく、つやぎぬ

こうこうん　黄絹、きぬ、きいろのきぬ

こうこうん（名）　皮會、大會、はら、＝大はきいこきと

こうこうん（名）　講會、いつはり、うう

こうこうん（名）　曠原、のはら、ひろの

こうこうんおん　光源院（足利義輝の稱號）

こうこうる（する）（自）　惶惶、たうるる、惶惶、惶恐

こうこうる（名）　曠夫（妻なき男）、ひとりみをとこ

こうこうる（名）　礦夫、かねはり、かなやまびと

こうこうる　光武（漢の天子にして安民を興し、義兵を起し王莽の亂を平らげ漢室を中興せし人なり）

こうこうる（する）（自）　荒蕪、あれはてる、あれる、荒隨（地名）

こうこうる（名）　礦物（金石類の土より出る者）

こうこうるがく（名）　礦物學、きんせきがく（金石學）

こうこうるん（名）　黄粉、きなこ

こうこうるん（名）　光粉、おしろい

こうこうし　漢鼓、ふにつつみ（樂器）

こうこうし（名）　光顧、ゆきかへりこと、ひらき、＝ゆきか

こうこうし（形）　恍惚、はれぼれ、うつとり、こころうきけ

こうこうじ（名）　皇后、きさき（天子の御配偶）

こうこうじゐ（名）　皇后宮、きさきのみや（天子の御妻）

こうこうし（名）、ーする（他）　廣告、ひろめしらせること（新聞紙等にて）、＝つげひろめる（世間に）

こうこうし（名）　皇國、すめらみくに（日本の美稱）

こうこうしん（名）　光燈、あんれんの、わるもの

こうこうしん（する）（自）　惶惶、うろうろ、＝かなしむ

こうこうしん（名）　黄昏、たそがれ、ひぐれ、日暮、ゆふぐれ、薄暮（昔の時刻にて午後の戌の刻を然かなり、十二時の下を見よ）

こうこうしんこう　光緒天皇（北朝初代の帝にして北條高時が立てし者、紀元一千九百九十一年〔西洋紀元一千三百三十一年〕より一千九百九十八年に至る）

こうこうし（名）　皇帝、すめらみこと（天皇の稱にして漢の始皇帝より始まる）

こうこうし　黄帝（太古五帝の一にして名を軒轅と云ふ、「ごてい」を見よ）

こうこうしのうこうしゅう　黄帝六相（黄帝、大禹、黄初、前漢、風后、后土）

こうこうし（名）　黄蜀葵（えんすい）（食鑑）

こうこうし（名）　黄鳥、うぐひす（動物）

こうこうしきん（名）　黄鍾、あかにい（動物）

こうこうし（名）　黄蝶、きいろのてふてふ（動物）

こうこうしん（名）　皇天、上天を謂ふ

こうこうしん（名）　皇典、かんにのふみ（日本の古書）

こうこうでん（名）　荒田、あれた

こうこうあう（名）　黄泉、うこひす（異名につきては

くわうみやうてんのう　光明天皇（北朝二代の帝にて足利幹氏の奉ずる所、紀元一千九百九十八年（西洋紀元一千三百三十八年）より一千〇十年に至る）

くわうみやうざん　光明山（山城國相樂郡に在る山）

くわうみやうじのいけ　光明寺池（武州綾瀬村に在る池）

くわうみやうしゆ　光明朱（朱の極上なる者）

くわうし（名）　蒹葭、たけのこ

くわうし（名）　皇子、殿王、竹園、園城、運池、苑園、蘂園、宗樹、滋王、邸第、淮南、江都、磐石、天孫、天枝、孫枝、孫山、孤嶋（皆天子の御子を云ふ）

くわうし（名）　皇嗣、ひつぎのみこ（天子の後嗣）、皇太子、ようぎのみこ

くわうし（形）　構築、はしらまま、わがまま

くわうしもつ（名）　黄鐘（太陰曆十一月の異名）

くわうしもつ（する）（自）　惶惑、うろたくる、たゞれまどふ

くわうしもつ（名）　黄頭炭、きうろ、きうろあふひ（植物）

くわうしもつ（名）　黄頭蛇、あまたひ（動物）

くわうしつ　皇室（天子の御家を云ふ）

くわうじつ　晃日、ひるもなし、しきる（空しく多くの日を費やす）

くわうすいかう（名）　黄蜀葵、わすびさ、かつまた（植物）

くわうすう（形）　荒蕪、かたすが、＝かたおなか

くわうえん（名）　火氣、ひのけ、＝又ひでり

くわうえ（名）　花蘂、はなのまた、＝又しべ

くわうえ（名）　鬼、やまを（動物）

くわうえ（名）　欧、鴎、鴎蕨、はうきの

くわうえ（名）　臥具、ねだうぐ、ねるつは

くわうえやう（する）（他）　鑛限、たしひうある、たはをくする

くわうえやう或かくわうえう（する）（他）　確定、一定、かたくさだまる

くわうえりん（名）　獲麟（一切の事の終りを云ふ、孔子の春秋より起る）

くわうえん（名）　誹謗、うつくしをる

くわうえん（名）　臥瓜（支那の武器の名）

くわうえう（名）　遇造、すぎはひ、造計

くわうえん（名）　火管、ひふきだけ

くわうえん（名）　火事、はくし、＝やきをし

くわうえん（名）　謹卷、をまきもの

くわうえんふ（名）　火浣布（火に入れても燒ぬ布樣の物）、石綿布、ひねすみのかはとうふ、石綿布、いしわた（石綿を以て作りたる布あるひは石綿自身を謂ふなり、石綿の下に解解あり記して見るべし、之を火浣布と名づくるは石綿を以

くわう（名）　黄泉、あのよ、よみ、泉下、黄泉

くわう（する）（自）　惶惑、たゞまどふる

くわうぎよく（名）　黄玉、きのたま

くわうきよくしんのう　皇極天皇（人皇第三十五代の帝、紀元一千三百〇三年（西洋紀元六百四十三年）より一千三百〇六年迄、在位三年「きよくしんてんわう」を見よ）

くわうきよくせき（名）　黄玉石、きのたま

くわう（名）　黄橘、しらはかうと（植物）

くわうきう（名）　黄牛、あをうし、〜りいうし（動物）

くわう（する）（自）　恍惚、うつとりする、＝ぼつとする、はれる

〔くわうこん〕（名）　黄連、はまはう（木の名）（植物）

〔くわうこん〕　黄蓮（「わうれん」とよむ）、きけまん（植物）

〔くわうこん〕（名）　黄芩（「わうごん」とよむ）、こがねばな（植物）

くわうさん（名）　黄巾（漢の末に起れる賊徒の一）

くわうめい（形）　煌明、あきらか、ひかる

くわうめい（形）　曠明、あきらか

くわうみやう（名）　光明、ひかり、かがやき、光輝

くわうみやうくわうこう　光明皇后（聖武帝の御妃）

くわうみやうてんのう　光明天皇（北朝二代の帝にて足利幹氏の奉ずる所、紀元一千九百九十八年（西洋紀元一千三百三十八年）より一千〇十年に至る）

くわうみやうざん　光明山（山城國相樂郡に在る山）

くわうみやうじのいけ　光明寺池（武州綾瀬村に在る池）

くわうみやうしゆ　光明朱（朱の極上なる者）

くわうし（名）　蒹葭、たけのこ

くわうし（名）　皇子、殿王、竹園、園城、運池、苑園、蘂園、宗樹、滋王、邸第、淮南、江都、磐石、天孫、天枝、孫枝、孫山、孤嶋（皆天子の御子を云ふ）

くわうし（名）　皇嗣、ひつぎのみこ（天子の後嗣）、皇太子、ようぎのみこ

くわうし（形）　構築、はしらまま、わがまま

くわうしもつ（名）　黄鐘（太陰曆十一月の異名）

くわうしもつ（する）（自）　惶惑、うろたくる、たゞまどふ

くわうしもつ（名）　黄頭炭、きうろ、きうろあふひ（植物）

くわうしもつ（名）　黄頭蛇、あまたひ（動物）

くわうしつ　皇室（天子の御家を云ふ）

くわうじつ　晃日、ひるもなし、しきる（空しく多くの日を費やす）

くわう（名）　黄蜀葵、わすびさ、かつまた（植物）

くわう（形）　荒蕪、かたすが、＝かたおなか

くわうえん（名）　火氣、ひのけ、＝又ひでり

くわうえ（名）　花蘂、はなのまた、＝又しべ

くわうえ（名）　鬼、やまを（動物）

くわうえ（名）　欧、鴎、鴎蕨、はうきの

くわうえ（名）　臥具、ねだうぐ、ねるつは

くわうえやう（する）（他）　鑛限、たしひうある、たはをくする

くわうえやう或かくわうえう（する）（他）　確定、一定、かたくさだまる

くわうえりん（名）　獲麟（一切の事の終りを云ふ、孔子の春秋より起る）

くわうえん（名）　誹謗、うつくしをる

くわうえん（名）　臥瓜（支那の武器の名）

くわうえう（名）　遇造、すぎはひ、造計

くわうえん（名）　火管、ひふきだけ

くわうえん（名）　火事、はくし、＝やきをし

くわうえん（名）　謹卷、をまきもの

くわうえんふ（名）　火浣布（火に入れても燒ぬ布樣の物）、石綿布、ひねすみのかはとうふ、石綿布、いしわた（石綿を以て作りたる布あるひは石綿自身を謂ふなり、石綿の下に解解あり記して見るべし、之を火浣布と名づくるは石綿を以

「うんでん」の下を見よ）（動物）

くわう（名）　光彩、いろどり、つや、光澤、情彩、光潤、潤色、ひかり

くわう　宏才、度手、ひろきうる、たはしなる、ひろ、廣手

くわう（名）　荒歲、あれとし、凶年、不作の年、荒年

くわう（形）　法荒、さかん、けつかう、旺大

くわう　黄粉、いぬたか、かりいぬ及かりたか

くわう（名）　黄頭鳶、たち（動物）

くわう（名）　蝗蟀、いなご（動物）

くわう（名）　鑛山、礦山、かなやま（金屬を掘出す山）

くわうがく（名）　鑛山學、礦山學、鑛物學（礦物採掘の學）

くわうそう（名）　黄鐵草、しゝち（植物）

くわうしもつ（名）　黄山松、ねあがりまつ（植物）

くわう（する）（他）　流掠、あさむく、たまう

くわう（名）　皇英、〜にのまを

くわう（名）　煌烈、ひかりかがやく、こと

くわう（名）　光輝、てりかがやく、こと、ひかり

くわう（名）　皇居（天子の御居所）

くわう（名）　荒墟、廢址、あれあと、あれたるところ

「うんでん」の下を見よ）（動物）

くわう（名）　光彩、いろどり、つや、光澤、情彩、光潤、潤色、ひかり

くわう　宏才、度手、ひろきうる、たはしなる、ひろ、廣手

くわう（名）　荒歲、あれとし、凶年、不作の年、荒年

くわう（形）　法荒、さかん、けつかう、旺大

くわう　黄粉、いぬたか、かりいぬ及かりたか

くわう（名）　黄頭鳶、たち（動物）

くわう（名）　蝗蟀、いなご（動物）

くわう（名）　鑛山、礦山、かなやま（金屬を掘出す山）

くわうがく（名）　鑛山學、礦山學、鑛物學（礦物採掘の學）

くわうそう（名）　黄鐵草、しゝち（植物）

くわうしもつ（名）　黄山松、ねあがりまつ（植物）

くわう（する）（他）　流掠、あさむく、たまう

くわう（名）　皇英、〜にのまを

くわう（名）　煌烈、ひかりかがやく、こと

くわう（名）　光輝、てりかがやく、こと、ひかり

くわう（名）　皇居（天子の御居所）

くわう（名）　荒墟、廢址、あれあと、あれたるところ

くわうりう（名）　皇龍、しらと（動物）

くわう（する）（他）　徘徊（「〜わい、とう」とも読む）

くわうとうえん（名）　黄蜂、にらしすすめ、あらしすすめ（動物）

くわうとけい（名）　黄蜂鋼、かしはぎり（動物）

くわうとうきよ（名）　黄刺魚、黄赤魚（動物）

くわうとうゆう（名）　光田通、ぎんたしあぶら

くわうとうがう（名）　黄藤香、らんとやたい（國若待）

くわうゆん（名）　光潤、つや、光澤

くわうしやく（名）　横隈蛇、いすか（動物）

くわうえん（名）　黄蜀、しゝち（植物）

くわうえん（名）　荒神、かまどのかみ（佛教にて）

くわうえんしま　荒神島（霞浦の北方にある小島）

くわうえんしゆ（名）　黄心樹、たかたまのき（植物）

くわうこう（名）　光線、かがやき、ひかり

くわうえふ（名）　黄葉、もみぢ（植物）

くわうえんさう（名）　黄蜀葵、ねにたびらこ（植物）

くわうぐう（名）　皇宛、きさき（天子の御配偶）、中宮

くわうりう（名）　蝗蟀、いなご（動物）

くわう（する）（他）　徘徊（「〜わい、とう」とも読む）

くわうとうえん（名）　黄蜂、にらしすすめ、あらしすすめ（動物）

くわうとけい（名）　黄蜂鋼、かしはぎり（動物）

くわうとうきよ（名）　黄刺魚、黄赤魚（動物）

くわうとうゆう（名）　光田通、ぎんたしあぶら

くわうとうがう（名）　黄藤香、らんとやたい（國若待）

くわうゆん（名）　光潤、つや、光澤

くわうしやく（名）　横隈蛇、いすか（動物）

くわうえん（名）　黄蜀、しゝち（植物）

くわうえん（名）　荒神、かまどのかみ（佛教にて）

くわうえんしま　荒神島（霞浦の北方にある小島）

くわうえんしゆ（名）　黄心樹、たかたまのき（植物）

くわうこう（名）　光線、かがやき、ひかり

くわうえふ（名）　黄葉、もみぢ（植物）

くわうえんさう（名）　黄蜀葵、ねにたびらこ（植物）

くわうぐう（名）　皇宛、きさき（天子の御配偶）、中宮

くわうりんてん（名）　廣目天王（須彌山の西方を守る神）

くわうもん（名）　黄門（中納言の異名なり、漢朝の黄門官は王宮内に仕ふる侍臣の類なり、また小黄門は王侯に隨從する屬從の類なり）

くわうもん（名）　言門（炎天をいふ）

くわうせい（形）　曠世、よにまれ、ならびなき、希世、不世出、絶世（人物に謂ふ）

くわうせい　荒政、あしきまつりごと

〔くわうせい〕（名）　黄精、わうしやう、なるこゆり（植物）

くわうせいけい（名）　黄蜻蛉、きとんぼ（動物）

くわうせいえふしつあん（名）　黄蜀葵鉤吻、なべわり（植物）

くわうせき（名）　鑛多、つかあな、はかあな

くわうせきこう　黄石公（張良に兵書を授けし老人）

くわうせん（名）　礦泉、いでゆ、温泉（硫黄等の氣を含める温水等をいふ）

くわうせん（名）　黄泉、よもつくに、よみ、泉下、冥途、陰府、冥府、あのよ

くわうせん（名）　光線、ひのひかりのすぢ（太陽等の）

くわうせん（副形）　恍然、うつとり、恍惚然、ぼつと、＝又茫然、はつきり（大に悟る樣）

くわうりんてん（名）　廣目天王（須彌山の西方を守る神）

くわうもん（名）　黄門（中納言の異名なり、漢朝の黄門官は王宮内に仕ふる侍臣の類なり、また小黄門は王侯に隨從する屬從の類なり）

くわうもん（名）　言門（炎天をいふ）

くわうせい（形）　曠世、よにまれ、ならびなき、希世、不世出、絶世（人物に謂ふ）

くわうせい　荒政、あしきまつりごと

〔くわうせい〕（名）　黄精、わうしやう、なるこゆり（植物）

くわうせいけい（名）　黄蜻蛉、きとんぼ（動物）

くわうせいえふしつあん（名）　黄蜀葵鉤吻、なべわり（植物）

くわうせき（名）　鑛多、つかあな、はかあな

くわうせきこう　黄石公（張良に兵書を授けし老人）

くわうせん（名）　礦泉、いでゆ、温泉（硫黄等の氣を含める温水等をいふ）

くわうせん（名）　黄泉、よもつくに、よみ、泉下、冥途、陰府、冥府、あのよ

くわうせん（名）　光線、ひのひかりのすぢ（太陽等の）

くわうせん（副形）　恍然、うつとり、恍惚然、ぼつと、＝又茫然、はつきり（大に悟る樣）

くわしやくれ（名）火藥所、たんやくしよ
くわしやくぐら（名）火藥庫、たんやくこ
くわしやくせいぞうしよ　火藥製造所、たんやくを
つくるところ
くわけ（名）區分、わかつこと、區劃、ところ
わけ
くわけい（名）花翁、あさり（動物）
くわけい（名）火刑、ひあぶり（刑名）
くわけい（名）花畦、はなばたけ、花園（くわえん）
くわけい（名）誹謗、誹笑、つきがね、誹顔（鐘の文
飾ある者を云ふ）
くわけい（名）臥圍、ねや、ねま、臥房、ふしど
くわけつ（名）火碗、はやし、火串（火炬等をしば
りつける木）
くわけつ（形名）果決（果斷に同じ）
くわげつ（名）花月（文隆時三月の異名）
くわげつちやう　花月町（東京市本所區の町名）
くわけう（名）果樹、くだもの、菓果（植の果の久
しく世につきて發る者）
くわげき（形）過激、はげしすぎる、あまりなる
くわげきたい　過激派（政黨等の過激なる者）
くわけん（名）過愆、あやまち、とが
くわけん（形）過激、きびしすぎる
くわけん（名）訛言、はなしごと、うそはなし、妄
說

くわこ（名）講義（天子のしきり國を治む）、
ようぎのかこのたましどころ
くわこつ　確實、たしかなるものしまがひな
きしるし
くわこつ（名）確執、かたくゆること、あらそう
ひ、不和
くわこつぶう（名）顆膝風（兩膝の赤く腫れて
痛む病）
くわこつ（する）（他）確收、たしかとりけさる
くわこつ（する）（他）擴充、たしひろめる
くわこやう（名）囮囊、つるのけたこう
くわこやう（形副）興隆、たつしや、すこやか
とやうな（多く老人につきて用ふ）
くわこう（する）（他）興隆、かきおこつる
くわこゆ　傾首、くびをる、くびはねる
くわこん（副形）豁然、ひろびろ、＝さつぱり
はつきり
くわこん（副）豁然（ぜんぜんたる釣）
くわこん　冠著（己の君公を人の前に謙遜して呼
ぶ詞）
くわこん（名）誹謗、そしり、そしり、そしる
くわこやうのしうしゆ　誹謗之公主（內親王の稱）
くわこん（名）課稅、わりつけやく（官府にて人民
に命じて爲さしむる役事）、公役
くわこん（名）火鍋、てつはうしやり、鐵鍋

くわし（名）誹謗、そしり、そしる、うそはしき
ん
くわしい（名）花熊、やかたぶね、あうびぶね
くわしいきよく（名）祝賀曲、くつうこんれい（動
物）
くわしつ（名）花蟲、むし（動物）
くわしつちん　誹頂山（越州粟田口淺今の阿闍梨
巷）
くわしつ（名）過失、ふはん（過を集めたる本）
くわしつ（名）過失、かたつぶりのあと
くわしつ（名）瓜田、うりはたけ
くわしつ（名）訛傳、あやまりのうはさ、浮說
くわしつ（名）禍殃、わざはひ、禍害、禍災
くわしつ（名）花卉、かきは、火
くわしつ（名）過差、まちがひ、あやまり、＝よけい
くわしつ（名）花蕊、はなこべ、花蘂
くわしつ（名）臥屋、ねこべ、しんこべ
くわしつ（名）禍火、わざはひ、災禍、災
くわしつ（名）火災、やけど、くわさい、火難
くわしつ（名）火祭、ひまつり（火を焚きて神を祭
る事）
くわしつ（名）貨財、たから、又かね
くわしつ（名）過罪、つみとが、あやまち
くわしつ（名）臨帖、ふはん、帖
くわしつ（名）花莊、はなやしき、花園

て造れる布は火に燒けざるが故に其の汚れた
る時は之を火に投ずれば汚穢だけ火の爲に去
りて布は淨くなるが如く潔くなるに因てなり、
即ち火にて淨はるゝ布きよふ潔なり）
くわしかう（名）芳香、排草香、淫去香、かはか
り（植物）
くわしかうしやう（名）草石蠶の一種（植物）
くわしやく（名）閃爍、つるのつばさ（戰陣の一法
にして其旗幟羽織を誤りて怕も爵が祭を仲た
る如くなるに因て然か名く）
くわしやく（名）蟹殼、はさみかしら（動物）
くわしつ（名）筐筥、かくれあな、＝ちさこのす
くわしつ　城內、くるわうち（城の）、＝又（位）遊
女町
くわしつ（名）癡風、おつけあたり（病名）
くわしつ（する）（自）沒沒、しきはひはげしく
ながれる、かなぎる、ぎれぎれ（水の）
くわしつ（する）（自）悪物、たちなうる
くわしつ（名）那公鳥、はさきます（動物）
くわしつ（する）（他）確定、かたくさだめる、し
かきめる
くわしつ（する）（他）決定、かきりさだむる
くわしつ（する）（他）壓搾、つかむ
くわしつ（する）（他）恒殺、くびきりころす
くわしつ（する）（他）襲撃、つかむ

くわん（名）過愆、錯誤、あやまり、あやまち
くわん（他）說謊、なまりこと、ば、謊語
くわんこつ（名）過去帳、燈名簿（佛寺にて死亡
者の名簿を記し置く帳簿を云ふ）
くわんこつ（名）鐵骨、くるまし、つぶね（國の）
くわんこつ（名）火夜、ひせめ、やそうち
くわんこつ（名）火鉤、ひびもち（火事に用ふる）
くわんこつ（形）夥鉤、おびただし
くわんこつ（名）化工（造化の工を謂ふ）
くわんこつ（名）火口、ほくち、ひもち（鐵砲の）
くわんこつ（名）禾鉤、いねかき、いねをかくるかぎ
くわんこつ（名）花紅（林檎を謂ふ）（植物）
くわんこつ（名）瓦工、かはらや、かはらし
くわんこつ（名）鑄工、ゐかし、ゐかき、鑄師
くわんこつ（名）花紅豆、せつきやうけ（植物）
くわんこつ（名）花公子、たてしや、はですき、し
やれもの
くわんこのしちぶつ　過去七佛（毘婆尸、尸棄、毘浮
舍、俱留孫、拘那含、迦葉、釋迦）
くわんこせ　過去世、むかし、＝まへのよ
くわんごん（名）過言、失言、いひすぎ
くわんこん（名）課稅、ふわくをみち（學校にての
ます）
くわんこん（名）瓜蔕、うりのくた、ほう（藥用に供

くわん（名）誹謗、そしり、そしる、うそはしき
ん
くわんこん（名）花熊、やかたぶね、あうびぶね
くわんこんきよく（名）祝賀曲、くつうこんれい（動
物）
くわんこつ（名）花蟲、むし（動物）
くわんこつちん　誹頂山（越州粟田口淺今の阿闍梨
巷）
くわんこん（名）過帖、ふはん（過を集めたる本）
くわんこん（名）過失、かたつぶりのあと
くわんこん（名）瓜田、うりはたけ
くわんこん（名）訛傳、あやまりのうはさ、浮說
くわんこん（名）禍殃、わざはひ、禍害、禍災
くわんこん（名）花卉、かきは、火
くわんこん（名）過差、まちがひ、あやまり、＝よけい
くわんこん（名）花蕊、はなこべ、花蘂
くわんこん（名）臥屋、ねこべ、しんこべ
くわんこん（名）禍火、わざはひ、災禍、災
くわんこん（名）火災、やけど、くわさい、火難
くわんこん（名）火祭、ひまつり（火を焚きて神を祭
る事）
くわんこん（名）貨財、たから、又かね
くわんこん（名）過罪、つみとが、あやまち
くわんこん（名）臨帖、ふはん、帖
くわんこん（名）花莊、はなやしき、花園

くわんこん（名）誹言、はこり、じまん
くわんこん（名）誹謗、そしり、そしる、うそはしき
ん
くわんこん（名）花卉、はなたち、くた
くわんこん（名）花布、はなぬの、さらし
くわんこん（名）寡婦、やもめ、孀婦、寡（夫をうしなく
なる女を謂ふ）
くわんこん（名）瓦觀（天祖に於て天を祭る時に用ふ
る土器）
くわんこん（名）臨帖、ふはん、臨本
くわんこん（名）貨物、しうもの、しなもの
くわんこん（名）和風、はるかぜ、あたたかかぜ
くわんこんびやう（名）花風病、いうきちがひ（婦人
に云ふ）
くわんこん　禍禍、わざはひ、わざはひ
くわんこん　過不及、すぎたるとはぬ、あまれる
たりぬ、過不足
くわんこん（名）觀布巾（五色の雲を描きたる祭
器の屏）
くわんこん（名）花粉、はなこ、しくこ、雜粉
くわんこん（形）過分、ふんにすぎる、過當
くわんこん（名）和姑、牛夏、はうくん（植物）
くわんこん（名）花月、うるはや、はなや、にはつ、
くわんこん（形名）過去、すぎされる、すぎにしまま
くわんこん（名）瓜瓢、ふくべ
くわんこん（名）花觀、花容、花佛、花瓶、はないけび

ハナヒ（名）火氣、ひのけ、ほてり、ほとり
ハナヒ（名）和議、わぎ、なかなほり、和談
ハナヒ（名）花嫁、はなよめ、けしこ
ハナヒ（名）訛傳、いつはり、よこなまり
ハナヒ（名）瓦器、かはらけ
ハナヒ（名）高麗、ちまり、わしなな（植物）
ハナヒ（名）過去（「くわこ」をみよ）
ハナヒ（名）寫眞、やうもうきょうしゃ、しゃしん
ハナヒ（名）過錯、やりそこない、しそこな
ハナヒ（名）火魚、かながしら（動物）
ハナヒ（形）寂寞、たそひすくなし
ハナヒ（名）蝸牛、かたつぶり、ででむし（動物）
ハナヒヤ（名）旗印、はたじるし、行旗、ものはた
ハナヒ（形）火急（緊急なるを謂ふ）、大急
ハナヒ（名）火箭、ひはや（火鉄）
ハナヒ（名）花金貝、しまねすみ（動物）
ハナヒ（名）花名、はなな、綽號
ハナヒヤ（名）火帳、ひのみちすぢ（火氣の通る地下の暗管）
ハナヒ（名）課試、しけん（試驗）
ハナヒ　花淡、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ハナヒ（名）花、はなの、はなのかをり
ハナヒ（名）花粉、はなこ、はなのこ
ハナヒ（名）花相、芍藥、しやくやく（植物）
ハナヒ（名）火葬、やきはうむり、荼毘、下火（死体を燒く事をいふ）
ハナヒ（名）花草、はなくさ、＝からくさ（殺機の）
ハナヒ（名）火砲、ひやり（支那の武器）
ハナヒ（名）筒藏、ぬすびとやど、＝けいこかい
ハナヒ（名）、酒傾、さけがた、さけうり
ハナヒ（名）火鍵、ひふの（火を取る具）
ハナヒ（名）火山（火を噴き出す山）、噴火山
ハナヒ　花山（山城國山科にあり）
ハナヒ（名）華山（支那の山にして豫州に在り頂上に池ありて千葉の蓮花を生ず因て華山と呼ぶ）
ハナヒ　花山天皇（人皇第六十五代の帝紀元一千六百四十五年（西洋紀元九百八十五年）より一千六百四十七年迄在位三年御譲四十にして崩ず）
ハナヒ（名）火山石、噴出石（火山より流れ出る石）
ハナヒ（形）果敢、果敢、こころつよ、大膽
ハナヒ（名）火蛾、はなび
ハナヒ　過期、すぎすぎる（日限を經過する）
ハナヒ（名）火器、ひいれ、＝また銃砲
ハナヒ（名）花弁、はなびら、はなのかをり

ハナヒ（名）花、はなの、はなのかをり
ハナヒ（名）花燈、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ハナヒ（名）花、はなの、はなのかをり
ハナヒ（名）花燈、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ハナヒ（名）花燈、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ハナヒ（名）花、はなの、はなのかをり
ハナヒ（名）花燈、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ハナヒ（名）花、はなの、はなのかをり
ハナヒ（名）花燈、はなのすがた、美容、美容（美人の姿に云ふ）
ハナヒ（名）花枝、あふりいか（動物）
ハナヒ（名）（すること）誇示、はこりしめす、かせびらかす
ハナヒ（名）菓子、餅餌（もちもち）、餡餅（あんもち）

ゾウエキ（名）課役（こやく）をとりたてること（用金などを課する事）
ゾウエン（名）花筵（はなむしろ）はなむしろ花席　臨席
ゾウエン（名）菲莚（はなはなしきものかもり）しゆにん
ゾウエン（名）火焔（ほのほ）ひのもえあがるもの
ゾウエン（名）花宴（はなのえん）はなみのさかもり
ゾウエン（名）花園（花苑）はなのその　はなはたけ　はなやしき
ゾウエンゲ（名）化粧袋（けしやうぶくろ）（御化粧）
ゾウエンそう（名）火燄草（さんとしゆな）（植物）
ゾウエンそう（名）火燄草（苑蘇）ねなしかつら
ゾウカ（名）火鉢（ひや）火箱
ゾウカ（名）花瓶（はなたつかひ）はなたつひえ
ゾウカ（形）菲美（はなやか）はで　うつくしき
ゾウカ（名）臥被（ふとん）よぎ（夜具）ふすま
ゾウカう（名）龍鍾（ぞうとう）ぞうとかふとう
ゾウカう（名）記錄（あやまり）（文字等の）
ゾウガこう（名）鳥屋（とうとう）（動物）
ゾウガん（名）菲莚（はなしけびん）＝又はなたてがめ
ゾウかい（名）貝甲（貝甲）蟹甲（ちやも）（植物）

ゾウキ（名）科目（しなかきかど）條目（箇條）
ゾウキ（名）火門（ひやう）（鐵砲の火をつくる孔）
ゾウきがい（名）火門蓋（ひぶた）（鐵砲の火口の蓋）
ゾウきせき（名）花紋席（はなむしろ）（産岐國の產物）
ゾウきせき（名）花紋石（山水畫風の形を具する石）
ゾウきせい（名）火井（越後に多くある者にして竹を地に刺立て其上に火を附れば地中の火を引き上て青煙を生ず）
ゾウきせい（名）火星（遊星の1）
ゾウきせい（形名）化生（虫が蝶と成る如く變化して生ずるを謂ふ）
ゾウきせい（する）（他）譏誚（せいをいひつける）
ゾウきせいきよ（名）菲鱗魚（鯉魚）（ちんかう）（動物）
ゾウきせいきう　菲潤宮（唐の玄宗の建てし宮の名）
ゾウきせいもん（名）花星紋（料理の名）先づ椎の板を二寸三寸に切り洗のある所へ酒を注ぎて紅にて色をつけ白砂糖をすこし加へ紅白をまぜて塗りつけ助炭にて蒸し作る）
ゾウきせいしゆ（名）火燄酒（蒸酒をいふ）
ゾウきせう（名）菲鳥（はるのとり）（春鳥をいふ）

ゾウケン（形）疎少（すくなき）
ゾウケン（名）火綿（鐵砲に用ふる火藥）
〔ゾウケン〕（俗）（名）火鉗（ひけし）消防夫
ゾウケン（名）花根（ふゆぞうせう）竹菲根（植物）
ゾウけき（名）化石（魚蟲木等が土中に埋もれて適に變じて石となれる者）
ゾウけき（名）花席（はなむしろ）臨席　花筵（はなむしろ）
ゾウけき（名）臥席（ねむこ）ふとん
ゾウけん（名）過錄（うつしまちがい）
ゾウけん（名）火箭（ひや）火紀
ゾウけん（名）刺船（いらまいたな）（魚釣に用ふる船）
ゾウけん（名）火鉗（ひふね）火鑷（ひとうさせん）
ゾウけん（名）花帷（はなむしろ）（はなまうせん）
ゾウけん（名）果然（まちがへる）長尾猿（動物）
ゾウけん（名）臥褥（ねこ）ねるにしきこと
ゾウけん（名）瓦薑（かはらけ）（植物）
ゾウけん（名）臨製紙（畫を畫く紙）
ゾウけん（名）火燄（ひうち）
ゾウけんせき（名）花蘂石（はなはもらし）
ゾウけん（名）醜（たかきたこの）悲醜（＝又みにくの）（＝みるくきもの）（＝かえ）かかけ外見
ゾウけん（名）菲（はるふるる）（大きなこと）に

ゾウこう（形）頑謹（はーとやうなる）なまけなまま
ゾウこうしう（名）學法（心を修行し佛法を學ぶ）
ゾウこうせん　官板（官府にて發行せる書籍を謂ふ）
ゾウこうせん（名）學識（たらひ）ぞうたらひ
ゾウこうにん　寛仁（日本自1千六百七十七年至1千六百八十年、西洋自1千七百七十七年至同十年）
ゾウこうにん（名）官人（やーにん）官吏（つかさびと）
ゾウこうにん（名）願人（ねがひにん）ねがふひと（御解治妄義判所にて願書を然が云ふ）
ゾウこうにんぶつ（俗）（名）頑忍坊主（世俗僧徒を罵りて然が云ふ）
ゾウこう（する）（自）緩歩（ぶらかにあゆむ）ぶらぶらあるく（逆び等に）
ゾウこう（名）崇敬（あがめしうし）しきたり
ゾウこうきう（俗）（名）解願、遊願、解感、賞罰、雜業（ゑんはたしれらまあり）（願書の終にする體樣式）
ゾウこうぼつ（する）（他）官授（さりあげる）（官職に）授人
ゾウこう（名）鵬鷸（たはとり）（動物）
ゾウこう（名）雜木（たけひーきき）（植物）

ゾウこう（名）官員（やーにん）官吏（つかさびと）官司
ゾウこう（する）（他）近差（ちかうする）
ゾウこう（形）頑固（かたーなくやしき）
ゾウこうぶつ（名）玩弄物（なぐさみもの）（ものとあそびもの）
ゾウこう　官藏（官府より賜ふ所の藏）
ゾウこうこう　關八州（武藏、相模、安房、上總、下總、上野、下野、常陸）
ゾウこうこう（名）觀櫻（みせものこと）（ものみたら）
ゾウこうこう　寛保（日本自1千四百1年至1千四百4年、西洋自1千七百41年至1千七百44年）
ゾウこうこう（名）官報（政府にて事を報知する新聞紙）
ゾウこう（する）（自）觀望（みはらす）（ながめる）
ゾウこうこう（名）（する）（自）願望（ねがひのぞみ）＝ねがひのぞみ
ゾウこうこういん（名）冠曾印（書籍の初めに押したる印を謂ふ）
ゾウこうこう（形）寛容（ひろき）＝ゆたか
ゾウこうこう（名）關白（摂政侯、惣己百官、執柄（天下の政を天子に代りて掌る最高官の人）

ゾウこうこう（名）學問（がくもん）（心を修行し佛法を學ぶ）
ゾウこうこう　官板（官府にて發行せる書籍を謂ふ）
ゾウこうこう（名）學識（たらひ）ぞうたらひ
ゾウこうにん　寛仁（日本自1千六百七十七年至1千六百八十年、西洋自1千七百七十七年至同十年）
ゾウこうにん（名）官人（やーにん）官吏（つかさびと）
ゾウこうにん（名）願人（ねがひにん）ねがふひと（御解治妄義判所にて願書を然が云ふ）
ゾウこうにんぶつ（俗）（名）頑忍坊主（世俗僧徒を罵りて然が云ふ）
ゾウこう（する）（自）緩歩（ぶらかにあゆむ）ぶらぶらあるく（逆び等に）
ゾウこう（名）崇敬（あがめしうし）しきたり
ゾウこうきう（俗）（名）解願、遊願、解感、賞罰、雜業（ゑんはたしれらまあり）（願書の終にする體樣式）
ゾウこうぼつ（する）（他）官授（さりあげる）（官職に）授人
ゾウこう（名）鵬鷸（たはとり）（動物）
ゾウこう（名）雜木（たけひーきき）（植物）

られる

くはんちう　禁中（世界をいふ）、よのなか、禁字之中、字宙

くはんちう（名）　貫柱、ぬき、よこぎ（衝木）

くはんちう（名）　鍵鎖、じまて（扉紙障子等の）

くはんちう（名）　關中（周の陝西省西安府にして古くの周、秦、漢、晋、唐の五世も皆之此に都せしなり）

くはんづく（名）　巻軸（けんぢく）、まきもの

くはんちやう（名）　官廳、やくしよ、官署

くはんちやう（名）　管長、かしら、つかさ（佛法にて一宗の長を云ふ）

くはんちやう（名）　灌頂（佛教にて授る灌水、又王者にも即位の時之を授けたり）

くはんちやう（名）　灌腸（尻より腸に水を灌ぎ入るるを謂ふ）

くはんり（名）、一する（他）　管理、つかさどること、＝しはいする

くはんり（名）　官吏、やくにん、つかさびと、官人

くはんり　元利、母子、がきんりうく（元金及利息）

くはんりにん（名）　管理人、あつかりにん

くはんりつがくかう　官立學校（政府にて立てたる學校を云ふ）

くはんりつ（する）（他）　缺部、ひきまるる（名）

（書巻の初）

くはんりう　頑疾、あしきこと、＝たかきこと、難疾（れんしつ）

くはんりうちぢみ　關東縮（關東の織物の名）

くはんりうのしつけ　關東八家（千葉、小山、結城、長沼、佐竹、小田、宇都宮、那須）

くはんりうのしうこう　關東八州（武藏、相模、安房、上總、下總、上野、下野、常陸）

くはんりうのそんすけ　關東三介（千葉介、上總介、三浦介を云ふ）

くはんりうつ（名）　款冬花（藥品）

くはんりよ　寛恕（日本自一千七百四年至一千七百五年、西洋自一千四十四年至一千四十五年）（年號）

くはんりよく（名）　髖骨、いさらひ、しりこぶた

くはんりよく（形）　頑鈍、たつか、にぶき

くはんりう（名）　冠雉、たまり（動物）

くはんわ　寛治（日本自一千七百四十七年至一千七百五十三年、西洋自一千八十七年至一千九年十三）（年號）

くはんわ　元治（日本自一千五百二十四年至仝年、西洋一千八百六十四年）（年號）

くはんわよ（名）　官女（禁中に仕ふる女官）

くはんわう　動搖、すすもこうす（動揺器）

くはんわう（する）　灌注、うつうそ（水等を）、うつうそ

くはんぼん　官本（政府にて發行せる書籍）

くはんぺい　寛平（日本自一千五百四十九年至一千五百五十七年、西洋自八百八十九年至八百九十七年）

くはんぺい（名）　官兵（政府即ち天朝の爲に出る兵をいふ也脇兵に對す）

くはんぺい（名）　觀兵（兵士の調練等を檢閲するをいふ）

くはんぺい（名）　官幣（政府が神社等に納る幣物）

くはんぺいしや　官幣社（社の階級の一にて大社、中社、小社、別格官幣社、國幣社等あり、官幣社とは政府より幣帛を幣せらるる者をいふ也）

くはんぺん（名）　蹲鐏、びんづら

くはんぺん（名）　冠冕、かんむり

くはんぺい　官爵（仕官の爵即ち官職を謂ふ）

くはんぺい（名）　環堤、めぐれるつつみ、かこひ、＝いくやしき

くはんぺい（名）　官奴、かやうこつかやつこ（官府に使役せらるる下人）

くはんぺい（形）　頑癡、やくにたたぬ、にぶき

くはんぺいつ（名）　豉多、ふまめ、豆和、やまぶき（植物）

くはんぺいう　關東、あづま、坂東、關左（箱根以東を謂ふ）

くはんぺいう　巻頭、まきのはじめ、はんのはじめ

くはんりき　願力、ねがひのちから、心願力

くはんりん（名）　官林、かんのはやし（政府に屬する山林）

くはんぢやう（名）　關鍵、關木、門（門を內より閉ぢて呼ぶる横木）、閂

くはんおんやなぎ（名）　觀音柳、人柳、あかやなぎ、櫓柳、しだりやなぎ（植物）

くはんおんけい（名）　觀音鼎、つゆたまひ（動物）

くはんおんさう（名）　觀音草、吉祥草（植物）

くはんおんさき　觀音崎（相模に在り此に他國を望む）

くはんおんじやま　觀音寺山（近江國浅生郡に在る有名の山）

くはんおんせき（名）　觀音石（上座石を又然か呼ぶ）

くはんおんせん（名）　觀音錢、みくじ、菩薩錢

くはんくわ　勸和、なかなはりをすすめる

くはんくわ　寛和（日本自一千六百四十五年至一千六百四十六年、西洋自九百八十五年至九百八十六年）（年號）

くはんか（する）（他）　寛假、ゆるしたく、ゆるやかにしてやる

くはんか　管下、治下、しはいした

くはんか（名）　官家、たかか、にはやけ（政府をいふ）

くはんか（名）　管家、しはいにん、＝はんたう、＝家扶

くはんかい（名）　官海、官界（官員社會を指す）

くはんかい（名）、一する（他）　勸解、すすめときくこと（爭論を）、すすめやはらぐる

くはんかい　官階（官位の等級）

くはんかい（名）　官廨、やくしよ、官廳、つかさ、官署

くはんかい　環海、うみをめぐらす（周圍に）

くはんがい（名）、一する（他）　灌漑、うるほし、かけ（田等に）

くはんかう　還幸（天子の御歸りを云ふ）、還御

くはんかう（名）　償行、しをたり、なれ、ならはし

くはんかう（名）　洋扇、のしかたの〜ぎ

くはんかう（名）　諠譁、やかましさ、かまびすしさ

くはんかう（形）　頑強、かたくなし、ごはる

くはんかう（名）　玩好、もてあそびもの

くはんかく（名）　觀閣、たかどの、樓閣、たかきいへ

くはんがく　勸學、ものまなびをすすめる（學問を勸めるをいふ）

くはんかく（する）（自）　歡狎、うちとける、なれしたしむ

くはんかう　堤甲、よろひをきる

くはんかう（名）　鎧甲、のしかたの〜ぎ

くはんかん（形）　寛緩、ゆるやか、たはやう

くはんかん（名）　淺汗、かこのりがき、部書、編目

くはんかん（する）（自）　關與、あづかる、干與、干渉、かかはる

くはんかう（形）　寛容、ゆるやか、＝てやはらか

くはんかう（形）　慣用、なれをたれる、しをたれる、しなれたる

くはんかう（する）（他）　換用、〜りかくもちふる

くはんかん（する）（他）　緩急、ゆるかせにする、をこたる

くはんかん（する）（他）　歡待、てあつ〜もしらふ、よ〜もてなす、厚遇、優待

くはんかん（名）　觀遊、ものみたい、＝そとき

くはんかん　寰內、よのうち、よのなか、宇內、天下

くはんかん（名）　寰天、こころひろき、＝たはやか、ゆるやか

くはんかん（名）　棺匠、ひつぎし、〜わんをけや、はやをけうく〜り

くはんかん（形）　冠（第一たるを謂ふ）

くはんかう（する）（他）　勸導、すすめみちびく、誘導

くはんかん（名）　官宅、やくにんのいく（政府にて官吏に無賃にて貸し住しむる家宅、但し

ことなり當に）

くはんりき　願力、ねがひのちから、心願力

くはんりん（名）　官林、かんのはやし（政府に屬する山林）、

くはんぢやう（名）　關鍵、關木、門（門を內より閉ぢて呼ぶる横木）、閂

くはんおんやなぎ（名）　觀音柳、人柳、あかやなぎ、櫓柳、しだりやなぎ（植物）

くはんおんけい（名）　觀音鼎、つゆたまひ（動物）

くはんおんさう（名）　觀音草、吉祥草（植物）

くはんおんさき　觀音崎（相模に在り此に他國を望む）

くはんおんじやま　觀音寺山（近江國浅生郡に在る有名の山）

くはんおんせき（名）　觀音石（上座石を又然か呼ぶ）

くはんおんせん（名）　觀音錢、みくじ、菩薩錢

くはんくわ　勸和、なかなはりをすすめる

くはんくわ　寛和（日本自一千六百四十五年至一千六百四十六年、西洋自九百八十五年至九百八十六年）（年號）

くはんか（する）（他）　寛假、ゆるしたく、ゆるやかにしてやる

くはんか　管下、治下、しはいした

くはんか（名）　官家、たかか、にはやけ（政府をいふ）

くはんか（名）　管家、しはいにん、＝はんたう、＝家扶

くはんかい（名）　官海、官界（官員社會を指す）

くはんかい（名）、一する（他）　勸解、すすめときくこと（爭論を）、すすめやはらぐる

くはんかい　官階（官位の等級）

くはんかい（名）　官廨、やくしよ、官廳、つかさ、官署

くはんかい　環海、うみをめぐらす（周圍に）

くはんがい（名）、一する（他）　灌漑、うるほし、かけ（田等に）

くはんかう　還幸（天子の御歸りを云ふ）、還御

くはんかう（名）　償行、しをたり、なれ、ならはし

くはんかう（名）　洋扇、のしかたの〜ぎ

くはんかう（名）　諠譁、やかましさ、かまびすしさ

くはんかう（形）　頑強、かたくなし、ごはる

くはんかう（名）　玩好、もてあそびもの

くはんかく（名）　觀閣、たかどの、樓閣、たかきいへ

くはんがく　勸學、ものまなびをすすめる（學問を勸めるをいふ）

くはんかく（する）（自）　歡狎、うちとける、なれしたしむ

くはんかう　堤甲、よろひをきる